

令和4年度 市民意識調査結果報告書

令和5年1月



目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
(1)	回答者属性	2
問 1	性別	2
問 2	年齢	2
問 3	居住地区	2
(2)	住みごこちや愛着等について	3
問 4	東近江市の住みごこちは	3
問 5	東近江市に住み続けたいか	5
問 6	東近江市への愛着	7
問 7	東近江市を自慢できるか	9
問 8	「鈴鹿 10 座」の認知度	11
問 9	友人・知人に東近江市を紹介するところ	13
問 10	近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度	15
問 11	中心市街地（八日市駅周辺）が活性化するために必要なこと	17
(3)	健康や福祉について	19
問 12	かかりつけ医の有無	19
問 13	医療体制への満足度	21
問 14	健康づくりのために取り組んでいること	23
問 15	朝食を食べているか	29
問 16	運動の実施率	33
問 17	不安、悩み、ストレスを感じたか	35
問 18	不安、悩み、ストレスは解消できているか	39
問 19	東近江市民の障害者に対する理解	41
問 20	障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	43
(4)	環境や暮らしについて	45
問 21	市の自然環境保全の取組への満足度	45
問 22	自然との関わりの実感度	47
問 23	環境にやさしい取組の実践	49
問 24	男女の地位は平等になっているか	51
問 25	消費生活センターの認知度	56
問 26	市民生活相談課の認知度	58
問 27	市内の公共交通への満足度	60
問 28	近江鉄道について	62
問 29	近江鉄道の利用頻度	64
問 30	災害への備え	68

(5)子育てや教育関連の取組について	70
問 31 子育てをするのに良い環境か	70
問 32 通学路の安全確保について	72
問 33 人権が尊重されるまちになっているか	74
問 34 人権に関する講座等への参加	76
問 35 児童虐待の通報先	78
(6)都市整備について	81
問 36 市内の都市基盤整備に対する満足度	81
(7)購買状況等について	90
問 37 食品や日用雑貨品、衣料品等の購入先	90
問 38 野菜等を購入する際の基準	95
問 39 市内の農産物直売所の利用状況	97
問 40 キャッシュレス決済の利用頻度	99
(8)協働のまちづくりについて	106
問 41 協働のまちづくりができているか	106
問 42 地域での住民同士の助け合いができているか	108
問 43 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	110
問 44 多文化共生社会の実現	118
(9)広報等の情報について	120
問 45 インターネットを利用する際に使用する端末	120
問 46 市の情報（お知らせ）の取得方法	122
問 47 「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	125
問 48 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	129
問 49 「東近江市議会だより」を読んでいるか	139
問 50 「市議会本会議」の様子を見たことがあるか	141
(10)市役所のサービスに関して	143
問 51 行政手続き・サービスのデジタル化に際し期待すること	143
問 52 市役所職員の対応の印象	145
(11)まちづくりに対する意見等について	147
問 53 まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	147
3 総括	150
4 調査票	153

1 調査の概要

(1) 調査の目的

東近江市では、平成 28 年度に策定した「第 2 次東近江市総合計画」に基づき、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指してまちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

(2) 調査対象

令和 4 年 8 月 1 日現在、東近江市在住の満 18 歳以上の市民 3,051 人を対象としました。(住民基本台帳から無作為抽出)

(3) 調査期間

令和 4 年 8 月 22 日から同年 9 月 5 日まで

(4) 調査方法


郵送による配布・回収、無記名

(5) 回収状況

調査票の配布数 3,051 件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が 7 件あり、到達した配布数は 3,044 件でした。回収した調査票数 1,389 件に対し、無効の調査票数は 0 件で、有効回収調査票数は 1,389 件、回収率は 45.6% でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,051	7	3,044	1,389	0	1,389	45.6%

(6) 調査結果の表示方法

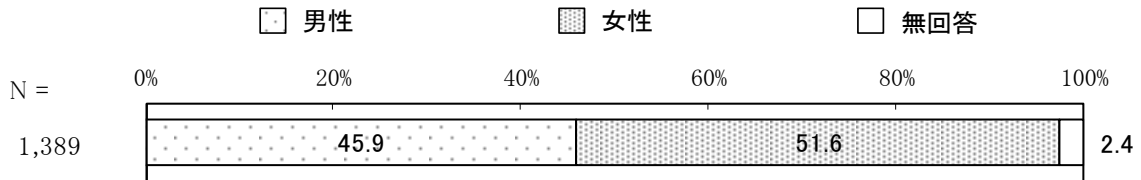
- ・ 回答は、各設問の有効回答数 (N) を母数とした百分率 (%) で示しています。また、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100.0% にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問については、回答者が全体 (N=1,389) に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が 100.0% を超える場合があります。ただし、分岐設問の場合は、N の値が異なります。
- ・ 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表 (複数選択の設問) は、最も高い割合の回答 (無回答を除く。) に  で網かけをしています。
- ・ 指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、「その他」の設問がある問は「その他」として、そのほかは全て「無回答」として集計しています。
- ・ 性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。

2 調査結果

(1) 回答者属性

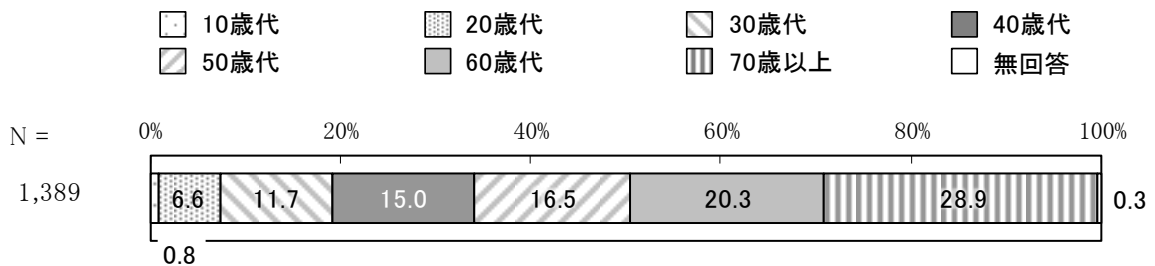
問1 性別

- 「男性」が45.9%、「女性」が51.6%で、女性が多くなっています。



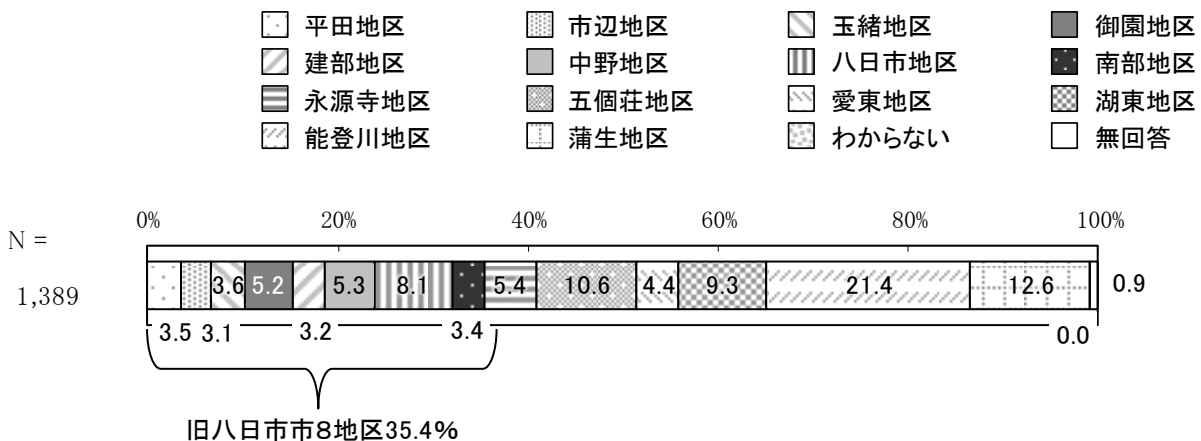
問2 年齢

- 年齢については、「70歳以上」が28.9%と最も多く、次いで「60歳代」が20.3%、「50歳代」が16.5%、「40歳代」が15.0%の順で、60歳以上が49.2%と半数近くを占めています。



問3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が21.4%と最も多く、次いで「蒲生地区」が12.6%、「五個荘地区」が10.6%となっています。
- 旧八日市市の8地区を合計すると、35.4%となっています。

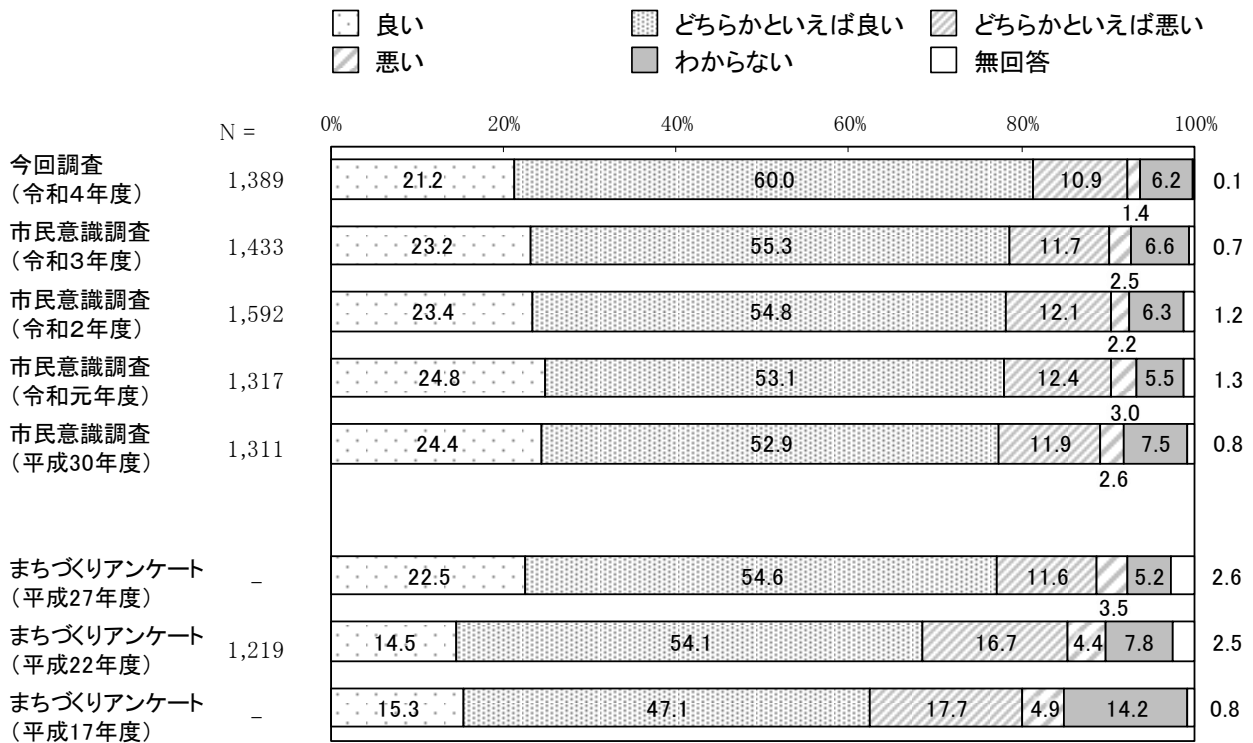


(2) 住みごこちや愛着等について

問4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

8割が住みごこちが良い

- ・ 東近江市の住みごこちについては、「良い」が21.2%、「どちらかといえば良い」が60.0%で、これらを合わせると81.2%となり、8割の人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると12.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合は微増傾向にあります。
- ・ 年代別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、20～30歳代と60歳以上で8割を超えている一方で、10歳代、40～50歳代でやや低くなっています。
- ・ 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、建部地区、能登川地区、八日市地区、御園地区で高く、平田地区、愛東地区でやや低くなっています。



単位：%

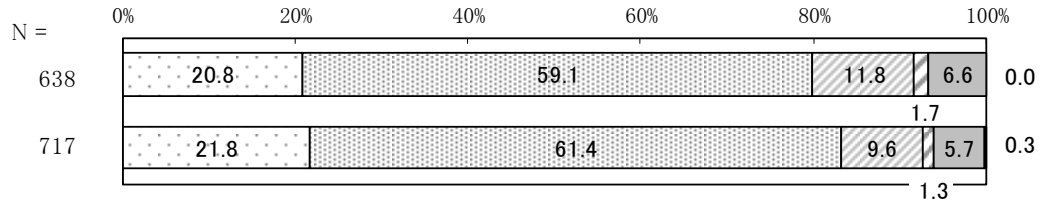
	良い*	悪い*	差
①今回調査(令和4年度)	81.2	12.3	68.9
②市民意識調査(令和3年度)	78.5	14.2	64.3
③市民意識調査(令和2年度)	78.2	14.3	63.9
④市民意識調査(令和元年度)	77.9	15.4	62.5
⑤市民意識調査(平成30年度)	77.3	14.5	62.8
①-⑤	3.9	-2.2	6.1
まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8

* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

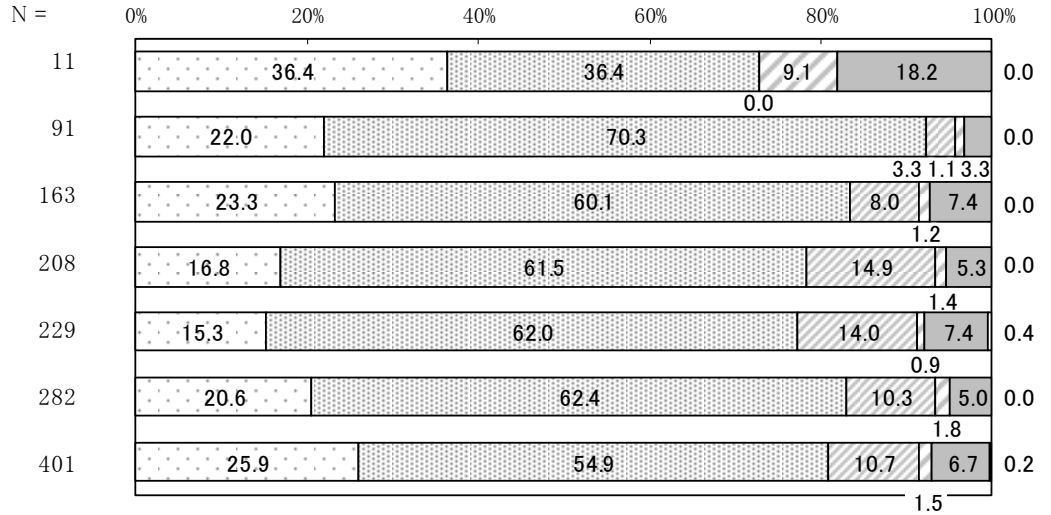
* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計

良い どちらかといえば良い どちらかといえば悪い
 悪い わからない 無回答

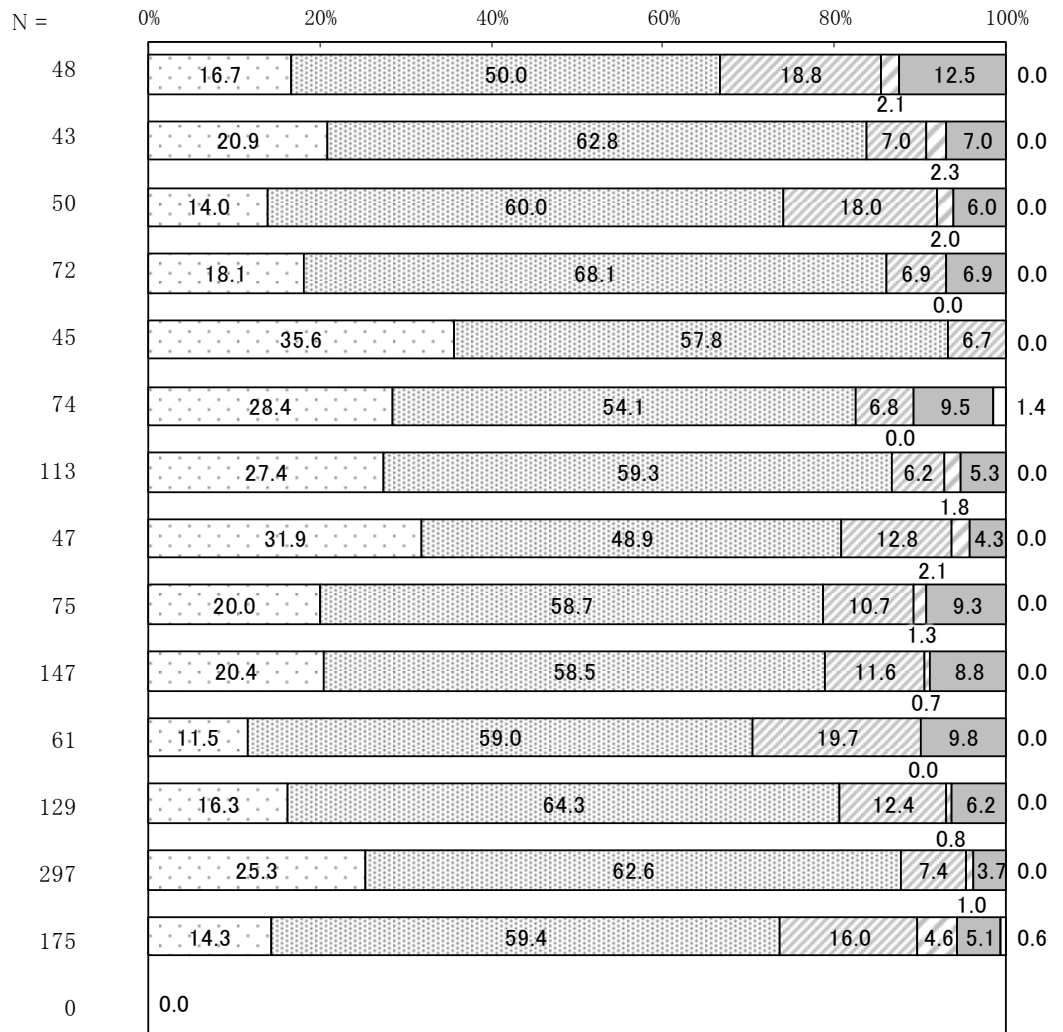
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

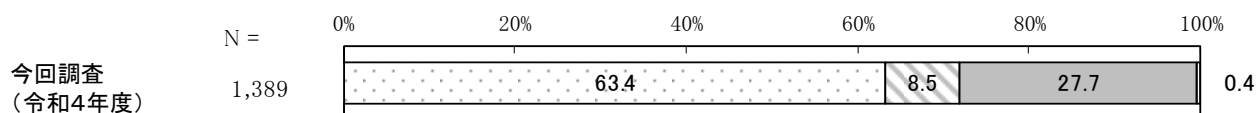


問5 あなたは、東近江市にずっと住みたいと思いますか。《○1つ》

6割が東近江市に住みたい

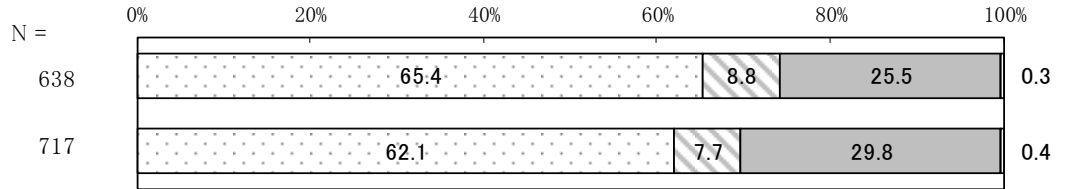
- ・ 東近江市にずっと住みたいかについては、「住みたい」が63.4%で6割の人が東近江市に住みたいと回答しています。一方、「市外に転出したい」が8.5%となっています。また、「わからない」とする人も27.7%と3割近くいます。
- ・ 年代別では、「住みたい」の割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向があり、30歳代、50歳代では6割近く、60歳以上は7割を超えています。
- ・ 居住地区別では、「住みたい」の割合が、南部地区、御園地区、湖東地区、建部地区で7割以上と高く、平田地区、八日市地区、蒲生地区でほかの地区に比べ低くなっています。

住みたい 市外に転出したい
 わからない 無回答

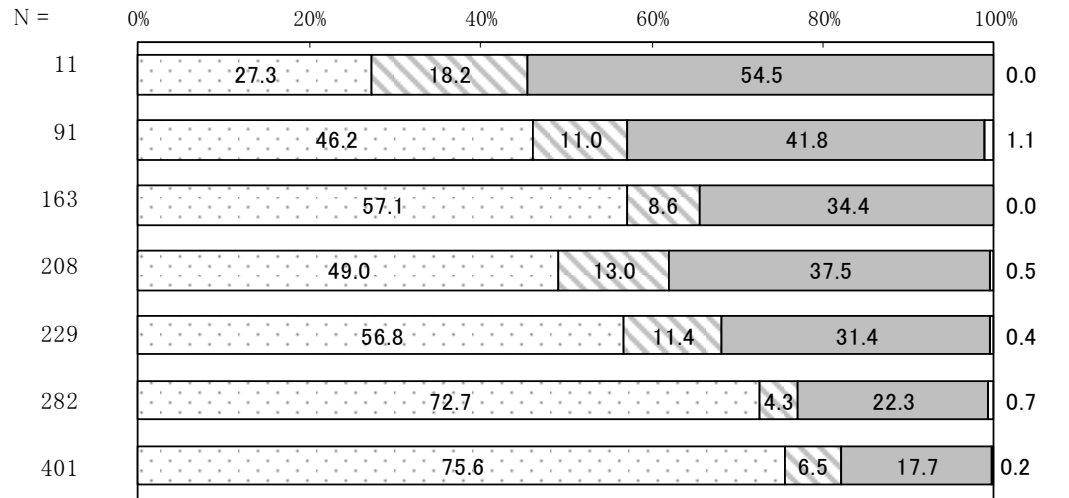


住み続けたい
 市外に転出したい
 わからない
 無回答

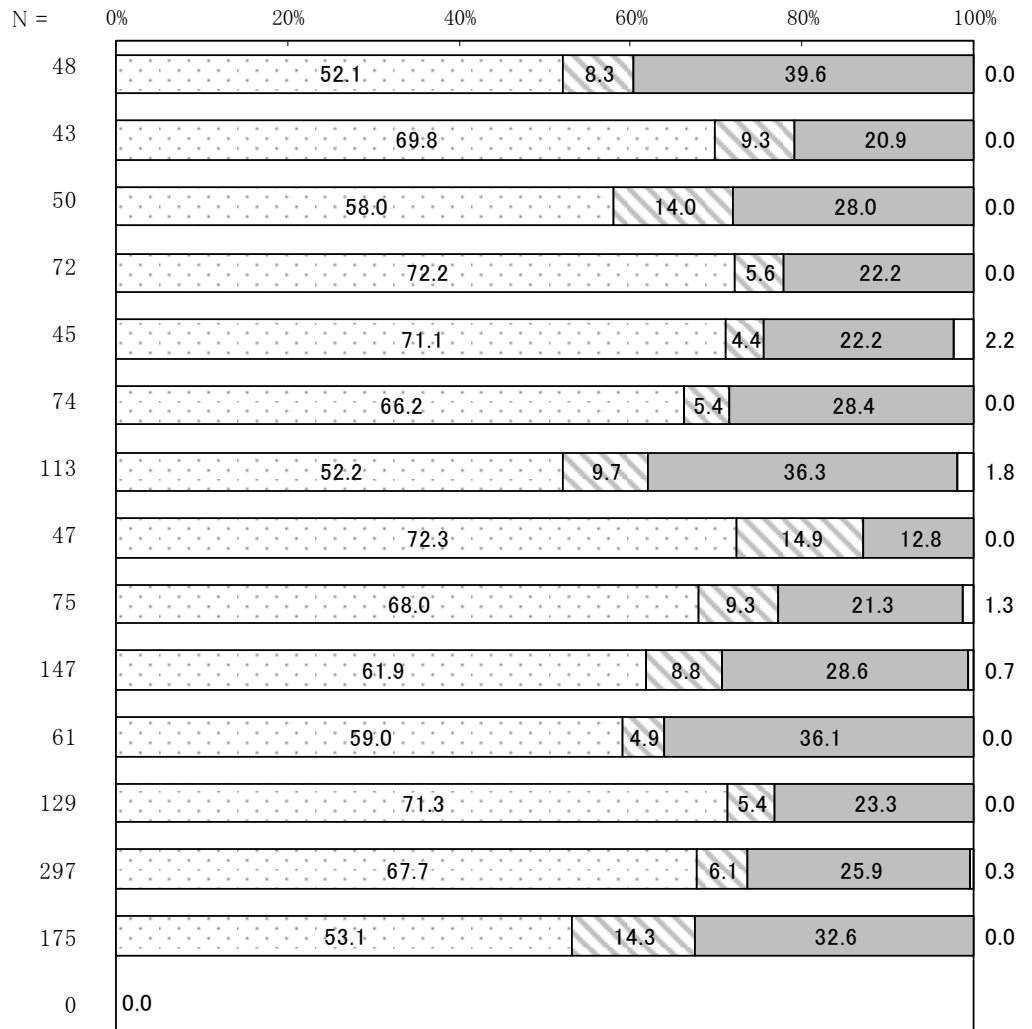
【性別】



【年代別】



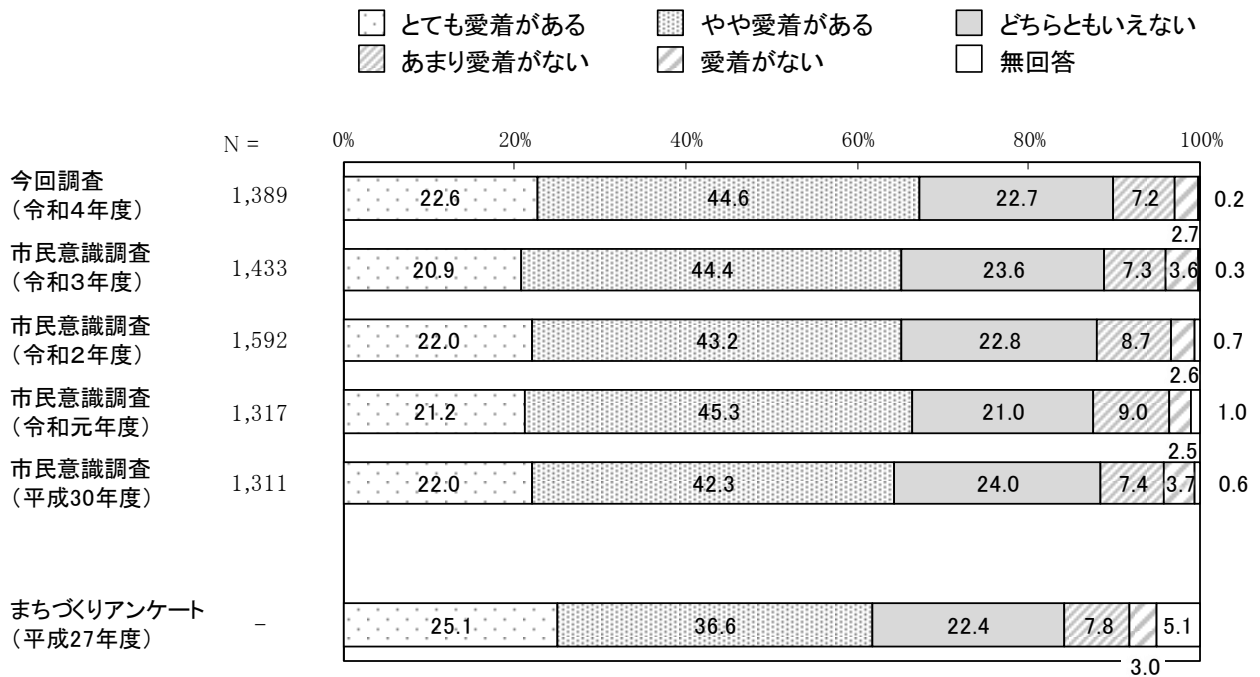
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

7割近くが東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が22.6%、「やや愛着がある」が44.6%で、これらを合わせると67.2%となり、7割近くの人が東近江市に愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると9.9%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も22.7%と2割います。
- ・ 年代別では、愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向があり、30歳代、60歳代が7割を超えています。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、建部地区、永源寺地区で高く、平田地区で低くなっています。



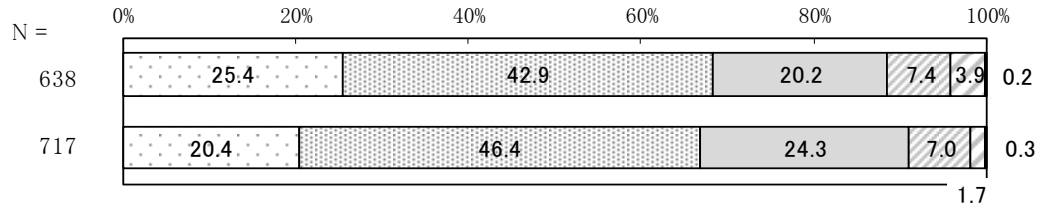
単位：%

	愛着がある*	愛着がない*	差
①今回調査(令和4年度)	67.2	9.9	57.3
②市民意識調査(令和3年度)	65.3	10.9	54.4
③市民意識調査(令和2年度)	65.2	11.3	53.9
④市民意識調査(令和元年度)	66.5	11.5	55.0
⑤市民意識調査(平成30年度)	64.3	11.1	53.2
①-⑤	2.9	-1.2	4.1
まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9

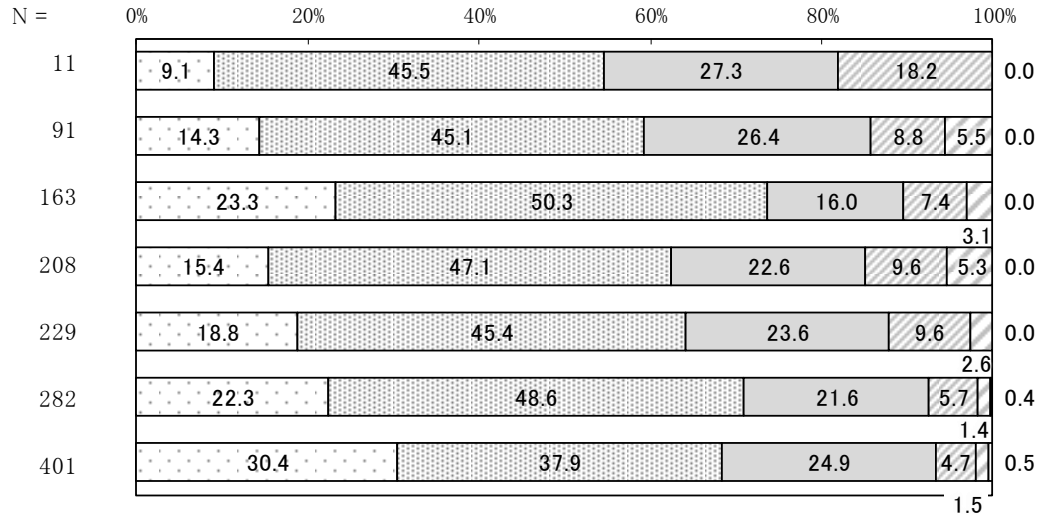
* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計
 * 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

とても愛着がある
 やや愛着がある
 どちらともいえない
 あまり愛着がない
 愛着がない
 無回答

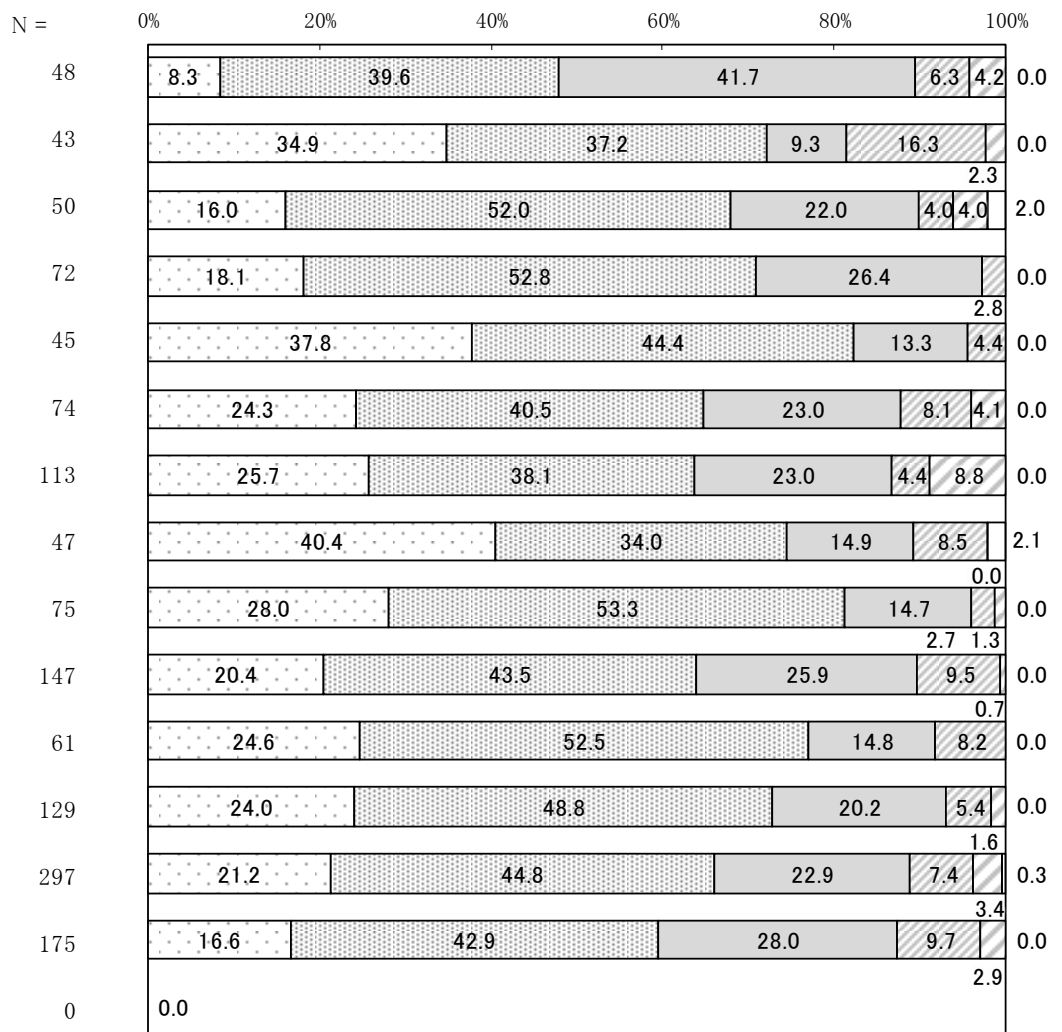
【性別】



【年代別】



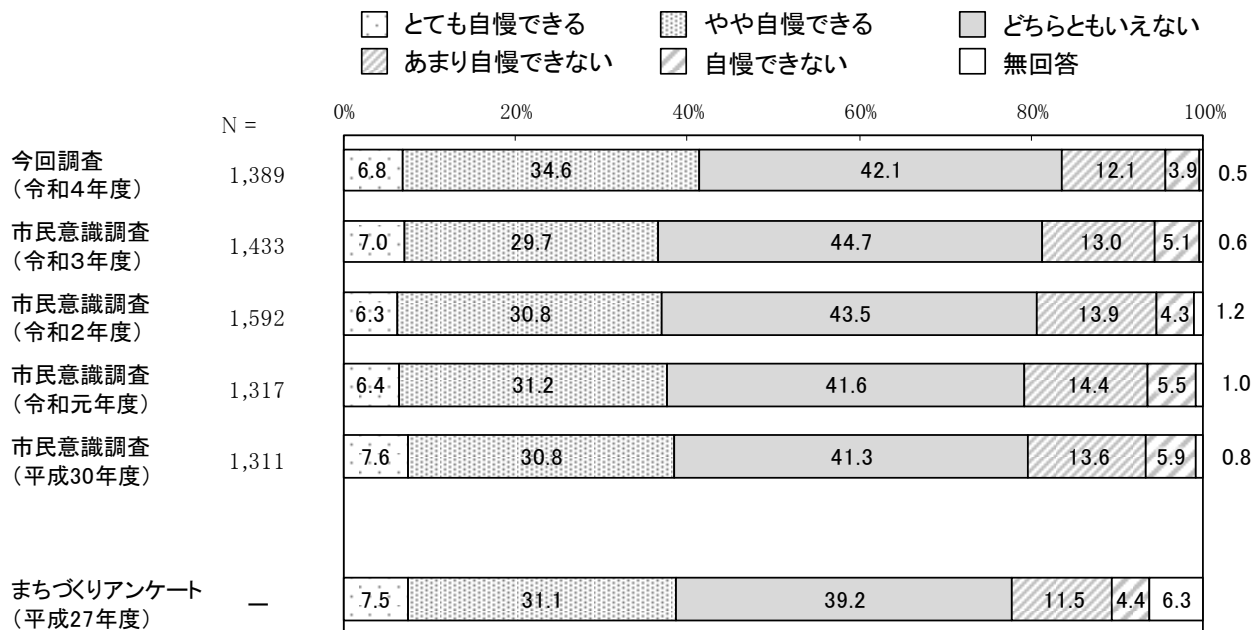
【居住地区別】



問7 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

4割が自慢できる、4割が「どちらともいえない」

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が42.1%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が6.8%、「やや自慢できる」が34.6%で、これらを合わせると41.4%となり、4割の人が自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると16.0%となっています。
- ・ 年代別では、自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合は、10歳代、30歳代、60歳以上で4割を超えています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、建部地区、永源寺地区で高く、蒲生地区、玉緒地区で低くなっており、蒲生地区は自慢できない（「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計）と自慢できる（前述）の割合の差が3.4%とわずかな差となっています。



単位：%

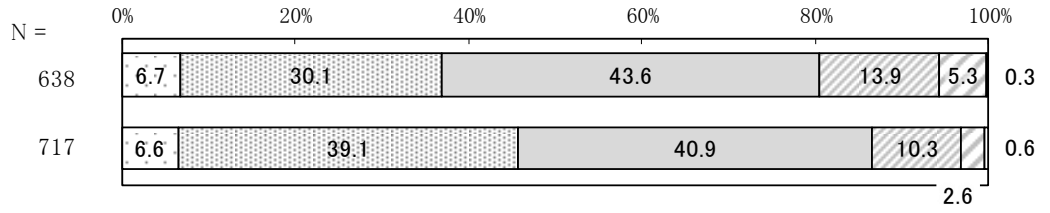
	自慢できる*	自慢できない*	差
①今回調査(令和4年度)	41.4	16.0	25.4
②市民意識調査(令和3年度)	36.7	18.1	18.6
③市民意識調査(令和2年度)	37.1	18.2	18.9
④市民意識調査(令和元年度)	37.6	19.9	17.7
⑤市民意識調査(平成30年度)	38.4	19.5	18.9
① - ⑤	3.0	-3.5	6.5
まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7

* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

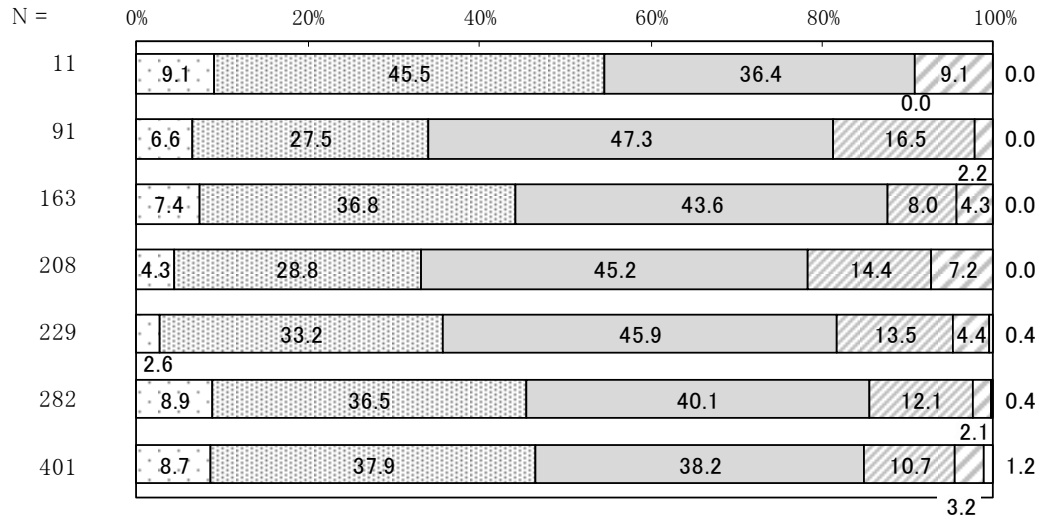
* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

とても自慢できる
 やや自慢できる
 どちらともいえない
 あまり自慢できない
 自慢できない
 無回答

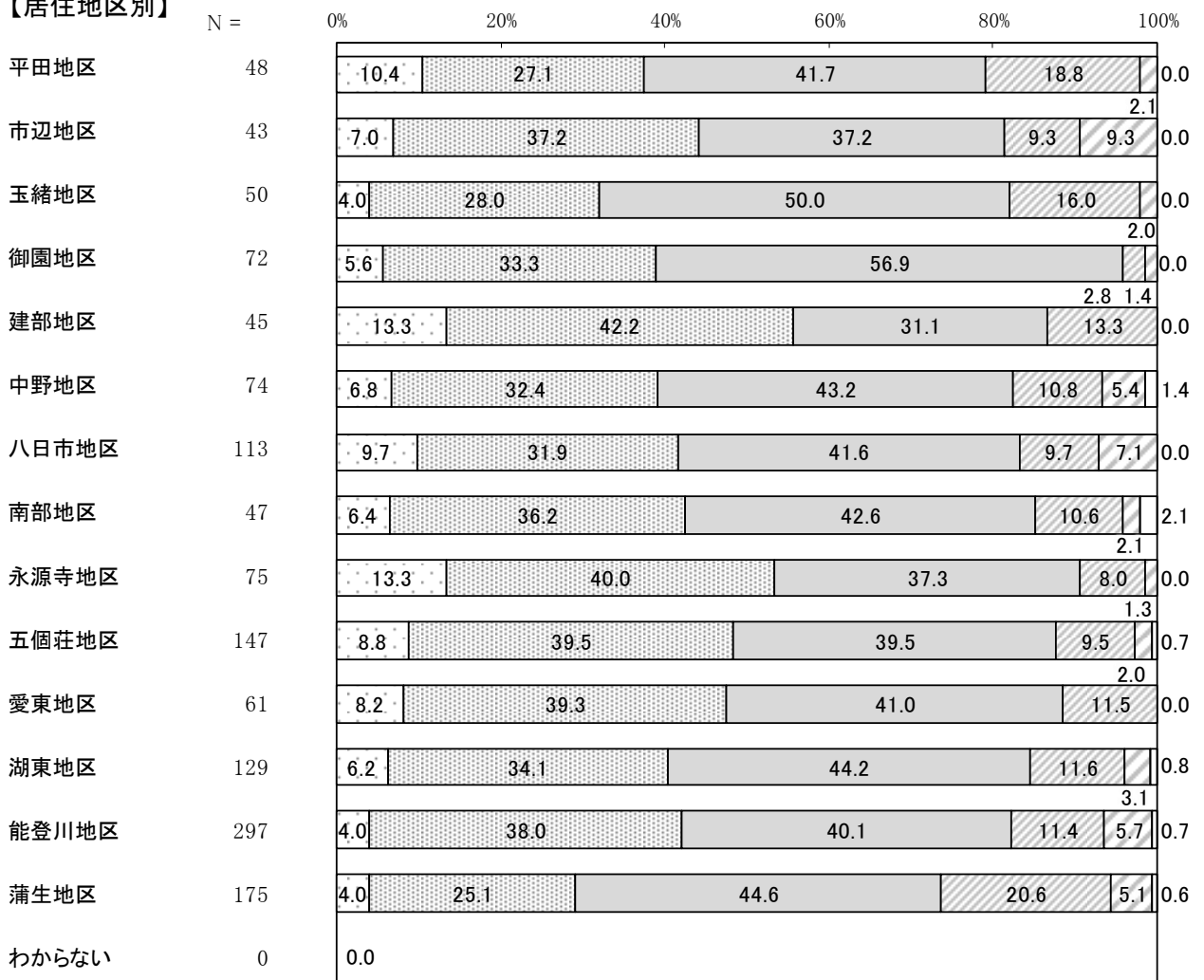
【性別】



【年代別】



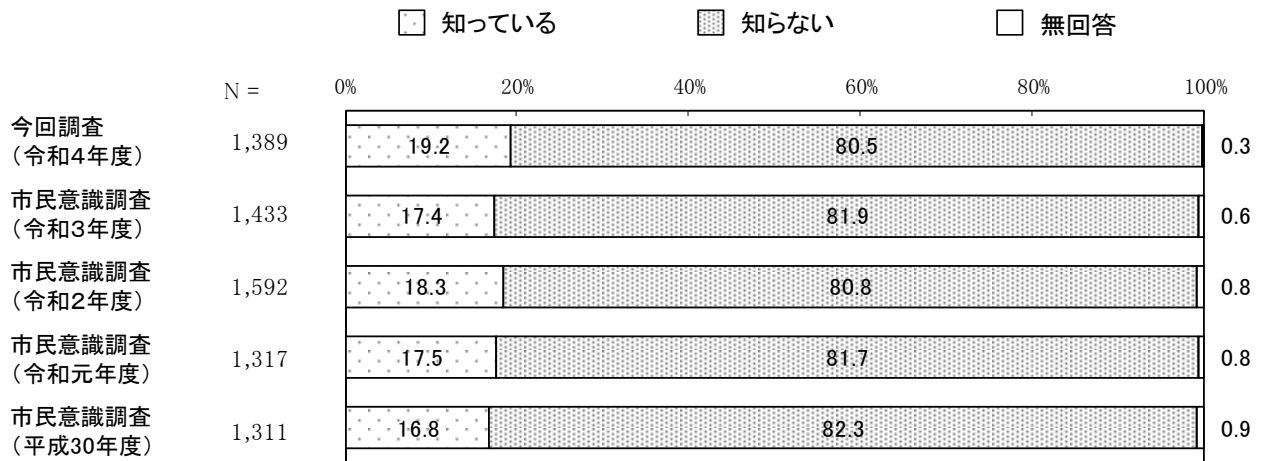
【居住地区別】



問8 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。
あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

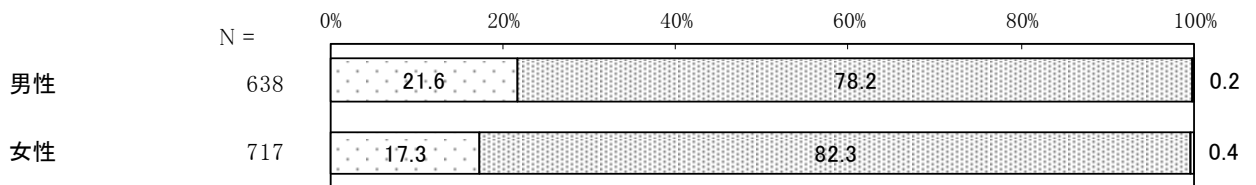
8割が「知らない」、認知度は2割近く

- ・ 「鈴鹿10座」については、「知らない」が80.5%と8割を占めています。一方、「知っている」は19.2%で、認知度は2割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、認知度は平成30年度から微増傾向にあります。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では年齢が上がるほど、居住地区別では永源寺地区と玉緒地区で、「鈴鹿10座」の認知度が高くなっています。



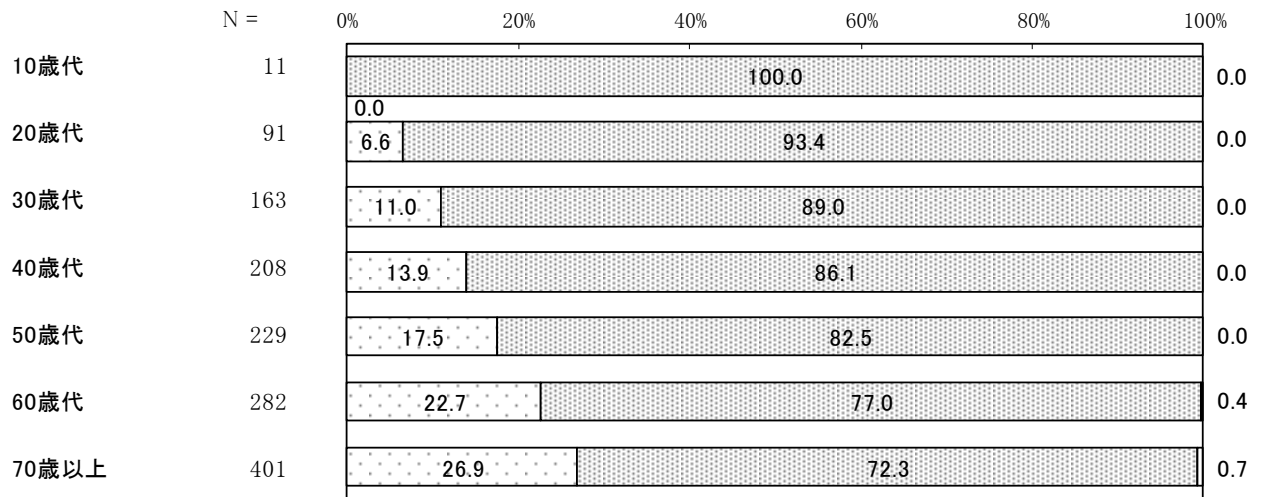
※令和2年～令和3年度までの設問は、「鈴鹿10座が選定されたことを知っていますか」

【性別】

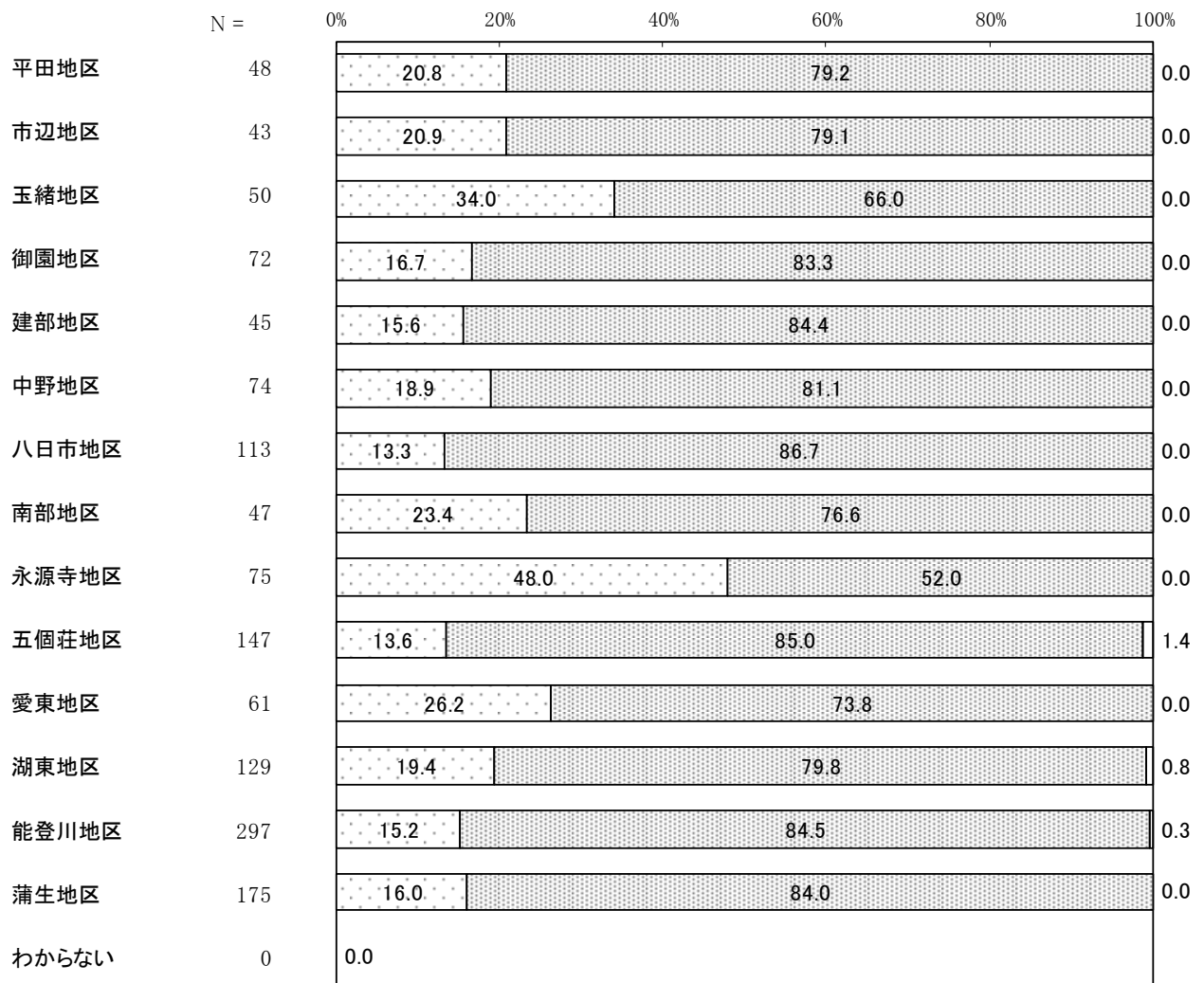


【年代別】

□ 知っている □ 知らない □ 無回答



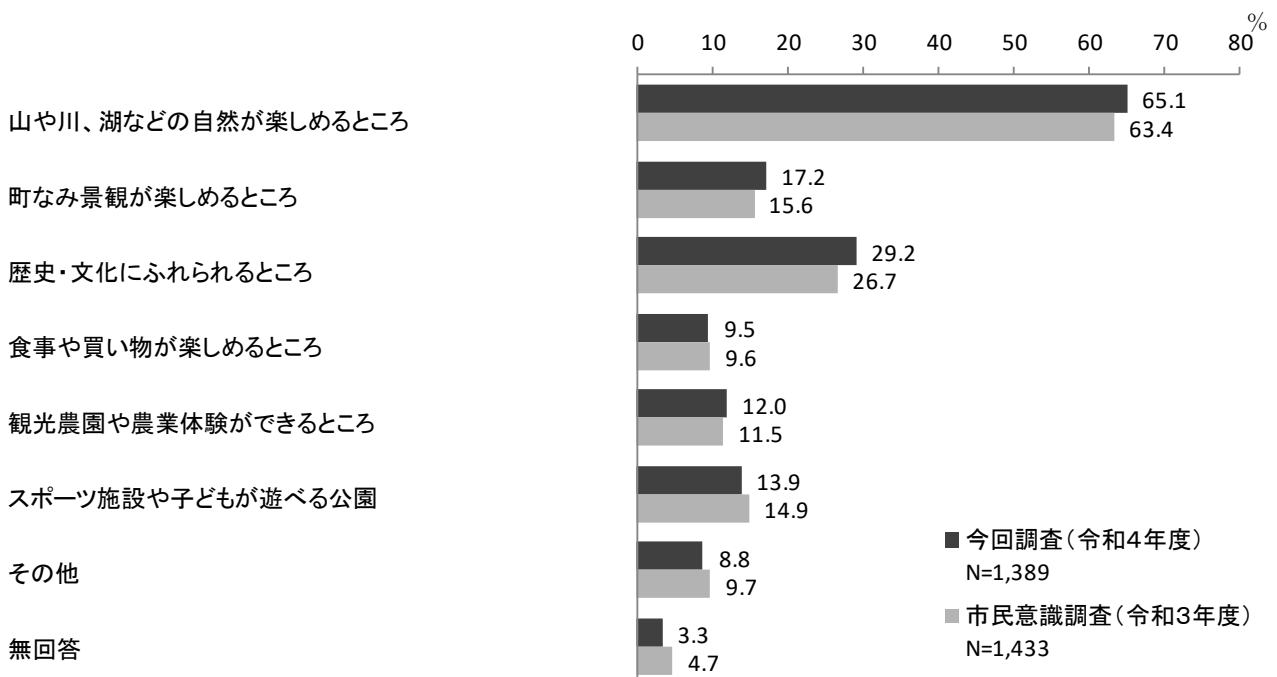
【居住地区別】



問9 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。《あてはまるものすべてに○》

7割近くが「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」を紹介

- ・ 友人・知人に東近江市を紹介するところとしては、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多く、65.1%と7割近くの人があげています。次いで「歴史・文化にふれられるところ」が29.2%、「町なみ景観が楽しめるところ」が17.2%、「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が13.9%と続きます。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多くあげられています。
- ・ 性別では、特に女性で「町なみ景観が楽しめるところ」や「観光農園や農業体験ができるところ」をあげる人が男性より多くなっています。
- ・ 年代別では、特に60歳代で「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」をあげる人が7割近く見られるほか、50歳以上で年齢が上がるほど「歴史・文化にふれられるところ」が、30～40歳代の子育て世代で「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が、40～60歳代で「観光農園や農業体験ができるところ」が、10～20歳代で「食事や買い物が楽しめるところ」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、特に永源寺地区で9割近く、建部地区、能登川地区で7割以上が「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」をあげているほか、建部地区、市辺地区、五個荘地区で「歴史・文化にふれられるところ」が、愛東地区で「観光農園や農業体験ができるところ」が、五個荘地区で「町なみ景観が楽しめるところ」が、湖東地区で「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が、八日市地区で「食事や買い物が楽しめるところ」がほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位：%

	有効回答数（件）	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
男性	638	63.8	15.2	30.3	8.8	10.2	13.0	9.6	3.1
女性	717	66.8	19.2	27.1	10.5	13.9	14.8	7.9	3.1

【年代別】

単位：%

	有効回答数（件）	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
10歳代	11	44.8	17.2	13.8	13.8	3.4	13.8	10.3	0.0
20歳代	91	57.4	11.9	14.9	13.9	7.9	12.9	11.9	3.0
30歳代	163	64.7	15.0	13.8	10.8	9.6	26.3	10.8	2.4
40歳代	208	64.5	13.4	16.9	9.1	13.0	19.5	11.3	4.3
50歳代	229	60.1	15.0	22.5	10.3	14.1	8.9	14.1	4.7
60歳代	282	69.5	16.1	33.1	8.4	14.8	13.5	6.4	4.5
70歳以上	401	61.3	18.0	39.5	8.7	8.2	12.5	8.2	6.8

【居住地区別】

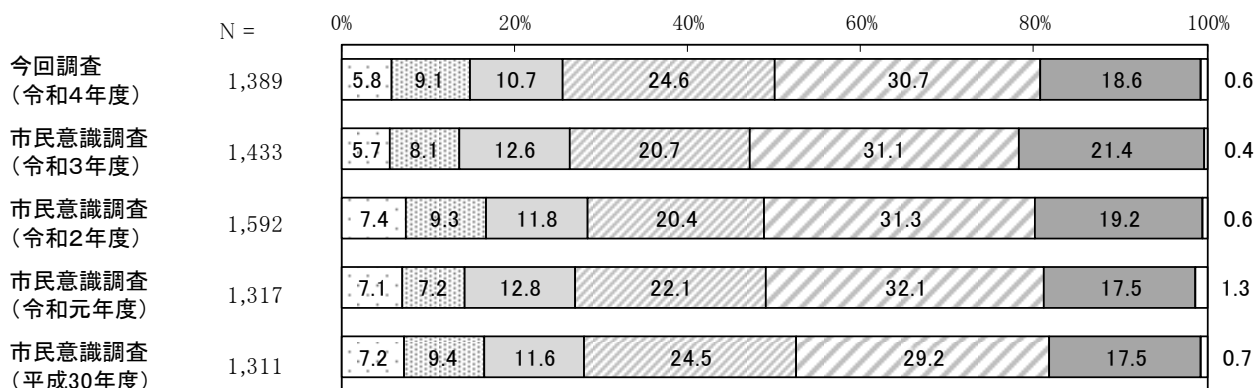
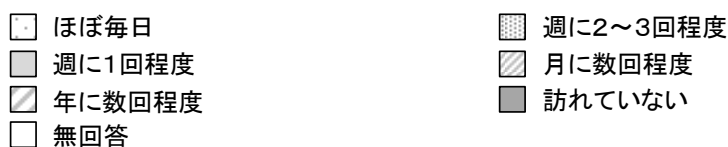
単位：%

	有効回答数（件）	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
平田地区	48	65.8	15.8	28.9	7.9	7.9	10.5	7.9	7.9
市辺地区	43	52.6	17.5	42.1	10.5	5.3	17.5	12.3	1.8
玉緒地区	50	63.1	6.2	24.6	7.7	9.2	15.4	15.4	9.2
御園地区	72	65.1	15.7	24.1	10.8	10.8	12.0	9.6	3.6
建部地区	45	74.2	19.4	45.2	9.7	12.9	12.9	3.2	3.2
中野地区	74	51.2	14.0	19.8	12.8	12.8	12.8	12.8	2.3
八日市地区	113	62.0	14.1	20.9	20.9	10.4	18.4	16.6	2.5
南部地区	47	63.9	9.8	26.2	11.5	14.8	11.5	9.8	6.6
永源寺地区	75	86.4	16.9	23.7	3.4	6.8	11.9	5.1	8.5
五個荘地区	147	45.3	33.6	41.6	10.9	4.4	10.9	2.2	6.6
愛東地区	61	66.0	5.7	22.6	3.8	41.5	5.7	1.9	1.9
湖東地区	129	68.0	10.3	21.6	5.2	13.4	27.8	6.2	7.2
能登川地区	297	72.2	16.8	23.4	6.6	9.0	16.8	11.1	3.9
蒲生地区	175	55.8	9.4	31.2	7.2	17.4	12.3	9.4	5.1
わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-

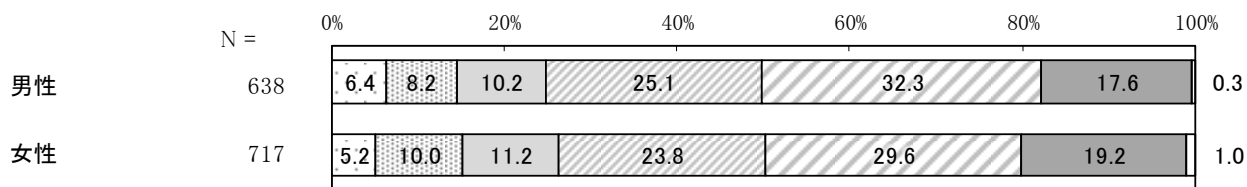
問10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）にどの程度訪れましたか。《○1つ》

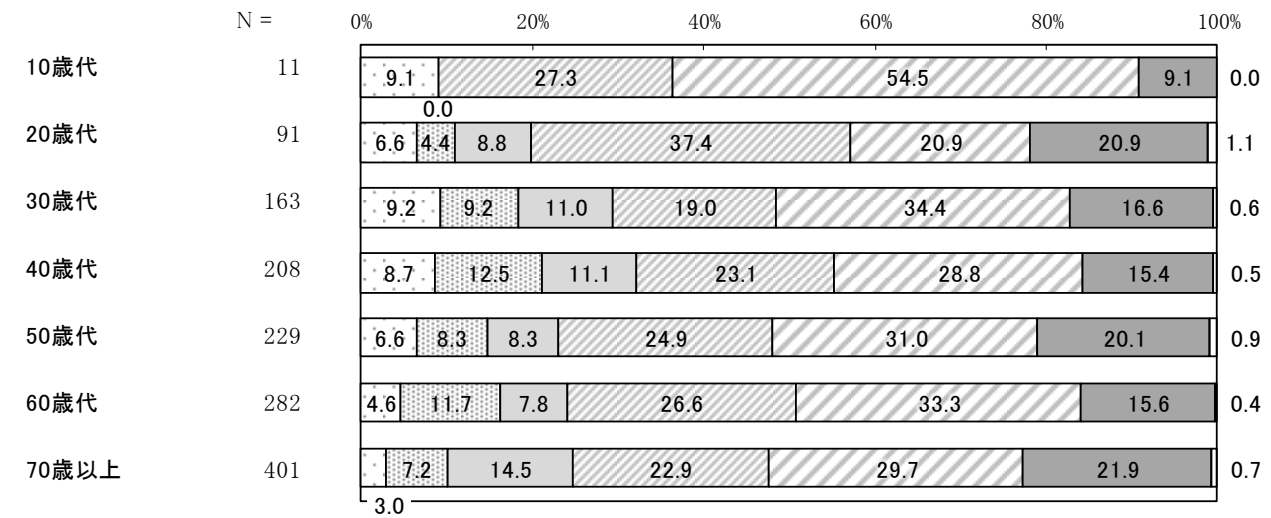
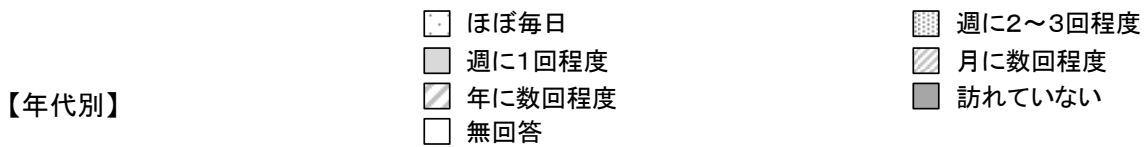
週1回以上訪れる人が3割近く、月に数回又は年に数回が半数以上

- この1年間で近江鉄道八日市駅周辺を訪れた頻度は、週に1回以上訪れる人が25.6%と3割近くとなっています。また、「月に数回程度」と「年に数回程度」を合わせると55.3%となり、半数を超えています。一方で、「訪れていない」人も18.6%と2割近く見られます。
- 年代別では、20歳代を除く年代で「年に数回程度」が最も高くなっており、20歳代では「月に数回程度」が最も高く、4割近くとなっています。一方、訪れていない人は20歳代、50歳代、70歳以上で多く見られます。
- 居住地区別では、週1回以上訪れる人の割合が、建部地区（6割）、八日市地区（半数近く）、中野地区（半数近く）で高く、能登川地区（1割未満）、蒲生地区（1割未満）で低くなっています。

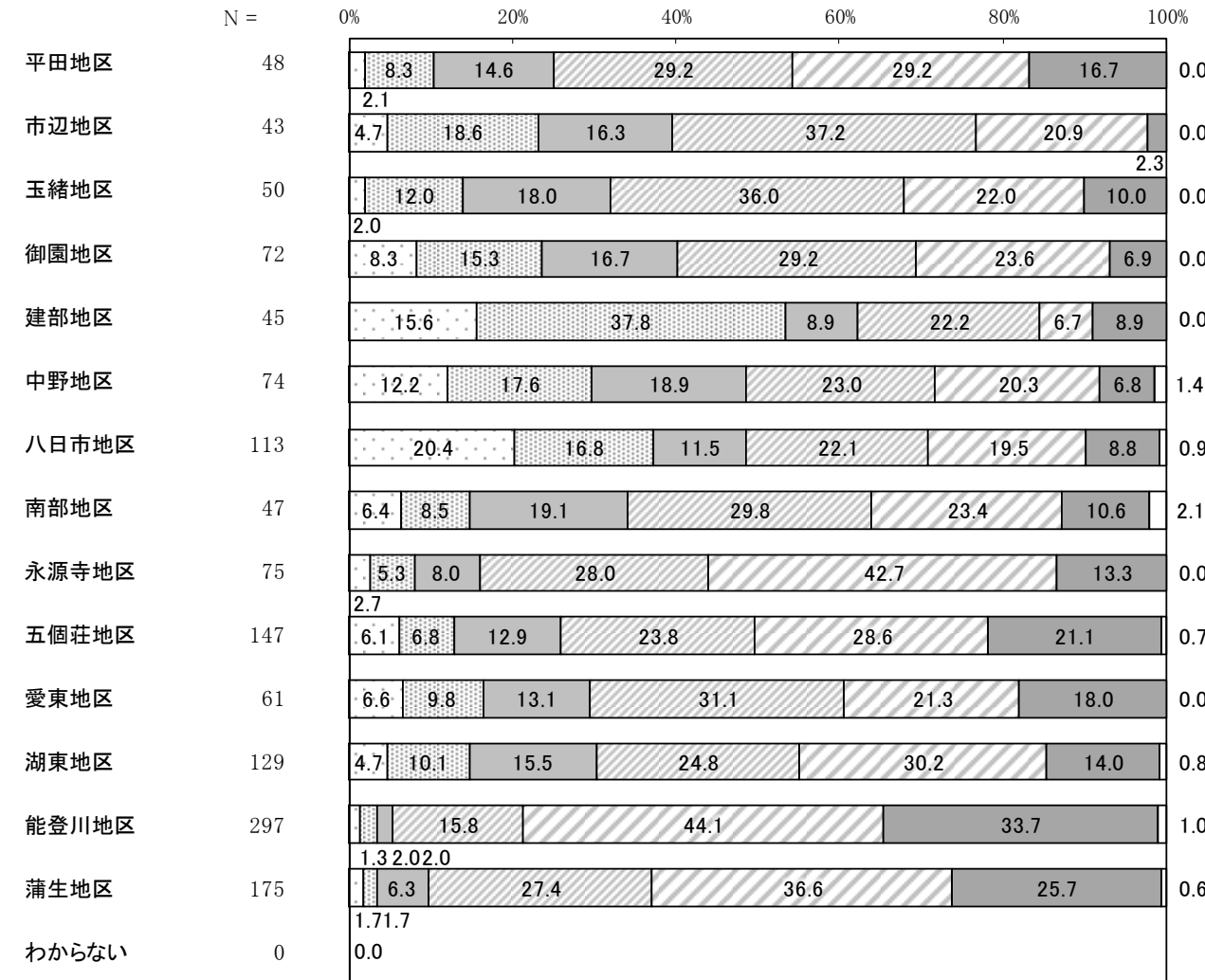


【性別】





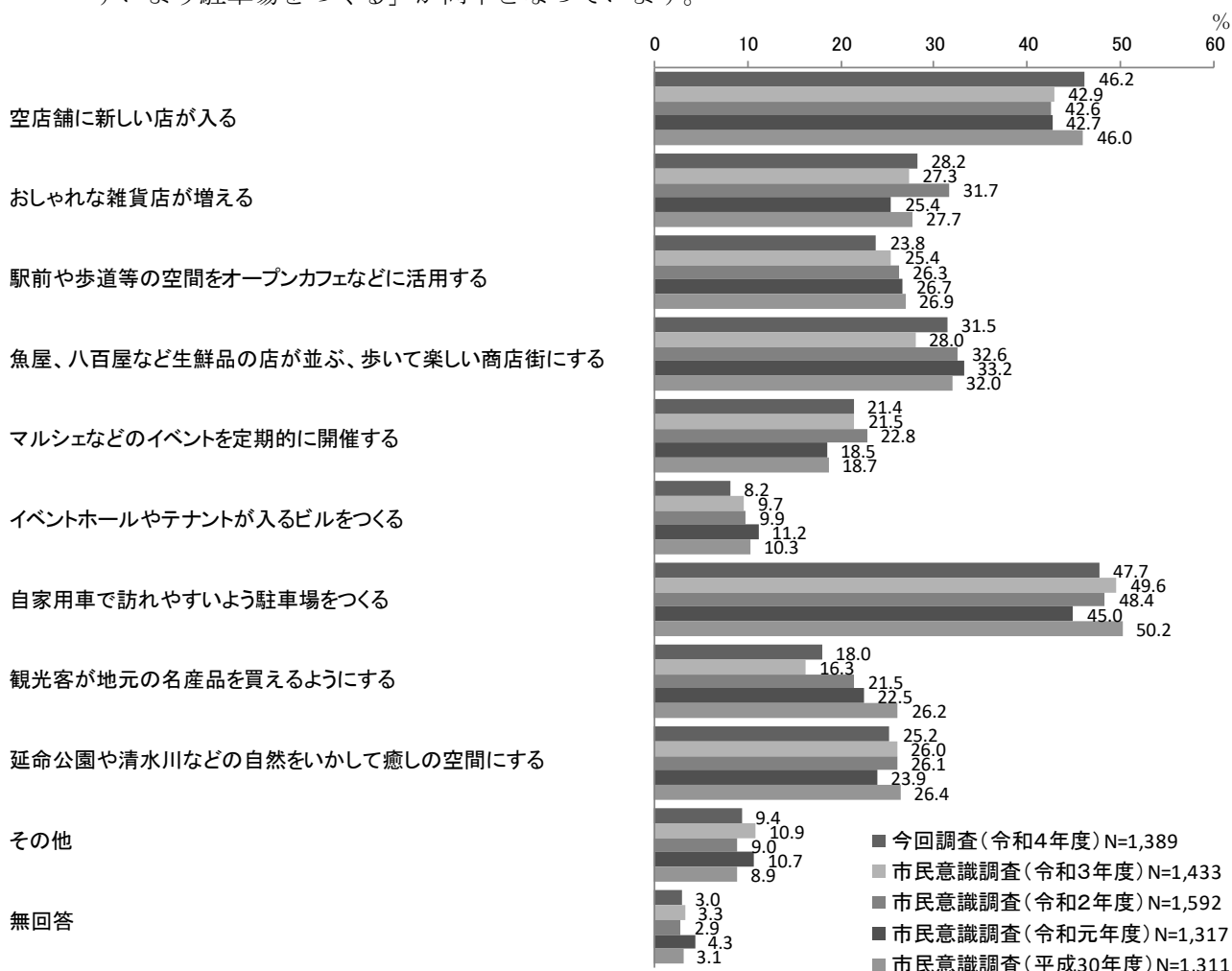
【居住地区別】



問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

駐車場の整備、空店舗の解消が上位

- ・ 八日市駅周辺の中心市街地が活性化するために必要なことは、「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が47.7%と最も多く、次いで「空店舗に新しい店が入る」が46.2%、「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が31.5%、「おしゃれな雑貨店が増える」が28.2%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに最も多いのは駐車場の整備であり、女性は男性より「おしゃれな雑貨店が増える」、「マルシェなどのイベントを定期的を開催する」などが多くあげられています。
- ・ 年代別では、10歳代は「おしゃれな雑貨店が増える」、20～50歳代は「空店舗に新しい店が入る」、60歳以上は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。そのほか、10～20歳代で「駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する」が、20～30歳代で「マルシェなどのイベントを定期的を開催する」が、30歳代までで「おしゃれな雑貨店が増える」が、60歳代で「延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする」が、60歳以上で「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が、70歳以上で「観光客が地元の名産品を買えるようにする」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、御園地区、中野地区、八日市地区、五個荘地区、南部地区、平田地区は「空店舗に新しい店が入る」が、そのほかの地区は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。平田地区は「空店舗に新しい店が入る」と「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が同率となっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活性化する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品を買いやすいようにする	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒し	その他	無回答
男性	638	44.7	21.2	23.2	30.1	16.8	9.2	47.5	16.8	23.7	11.9	2.7			
女性	717	47.6	34.9	24.1	31.7	25.5	7.5	48.7	19.4	26.5	7.4	2.9			

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活性化する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品を買いやすいようにする	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒し	その他	無回答
10歳代	11	36.4	81.8	63.6	9.1	9.1	18.2	36.4	18.2	18.2	0.0	0.0			
20歳代	91	64.8	46.2	40.7	22.0	33.0	17.6	39.6	11.0	16.5	11.0	1.1			
30歳代	163	58.9	49.7	31.9	28.8	36.8	12.9	50.9	10.4	23.9	8.0	0.0			
40歳代	208	54.8	35.6	22.6	25.0	26.9	8.7	48.6	16.8	24.5	11.1	0.5			
50歳代	229	51.1	28.8	21.8	30.6	24.9	6.1	44.5	19.7	25.8	11.4	2.6			
60歳代	282	41.8	23.4	25.2	34.0	22.3	8.5	47.5	16.3	29.1	7.1	3.5			
70歳以上	401	32.7	13.5	16.5	37.2	7.0	4.7	49.6	23.4	25.2	9.7	5.7			

【居住地区別】

単位:%

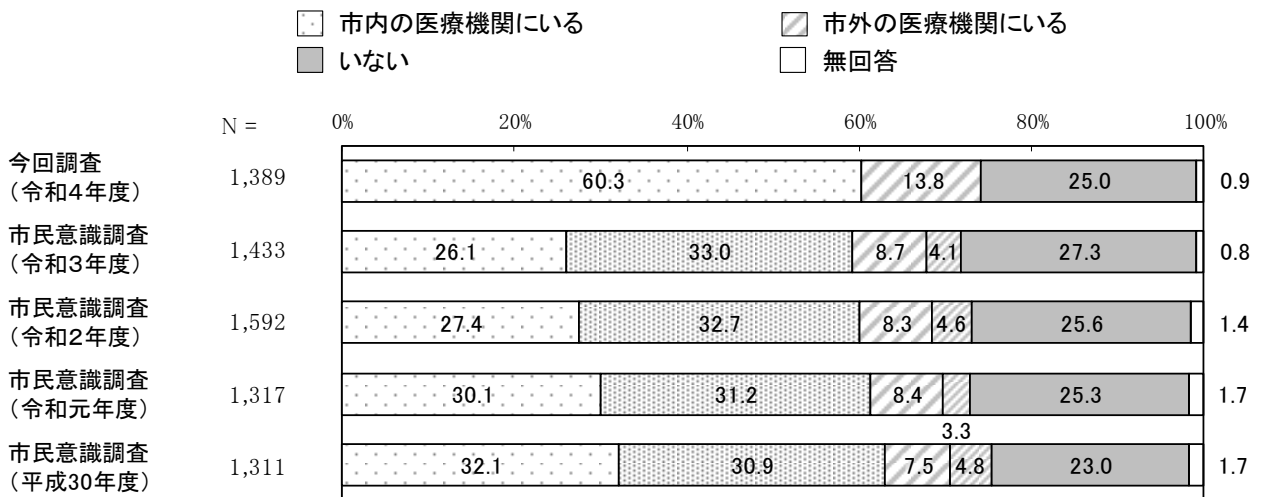
区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活性化する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るビルやテナントが入るビルをつくる	自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品を買いやすいようにする	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの自然をいかして癒し	その他	無回答
平田地区	48	43.8	22.9	22.9	29.2	33.3	8.3	43.8	12.5	25.0	6.3	6.3			
市辺地区	43	46.5	39.5	30.2	37.2	20.9	11.6	53.5	20.9	30.2	4.7	2.3			
玉緒地区	50	50.0	28.0	30.0	44.0	24.0	4.0	52.0	10.0	30.0	6.0	0.0			
御園地区	72	55.6	26.4	18.1	29.2	19.4	12.5	50.0	23.6	31.9	9.7	4.2			
建部地区	45	73.3	35.6	37.8	33.3	28.9	6.7	37.8	15.6	31.1	11.1	2.2			
中野地区	74	51.4	31.1	23.0	24.3	25.7	8.1	45.9	18.9	32.4	5.4	2.7			
八日市地区	113	50.4	38.9	31.9	42.5	28.3	9.7	34.5	15.9	38.9	10.6	0.0			
南部地区	47	46.8	25.5	23.4	40.4	14.9	8.5	38.3	23.4	34.0	12.8	0.0			
永源寺地区	75	41.3	24.0	12.0	33.3	12.0	9.3	60.0	25.3	20.0	2.7	4.0			
五個荘地区	147	48.3	27.2	25.9	38.8	15.0	5.4	47.6	13.6	20.4	6.8	4.1			
愛東地区	61	36.1	34.4	23.0	29.5	13.1	8.2	52.5	26.2	23.0	9.8	0.0			
湖東地区	129	44.2	31.0	23.3	34.9	23.3	6.2	55.8	18.6	24.0	3.9	4.7			
能登川地区	297	41.8	20.9	21.2	24.2	18.9	9.4	44.8	14.5	19.2	16.5	4.7			
蒲生地区	175	42.3	28.6	25.1	25.7	26.9	8.0	52.0	22.3	20.6	9.7	0.6			
わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

(3) 健康や福祉について

問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいますか。《○1つ》

6割が市内の医療機関にかかりつけ医がいる

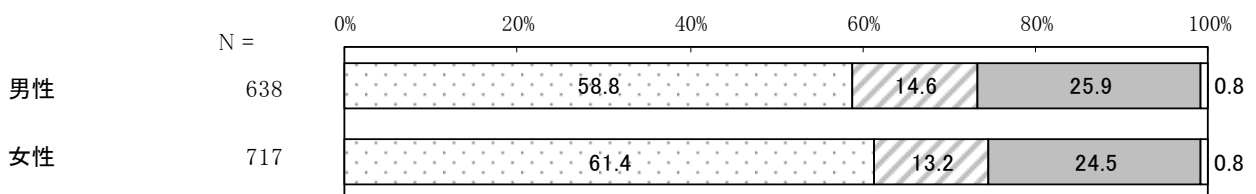
- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の医療機関にいる」が60.3%と最も多く、6割が市内の医療機関にかかりつけ医がいると回答しています。また、「市外の医療機関にいる」が13.8%、「いない」と回答した人は25.0%でした。
- ・ 過去の調査と比較すると、設問の内容の見直しによる影響も考えられますが、今年度はかかりつけ医がいない人の割合がやや減少しています。
- ・ 年代別では、10歳代、60歳以上で市外も含めてかかりつけ医がいる人が多く、70歳以上は9割近く（市内が8割近く）となっています。一方、20～30歳代は4割前後がかかりつけ医が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、市内の医療機関にかかりつけ医がいる人の割合は、南部地区で9割近く、永源寺地区で8割近く、玉緒地区、愛東地区で7割と高くなっています。一方、建部地区、御園地区、五個荘地区、八日市地区ではかかりつけ医がいない人が多く見られます。また、平田地区、蒲生地区、五個荘地区でかかりつけ医が市外にいる人が2割以上とほかの地区より多くなっています。



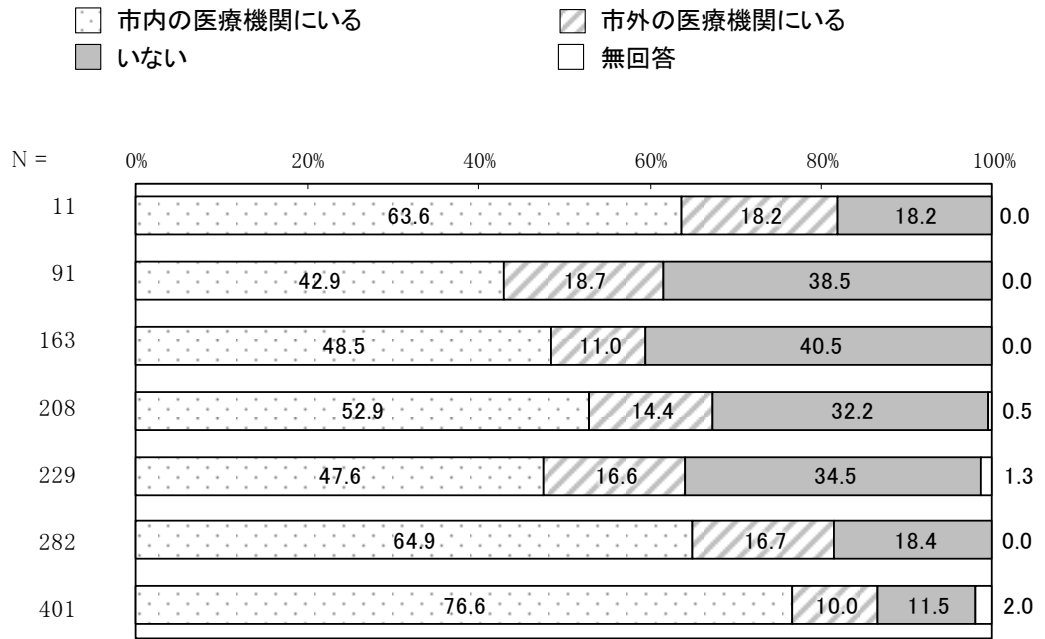
※令和3年度までの設問内容(令和4年度から設問内容変更)



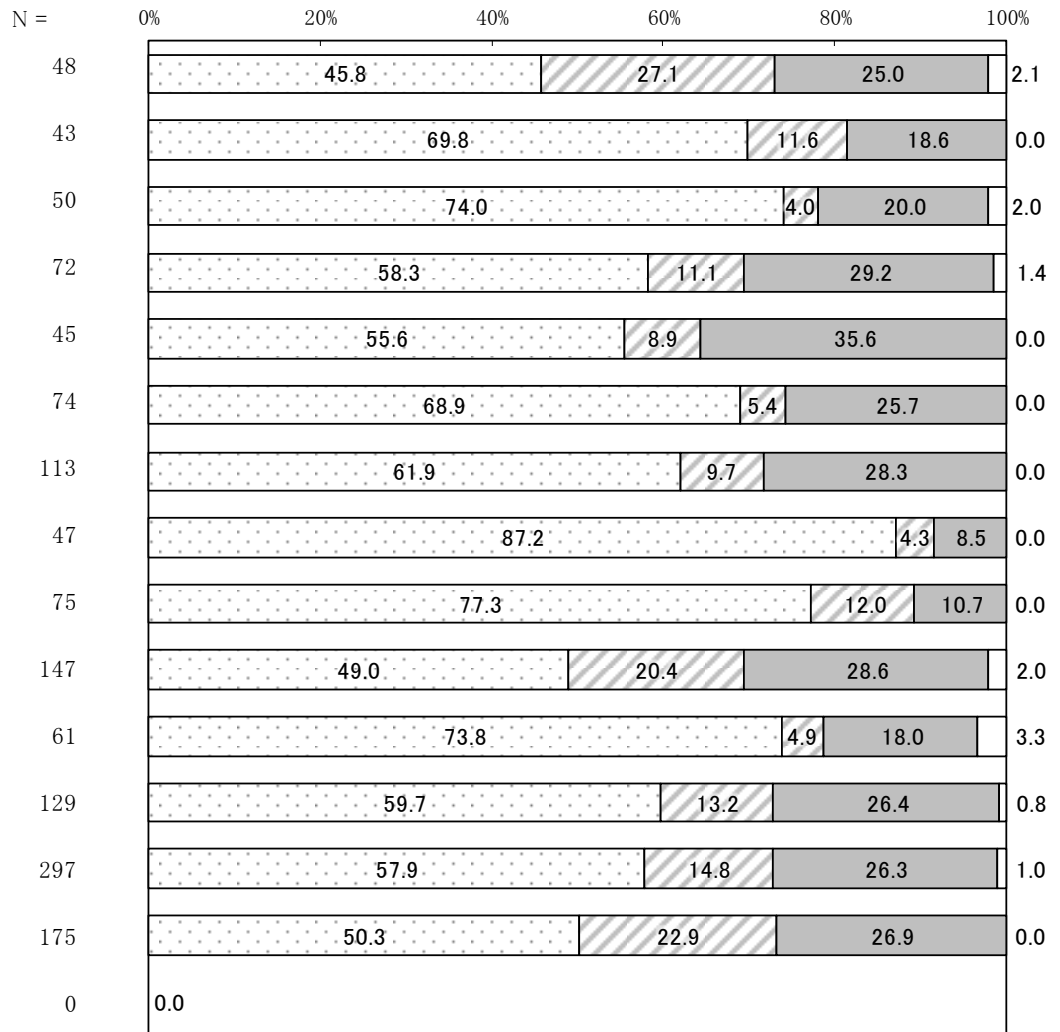
【性別】



【年代別】



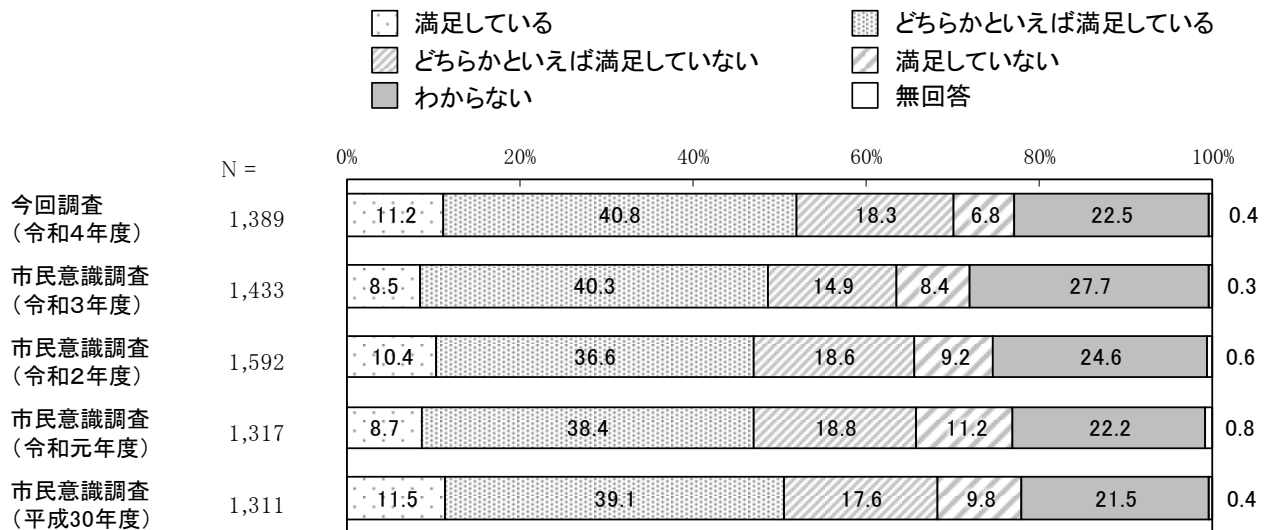
【居住地区別】



問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

半数が満足、3割近くは満足していない

- ・ 病院や救急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が11.2%、「どちらかといえば満足している」が40.8%で、これらを合わせると52.0%となり、半数の人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると25.1%で、「わからない」と回答した人は22.5%でした。
- ・ 過去の調査と比較すると、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合がやや増加傾向にあり、今年度は過去5年間で最も高い値となっています。
- ・ 年代別では、全ての年代で満足（前述）の割合が不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）より高くなっています。特に、10歳代、60歳以上で満足（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、永源寺地区、南部地区で満足（前述）の割合が高く、市辺地区で不満（前述）の割合がほかの地区より高くなっています。

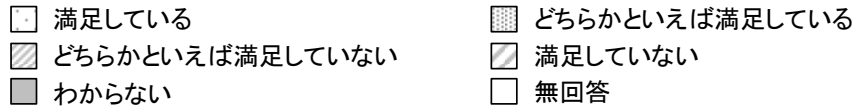


単位：%

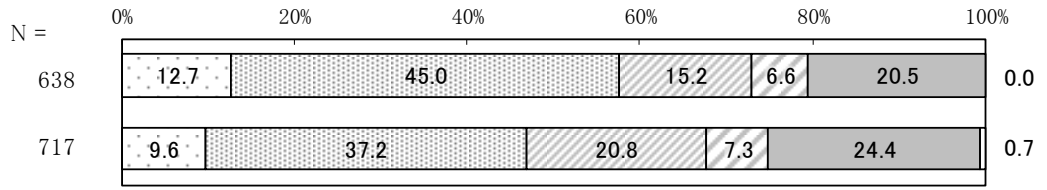
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和4年度)	52.0	25.1	26.9
②市民意識調査(令和3年度)	48.8	23.3	25.5
③市民意識調査(令和2年度)	47.0	27.8	19.2
④市民意識調査(令和元年度)	47.1	30.0	17.1
⑤市民意識調査(平成30年度)	50.6	27.4	23.2
①-⑤	1.4	-2.3	3.7

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

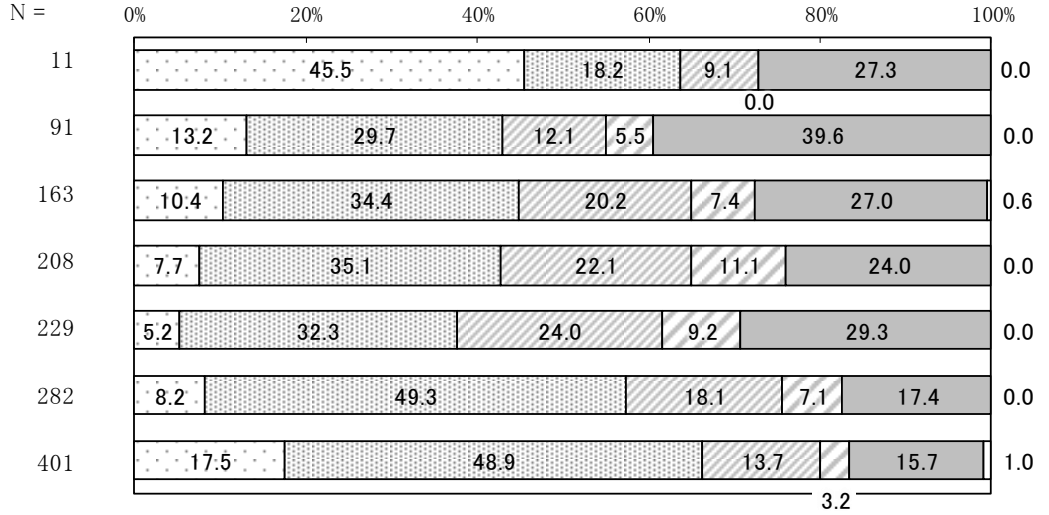
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



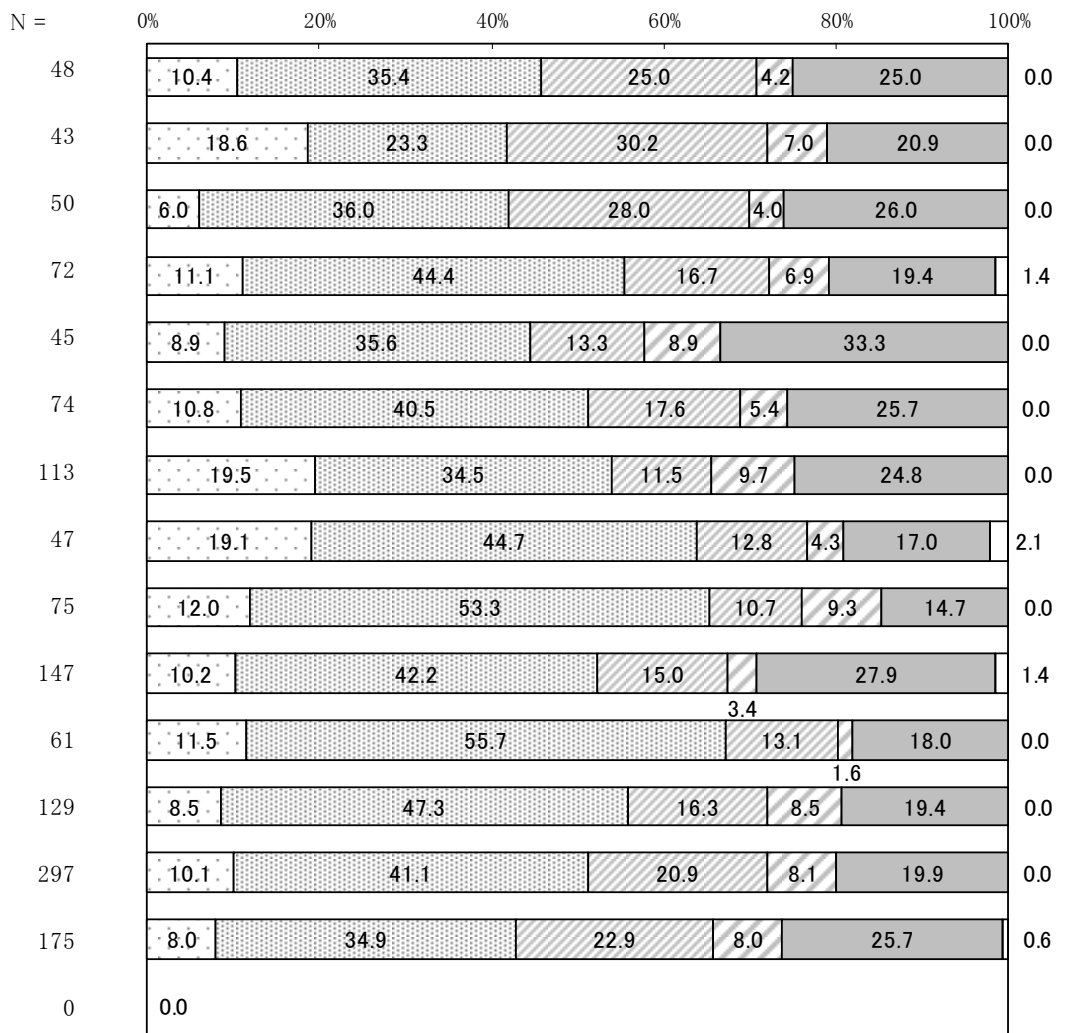
【性別】



【年代別】



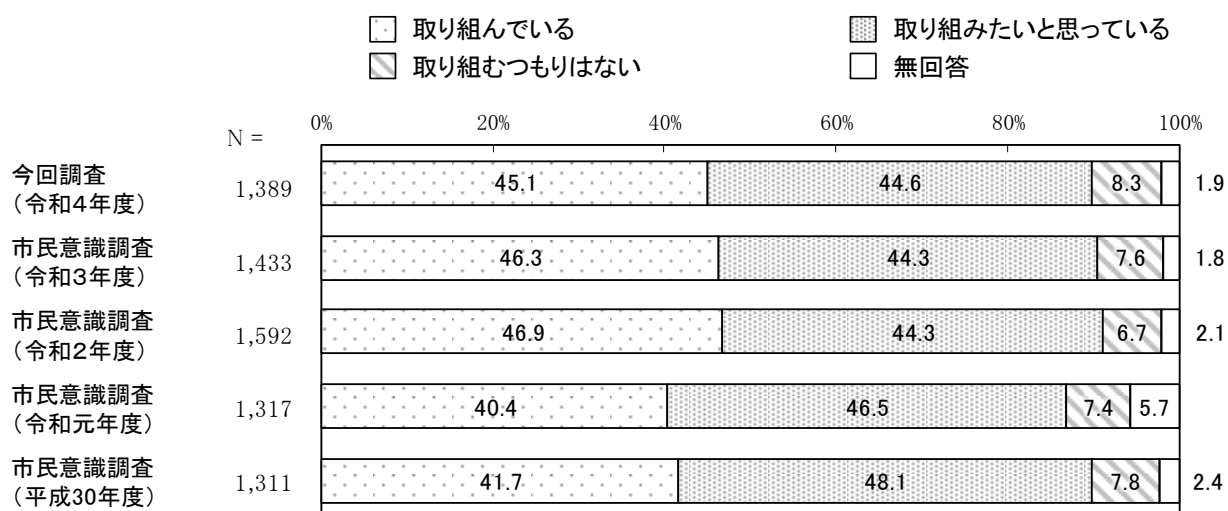
【居住地区別】



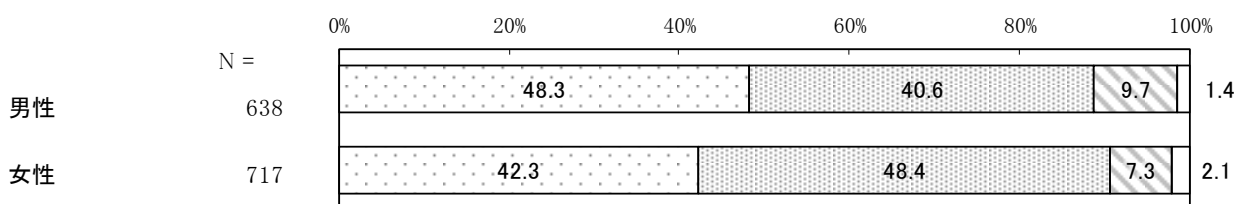
問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

半数近くが健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割近くに

- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が45.1%と最も多く、次の「取り組みたいと思っている」の44.6%を合わせると89.7%となり、9割近くの人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和2年度に増加し、半数近くとなっていた自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」と回答した人の割合が、今年度はやや減少しています。
- ・ 年代別では30歳代と60歳以上で、居住地区別では建部地区、愛東地区、南部地区で、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」人が多く見られます。

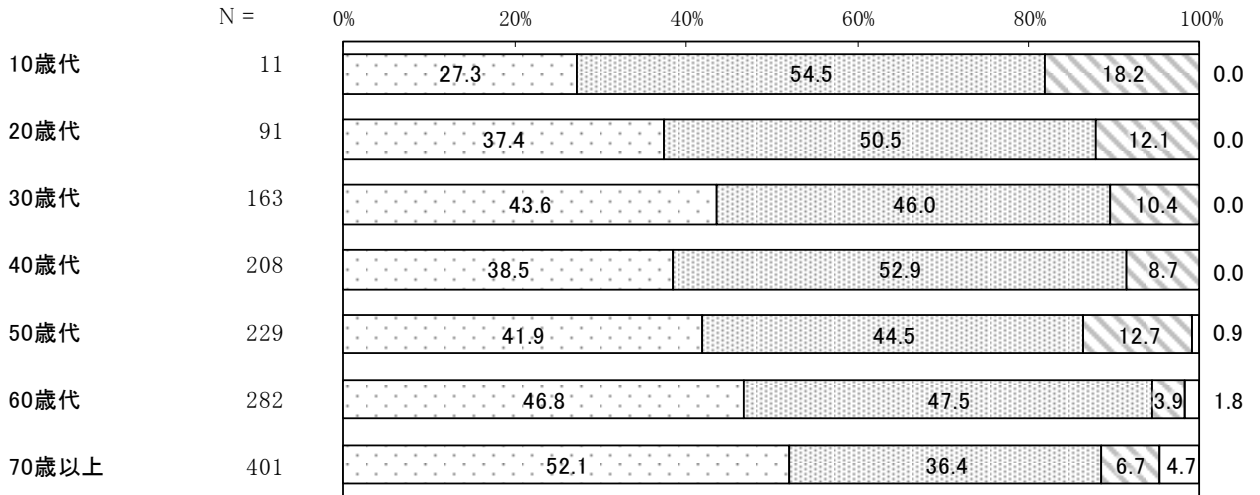


【性別】

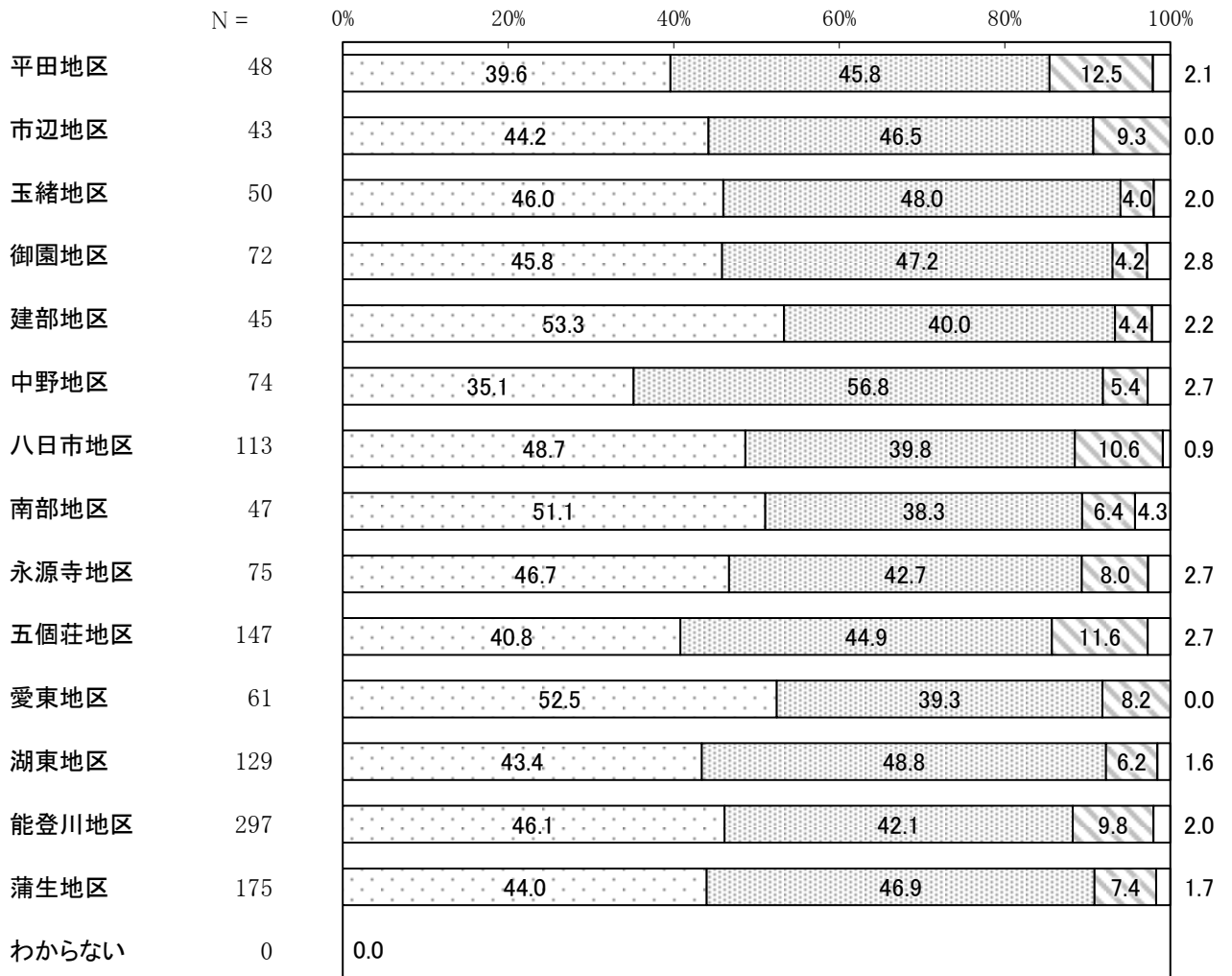


【年代別】

取り組んでいる 取り組みたいと思っている
 取り組むつもりはない 無回答



【居住地区別】

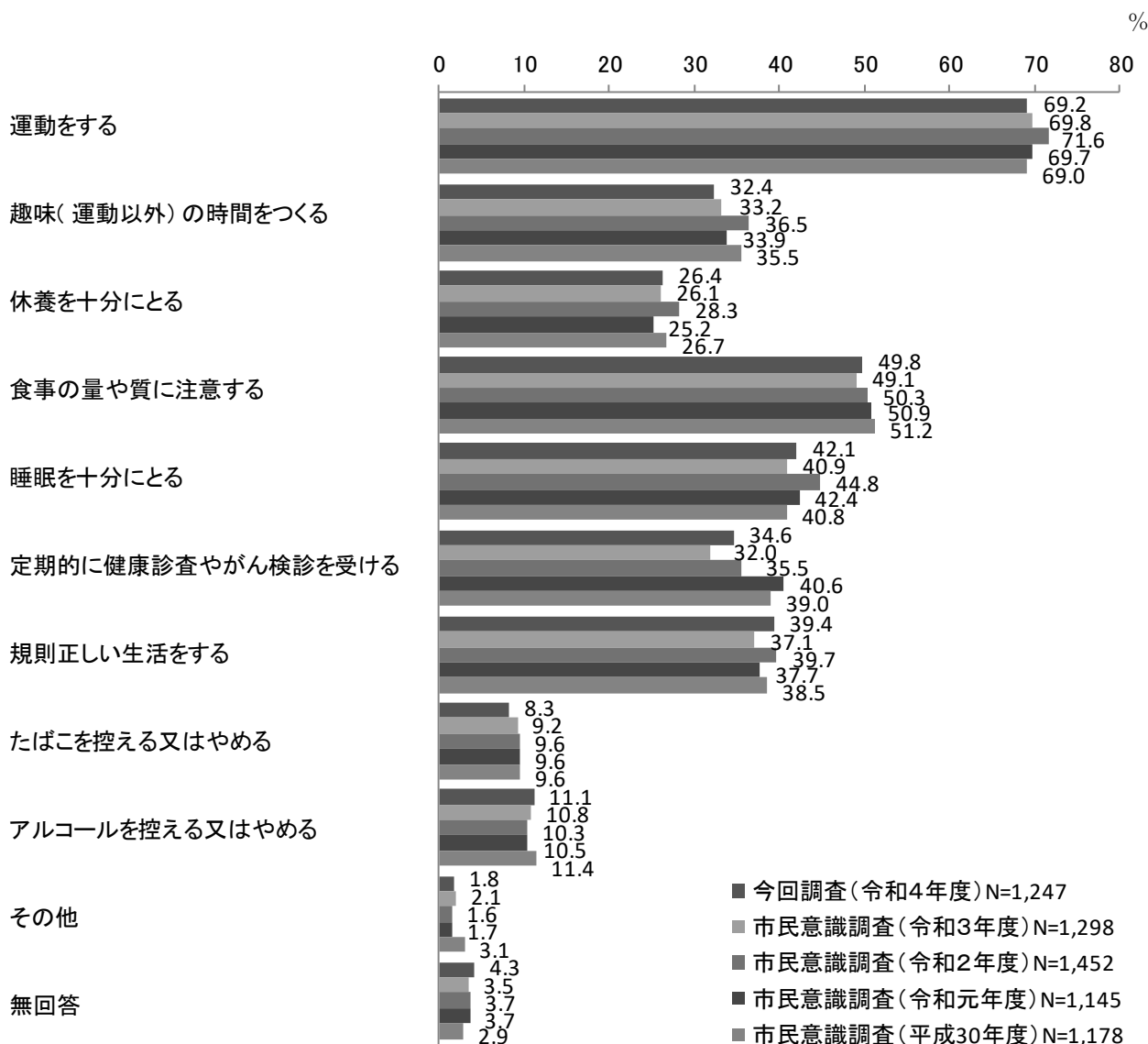


問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 69.2%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」が 49.8%、「睡眠を十分にとる」が 42.1%、「規則正しい生活をする」が 39.4%、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が 34.6%、「趣味（運動以外）の時間をつくる」が 32.4%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「運動をする」が最も多くなっています。女性は規則正しい生活や食事、十分な睡眠などをあげる人が男性より多く、男性は禁煙や禁酒などが女性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、全ての年齢で「運動をする」が最も多くなっています。そのほか、20歳代で「趣味（運動以外）の時間をつくる」が、10～40歳代で「睡眠を十分にとる」が、40歳以上で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」がほかの年代より多くなっています。一方、10～20歳代で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」がほかの年代より少なくなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	567	68.4	30.0	22.8	45.0	36.7	31.4	31.2	13.8	15.5	2.3	5.8
女性	650	70.6	34.6	30.3	54.0	47.1	37.5	45.8	3.8	7.4	1.4	2.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	9	66.7	11.1	55.6	0.0	55.6	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0
20歳代	80	72.5	41.3	35.0	51.3	52.5	15.0	43.8	8.8	13.8	0.0	0.0
30歳代	146	74.0	32.9	29.5	51.4	47.3	29.5	34.9	5.5	14.4	0.0	2.7
40歳代	190	70.0	23.7	26.3	52.1	46.3	37.9	31.6	10.0	13.2	1.6	4.7
50歳代	198	71.2	34.3	23.7	50.5	38.4	34.8	35.9	7.1	11.1	1.5	4.0
60歳代	266	68.4	31.6	22.9	51.9	34.6	37.6	39.5	9.4	8.6	2.3	6.0
70歳以上	355	65.6	34.9	26.5	46.8	42.5	37.7	46.8	8.7	10.4	2.8	4.5

【居住地区別】

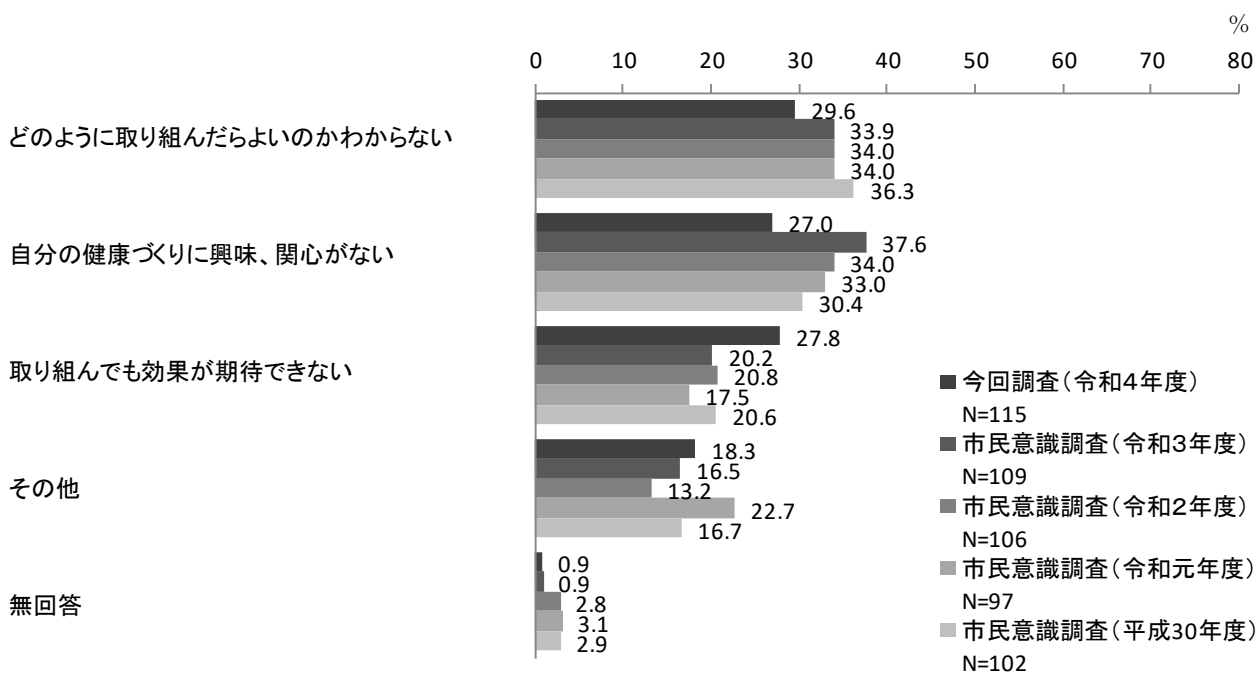
単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	41	70.7	34.1	26.8	34.1	53.7	24.4	39.0	7.3	7.3	2.4	7.3
市辺地区	39	71.8	38.5	28.2	48.7	56.4	33.3	30.8	7.7	12.8	2.6	0.0
玉緒地区	47	59.6	29.8	31.9	57.4	40.4	36.2	44.7	10.6	10.6	2.1	4.3
御園地区	67	59.7	35.8	31.3	50.7	34.3	32.8	40.3	11.9	11.9	3.0	4.5
建部地区	42	69.0	35.7	26.2	40.5	38.1	21.4	23.8	9.5	7.1	2.4	7.1
中野地区	68	72.1	29.4	32.4	52.9	50.0	35.3	44.1	11.8	8.8	0.0	2.9
八日市地区	100	75.0	26.0	23.0	60.0	51.0	25.0	43.0	8.0	15.0	1.0	0.0
南部地区	42	66.7	21.4	16.7	50.0	35.7	42.9	35.7	7.1	11.9	4.8	2.4
永源寺地区	67	67.2	32.8	25.4	44.8	50.7	44.8	46.3	7.5	6.0	1.5	3.0
五箇荘地区	126	68.3	31.7	31.7	53.2	42.9	34.9	49.2	13.5	16.7	4.0	4.8
愛東地区	56	69.6	35.7	26.8	37.5	46.4	39.3	42.9	7.1	10.7	0.0	3.6
湖東地区	119	67.2	34.5	22.7	45.4	35.3	37.8	36.1	4.2	10.1	0.8	7.6
能登川地区	262	71.0	33.6	28.6	49.2	40.8	33.2	42.7	7.3	11.8	1.5	5.3
蒲生地区	159	70.4	33.3	21.4	51.6	34.6	37.7	27.0	7.5	9.4	1.9	3.8
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

取り組むつもりがない理由は、「どのように取り組んだらよいかわからない」、「取り組んでも効果が期待できない」が上位

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「どのように取り組んだらよいかわからない」が 29.6%と最も多く、次いで「取り組んでも効果が期待できない」が 27.8%、「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 27.0%、「その他」が 18.3%となっています。
- ・ 性別では、男性は「取り組んでも効果が期待できない」、女性は「どのように取り組んだらよいかわからない」を理由にあげる人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、10 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代は「どのように取り組んだらよいかわからない」、20～50 歳代は「自分の健康づくりに興味、関心がない」、70 歳以上は「取り組んでも効果が期待できない」を理由にあげる人が最も多くなっています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	どのように取り組んだらよいかわからない	自分の健康づくりに興味、関心がない	取り組んでも効果が期待できない	その他	無回答
男性	62	29.0	30.6	35.5	9.7	0.0
女性	52	30.8	21.2	19.2	28.8	1.9

【年代別】

単位：%

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ か ら ず 組 ん だ	味 自 、 分 関 の 健 心 康 が づ な く い り に 興	待 取 で り 可 組 能 ん な だ も も 効 果 が 期	そ の 他	無 回 答
10歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	11	27.3	45.5	18.2	9.1	0.0
30歳代	17	41.2	41.2	17.6	11.8	0.0
40歳代	18	16.7	38.9	27.8	16.7	5.6
50歳代	29	31.0	31.0	20.7	20.7	0.0
60歳代	11	54.5	18.2	18.2	9.1	0.0
70歳以上	27	14.8	3.7	51.9	29.6	0.0

【居住地区別】

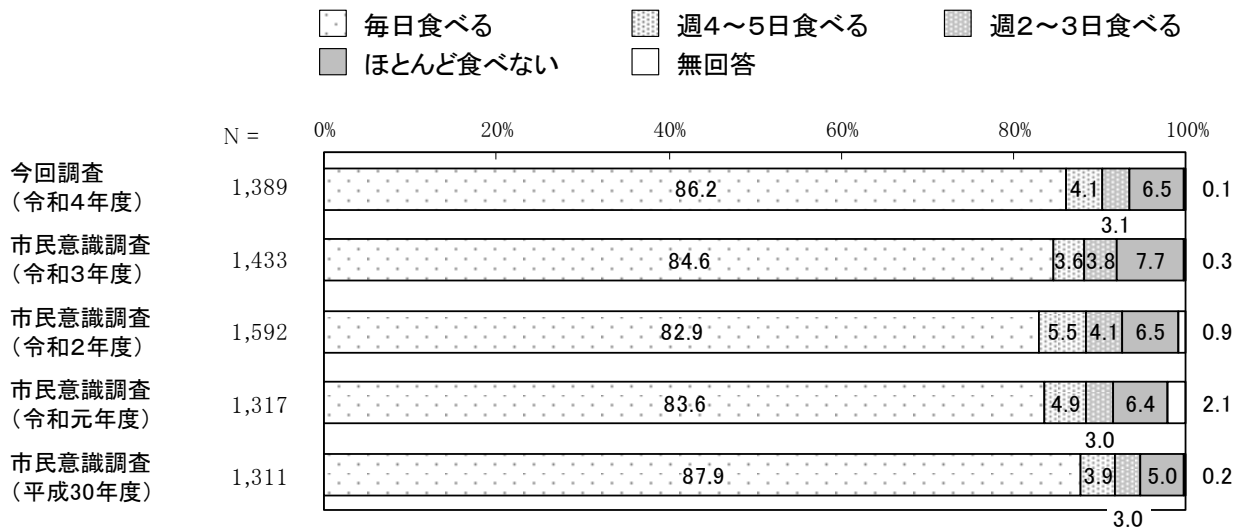
単位：%

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ か ら ず 組 ん だ	味 自 、 分 関 の 健 心 康 が づ な く い り に 興	待 取 で り 可 組 能 ん な だ も も 効 果 が 期	そ の 他	無 回 答
平田地区	6	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
市辺地区	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
玉緒地区	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
御園地区	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
建部地区	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
中野地区	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
八日市地区	12	33.3	50.0	16.7	8.3	0.0
南部地区	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
永源寺地区	6	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0
五個荘地区	17	35.3	23.5	23.5	17.6	0.0
愛東地区	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
湖東地区	8	37.5	0.0	25.0	37.5	0.0
能登川地区	29	17.2	34.5	27.6	24.1	0.0
蒲生地区	13	61.5	15.4	23.1	7.7	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-

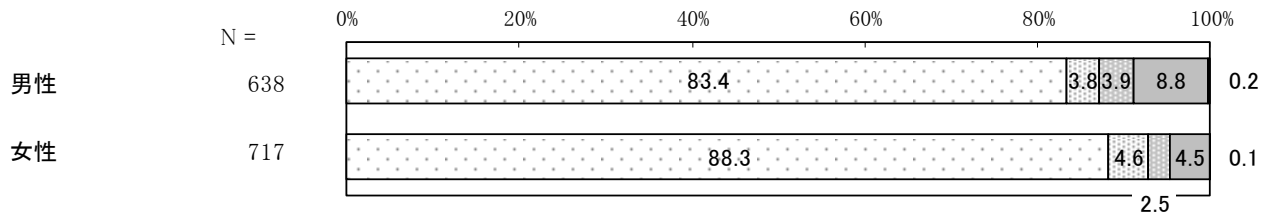
問 15 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

9割近くが朝食は「毎日食べる」

- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が 86.2%と、9割近くとなっています。次いで、「ほとんど食べない」が 6.5%、「週4～5日食べる」が 4.1%、「週2～3日食べる」が 3.1%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、朝食を毎日食べる人の割合は、平成 30 年度の 9割近くをピークに減少していましたが、令和 3 年度からやや増加傾向にあります。
- ・ 性別では女性が 9割近く、年代別では 10 歳代、60 歳以上で、居住地区別では湖東地区、御園地区、中野地区で、9割以上の人が朝食を毎日食べています。

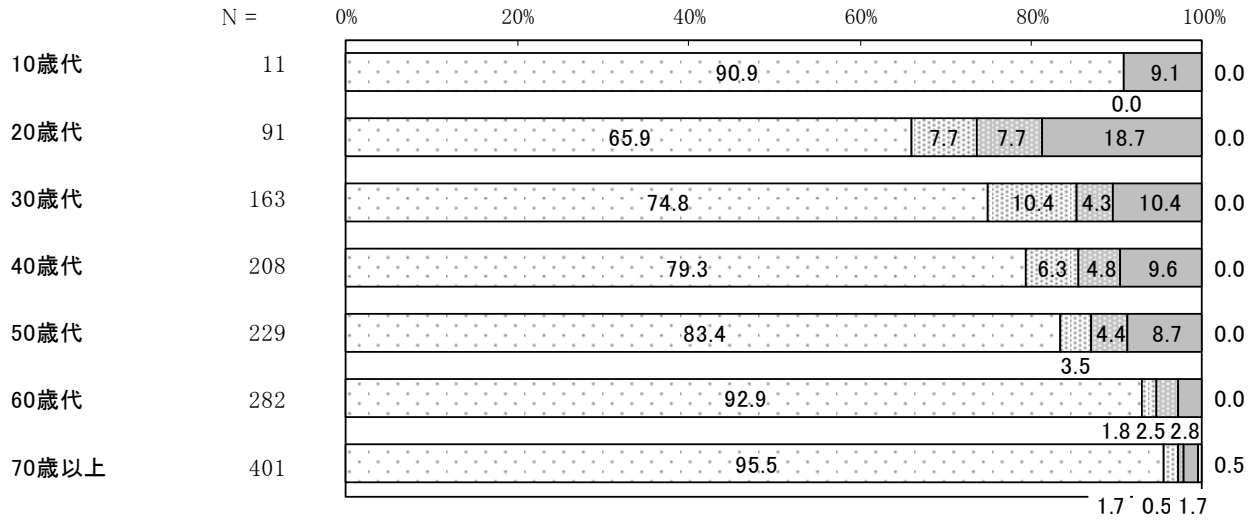


【性別】

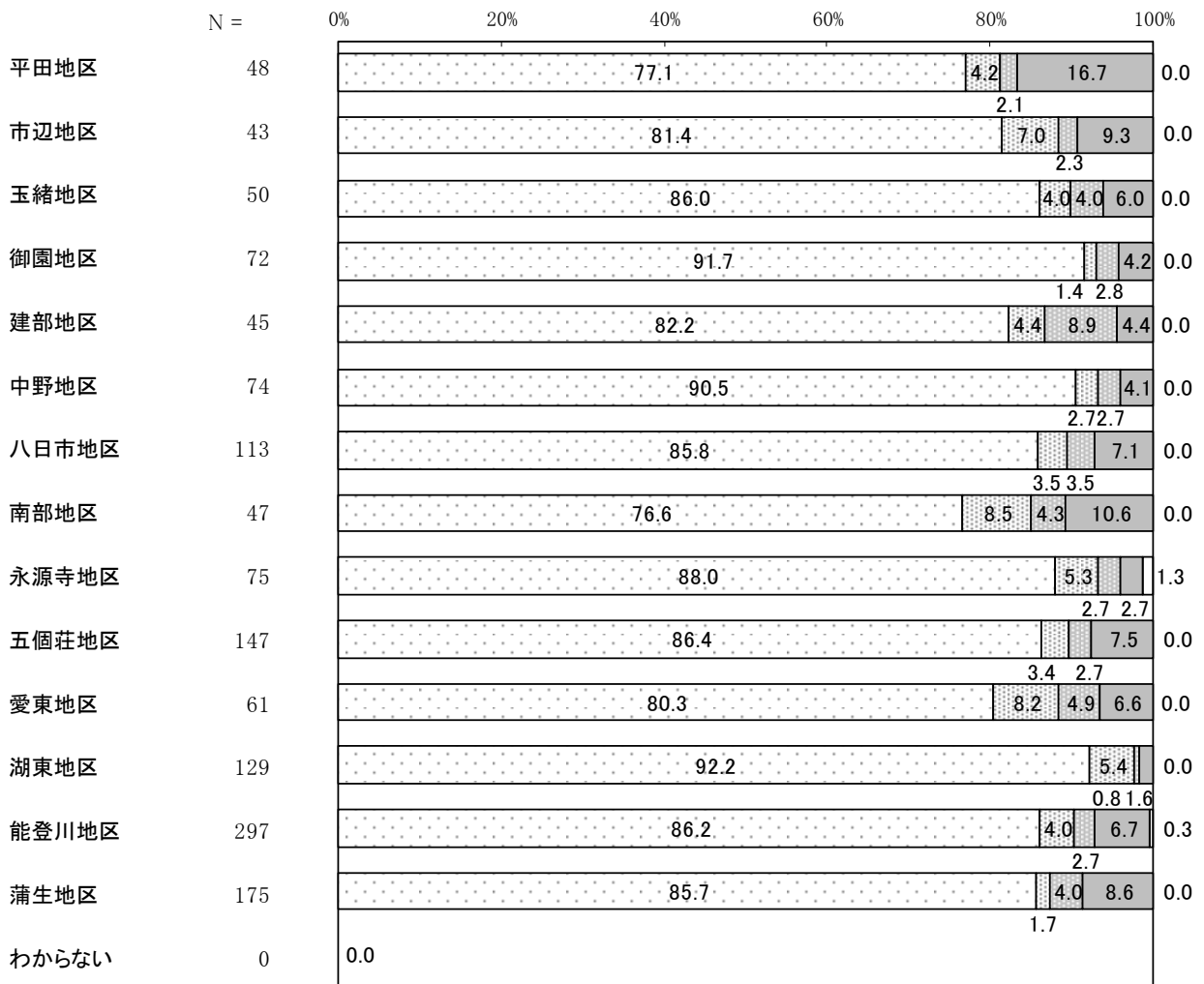


【年代別】

毎日食べる
 週4~5日食べる
 週2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答



【居住地区別】

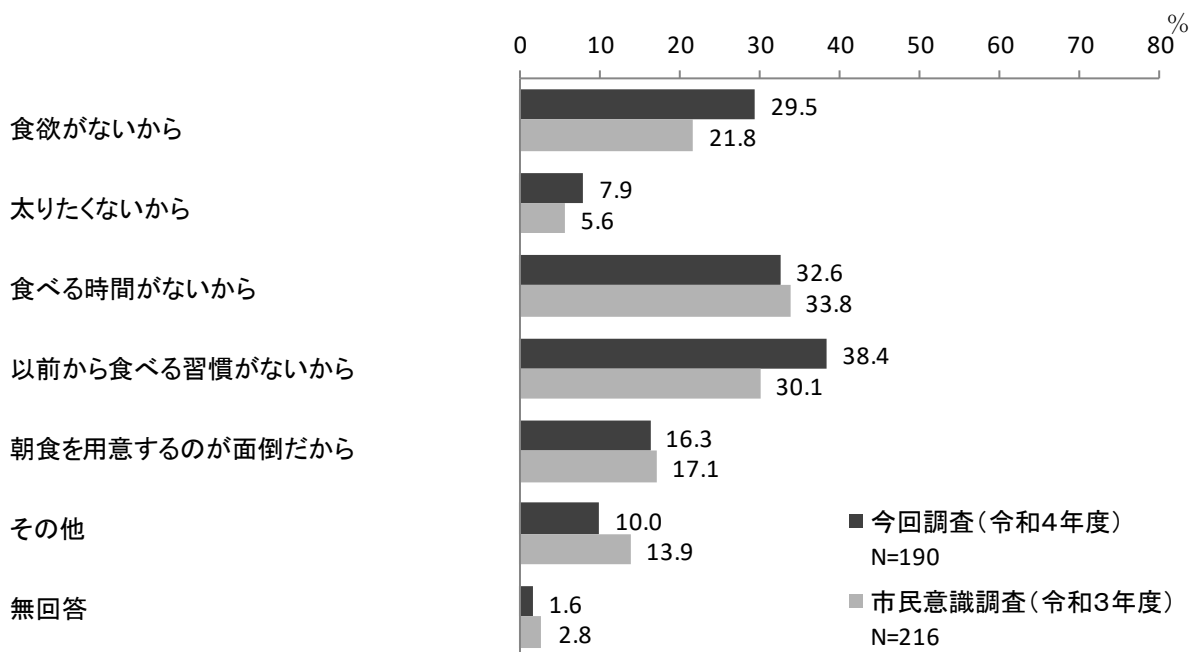


問 15-1 問 15 で「2. 週 4～5 日食べる」「3. 週 2～3 日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。

食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

朝食を食べない理由は、食べる習慣がない、時間がないなど

- ・ 朝食を食べない日がある方にその理由を聞いたところ、「以前から食べる習慣がないから」が 38.4%と最も多く、次いで「食べる時間がないから」が 32.6%、「食欲がないから」が 29.5%、「朝食を用意するのが面倒だから」が 16.3%と続きます。
- ・ 性別では、男性は「以前から食べる習慣がないから」が、女性は「食欲がないから」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、30 歳代以下の比較的若い世代は「食べる時間がないから」、40 歳以上は「以前から食べる習慣がないから」が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
男性	105	21.9	7.6	31.4	43.8	13.3	7.6	1.0
女性	83	39.8	8.4	34.9	31.3	18.1	13.3	2.4

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
10歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	31	35.5	3.2	51.6	22.6	25.8	12.9	0.0
30歳代	41	34.1	9.8	36.6	34.1	24.4	4.9	2.4
40歳代	43	23.3	14.0	30.2	46.5	9.3	11.6	0.0
50歳代	38	26.3	5.3	26.3	39.5	13.2	13.2	2.6
60歳代	20	25.0	5.0	20.0	45.0	15.0	15.0	5.0
70歳以上	16	37.5	6.3	18.8	50.0	6.3	0.0	0.0

【居住地区別】

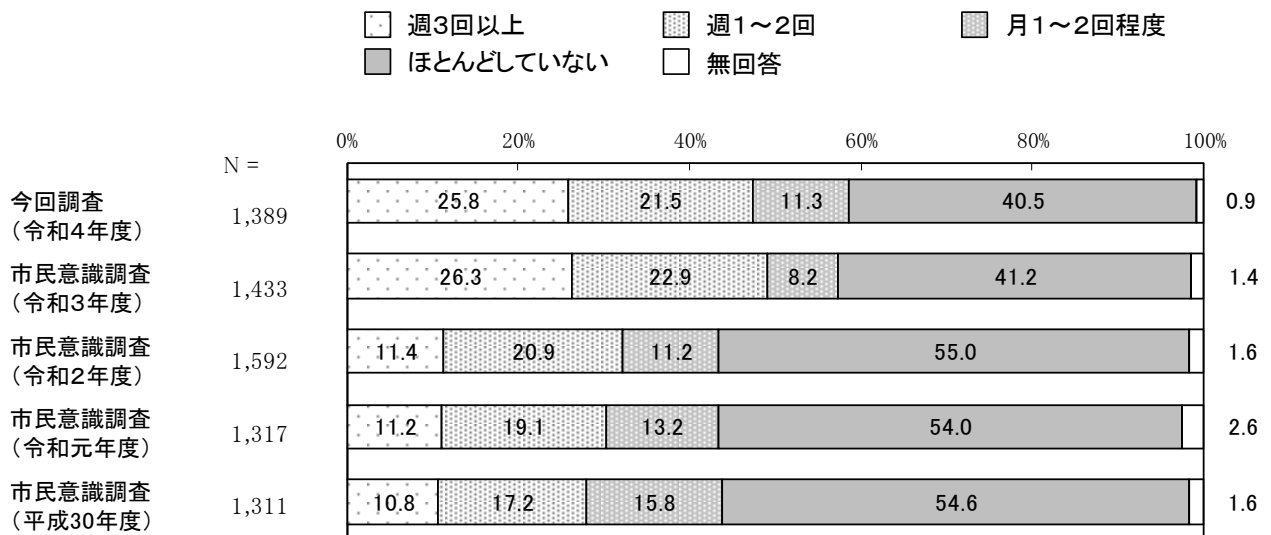
単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
平田地区	11	36.4	9.1	27.3	36.4	27.3	0.0	0.0
市辺地区	8	37.5	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0
玉緒地区	7	28.6	14.3	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0
御園地区	6	50.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0
建部地区	8	25.0	0.0	37.5	12.5	25.0	37.5	0.0
中野地区	7	42.9	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0
八日市地区	16	0.0	6.3	25.0	43.8	18.8	12.5	6.3
南部地区	11	36.4	27.3	27.3	36.4	0.0	0.0	0.0
永源寺地区	8	25.0	0.0	12.5	25.0	12.5	25.0	0.0
五個荘地区	20	30.0	10.0	45.0	30.0	25.0	10.0	0.0
愛東地区	12	58.3	8.3	16.7	50.0	16.7	8.3	0.0
湖東地区	10	10.0	10.0	20.0	50.0	10.0	10.0	20.0
能登川地区	40	27.5	7.5	40.0	35.0	22.5	15.0	0.0
蒲生地区	25	32.0	0.0	36.0	52.0	8.0	4.0	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-

問 16 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか（運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。）。《○1つ》

週1回以上運動している人は半数近く

- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が40.5%と最も多く、4割を占めています。次いで、「週3回以上」が25.8%、「週1～2回」が21.5%、「月1～2回程度」が11.3%と続きます。週1回以上運動をしている人は47.3%と半数近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、設問の内容を見直した昨年度以降、特に「週3回以上」が1割から3割近くに急増し、週1回以上運動をしている人の割合も3割から半数近くへ大きく増加しました。
- ・ 週1回以上運動をしている人の割合は、性別では男性で、年代別では10歳代と70歳以上で、居住地区別では南部地区で高くなっています。
- ・ 一方、スポーツやレクリエーション等の運動をほとんどしていない人は、年代別では20～30歳代、50歳代で半数近く、居住地区別では平田地区、五個荘地区で半数近くとなっています。



※令和2年度までは、設問の括弧書き(運動の定義)なし。

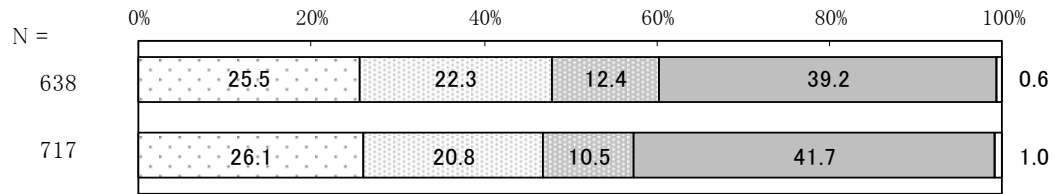
単位：%

	週1回以上運動をしている*	ほとんどしていない
①今回調査(令和4年度)	47.3	40.5
②市民意識調査(令和3年度)	49.2	41.2
③市民意識調査(令和2年度)	32.3	55.0
④市民意識調査(令和元年度)	30.3	54.0
⑤市民意識調査(平成30年度)	28.0	54.6
①－⑤	19.3	-14.1

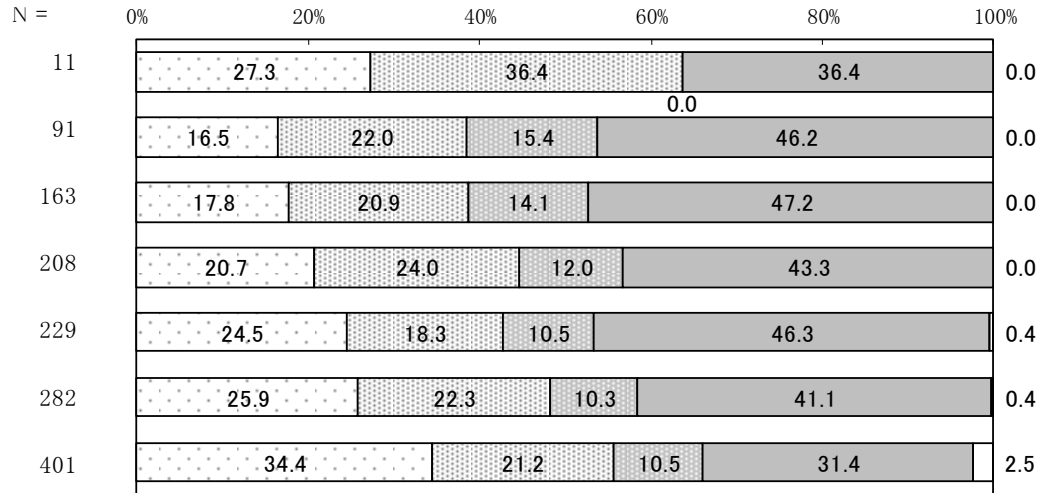
* 週1回以上運動をしている:「週3回以上」と「週1～2回」の合計

週3回以上 週1~2回 月1~2回程度
 ほとんどしていない 無回答

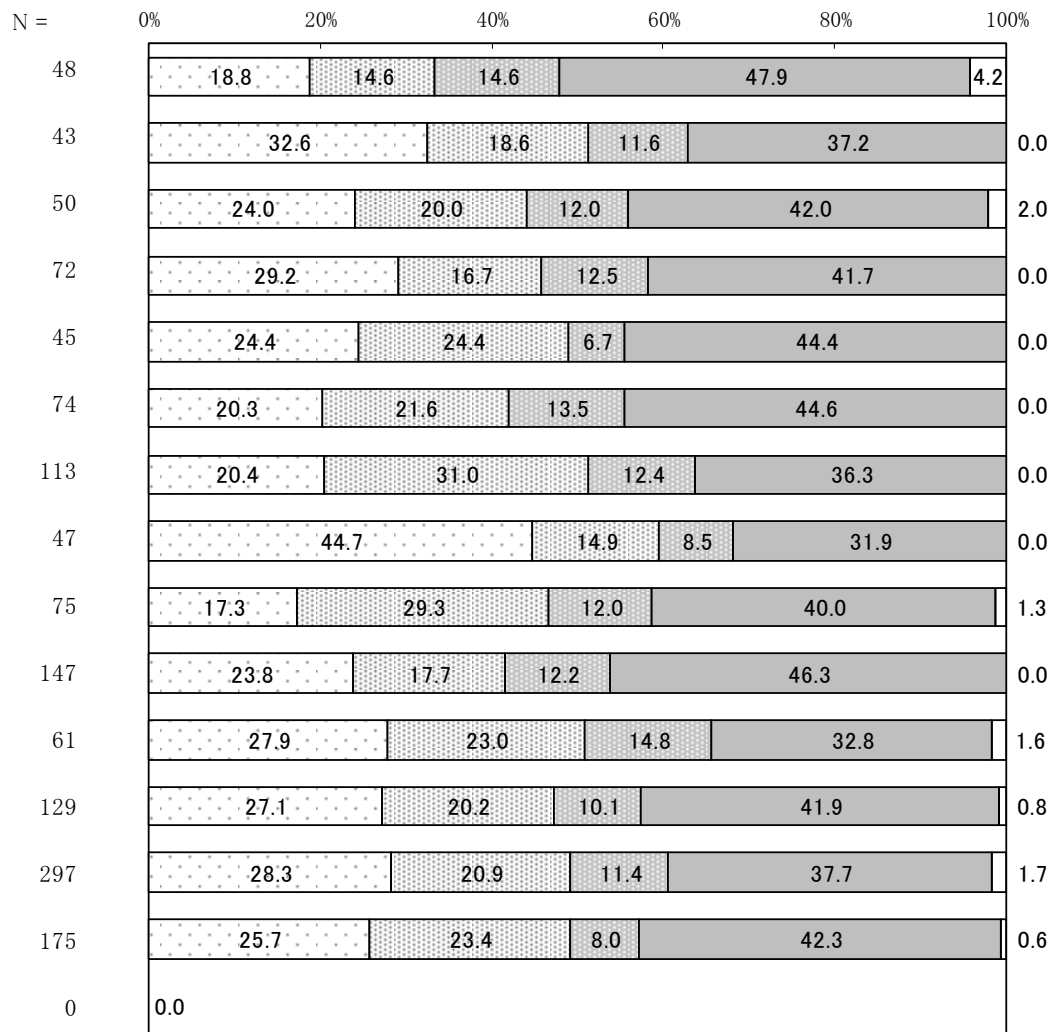
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

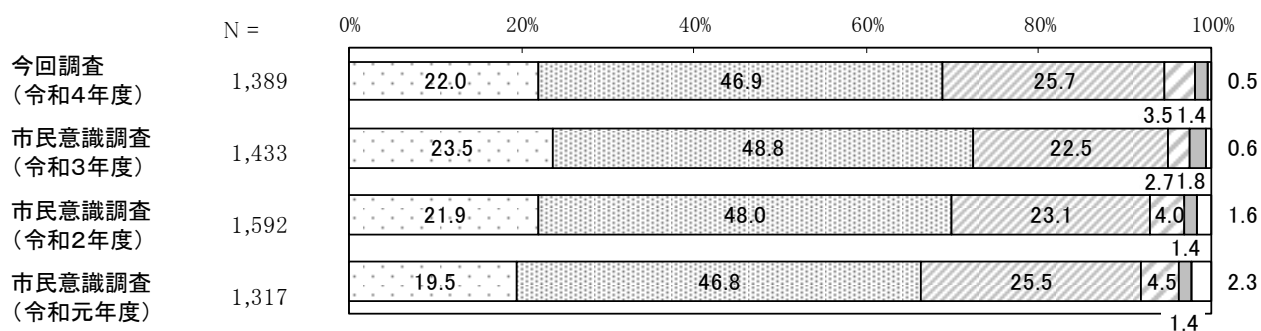


問 17 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

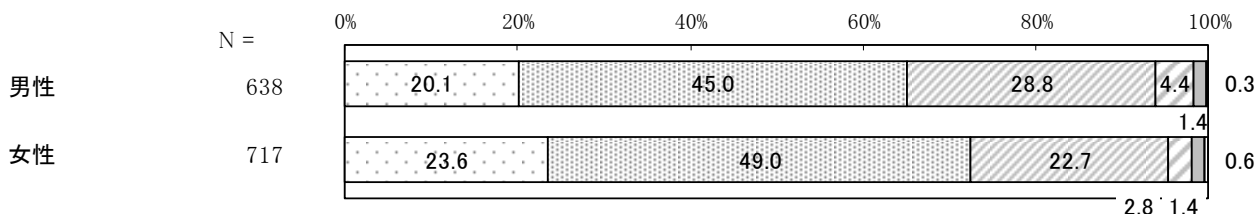
7割近くが不安、悩み、ストレスを感じている

- この1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じたかどうかについては、「大いにある」が22.0%、「多少ある」が46.9%で、合わせて68.9%と7割近くの人が不安、悩み、ストレスを感じたと回答しています。一方、「あまりない」と「まったくない」を合わせると29.2%で、3割近くの人が感じていないと回答しています。
- 過去の調査と比較すると、不安、悩み、ストレスを感じたと回答した人の割合は、年々増加傾向にありましたが、今年度はやや減少しています。
- 性別では、女性は7割以上が不安、悩み、ストレスを感じている（「大いにある」と「多少ある」の合計）と回答しており、男性よりも多くなっています。
- 年代別では、30～50歳代で不安、悩み、ストレスを感じている人（前述）が8割前後いるのに対し、60歳代で3割、10歳代、70歳以上で4割以上が感じていない（「あまりない」と「まったくない」の合計）と回答しています。
- 居住地区別では、御園地区、建部地区、平田地区で8割前後が不安、悩み、ストレスを感じている（前述）のに対し、永源寺地区、能登川地区で4割近くが感じていない（前述）と回答しています。

大いにある 多少ある あまりない
 まったくない わからない 無回答

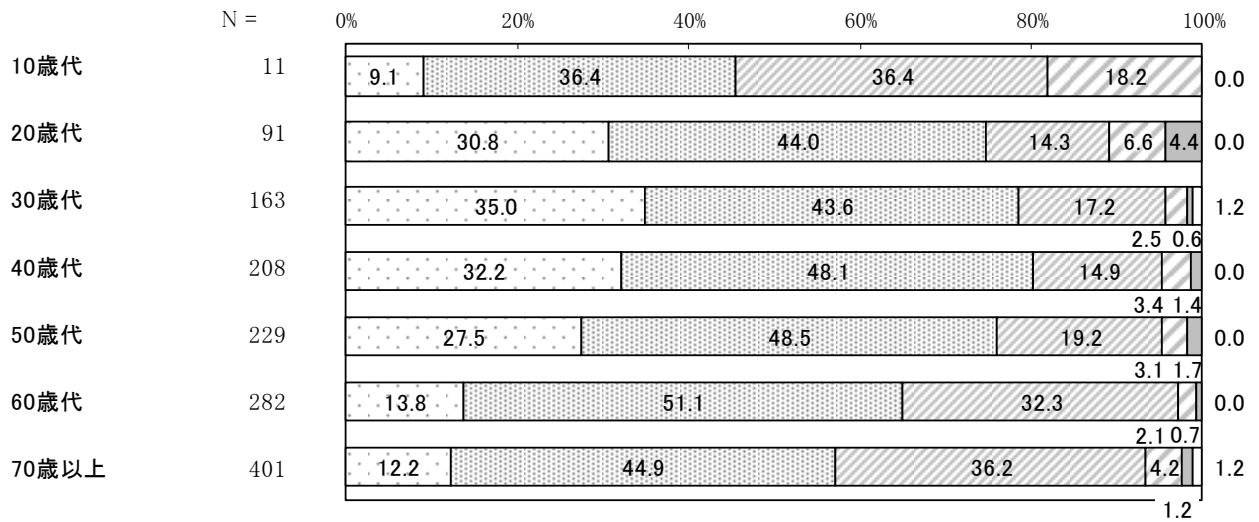


【性別】

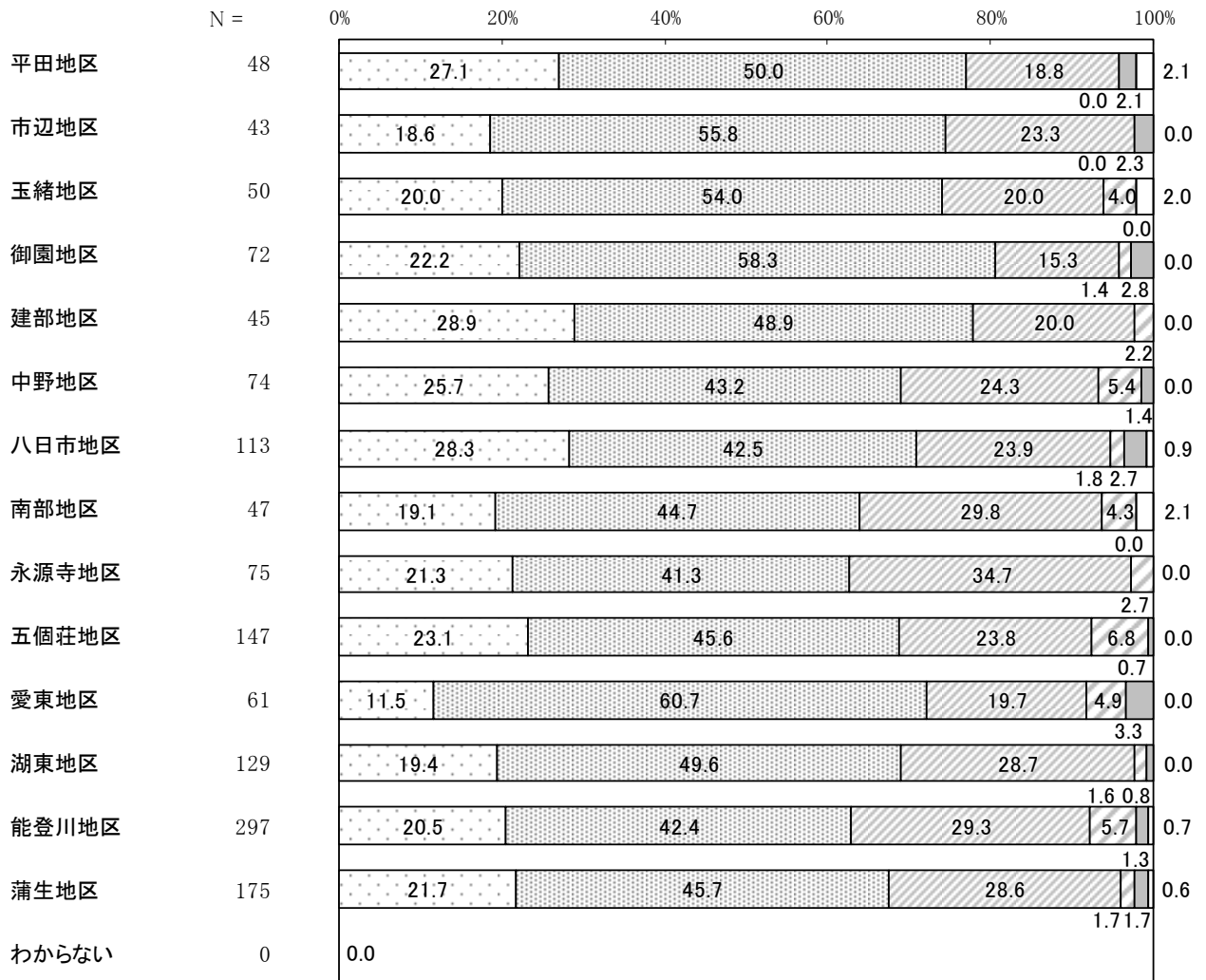


【年代別】

大いにある 多少ある あまりない
 まったくない わからない 無回答



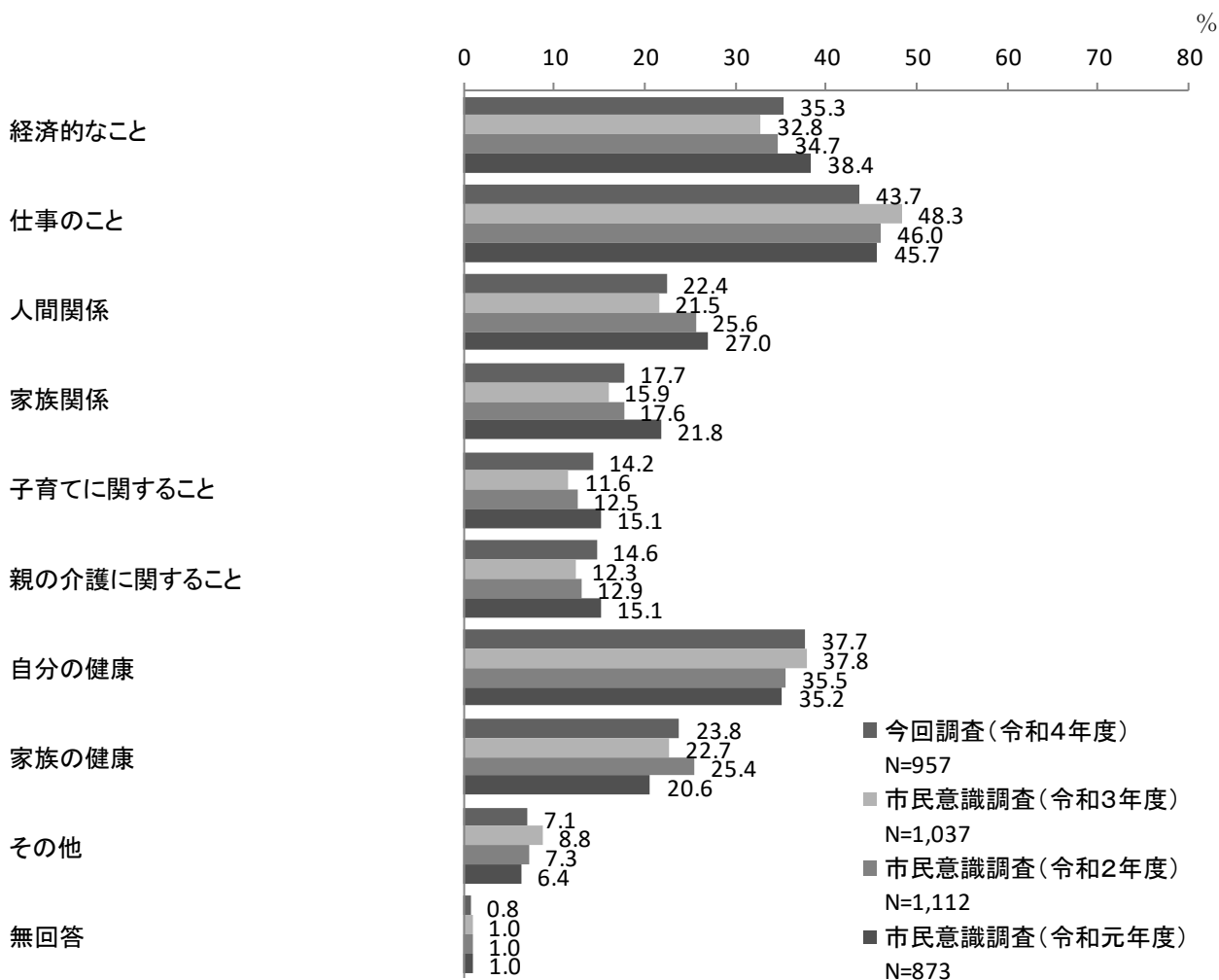
【居住地区別】



問 17-1 問 17 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。
 あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

4割が「仕事のこと」

- 不安、悩み、ストレスの原因としては、「仕事のこと」が43.7%と最も多く、4割となっています。次いで「自分の健康」が37.7%、「経済的なこと」が35.3%、「家族の健康」が23.8%、「人間関係」が22.4%、「家族関係」が17.7%と続きます。
- 過去の調査と比較すると、昨年度まで減少傾向にあった「経済的なこと」や「人間関係」、「家族関係」、「子育てに関すること」などが今年度は増加し、増加傾向にあった「仕事のこと」、「自分の健康」をあげる人の割合がやや減少しています。
- 性別では、男性は「仕事のこと」が、女性は「自分の健康」が最も多くなっています。また、男女ともに「経済的なこと」が次いで多くなっています。
- 年代別では、50歳代までは「仕事のこと」、60歳以上は「自分の健康」が最も多くあげられています。そのほか、20歳代で「人間関係」が、30～40歳代で「子育てに関すること」が、50～60歳代で「親の介護に関すること」がほかの年代より多くあげられており、それぞれのライフステージに応じた要因があることがうかがえます。
- 居住地区別では、平田地区、八日市地区、市辺地区は「経済的なこと」が、中野地区、永源寺地区、湖東地区は「自分の健康」が、そのほかの地区は「仕事のこと」が最も多くあげられています。また、永源寺地区は「自分の健康」と「家族の健康」が同率となっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
男性	415	36.4	58.6	22.9	14.2	9.6	12.8	36.1	24.1	4.8	0.5
女性	520	33.8	32.7	21.5	20.4	18.1	16.2	38.8	24.2	8.8	1.2

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
10歳代	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
20歳代	68	36.8	70.6	33.8	17.6	13.2	0.0	17.6	7.4	10.3	1.5
30歳代	128	42.2	65.6	29.7	21.9	36.7	7.8	27.3	15.6	4.7	0.8
40歳代	167	43.1	59.3	21.6	18.6	28.1	12.0	24.0	21.0	4.2	0.0
50歳代	174	37.4	56.9	21.3	19.0	10.3	32.8	30.5	24.7	9.2	0.6
60歳代	183	36.1	33.9	18.6	16.4	4.4	23.5	47.5	23.0	7.7	0.5
70歳以上	229	24.0	10.0	19.2	14.8	2.6	3.5	58.1	36.2	7.0	1.3

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
平田地区	37	48.6	43.2	24.3	35.1	18.9	18.9	32.4	35.1	2.7	0.0
市辺地区	32	46.9	28.1	18.8	18.8	18.8	18.8	31.3	21.9	9.4	0.0
玉緒地区	37	29.7	37.8	29.7	16.2	10.8	8.1	32.4	24.3	5.4	5.4
御園地区	58	29.3	51.7	27.6	19.0	12.1	22.4	46.6	20.7	6.9	0.0
建部地区	35	25.7	48.6	11.4	22.9	0.0	25.7	40.0	20.0	17.1	0.0
中野地区	51	27.5	37.3	15.7	15.7	21.6	5.9	47.1	27.5	3.9	0.0
八日市地区	80	47.5	46.3	17.5	15.0	17.5	17.5	32.5	22.5	5.0	1.3
南部地区	30	16.7	50.0	30.0	6.7	10.0	3.3	46.7	20.0	3.3	0.0
永源寺地区	47	36.2	36.2	38.3	19.1	12.8	8.5	42.6	42.6	6.4	0.0
五個荘地区	101	38.6	44.6	22.8	14.9	11.9	10.9	40.6	21.8	5.9	1.0
愛東地区	44	27.3	40.9	22.7	15.9	9.1	11.4	36.4	13.6	2.3	2.3
湖東地区	89	32.6	36.0	11.2	18.0	12.4	24.7	39.3	27.0	6.7	3.4
能登川地区	187	38.0	51.9	23.5	18.2	12.8	11.8	39.6	22.5	7.0	0.0
蒲生地区	118	31.4	39.8	23.7	14.4	18.6	16.1	29.7	22.9	13.6	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 18 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

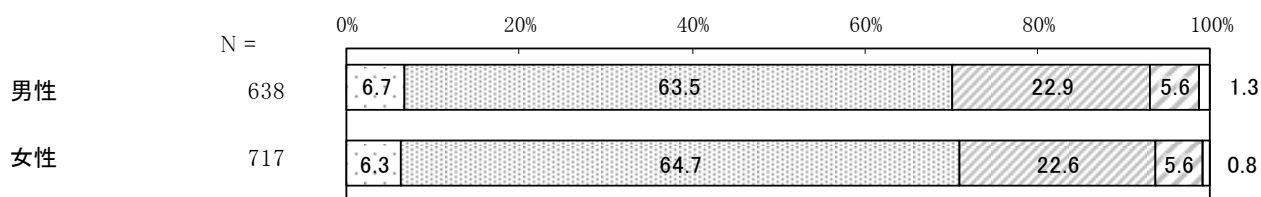
7割が、不安や悩み、ストレスの解消はできている

- 不安や悩み、ストレスが解消できているかどうかについては、「うまくできている」が6.6%、「ある程度できている」が63.9%で、これらを合わせると70.5%となり、7割の人が解消できていると回答しています。一方、「あまりできていない」と「まったくできていない」を合わせると28.5%で、3割近くの人ができていないと回答しています。
- 年代別では、10～20歳代と60歳以上で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（「うまくできている」と「ある程度できている」の合計）と回答しているのに対し、30～50歳代は3割以上ができていない（「あまりできていない」と「まったくできていない」の合計）と回答しています。
- 居住地区別では、南部地区、愛東地区、能登川地区、玉緒地区、御園地区、中野地区で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（前述）と回答しているのに対し、特に建部地区で4割以上の方ができていない（前述）と回答しています。

うまくできている ある程度できている あまりできていない
 まったくできていない 無回答

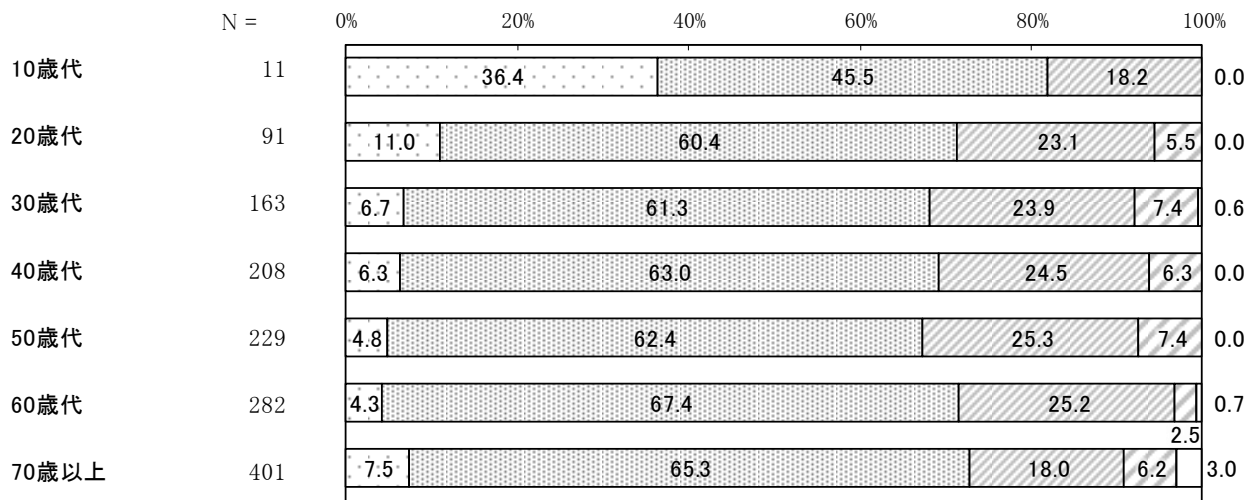


【性別】

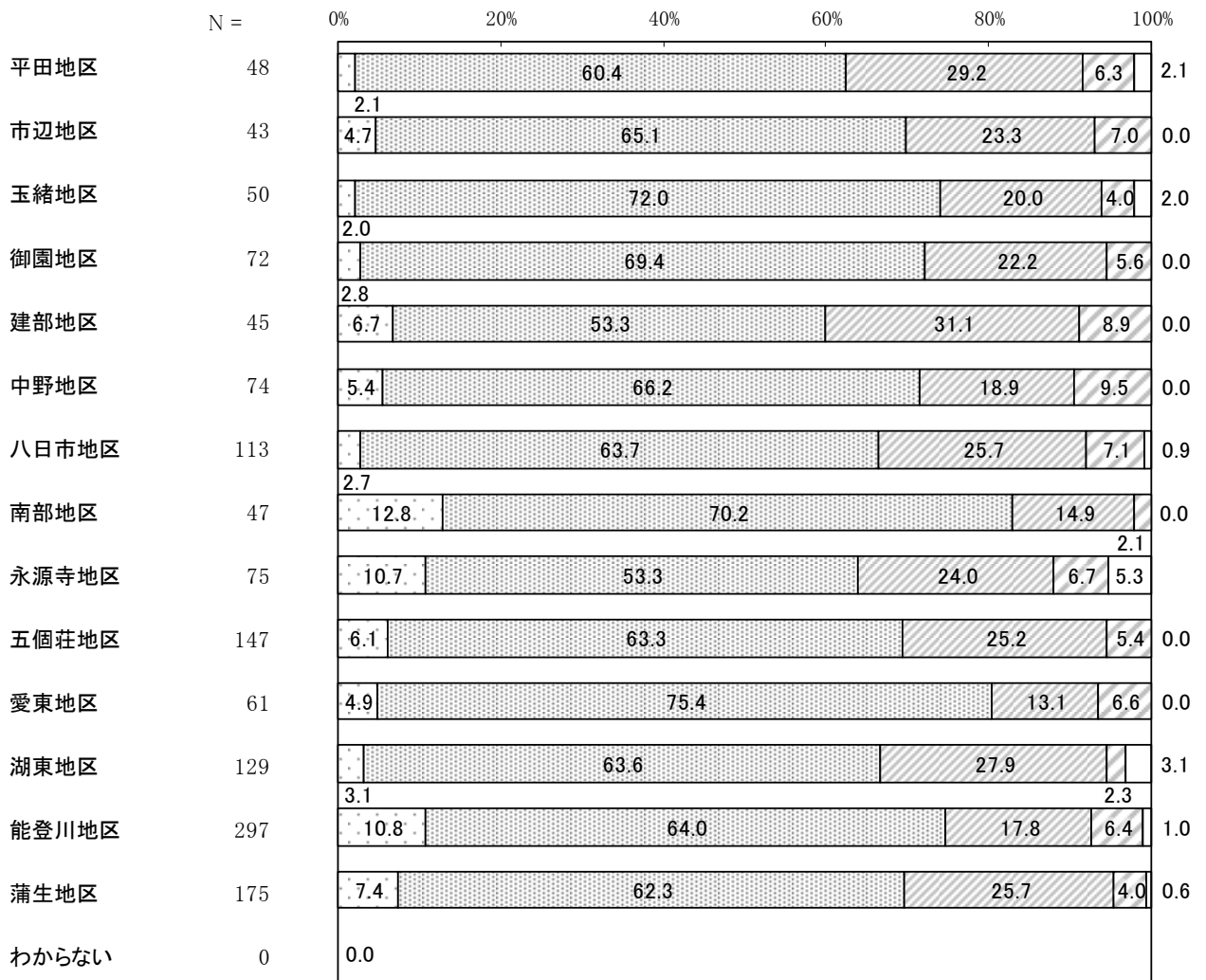


【年代別】

うまくできている
 ある程度できている
 あまりできていない
 まったくできていない
 無回答



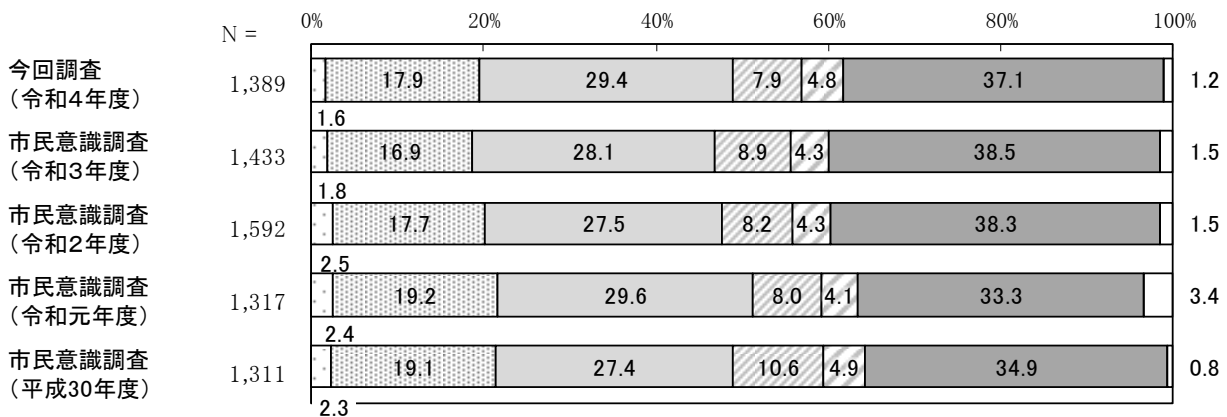
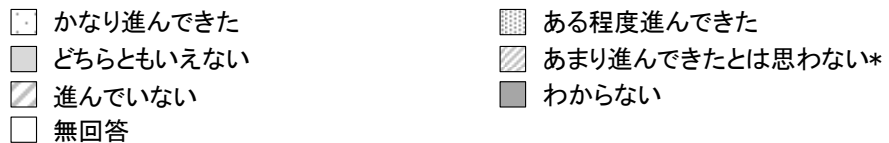
【居住地区別】



問 19 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

「わからない」が4割近く

- 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が1.6%、「ある程度進んできた」が17.9%で、これらを合わせると19.5%となり、2割近くの人が進んできたと回答しています。一方、「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」を合わせると12.7%となっています。なお、「わからない」と回答した人が37.1%となっています。
- 過去の調査と比較すると、理解が進んできたと思う人（「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計）が今年度はやや増加し、理解が進んでいないと思う人（「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計）と、「わからない」人は今年度はやや減少しています。
- 年代別では70歳以上で、居住地区別では湖東地区、市辺地区、南部地区、永源寺地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）が多く見られます。
- 一方、年代別では40～50歳代で、居住地区別では蒲生地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）より進んでいないと思う人（前述）が多く見られます。



*平成30年度は、「あまり進んでいるとは思わない」

単位：%

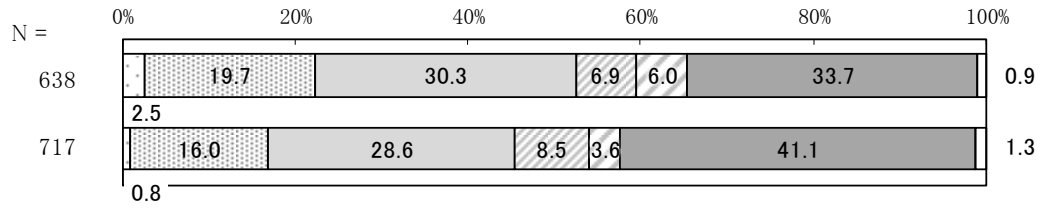
	進んできた*	進んでいない*	差
①今回調査(令和4年度)	19.5	12.7	6.8
②市民意識調査(令和3年度)	18.7	13.2	5.5
③市民意識調査(令和2年度)	20.2	12.5	7.7
④市民意識調査(令和元年度)	21.6	12.1	9.5
⑤市民意識調査(平成30年度)	21.4	15.5	5.9
①-⑤	-1.9	-2.8	0.9

*進んできた:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

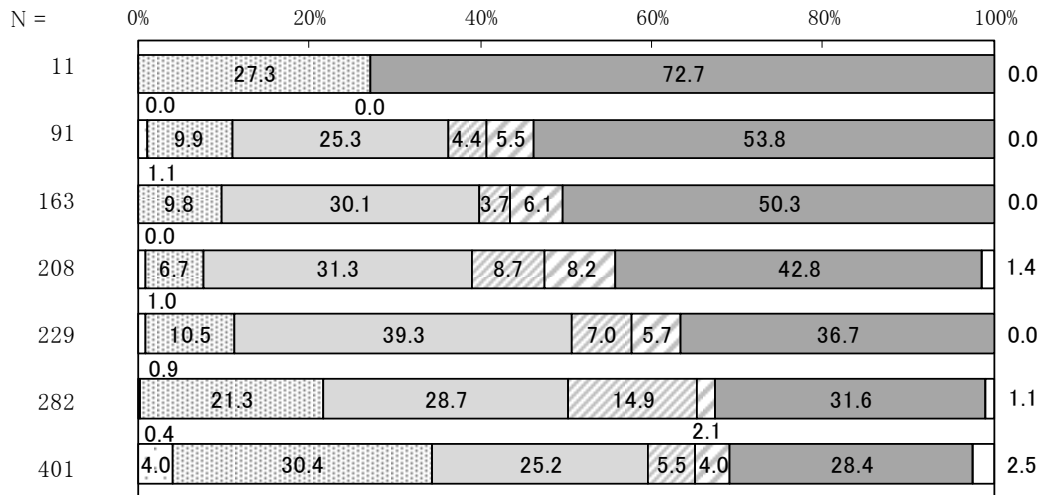
*進んでいない:「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計



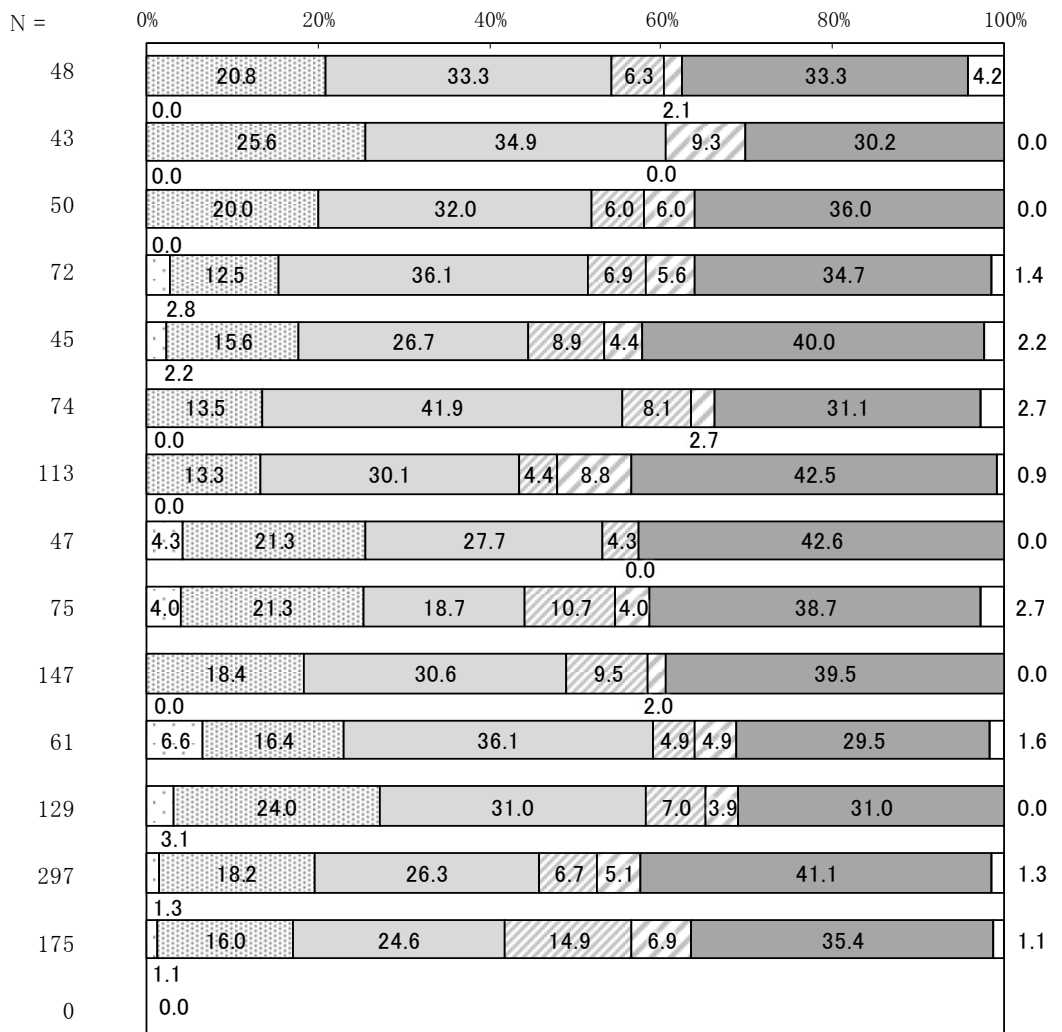
【性別】



【年代別】



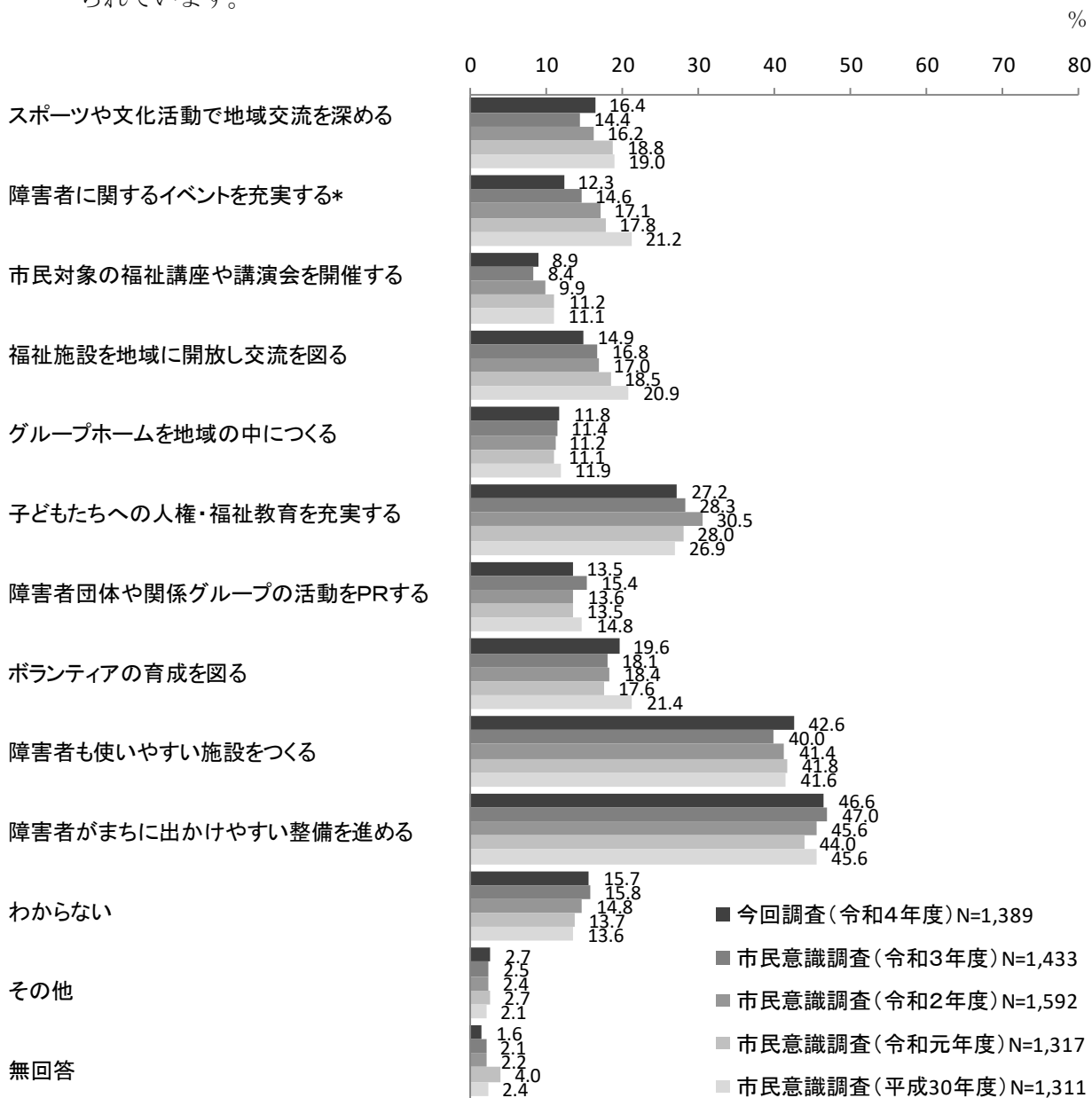
【居住地区別】



問 20 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が46.6%と最も多く、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が42.6%と、「バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。
- ・ そのほか、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が27.2%、「ボランティアの育成を図る」が19.6%、「スポーツや文化活動で地域交流を深める」が16.4%、「福祉施設を地域に開放し交流を図る」が14.9%、「障害者団体や関係グループの活動をPRする」が13.5%など、交流や支え合い等を通じたノーマライゼーションの実現をあげる人も多く見られます。
- ・ 年代別では、10～20歳代で「障害者も使いやすい施設をつくる」が、そのほかの年代で「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多く、30歳代は両回答が同率で多くなっています。また、30歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」がほかの年代より多くあげられています。



*令和3年度まで「ふれあいの集い」などのイベントを充実する

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	638	18.0	11.8	10.5	15.0	12.1	25.5	13.5	18.7	38.7	44.2	16.9	3.3	0.9
女性	717	14.9	12.7	7.5	14.5	11.3	28.3	13.2	19.8	46.0	48.4	14.9	2.4	1.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	11	36.4	18.2	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	81.8	27.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	91	14.3	13.2	12.1	11.0	7.7	37.4	12.1	15.4	51.6	41.8	19.8	2.2	0.0
30歳代	163	11.0	9.8	6.7	13.5	9.8	44.8	9.2	11.7	52.1	52.1	14.7	3.7	0.0
40歳代	208	14.9	13.9	4.8	16.3	7.2	33.2	14.4	21.6	43.8	49.0	13.0	4.3	1.0
50歳代	229	21.0	11.8	7.4	13.1	12.2	20.5	13.1	20.5	41.9	47.6	14.8	4.8	0.4
60歳代	282	14.5	13.5	12.1	12.8	12.4	25.2	14.2	22.0	40.8	51.1	13.8	2.8	1.1
70歳以上	401	18.2	11.7	10.2	18.7	15.2	20.4	15.0	20.4	37.2	40.9	18.7	0.5	4.0

【居住地区別】

単位:%

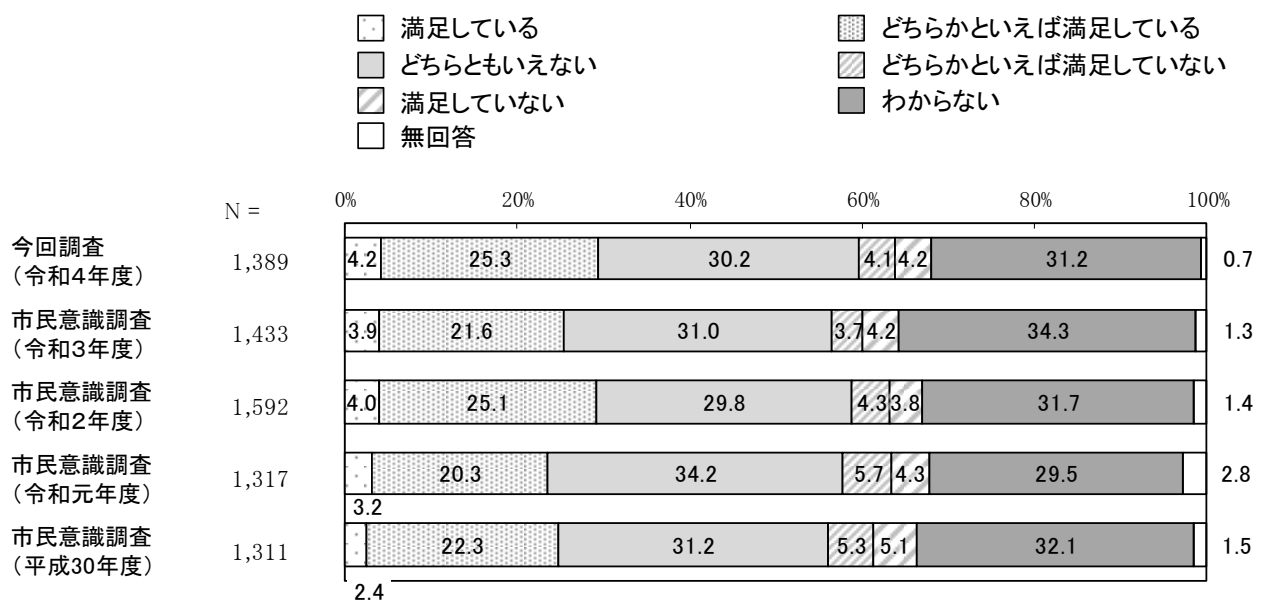
区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	障害者に関するイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけるための整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	48	23.7	23.7	10.5	23.7	13.2	39.5	26.3	36.8	42.1	47.4	10.5	0.0	2.6
市辺地区	43	24.6	17.5	15.8	26.3	10.5	21.1	19.3	12.3	28.1	50.9	17.5	5.3	1.8
玉緒地区	50	9.2	12.3	7.7	10.8	12.3	21.5	15.4	21.5	32.3	40.0	21.5	0.0	4.6
御園地区	72	19.3	19.3	8.4	18.1	12.0	28.9	18.1	16.9	43.4	50.6	19.3	2.4	6.0
建部地区	45	16.1	12.9	16.1	25.8	12.9	58.1	22.6	25.8	54.8	61.3	9.7	3.2	0.0
中野地区	74	8.1	15.1	5.8	22.1	7.0	25.6	15.1	16.3	38.4	32.6	15.1	1.2	2.3
八日市地区	113	7.4	9.8	4.3	13.5	9.8	27.6	15.3	16.0	41.1	49.7	19.0	3.7	1.8
南部地区	47	8.2	11.5	1.6	14.8	9.8	32.8	14.8	23.0	45.9	47.5	16.4	9.8	1.6
永源寺地区	75	22.0	15.3	5.1	18.6	15.3	35.6	11.9	18.6	33.9	47.5	11.9	0.0	0.0
五個荘地区	147	16.1	16.1	7.3	14.6	10.2	28.5	16.1	20.4	35.0	45.3	19.7	1.5	2.9
愛東地区	61	17.0	13.2	5.7	13.2	13.2	20.8	11.3	7.5	30.2	41.5	11.3	0.0	1.9
湖東地区	129	16.5	19.6	11.3	21.6	15.5	27.8	18.6	17.5	43.3	45.4	10.3	3.1	1.0
能登川地区	297	14.7	12.9	10.5	17.1	12.9	28.4	14.1	16.8	42.2	49.1	13.8	2.4	1.5
蒲生地区	175	15.9	14.5	10.1	13.0	9.4	23.2	11.6	18.1	43.5	49.3	16.7	1.4	2.2
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 環境や暮らしについて

問 21 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

3割近くが満足、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「わからない」が31.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が30.2%、これらを合わせると61.4%となっています。
- ・ 「満足している」が4.2%、「どちらかといえば満足している」が25.3%、これらを合わせると29.5%となり、3割近くの人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると8.3%で、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合は、2～3割で推移しています。
- ・ 年代別では、満足（前述）の割合が、10歳代、30～40歳代、70歳以上で高くなっています。また、10～20歳代で「わからない」の割合が半数近くと高くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、中野地区、建部地区、能登川地区、市辺地区、湖東地区で満足（前述）の割合が高く、南部地区、玉緒地区で不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合がやや高くなっています。南部地区は、満足（前述）と不満（前述）の割合がほとんど同率となっています。

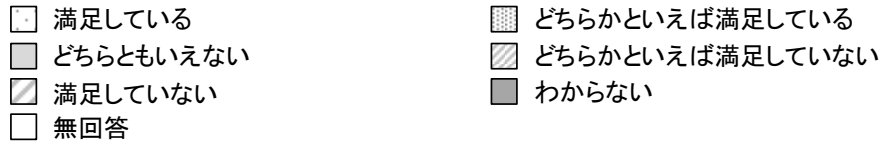


単位：%

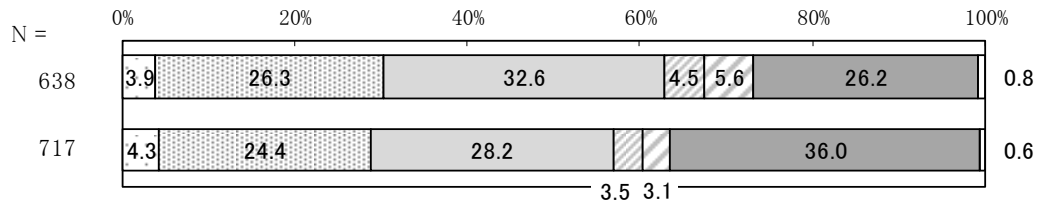
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和4年度)	29.5	8.3	21.2
②市民意識調査(令和3年度)	25.5	7.9	17.6
③市民意識調査(令和2年度)	29.1	8.1	21.0
④市民意識調査(令和元年度)	23.5	10.0	13.5
⑤市民意識調査(平成30年度)	24.7	10.4	14.3
①-⑤	4.8	-2.1	6.9

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

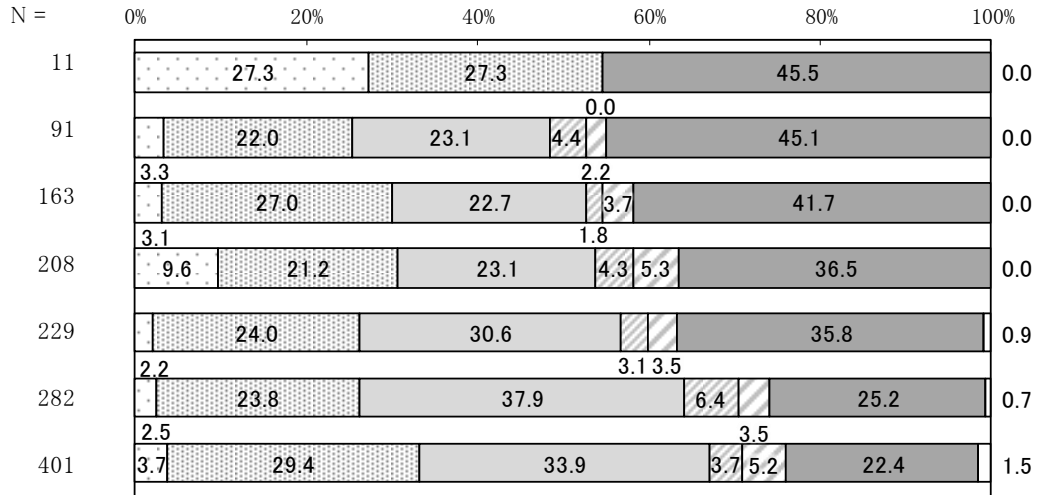
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



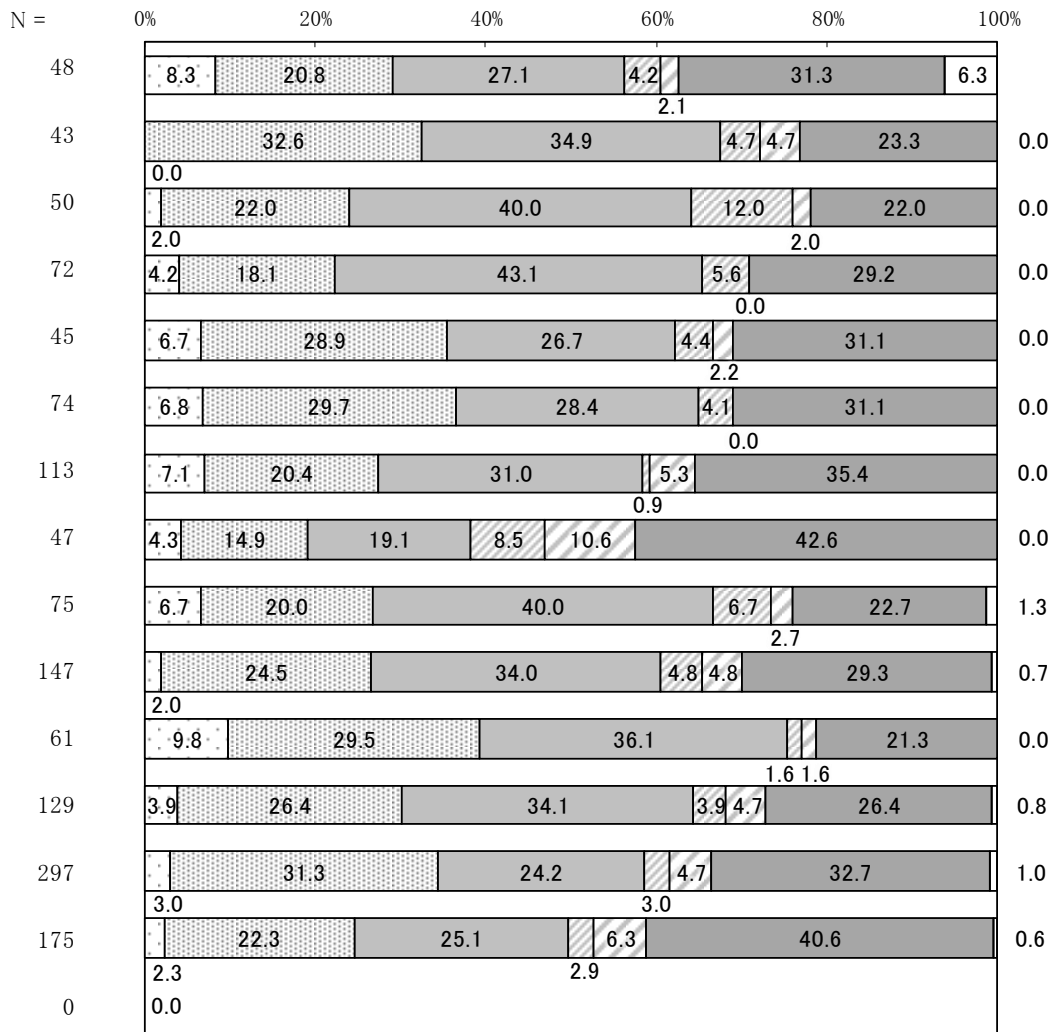
【性別】



【年代別】



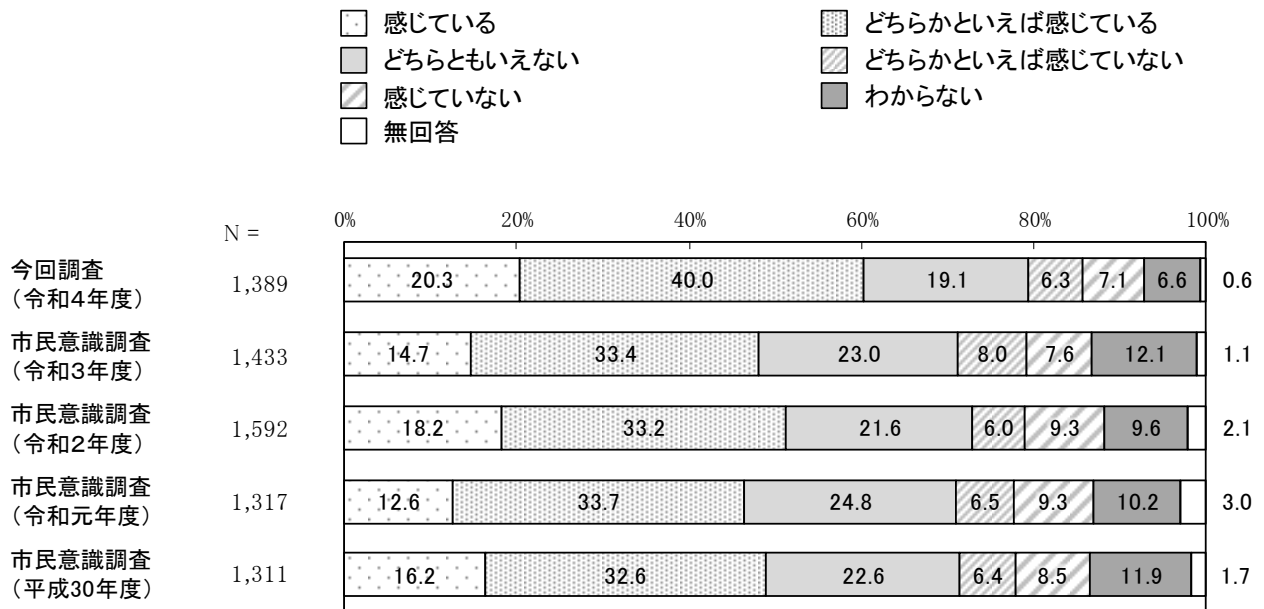
【居住地区別】



問 22 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然との関わりを感じていますか。《○1つ》

6割が自然との関わりを感じている

- ・ 日々の営みの中で自然との関わりを感じているかについては、「感じている」が20.3%、「どちらかといえば感じている」が40.0%で、これらを合わせると60.3%となり、6割の人が自然との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると13.4%となっています。また、「どちらともいえない」が19.1%、「わからない」が6.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、自然との関わりを感じている人（「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計）の割合が、1割以上増加しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10歳代、60歳以上で、居住地区別では愛東地区、永源寺地区、湖東地区で、自然との関わりを感じている人（前述）が多く見られます。



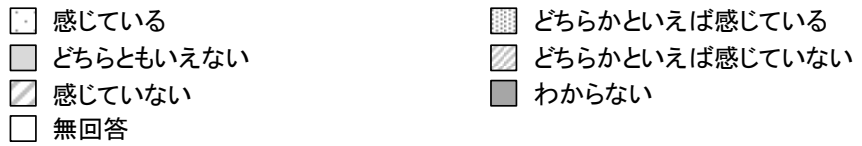
※令和3年度までは「自然環境との関わりを感じていますか」

単位：%

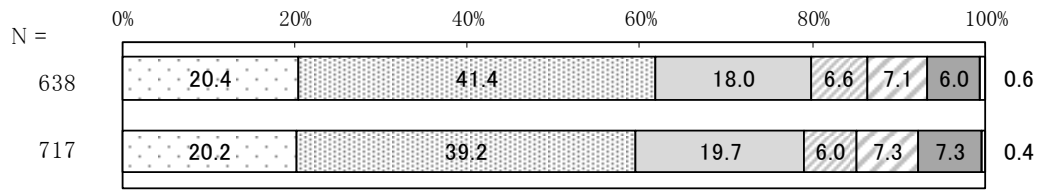
	感じている*	感じていない*	差
①今回調査(令和4年度)	60.3	13.4	46.9
②市民意識調査(令和3年度)	48.1	15.6	32.5
③市民意識調査(令和2年度)	51.4	15.3	36.1
④市民意識調査(令和元年度)	46.3	15.8	30.5
⑤市民意識調査(平成30年度)	48.8	14.9	33.9
①-⑤	11.5	-1.5	13.0

* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計

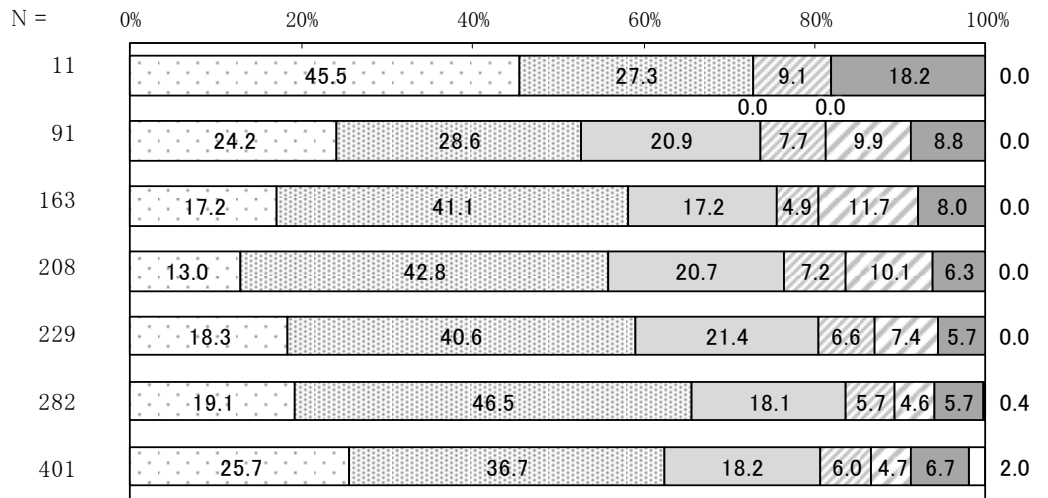
* 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計



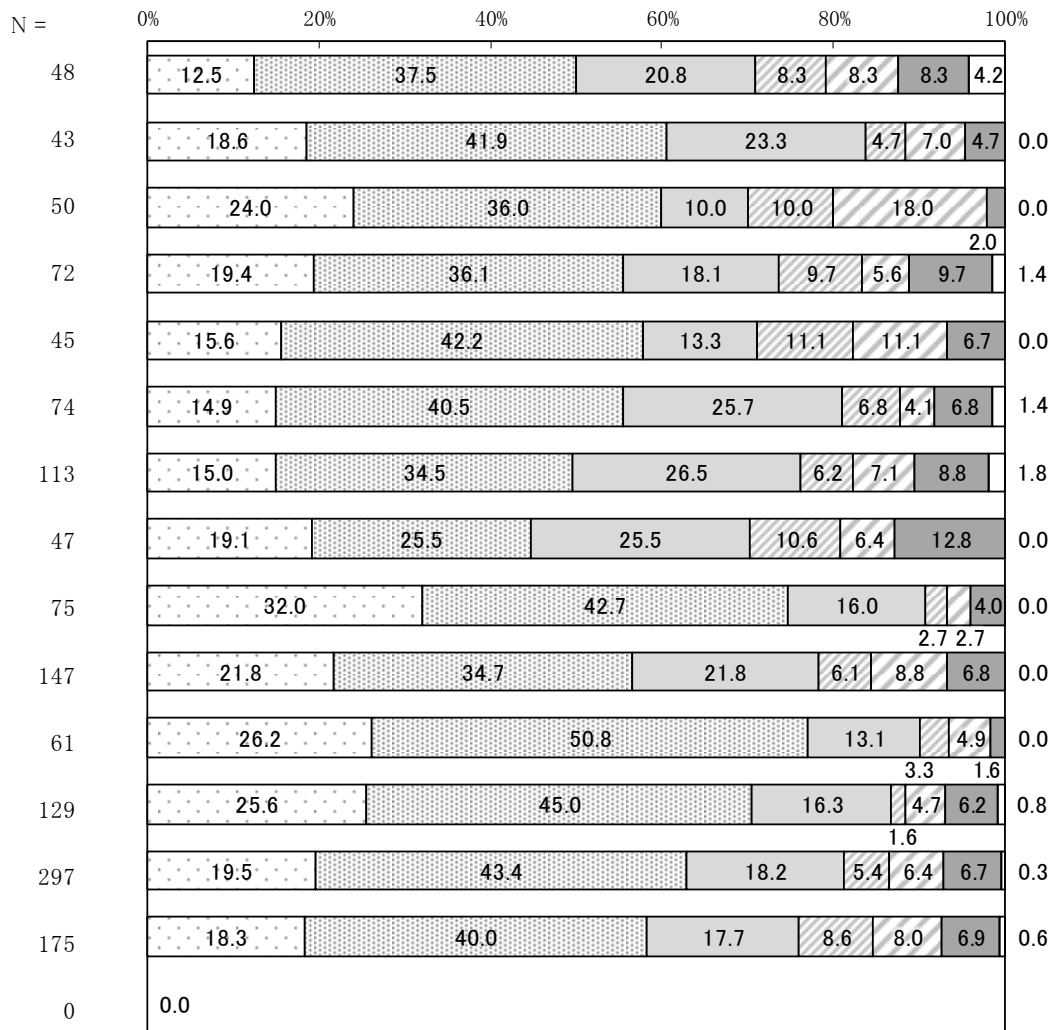
【性別】



【年代別】



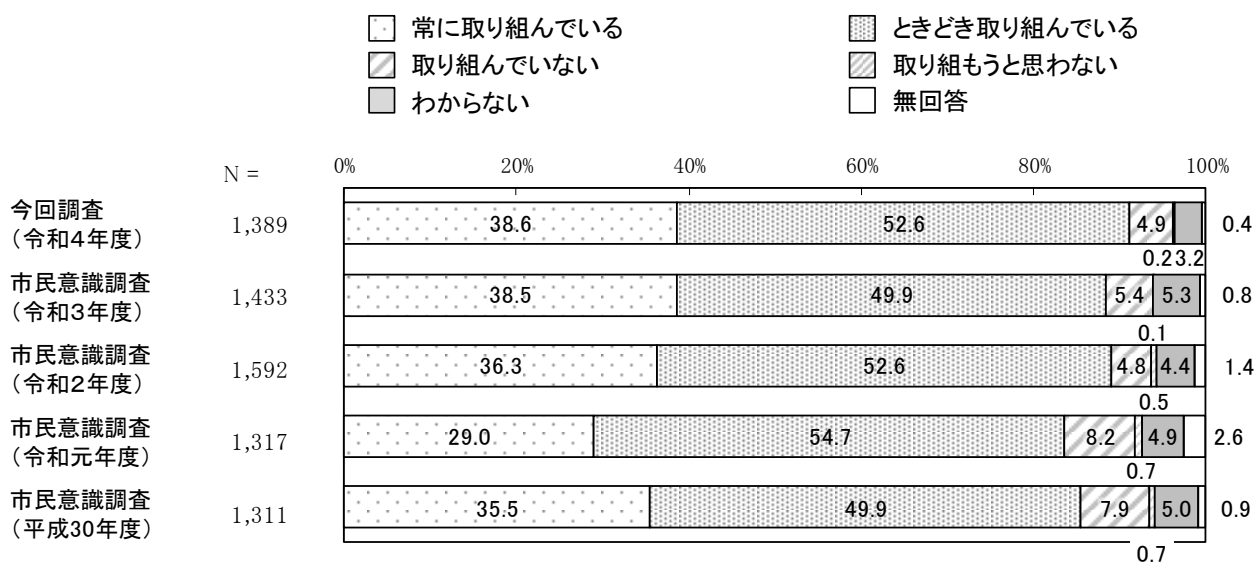
【居住地区別】



問 23 あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバツクの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

9割が環境にやさしい取組を行っている

- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が38.6%、「ときどき取り組んでいる」が52.6%で、これらを合わせると91.2%となり、9割以上の方が取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は4.9%、「取り組もうと思わない」は0.2%とわずかでした。
- ・ 過去の調査と比較すると、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」と回答した人の割合は、令和2年度以降増加しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では70歳以上で、居住地区別では玉緒地区、五個荘地区、蒲生地区、湖東地区で、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」人が多く見られます。



単位：%

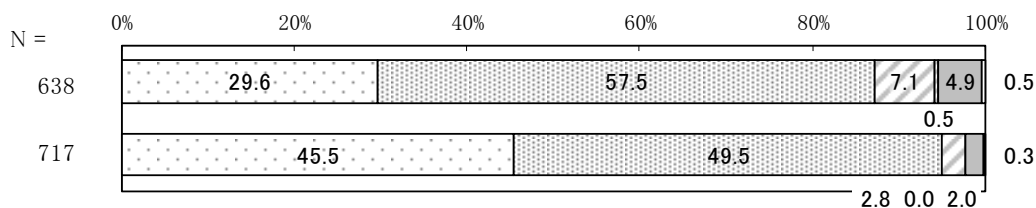
	取り組んでいる*	取り組んでいない*	差
①今回調査(令和4年度)	91.2	5.1	86.1
②市民意識調査(令和3年度)	88.4	5.5	82.9
③市民意識調査(令和2年度)	88.9	5.3	83.6
④市民意識調査(令和元年度)	83.7	8.9	74.8
⑤市民意識調査(平成30年度)	85.4	8.6	76.8
①-⑤	5.8	-3.5	9.3

* 取り組んでいる:「常に取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計

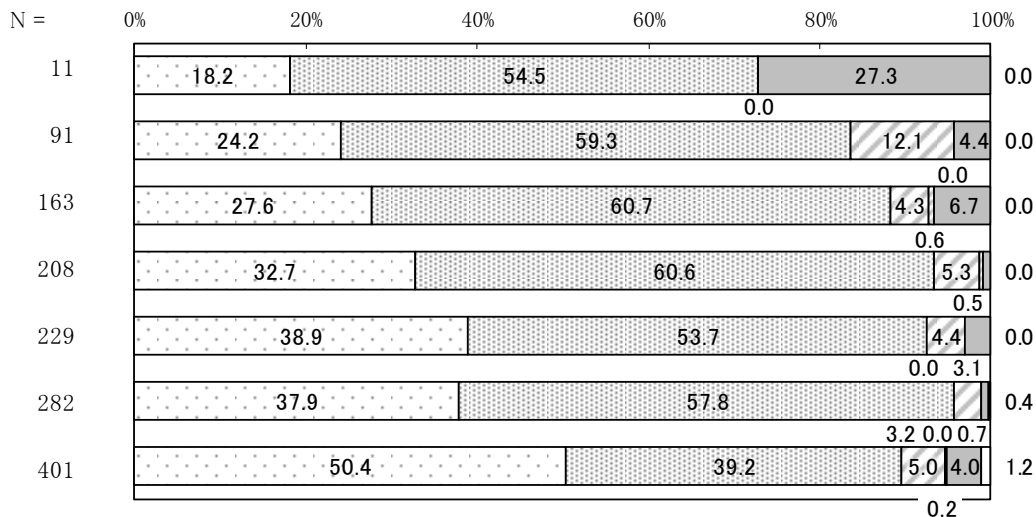
* 取り組んでいない:「取り組んでいない」と「取り組もうと思わない」の合計



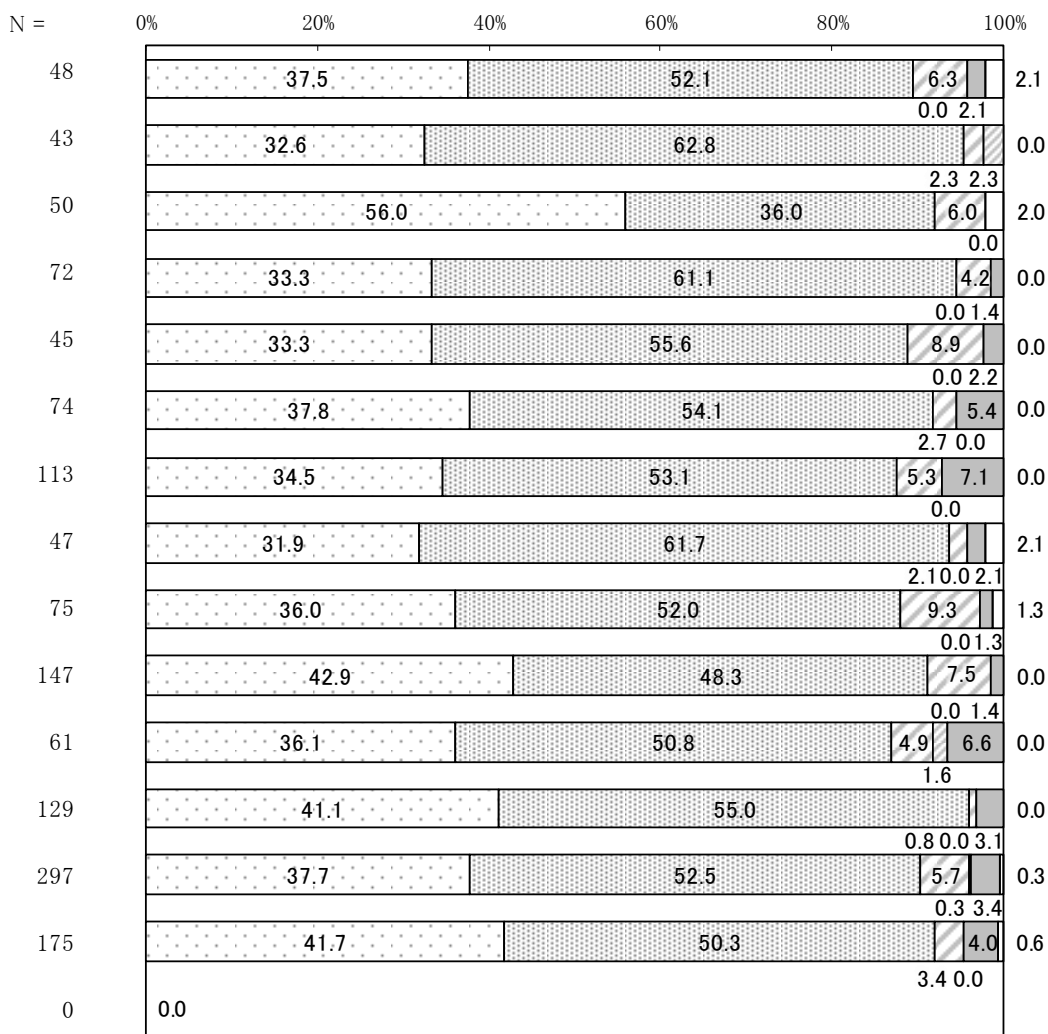
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

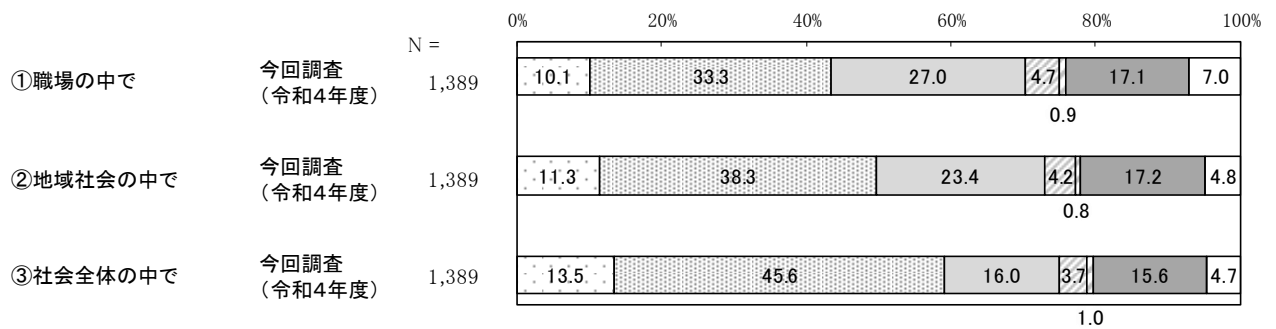


問 24 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

職場の中では4割、地域社会の中では半数近く、社会全体の中では6割近くが男性が優遇されているとの評価

・ 男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が①職場の中では4割（43.4%）、②地域社会の中では半数近く（49.6%）、③社会全体の中では6割近く（59.1%）といずれも高くなっています。「平等である」の割合は、①職場の中では3割近く（27.0%）、②地域社会の中では2割（23.4%）、③社会全体の中では2割近く（16.0%）と一定数見られる一方、女性が優遇されている（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）の割合は、いずれも1割未満と非常に低くなっています。

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



①職場の中で

- ・ 性別では、男性が優遇されている（前述）の割合は女性、男性、ともに4割と同程度となっています。男性は、「平等である」と、女性が優遇されている（前述）の割合が女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代で「平等である」が、そのほかの年代で、男性が優遇されている（前述）の割合が最も高くなっています。男性が優遇されている（前述）の割合は60歳代で最も高く6割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で男性が優遇されている（前述）の割合が最も高く、特に玉緒地区、市辺地区では6割近くとなっています。また、中野地区、愛東地区、能登川地区、平田地区、蒲生地区では「平等である」が、建部地区では女性が優遇されている（前述）の割合がほかの地区に比べ高くなっています。

②地域社会の中で

- ・ 性別では、女性は、男性が優遇されている（前述）の割合が、男性より高く半数以上となっており、男性は、「平等である」の割合が女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代で「平等である」が、そのほかの年代で、男性が優遇されている（前述）の割合が最も高くなっています。男性が優遇されている（前述）の割合は60歳代以下では年齢が上がるほど高くなる傾向があり、60歳代では6割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で男性が優遇されている（前述）の割合が最も高く、特に愛東地区、平田地区、玉緒地区では6割近くとなっています。また、八日市地区、市辺地区では「平等である」がほかの地区に比べ多くなっています。

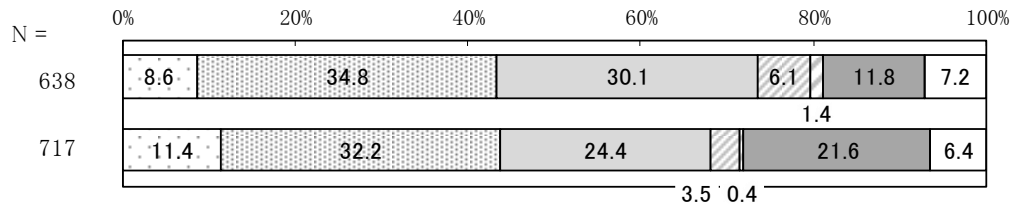
③社会全体の中で

- ・ 性別では、女性は、男性が優遇されている（前述）の割合が男性より高く6割となっており、男性は、「平等である」の割合が女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳以上で、男性が優遇されている（前述）の割合が最も高くなっています。男性が優遇されている（前述）の割合は60歳代以下では年齢が上がるほど高くなる傾向があり、60歳代では7割となっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で男性が優遇されている（前述）の割合が最も高く、特に玉緒地区では7割近く、能登川地区、愛東地区、五個荘地区、湖東地区では6割となっています。また、中野地区では「平等である」がほかの地区に比べ多くなっています。

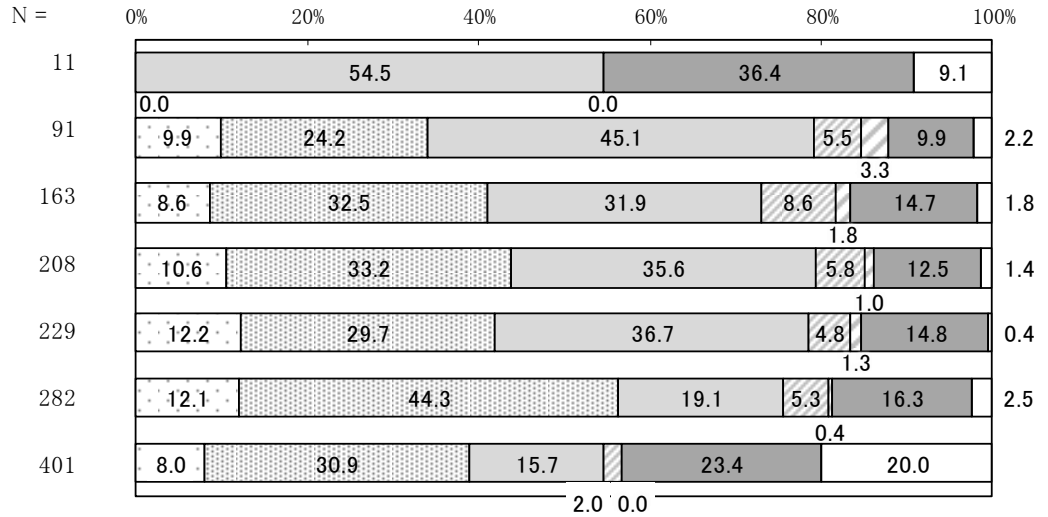


①職場の中で

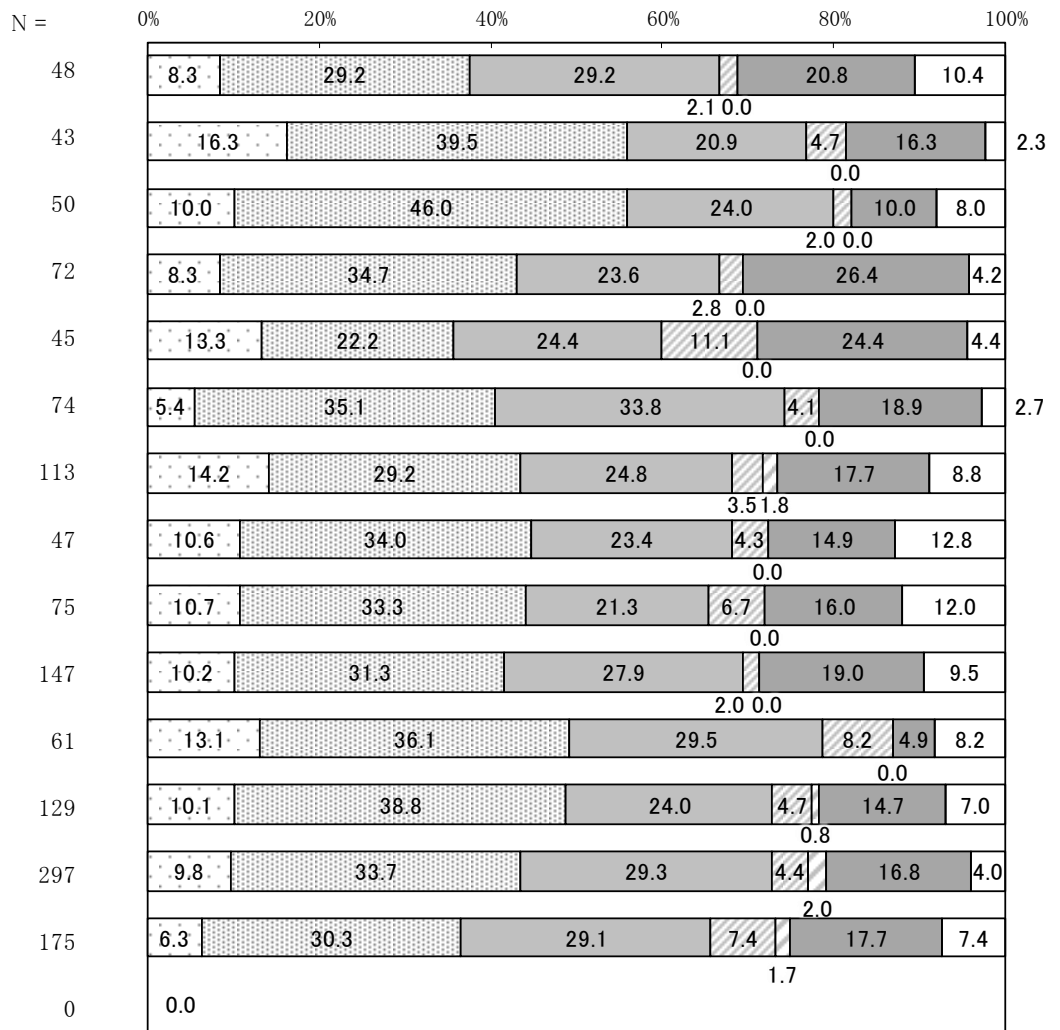
【性別】



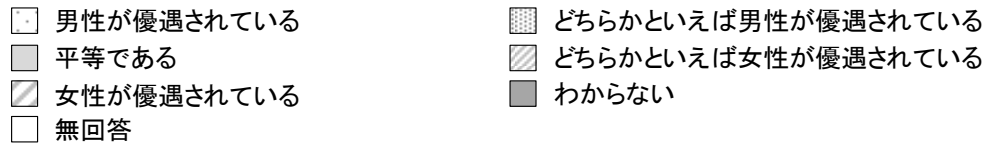
【年代別】



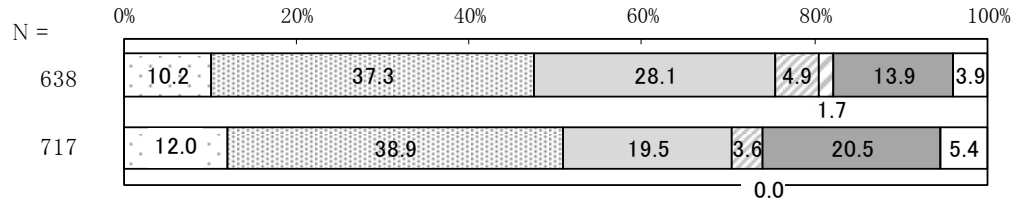
【居住地区別】



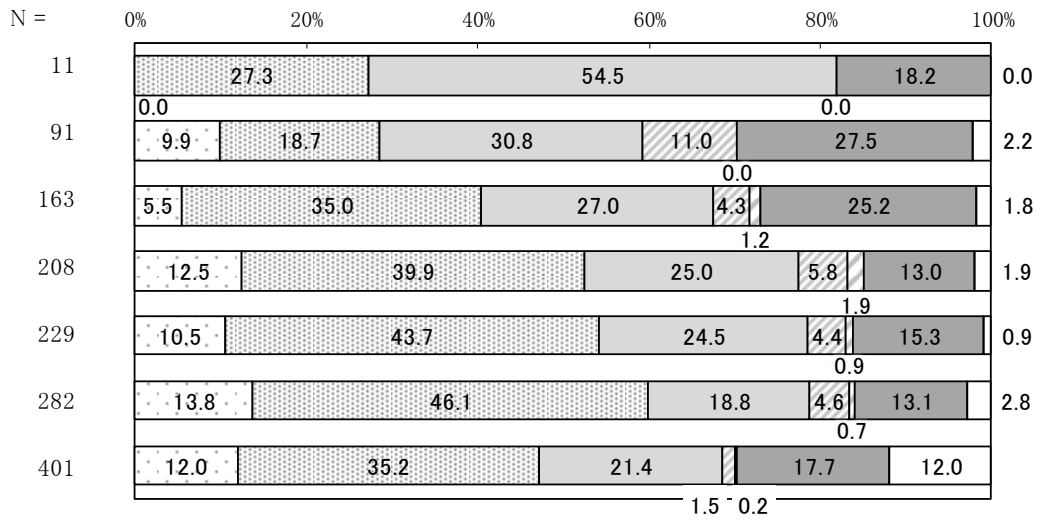
②地域社会の中で



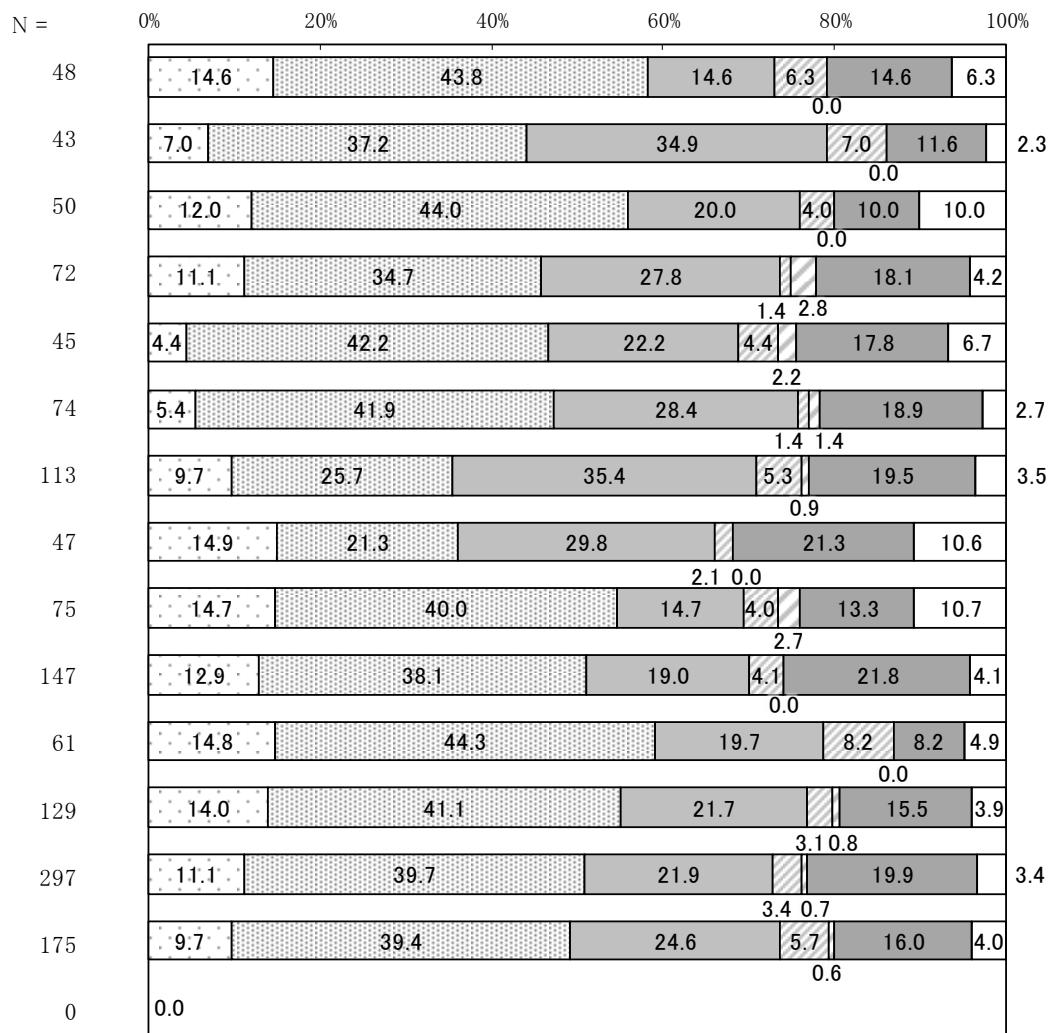
【性別】



【年代別】



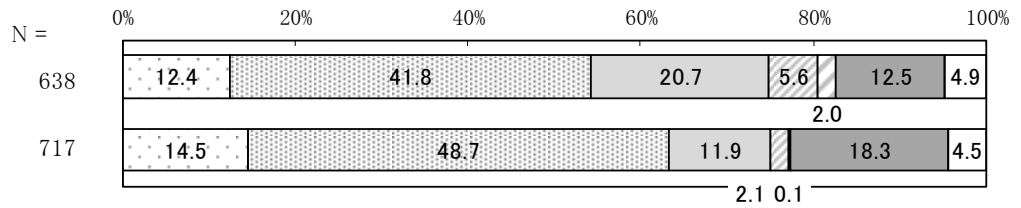
【居住地区別】



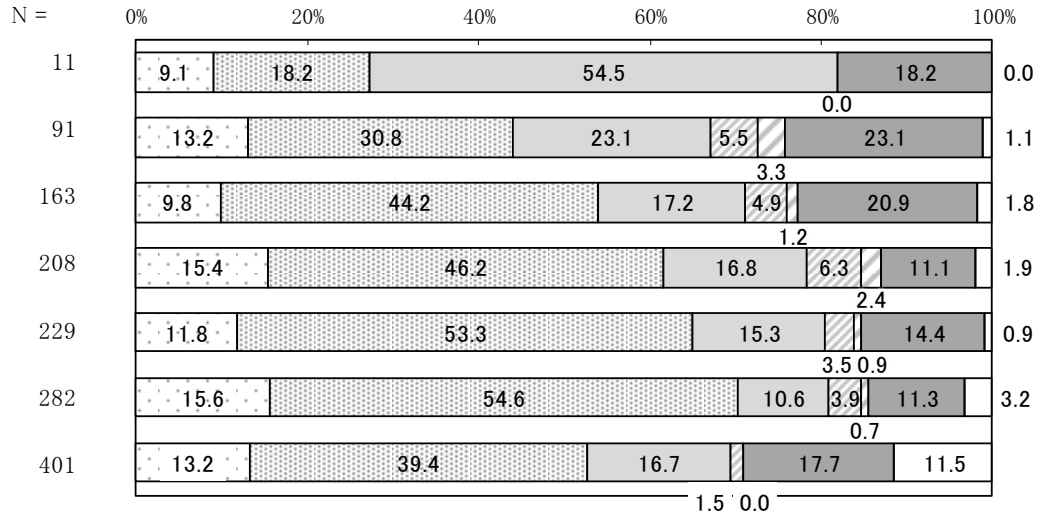
③社会全体の中で

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

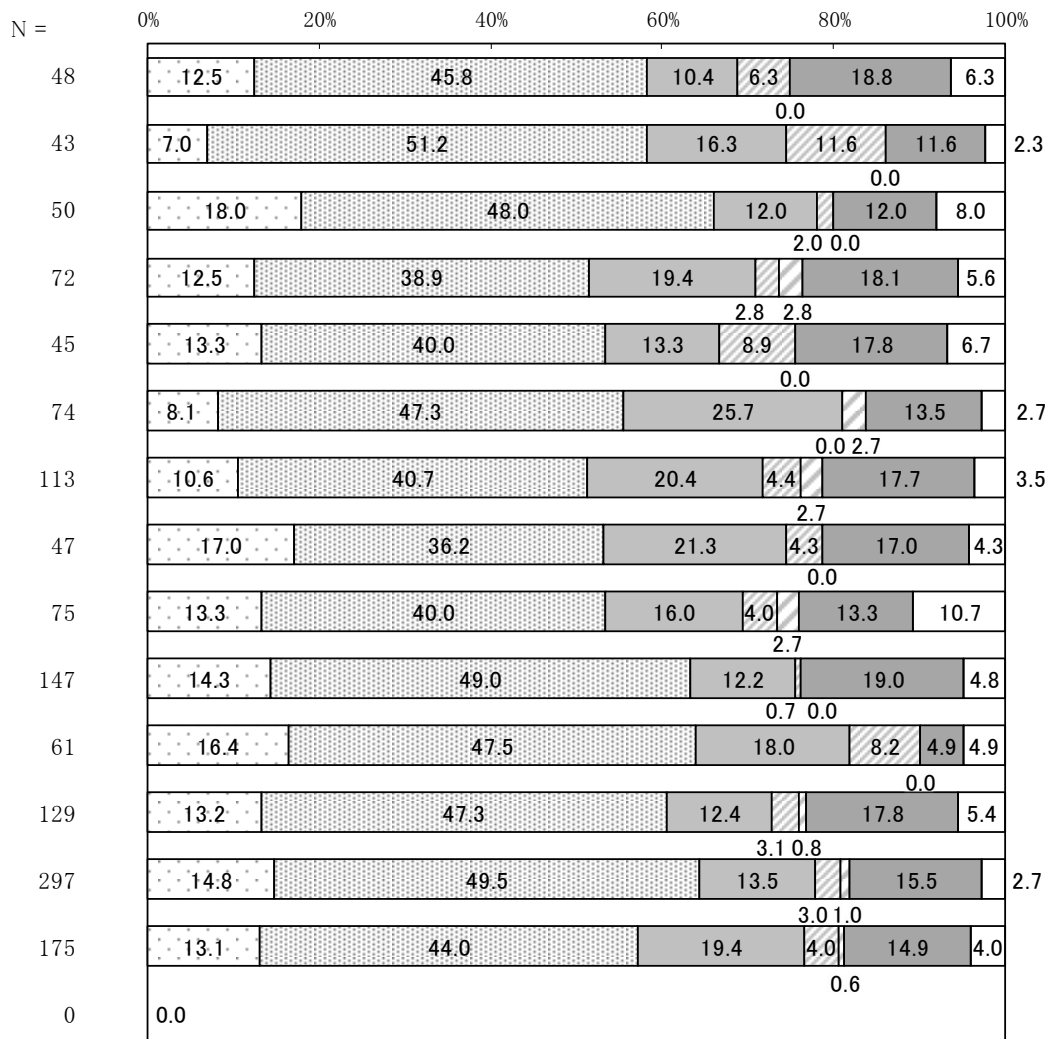
【性別】



【年代別】



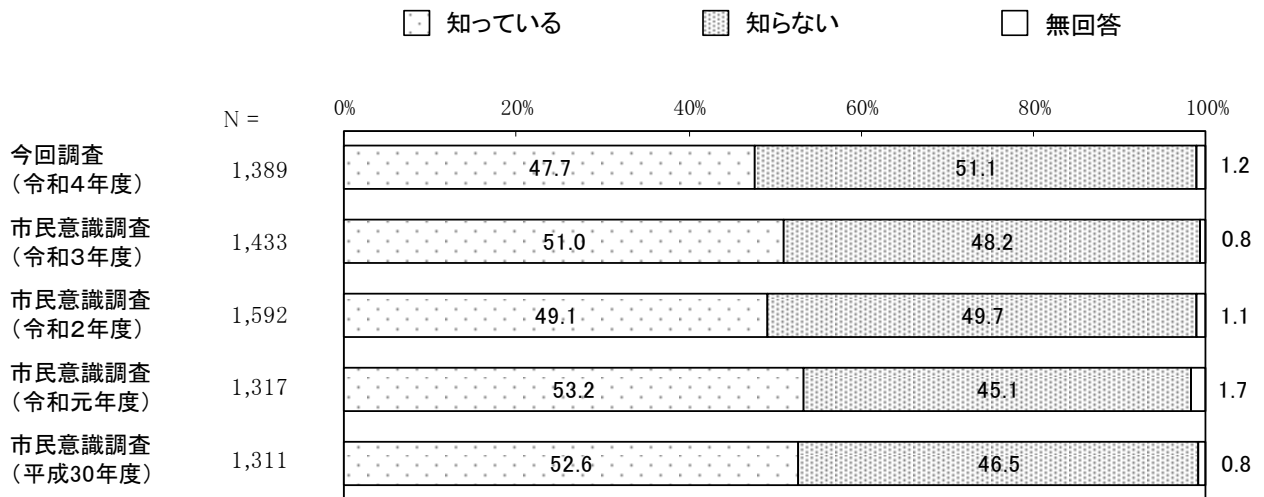
【居住地区別】



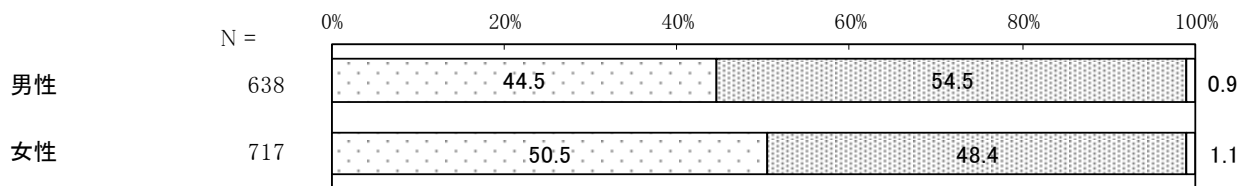
問 25 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知らない」、認知度は47.7%

- ・ 市役所内に消費生活センターがあることを知っているかについては、「知っている」が47.7%、「知らない」が51.1%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、認知度は低下しています。
- ・ 性別では、男性より女性で「知っている」人の割合が高く、半数以上の認知度となっています。
- ・ 年代別では、10歳代の認知度が1割未満で最も低く、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向があります。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、永源寺地区で6割前後、愛東地区、湖東地区、五個荘地区で半数以上と認知度が高くなっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、御園地区、玉緒地区で6割近くと高くなっています。

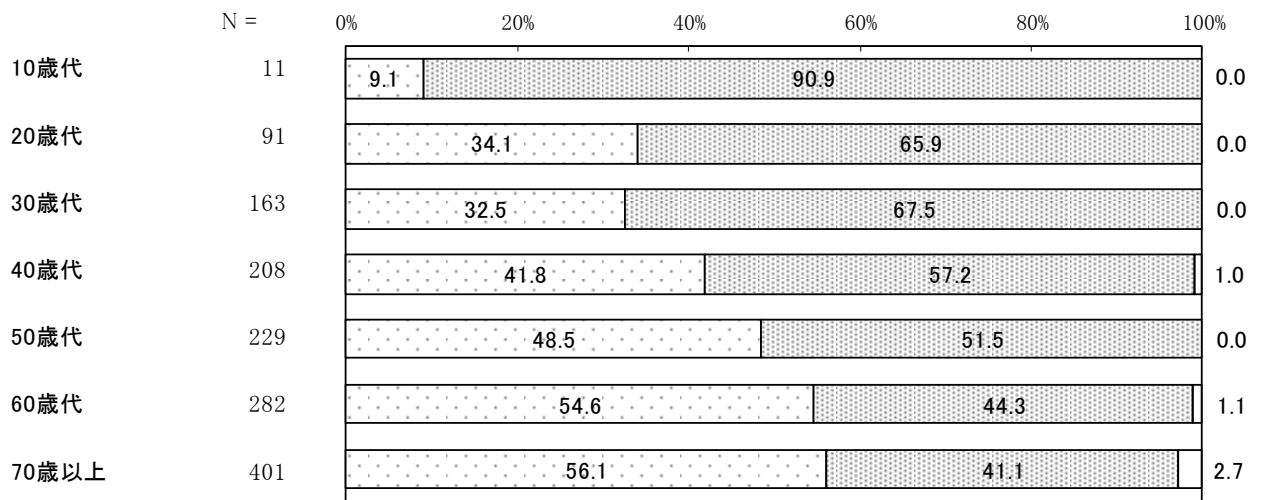


【性別】

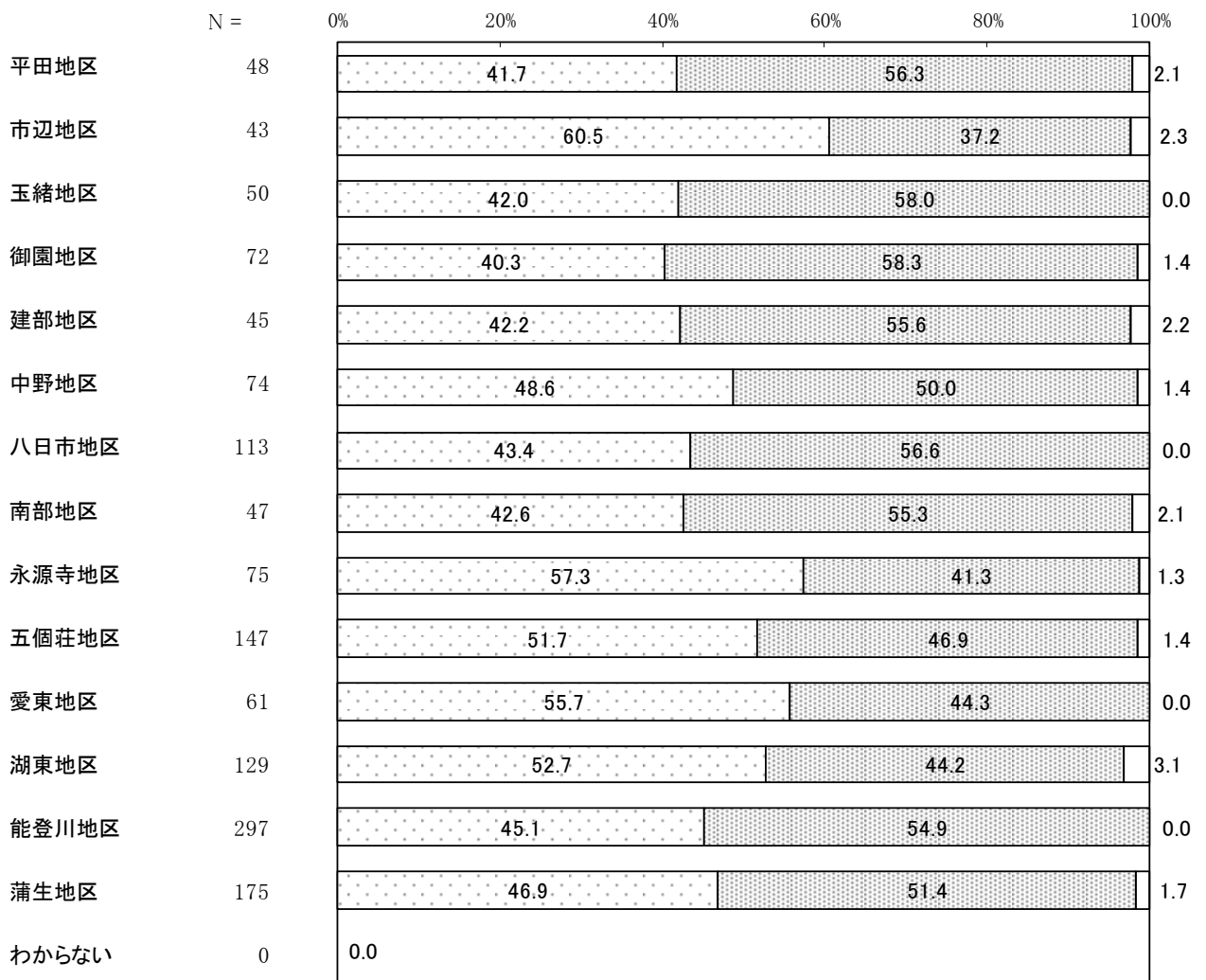


【年代別】

□ 知っている □ 知らない □ 無回答



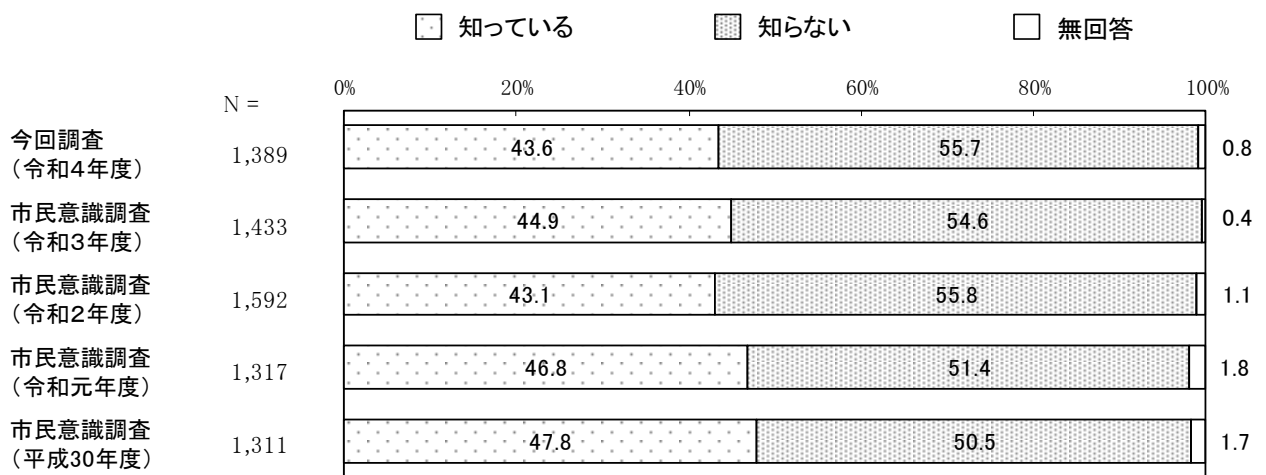
【居住地区別】



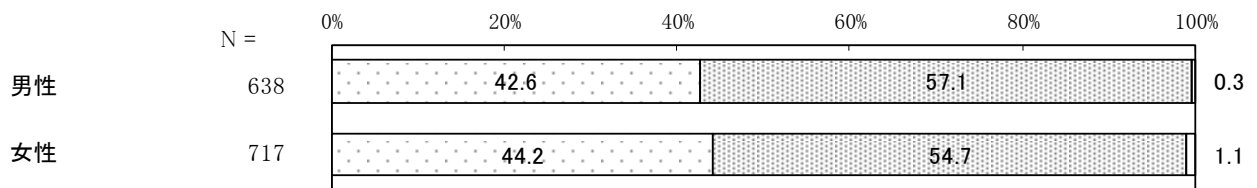
問 26 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

6割近くが「知らない」、認知度は43.6%

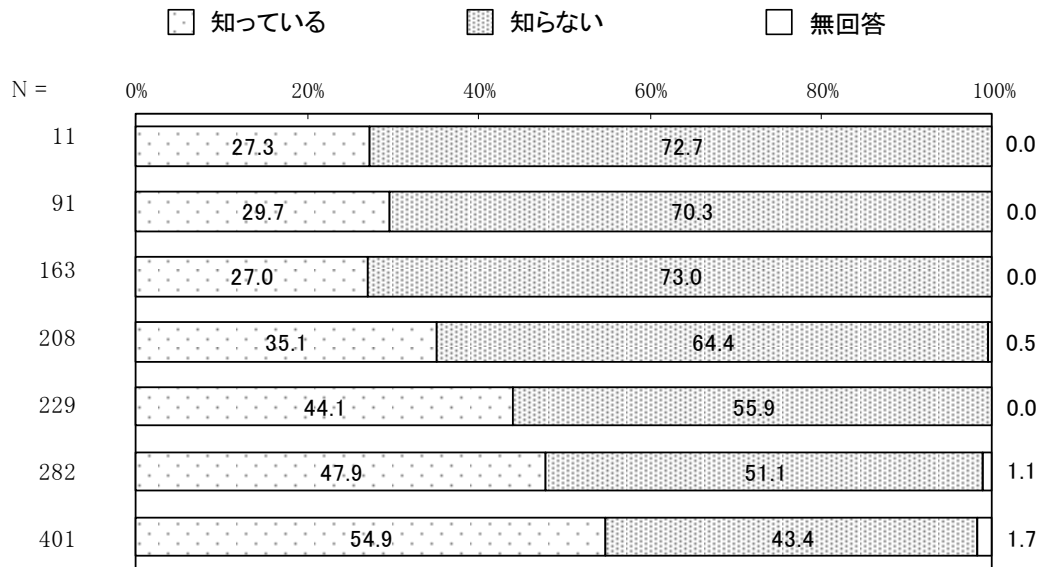
- ・ 市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等を受けられることについては、「知っている」が43.6%、「知らない」が55.7%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、認知度は低下しています。
- ・ 性別では男性より女性で認知度が高く、年代別では年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向があり、70歳以上では半数以上が認知しています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、永源寺地区、市辺地区で半数以上と認知度が高く、八日市地区、南部地区、建部地区、平田地区で4割未満と低くなっています。



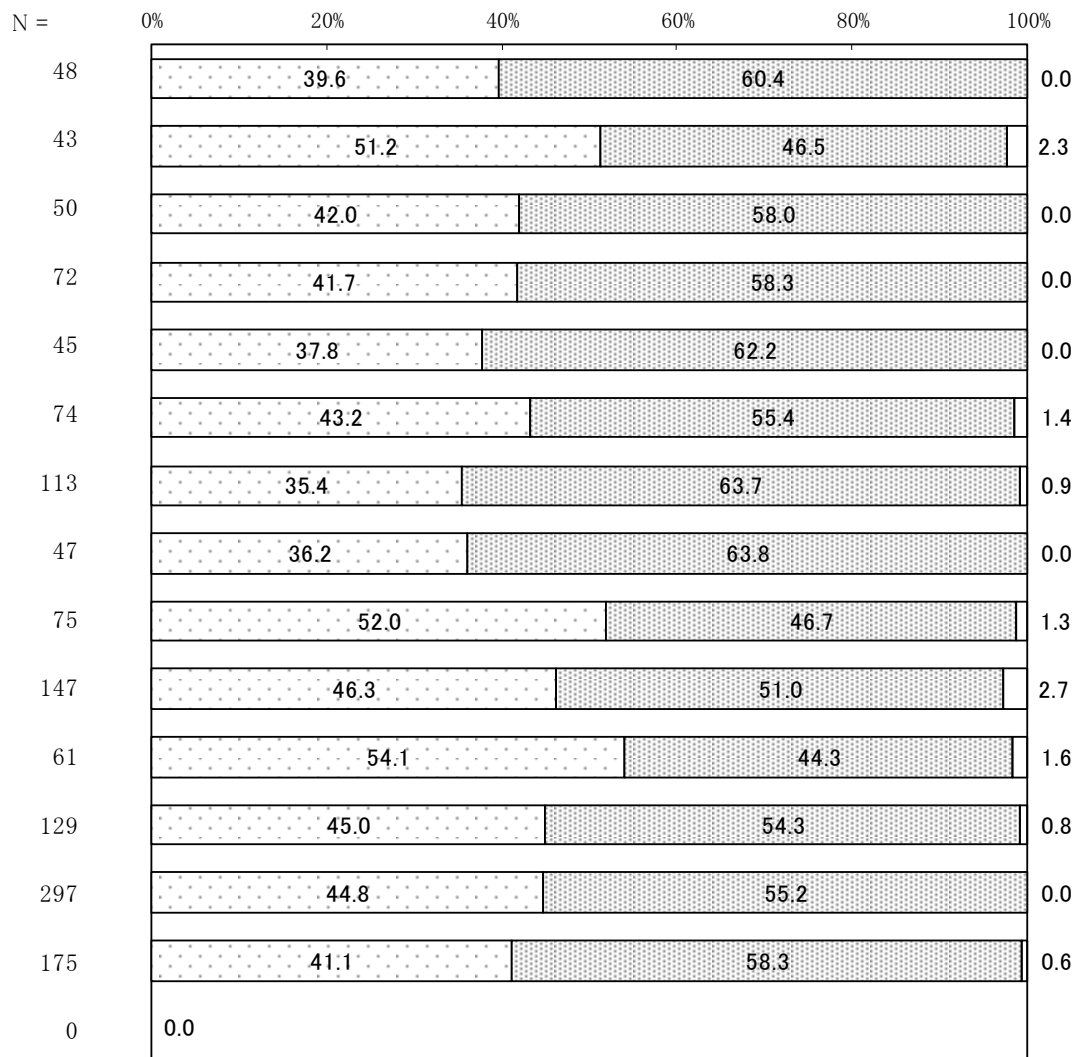
【性別】



【年代別】



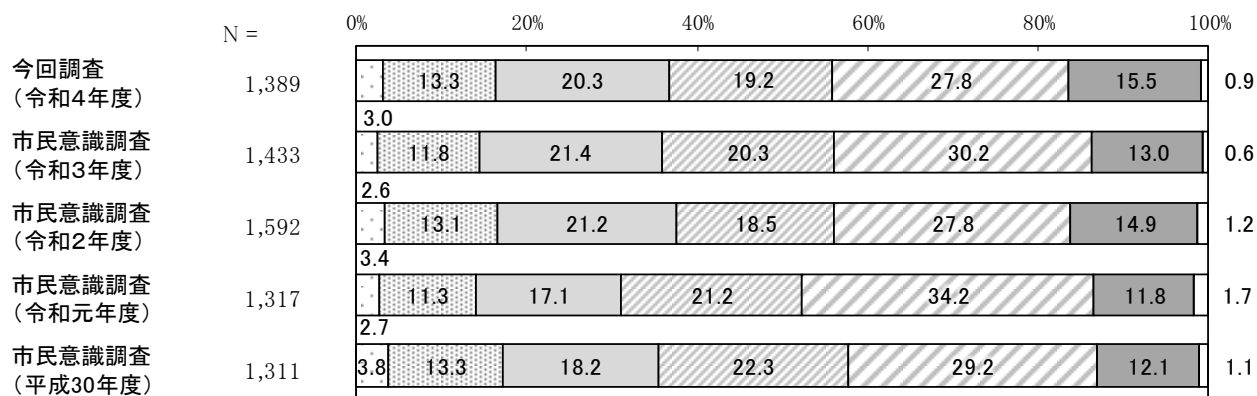
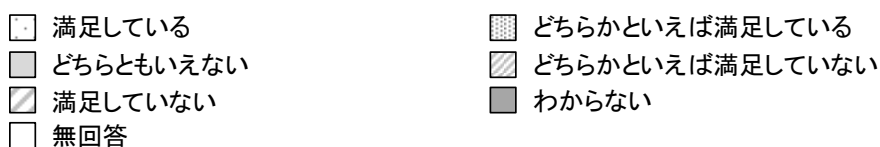
【居住地区別】



問 27 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

半数近くが満足していない

- ・ 公共交通に対する満足度については、「満足していない」が 27.8%、「どちらかといえば満足していない」が 19.2%で、これらを合わせると 47.0%となり、半数近くの人が満足していないと回答しています。一方、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると 16.3%となり、2割近くは満足しています。
- ・ 年代別の 10 歳代を除き、性別、年代別、居住地区別のいずれも、満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合よりも満足していない人（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では 20 歳代と 40～50 歳代（特に 50 歳代）で、居住地区別では特に蒲生地区、平田地区、五個荘地区で満足していない人（前述）の割合が高くなっています。

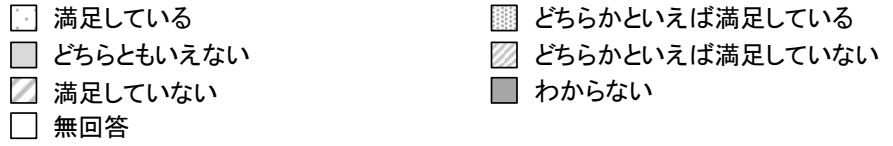


単位：%

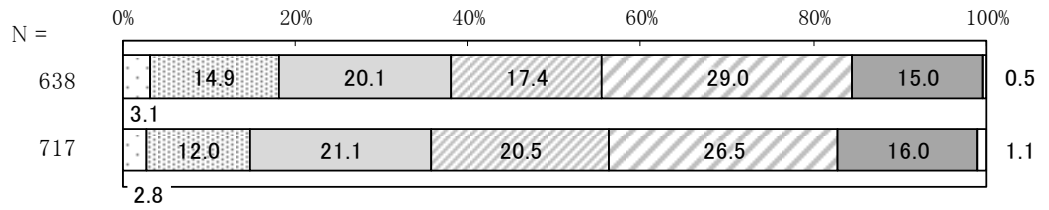
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和4年度)	16.3	47.0	-30.7
②市民意識調査(令和3年度)	14.4	50.5	-36.1
③市民意識調査(令和2年度)	16.5	46.3	-29.8
④市民意識調査(令和元年度)	14.0	55.4	-41.4
⑤市民意識調査(平成30年度)	17.1	51.5	-34.4
①-⑤	-0.8	-4.5	3.7

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

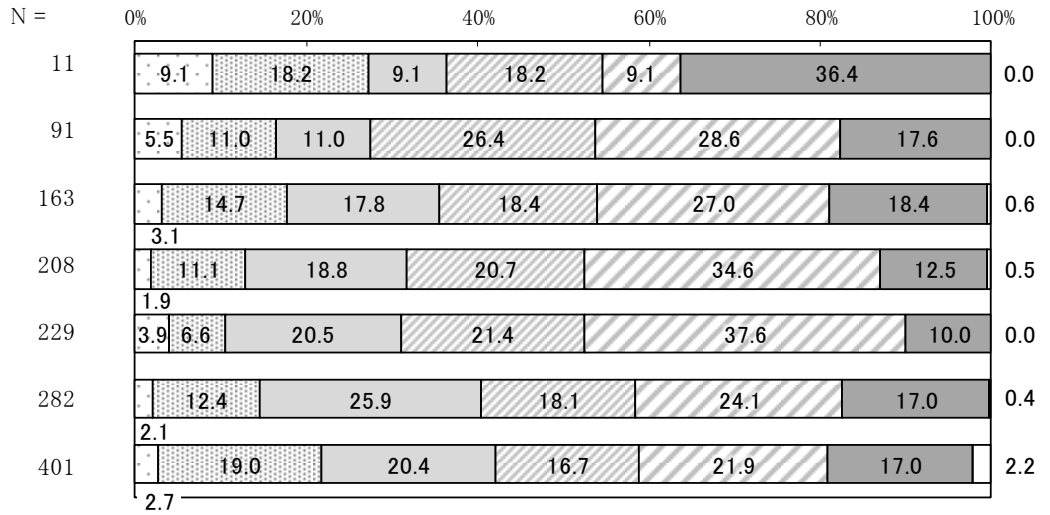
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



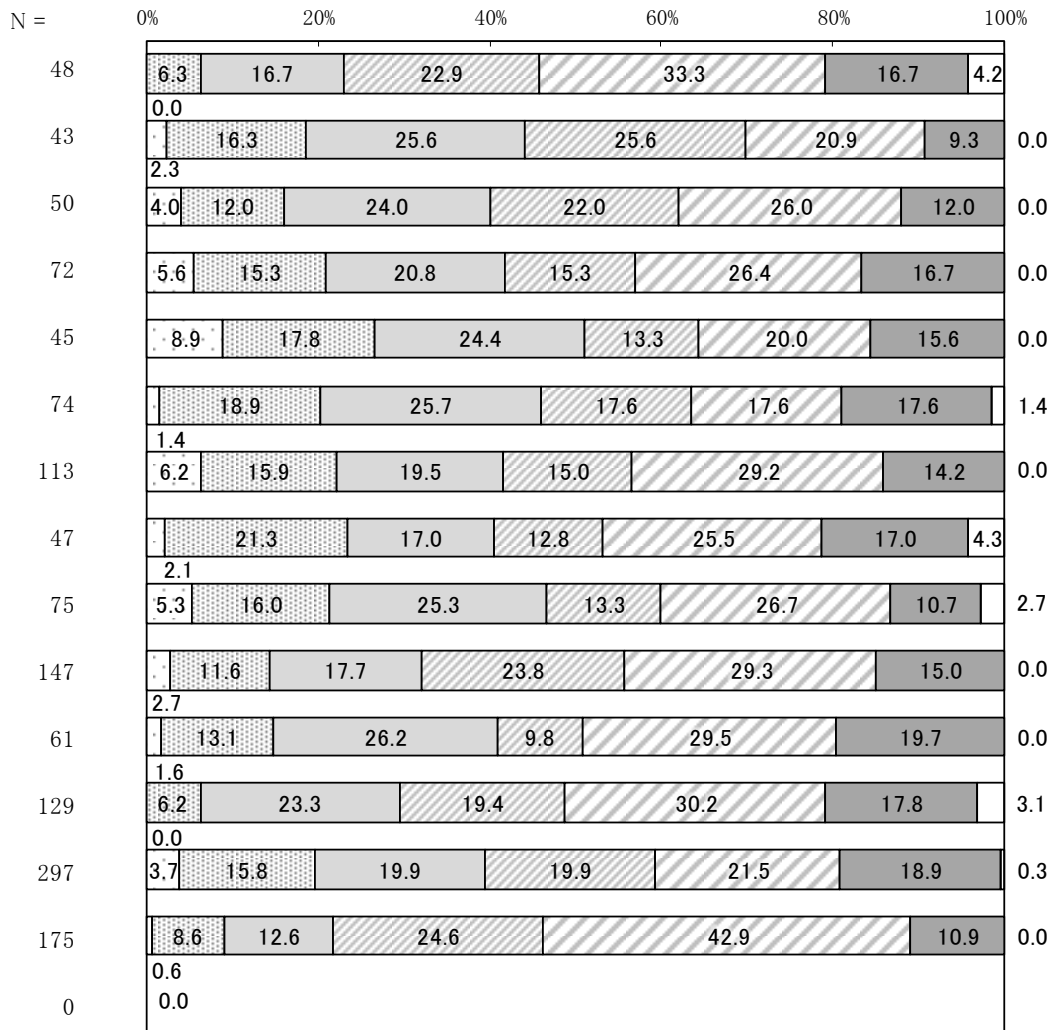
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

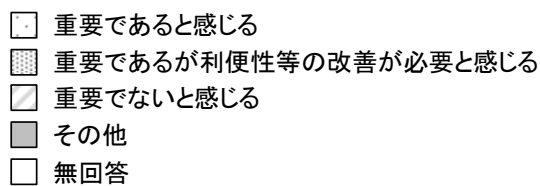


問 28 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、様々な検討をしているところです。

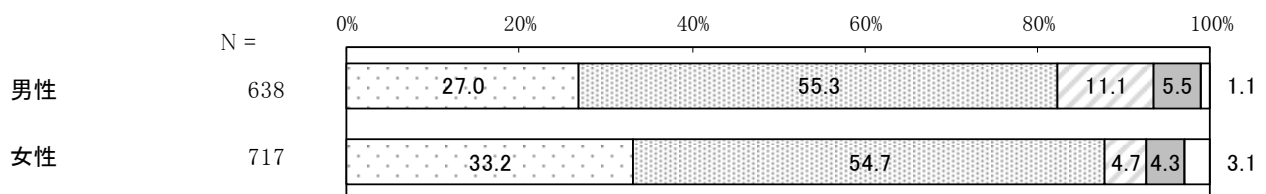
あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》






9割近くが重要と感じている、半数が改善を望む

- ・ 近江鉄道線については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」が54.8%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が30.6%と続きます。これらを合わせると85.4%となり、9割近くの人が近江鉄道線は重要であると考えています。
- ・ 年代別では20～30歳代と60歳代で、居住地区別では市辺地区、建部地区、中野地区、南部地区、御園地区で、重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）が多く見られます。

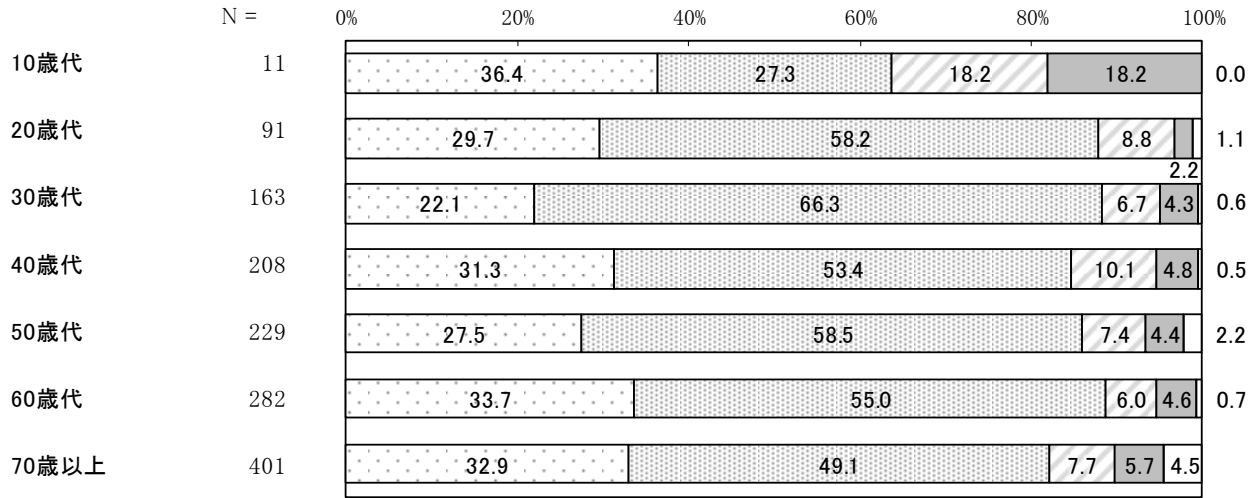


【性別】

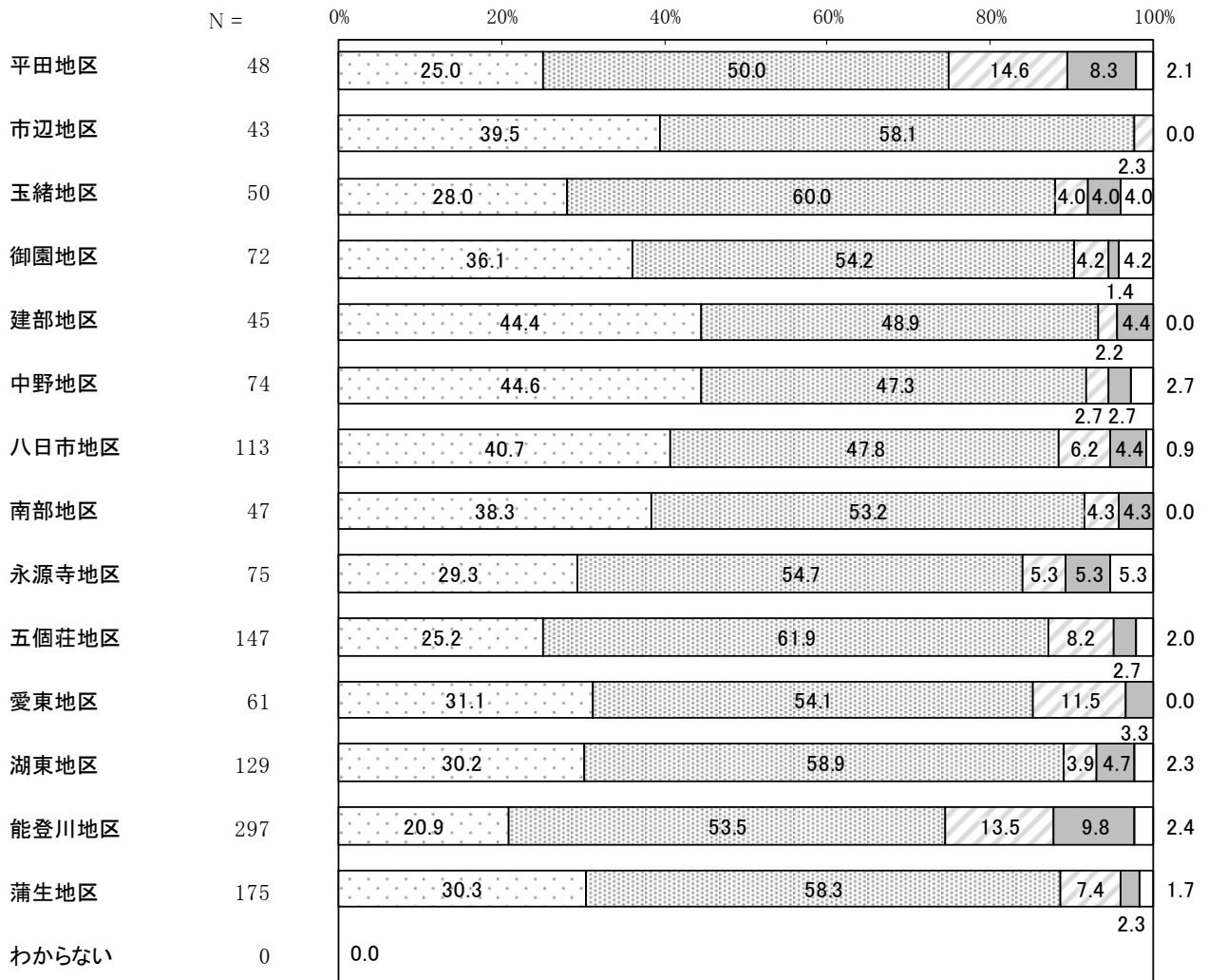


-  重要であると感じる
-  重要であるが利便性等の改善が必要と感じる
-  重要でないと感じる
-  その他
-  無回答

【年代別】



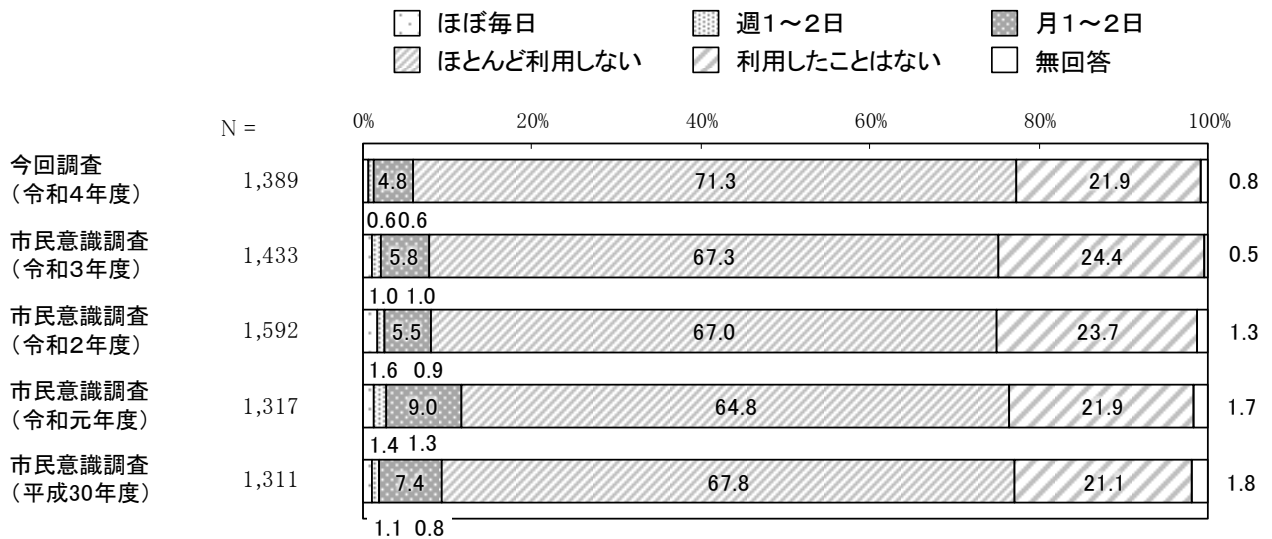
【居住地区別】



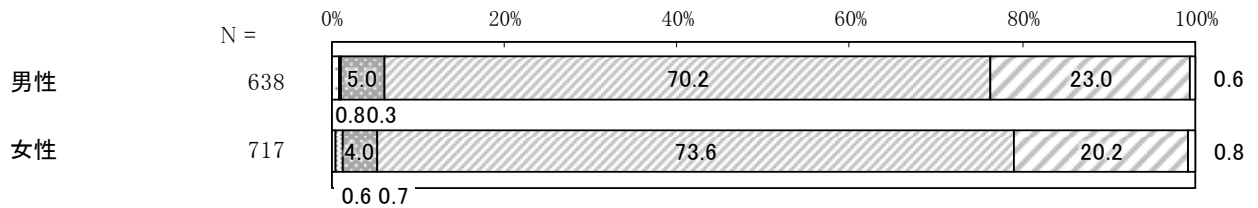
問 29 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

9割が利用していない

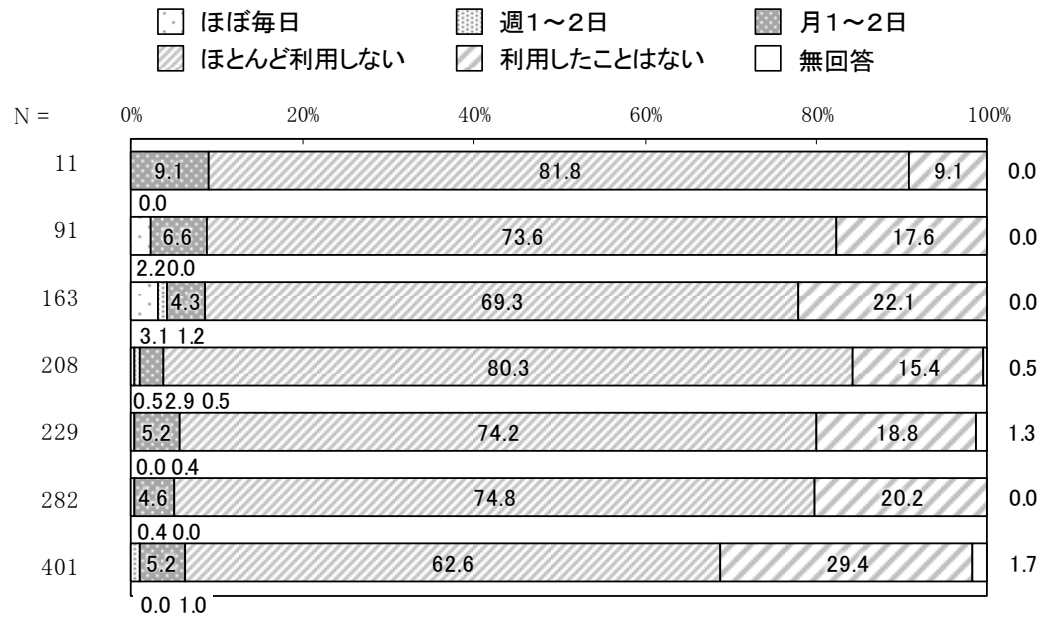
- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が71.3%と最も多く、次の「利用したことはない」の21.9%を合わせると93.2%となり、9割の人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は6.0%で、その内訳は「月1～2日」が4.8%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」と「週1～2日」がそれぞれ0.6%となっています。
- ・ 年代別ではいずれの年代も利用している人は1割以下となっています。居住地区別では八日市地区、建部地区で2割近くと比較的多く利用されています。



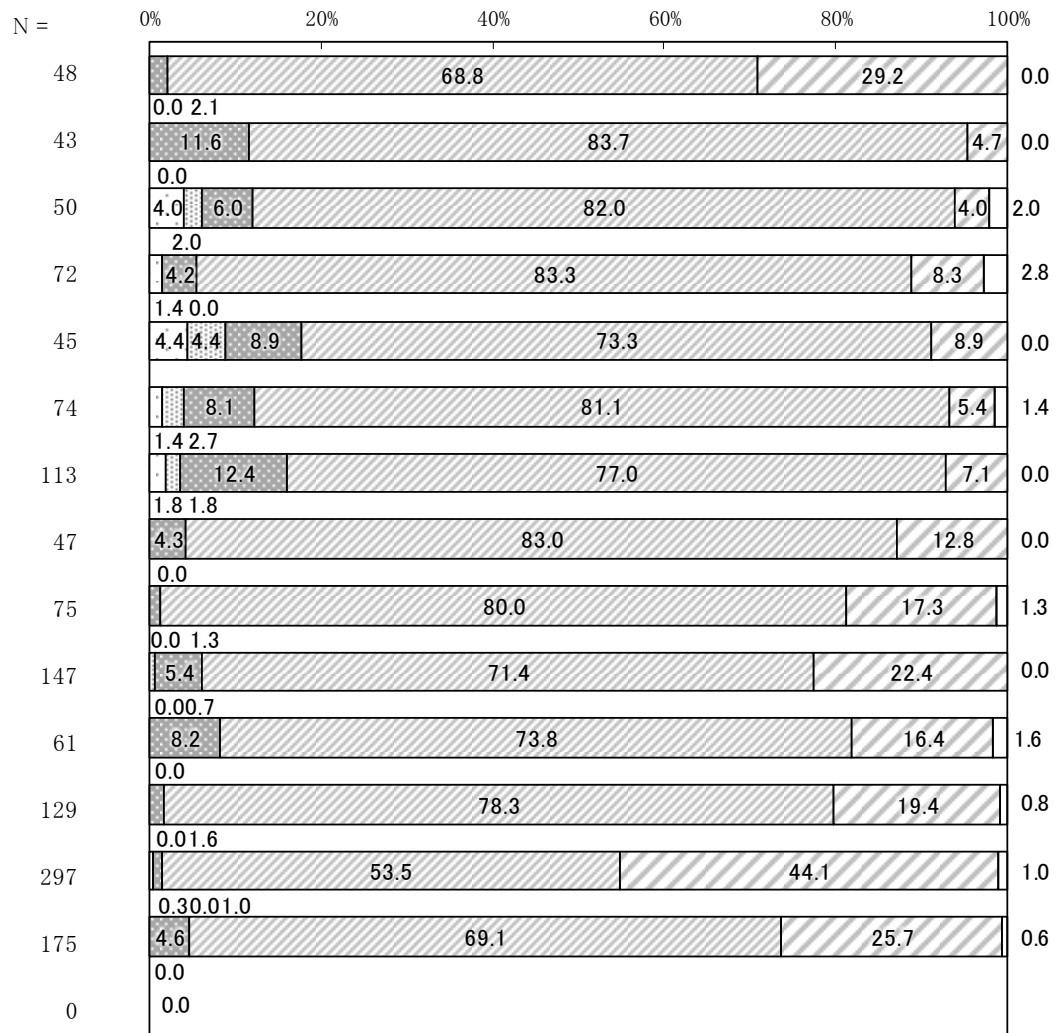
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

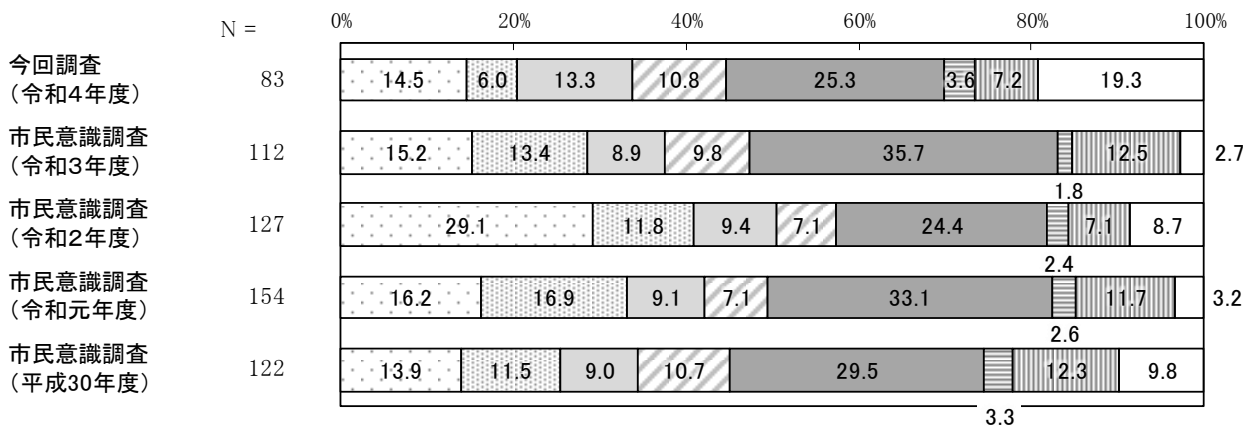


問 29-1 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

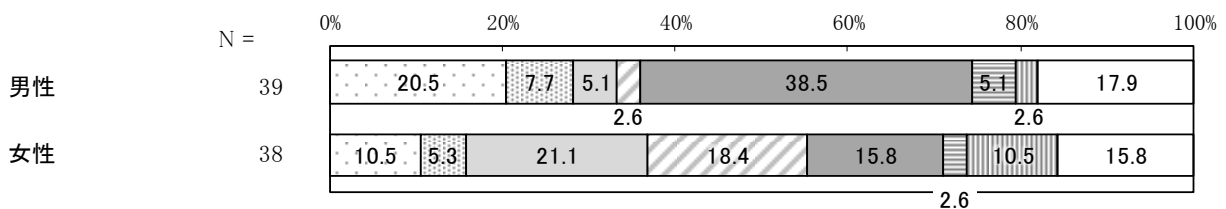
近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味」、「通勤・通学」、「買物」

- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味」が 25.3%と最も多く、次いで「通勤・通学」が 14.5%、「買物」が 13.3%、「通院」が 10.8%と続きます。
- ・ 性別では、男性は「遊び・趣味」、女性は「買物」での利用が最も多くなっています。男性は女性より「通勤・通学」での利用が、女性は男性より「通院」などでの利用が多くあげられています。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、20 歳代は「通勤・通学」が、30 歳代、50～60 歳代は「遊び・趣味」が、70 歳以上は「通院」が最も多くなっています。60 歳代は「買物」も同様に最も多くあげられています。

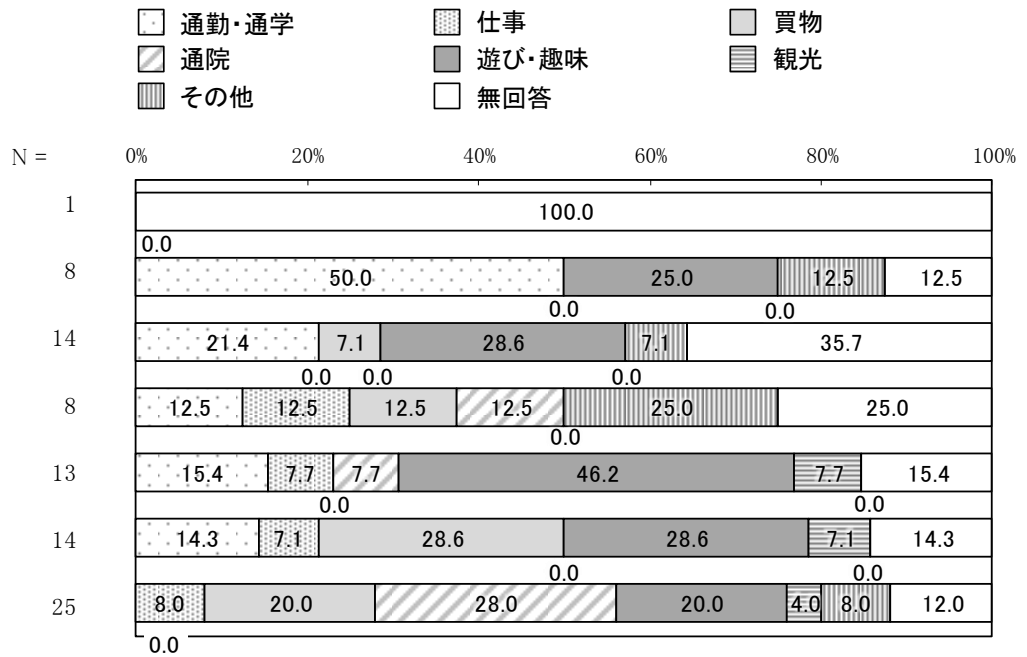


*令和2年度までは「遊び・趣味等」

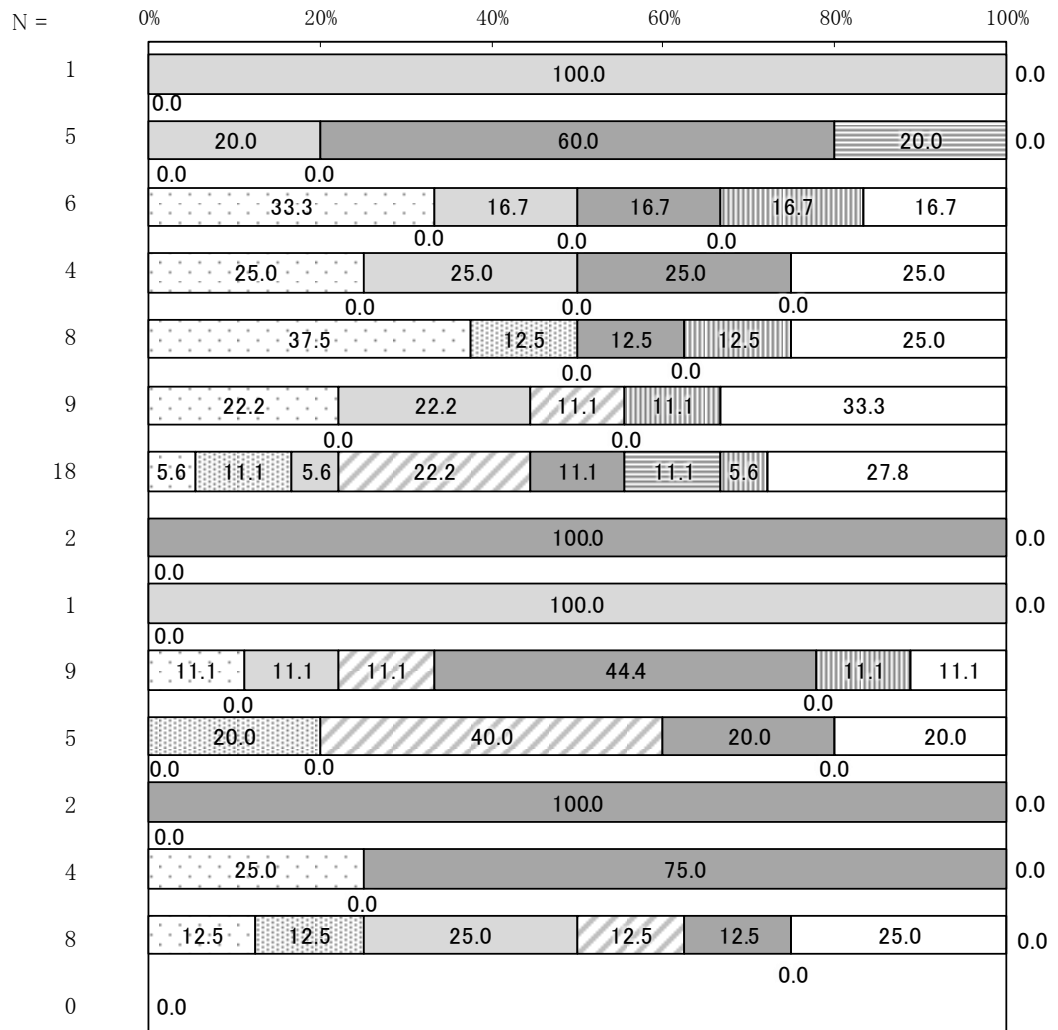
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

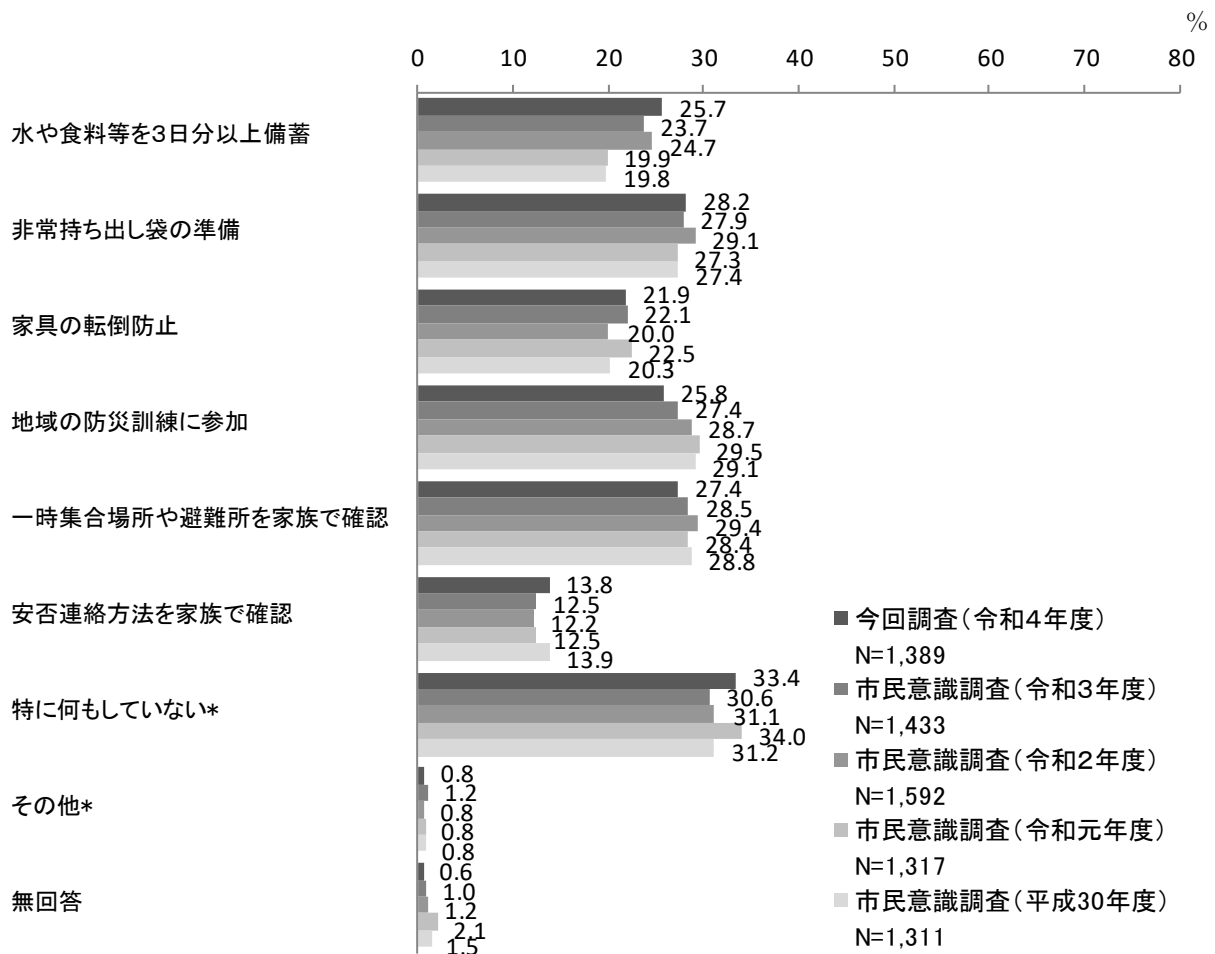


問 30 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

7割近くが何らかの災害への備えをしている

- ・ 災害への備えについては、何らかの備えをしている人は65.9%*で、7割近くとなっています。その内容は、「非常持ち出し袋の準備」が28.2%、「一時集合場所や避難所を家族で確認」が27.4%、「地域の防災訓練に参加」が25.8%、「水や食料等を3日分以上備蓄」が25.7%と続きます。一方で、「特に何もしていない」は33.4%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「水や食料等を3日分以上備蓄」などの割合が増加しています。
- ・ 性別では、男性は女性より「地域の防災訓練に参加」が、女性は男性より「非常持ち出し袋の準備」が多くあげられています。
- ・ 年代別では、10歳代では「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、60歳以上では「地域の防災訓練に参加」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、南部地区で「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、玉緒地区、愛東地区で「非常持ち出し袋の準備」が、御園地区で「家具の転倒防止」が、能登川地区で「地域の防災訓練に参加」が多くあげられています。

*「特に何もしていない」と「無回答」を除いた916件に係る有効回答数（1,389件）に対する割合



*令和2年度に設問の順番入れ替え

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
男性	638	27.4	27.6	24.9	29.5	27.6	13.5	32.0	0.3	0.6
女性	717	24.1	29.1	19.5	23.0	27.5	14.4	33.9	1.1	0.6

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
10歳代	11	27.3	9.1	9.1	27.3	36.4	27.3	36.4	0.0	0.0
20歳代	91	18.7	20.9	14.3	4.4	17.6	9.9	50.5	0.0	0.0
30歳代	163	27.6	32.5	23.9	9.8	14.1	9.2	34.4	1.2	0.0
40歳代	208	24.0	25.0	19.7	15.4	24.5	11.1	36.5	0.0	0.5
50歳代	229	24.5	23.1	21.0	27.9	25.8	15.3	32.8	1.3	1.7
60歳代	282	28.7	31.6	24.5	35.5	31.2	13.8	27.3	0.4	0.4
70歳以上	401	26.2	30.9	23.2	34.4	34.2	16.7	31.9	1.2	0.7

【居住地区別】

単位:%

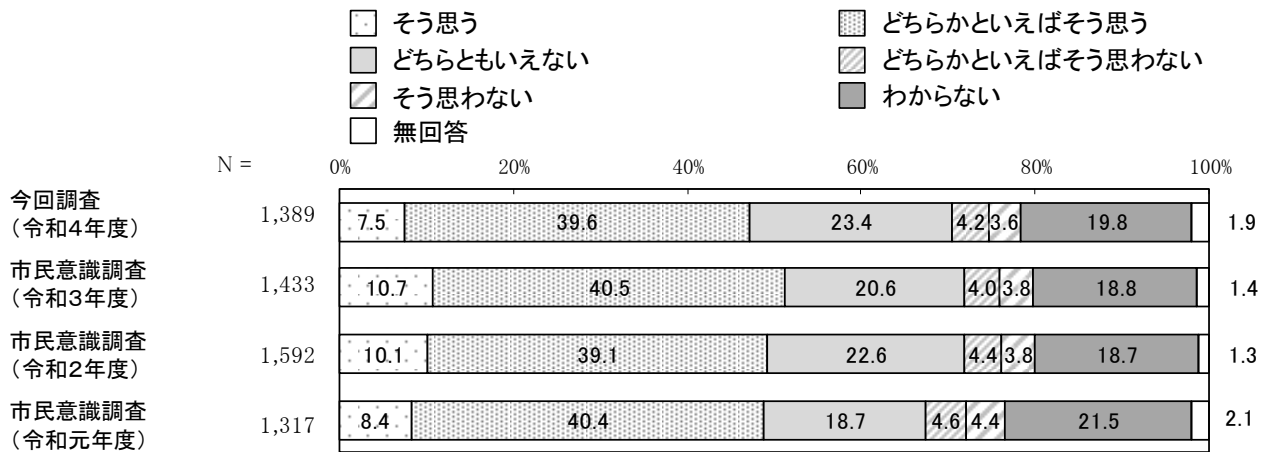
区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
平田地区	48	22.9	22.9	20.8	31.3	20.8	16.7	37.5	2.1	0.0
市辺地区	43	25.6	34.9	27.9	27.9	46.5	16.3	27.9	2.3	0.0
玉緒地区	50	18.0	36.0	20.0	28.0	26.0	26.0	28.0	0.0	2.0
御園地区	72	27.8	23.6	30.6	11.1	22.2	16.7	30.6	4.2	1.4
建部地区	45	28.9	22.2	31.1	24.4	26.7	15.6	33.3	0.0	0.0
中野地区	74	24.3	24.3	18.9	12.2	13.5	12.2	44.6	0.0	1.4
八日市地区	113	29.2	23.9	23.0	19.5	23.0	7.1	43.4	0.9	0.0
南部地区	47	25.5	38.3	27.7	21.3	40.4	10.6	31.9	0.0	0.0
永源寺地区	75	20.0	30.7	8.0	26.7	32.0	13.3	33.3	0.0	2.7
五個荘地区	147	26.5	29.3	24.5	19.7	29.9	20.4	33.3	1.4	0.7
愛東地区	61	26.2	41.0	14.8	37.7	31.1	16.4	31.1	0.0	0.0
湖東地区	129	20.2	21.7	21.7	33.3	27.1	10.9	34.9	0.0	0.8
能登川地区	297	25.6	31.0	19.5	36.0	32.0	12.1	27.6	0.7	0.3
蒲生地区	175	32.0	25.1	23.4	19.4	19.4	13.1	34.9	0.6	0.6
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(5) 子育てや教育関連の取組について

問 31 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

半数近くが子育てをするのに良い環境だと思っている

- ・ 東近江市が子育てをするのに良い環境かどうかについては、「そう思う」が7.5%、「どちらかといえばそう思う」が39.6%で、これらを合わせると47.1%となり、半数近くの人が子育てをするのに良い環境であると思うと回答しています。
- ・ 一方で、4割が「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。
- ・ 年代別では、30～40歳代の子育て世代の半数近くが子育てをするのに良い環境だと思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答しています。
- ・ 居住地区別では、中野地区で6割近く、永源寺地区、市辺地区、能登川地区、御園地区で半数以上が子育てをするのに良い環境だと思う（前述）と回答しています。



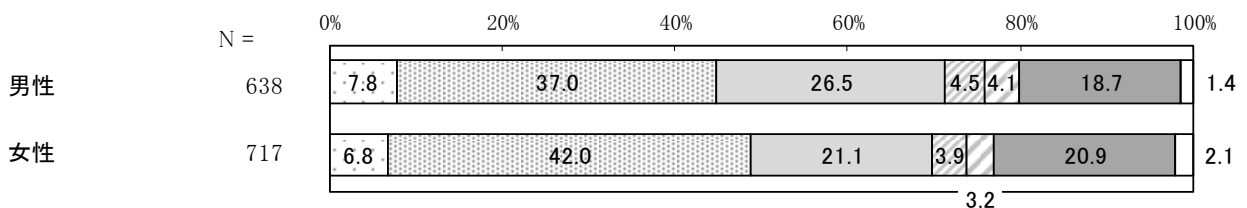
単位：%

	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和4年度)	47.1	7.8	39.3
②市民意識調査(令和3年度)	51.2	7.8	43.4
③市民意識調査(令和2年度)	49.2	8.2	41.0
④市民意識調査(令和元年度)	48.8	9.0	39.8
①-④	-1.7	-1.2	-0.5

* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

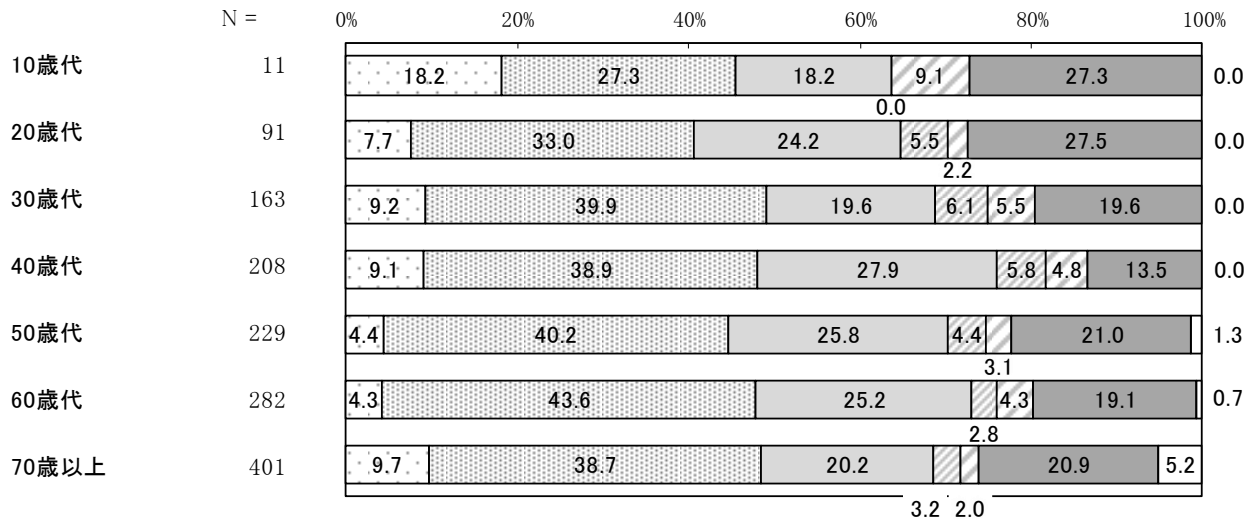
* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

【性別】

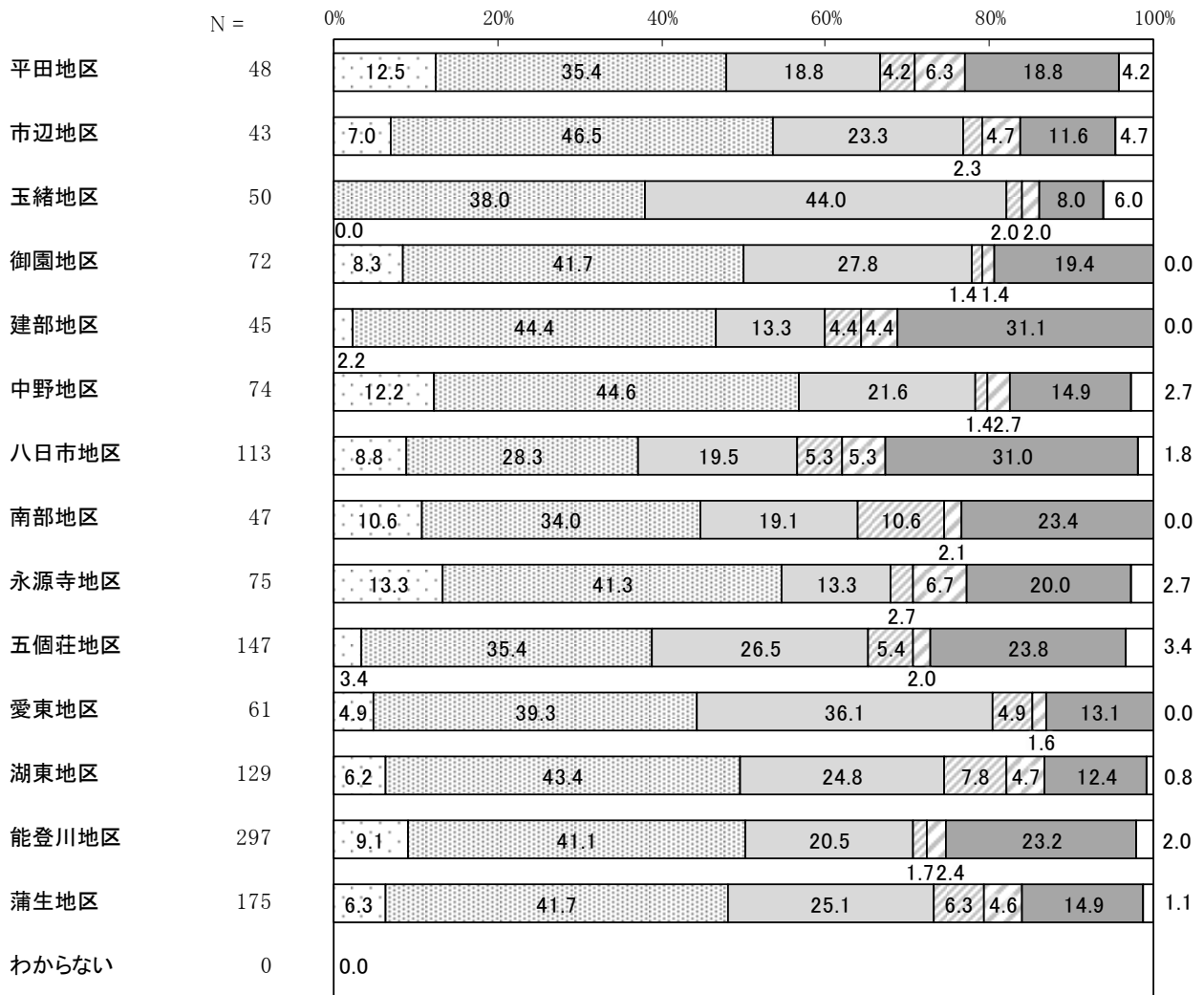


- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない

【年代別】



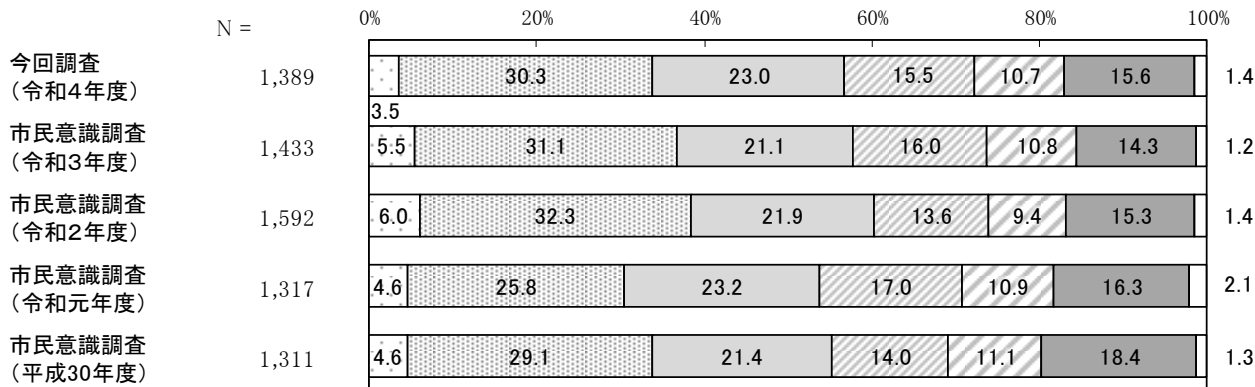
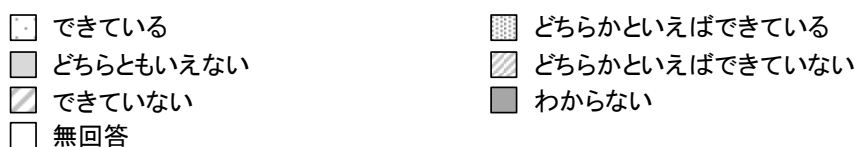
【居住地区別】



問 32 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

3割が通学路の安全は確保できている

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると33.8%となり、3割の人ができていると考えています。「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると26.2%であり、通学路の安全確保はできていると考えている人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、30歳代で通学路の安全確保ができていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と考えている人が、できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と考えている人より多くなっており、40歳代ではほぼ同数となっています。一方、10歳代と70歳以上で通学路の安全確保ができていない（前述）と考えている人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、市辺地区でできている（前述）と考えている人が多く、湖東地区、平田地区、御園地区、玉緒地区でできていない（前述）と考えている人ができている（前述）と考えている人より多くなっています。

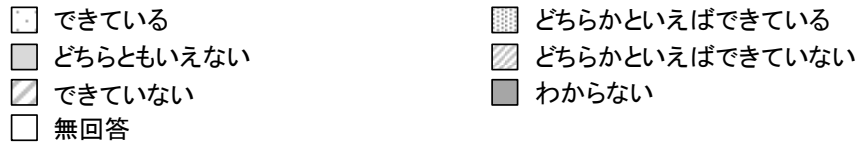


単位：%

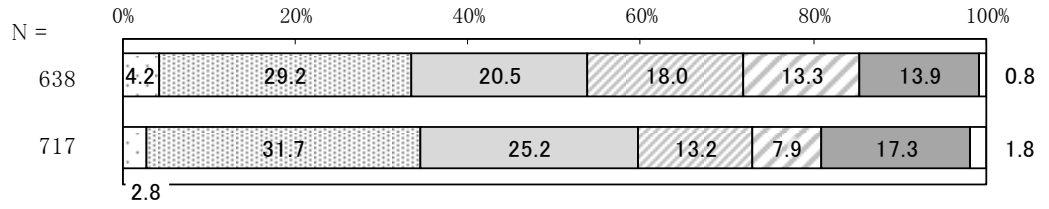
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和4年度)	33.8	26.2	7.6
②市民意識調査(令和3年度)	36.6	26.8	9.8
③市民意識調査(令和2年度)	38.3	23.0	15.3
④市民意識調査(令和元年度)	30.4	27.9	2.5
⑤市民意識調査(平成30年度)	33.7	25.1	8.6
①-⑤	0.1	1.1	-1.0

* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

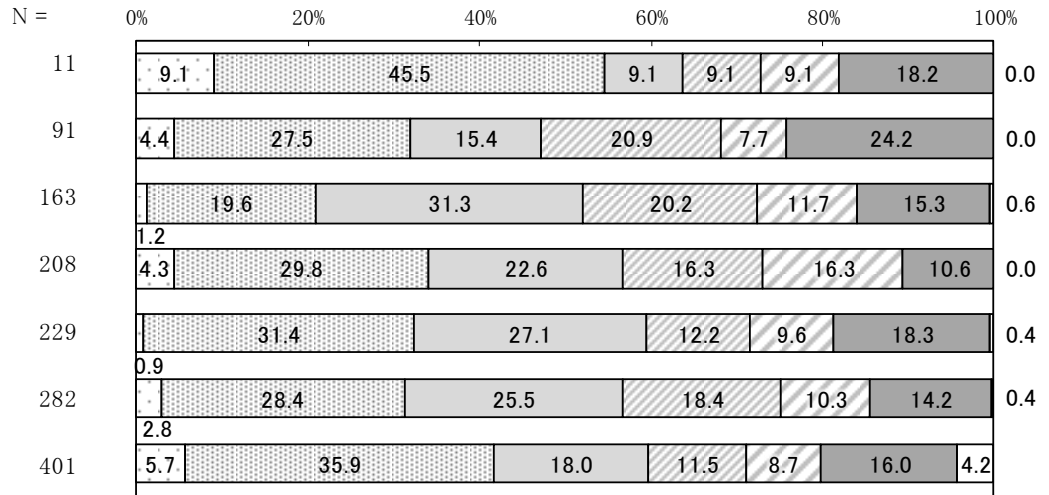
* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



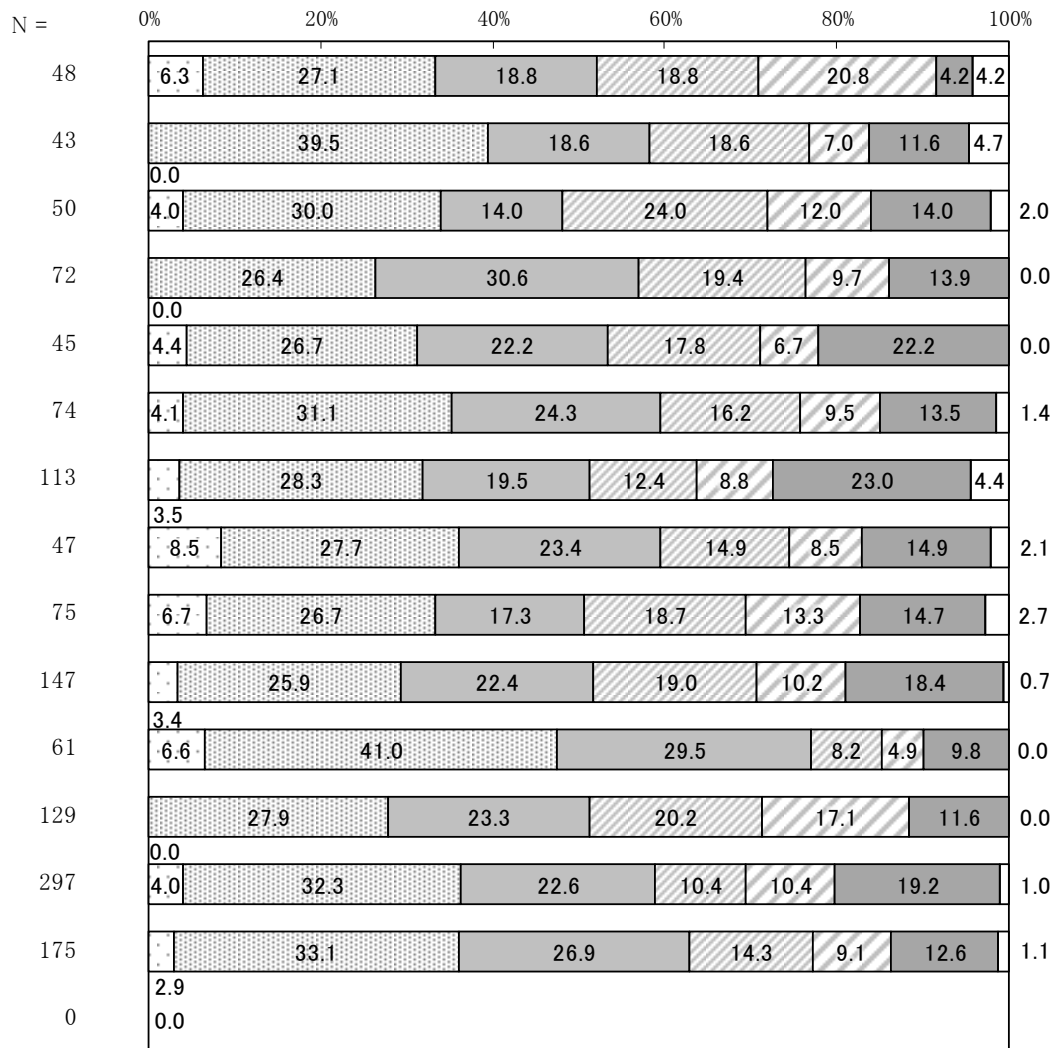
【性別】



【年代別】



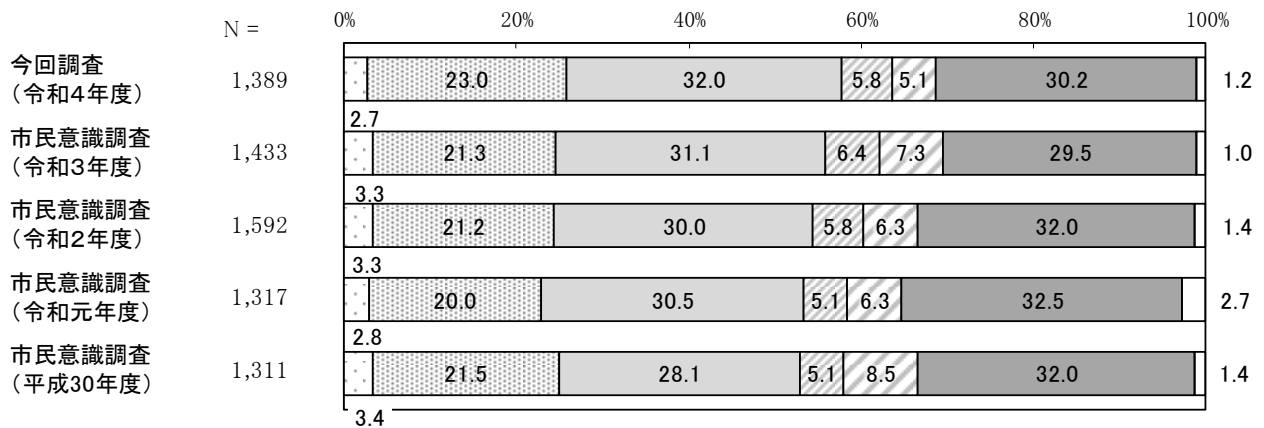
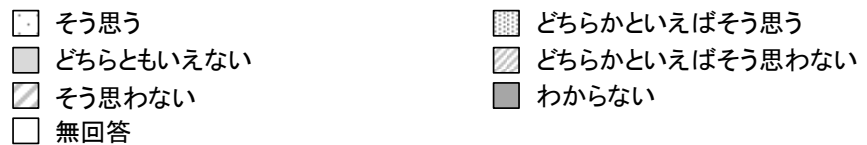
【居住地区別】



問 33 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

3割近くが人権が尊重されるまちに「なっている」、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）人の割合は25.7%で、そう思わない（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）人の割合（10.9%）より高くなっています。一方、人権が尊重されるまちになっているかについて、「どちらともいえない」と回答した人は32.0%と最も多く、「わからない」と回答した人も30.2%見られ、これらを合計すると62.2%になります。
- ・ 年代別では70歳以上で3割、居住地区別では平田地区、愛東地区、市辺地区で3割が、人権が尊重されるまちになっていると思う（前述）と回答しています。一方、平田地区、玉緒地区では、そう思わない（前述）人の割合がほかの地区よりやや高くなっており、平田地区は人権が尊重されるまちになっていると思う（前述）人とそう思わない（前述）人の割合のどちらも全ての地区の中で最も高くなっています。



単位：%

	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和4年度)	25.7	10.9	14.8
②市民意識調査(令和3年度)	24.6	13.7	10.9
③市民意識調査(令和2年度)	24.5	12.1	12.4
④市民意識調査(令和元年度)	22.8	11.4	11.4
⑤市民意識調査(平成30年度)	24.9	13.6	11.3
①-⑤	0.8	-2.7	3.5

* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

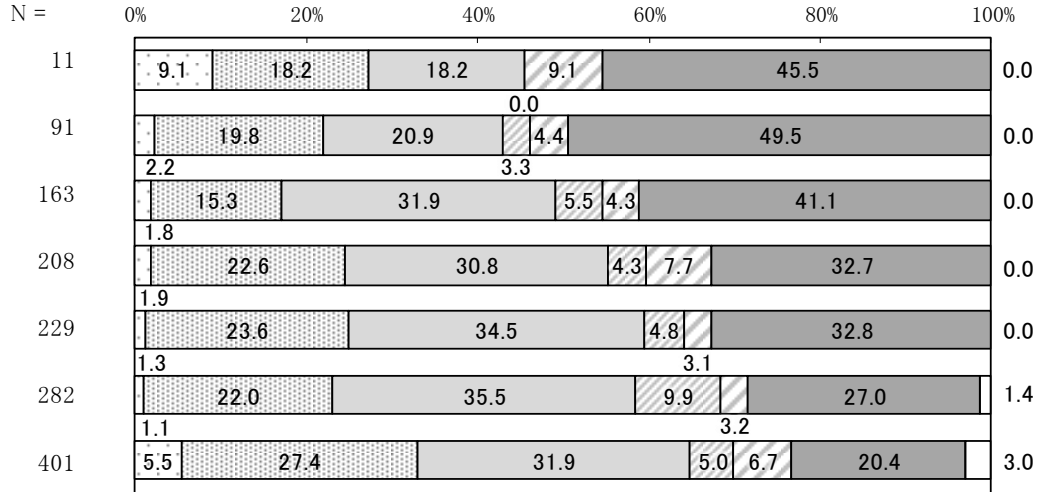
* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない

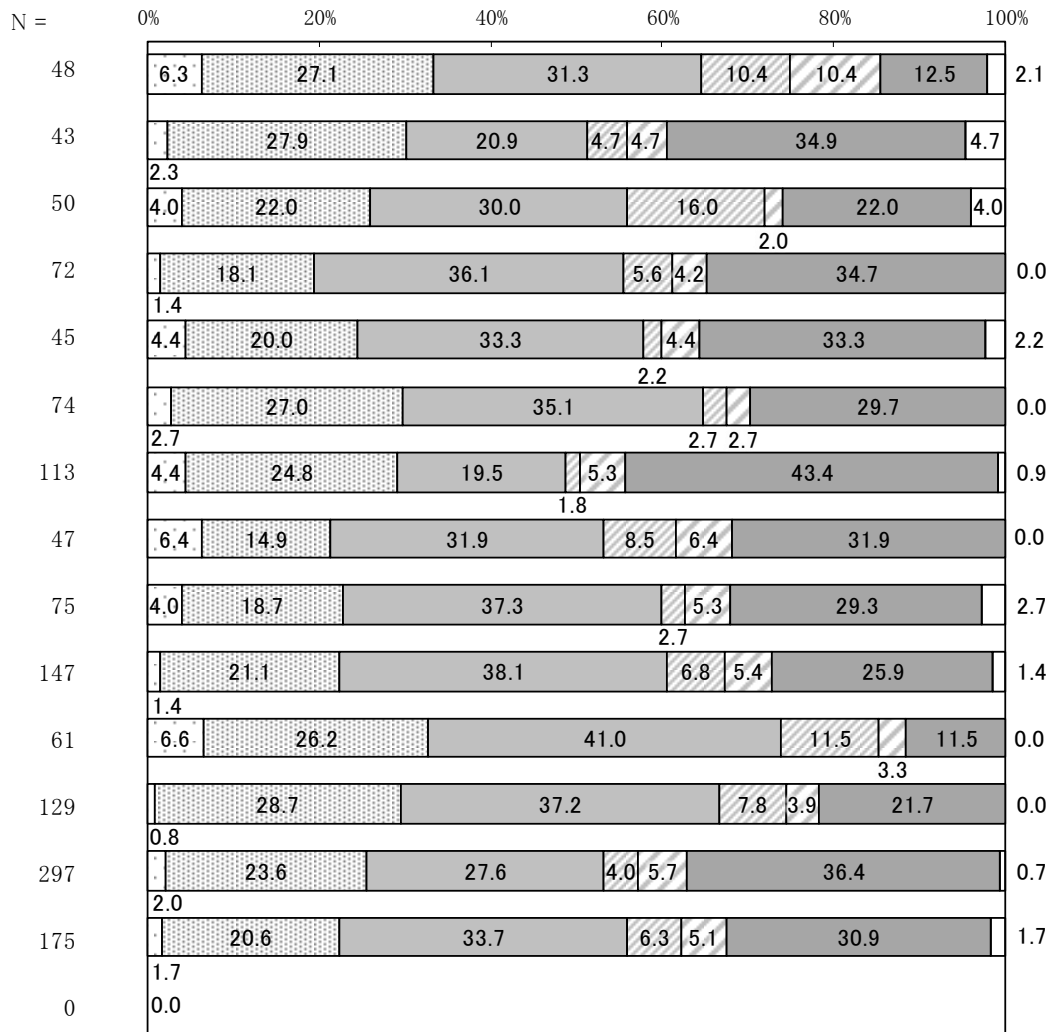
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

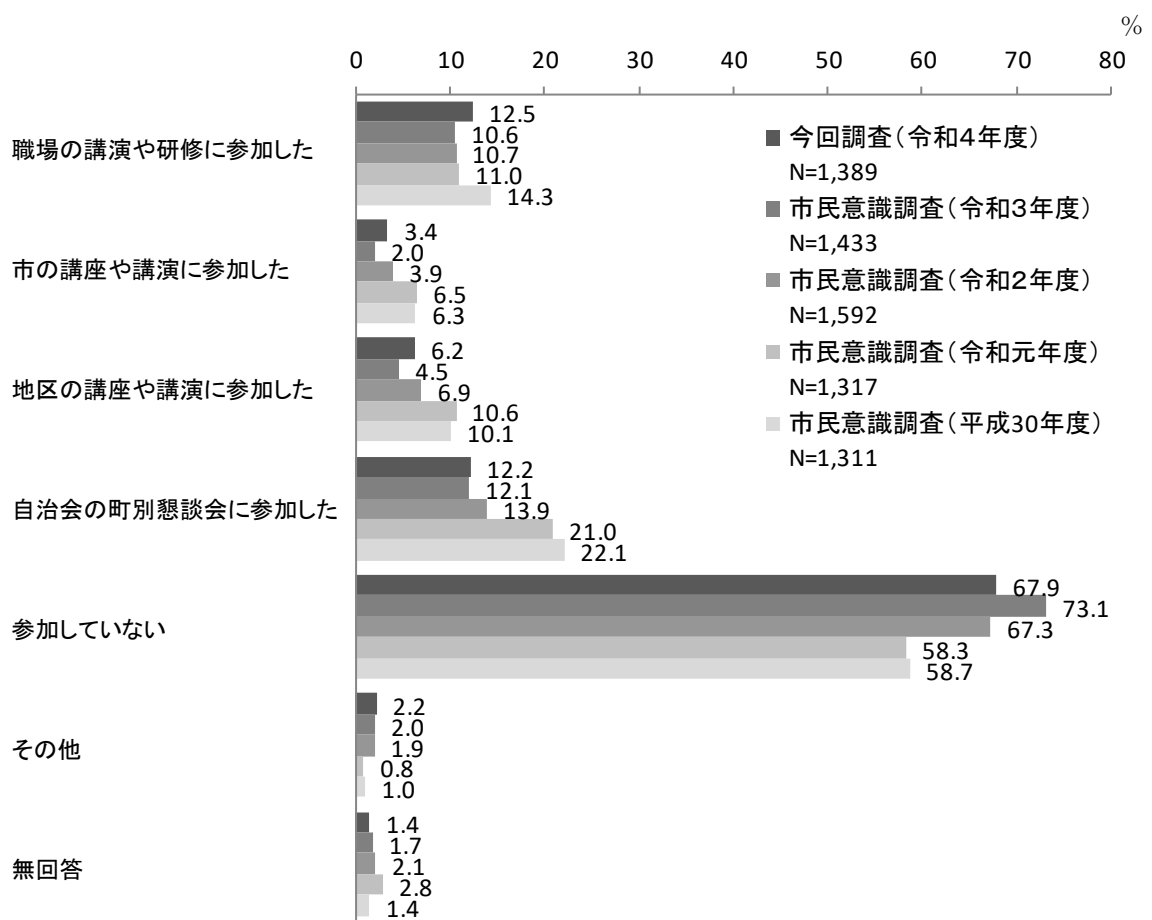


問 34 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

講座や講演、研修等に参加した人は3割

- この1年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加したかどうかについては、参加した人の割合*は30.7%、「参加していない」が67.9%、無回答が1.4%となっています。参加した講座等の内容は、「職場の講演や研修」が12.5%と最も多く、次いで「自治会の町別懇談会」が12.2%、「地区の講座や講演」が6.2%、「市の講座や講演」が3.4%と続きます。
- 過去の調査と比較すると、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染防止のため講座等の開催が見送られたことなどもあり、「参加していない」の割合が増加していましたが、「参加していない」の割合が昨年に比べ減少し、全ての項目について、参加した人の割合がやや増加しています。
- 性別では、女性より男性で人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、「自治会の町別懇談会」などへの参加が多くあげられています。
- 年代別では、年齢が上がるほど人権に関する講座等に参加した人の割合が高くなる傾向があり、その中でも「自治会の町別懇談会」などへの参加割合が高くなる傾向があります。一方、10～50歳代は「職場の講演や研修」への参加が多くあげられています。

*「参加していない」と「無回答」を除いた426件に係る有効回答数(1,389件)に対する割合



【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の 講演や 研修に 参加した	市の 講座や 講演に 参加した	地区の 講座や 講演に 参加した	自治会の 町別懇談会 に参加した	参加して いない	その他	無回答
男性	638	13.9	3.8	9.4	17.6	60.8	2.2	0.9
女性	717	11.3	3.1	3.2	6.8	74.8	2.1	1.7

【年代別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の 講演や 研修に 参加した	市の 講座や 講演に 参加した	地区の 講座や 講演に 参加した	自治会の 町別懇談会 に参加した	参加して いない	その他	無回答
10歳代	11	18.2	0.0	0.0	0.0	81.8	0.0	0.0
20歳代	91	17.6	1.1	0.0	0.0	82.4	1.1	0.0
30歳代	163	14.1	1.8	3.7	2.5	79.1	0.0	0.6
40歳代	208	15.9	4.8	2.4	7.2	71.2	1.0	1.0
50歳代	229	21.0	1.7	5.2	9.6	64.6	2.2	0.4
60歳代	282	13.1	6.7	8.2	18.1	63.5	2.8	0.4
70歳以上	401	2.7	2.5	10.0	19.5	63.3	3.5	3.7

【居住地区別】

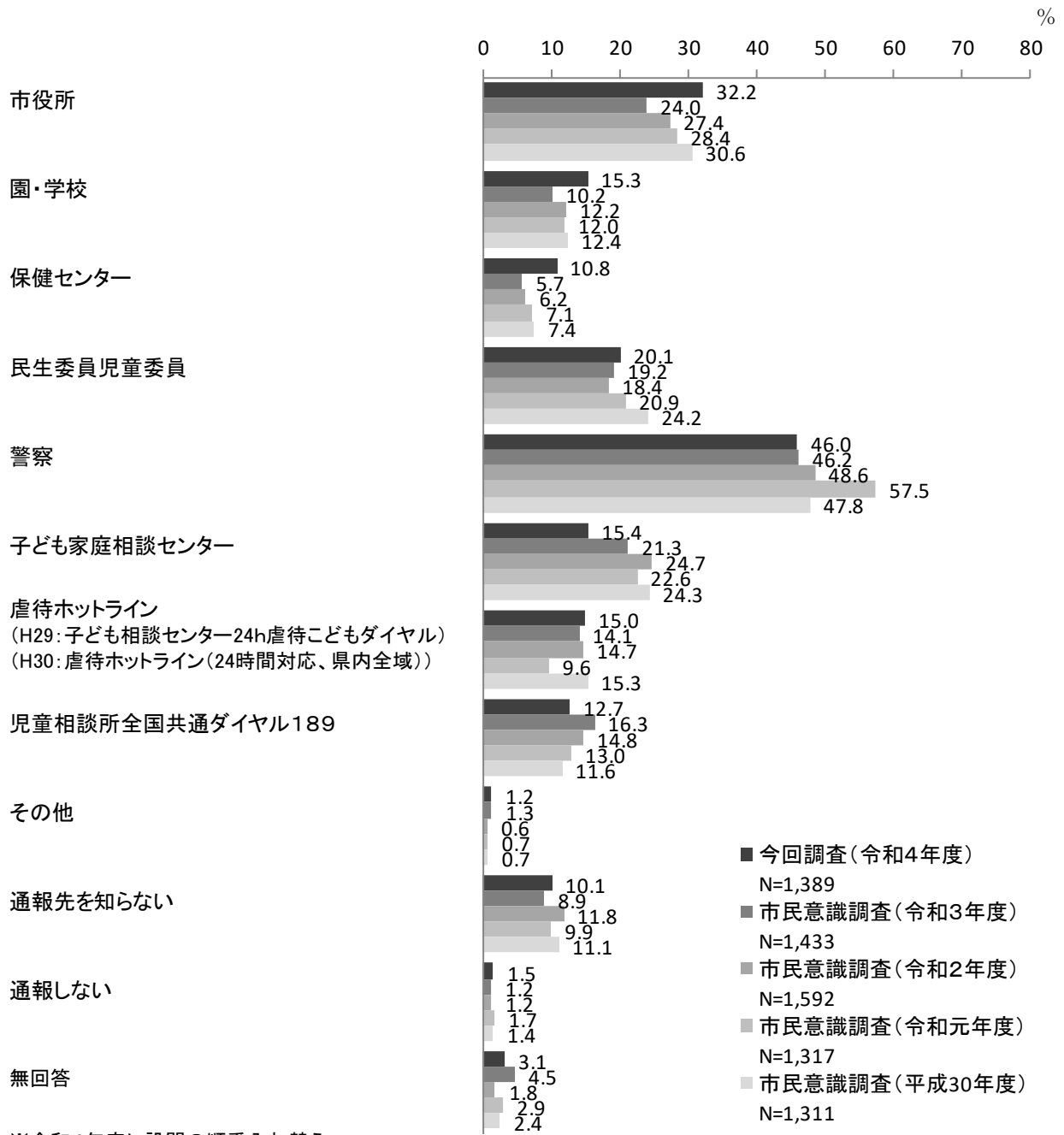
単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の 講演や 研修に 参加した	市の 講座や 講演に 参加した	地区の 講座や 講演に 参加した	自治会の 町別懇談会 に参加した	参加して いない	その他	無回答
平田地区	48	10.4	6.3	8.3	18.8	62.5	2.1	4.2
市辺地区	43	7.0	2.3	7.0	20.9	65.1	0.0	2.3
玉緒地区	50	4.0	4.0	4.0	8.0	74.0	2.0	6.0
御園地区	72	13.9	2.8	5.6	6.9	75.0	0.0	1.4
建部地区	45	20.0	4.4	2.2	26.7	46.7	4.4	0.0
中野地区	74	12.2	2.7	6.8	6.8	74.3	1.4	0.0
八日市地区	113	11.5	1.8	8.0	7.1	76.1	0.0	0.9
南部地区	47	17.0	0.0	2.1	8.5	72.3	0.0	0.0
永源寺地区	75	5.3	6.7	12.0	17.3	57.3	2.7	4.0
五個荘地区	147	8.2	2.0	4.8	10.2	74.8	2.0	2.0
愛東地区	61	11.5	1.6	11.5	23.0	57.4	0.0	0.0
湖東地区	129	15.5	4.7	7.0	16.3	59.7	3.9	0.8
能登川地区	297	15.5	3.7	5.4	13.5	65.3	3.7	1.3
蒲生地区	175	13.1	4.0	5.1	5.7	73.7	2.3	0.6
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-

問 35 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

通報先は、警察、市役所、民生委員児童委員、子ども家庭相談センター等

- ・ 児童虐待が疑われるときの通報先については、「警察」が 46.0%と最も多く、次いで「市役所」が 32.2%、「民生委員児童委員」が 20.1%、「子ども家庭相談センター」が 15.4%と続きます。一方、「通報先を知らない」は 10.1%と 1 割、「通報しない」は 1.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、設問の順番変更による影響も考えられますが、減少傾向にあった「市役所」、「園・学校」「保健センター」などの割合が増加し、増加傾向にあった「児童相談所全国共通ダイヤル 189」の割合は減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「警察」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、「警察」が 10～20 歳代で、「子ども家庭相談センター」が 10 歳代と 30 歳代で、「虐待ホットライン」が 30～50 歳代で、「児童相談所全国共通ダイヤル 189」が 20 歳代で、「民生委員児童委員」が 60 歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区で「市役所」と「警察」が同率で最も多く、ほかの地区では「警察」が最も多くあげられています。中野地区、永源寺地区で「園・学校」が、永源寺地区、平田地区、湖東地区で「民生委員児童委員」が、愛東地区、市辺地区、永源寺地区で「子ども家庭相談センター」が、ほかの地区より多くあげられています。



※令和4年度に設問の順番入れ替え

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	市役所	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	警察	子ども家庭相談センター	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
男性	638	33.9	14.4	8.0	19.9	50.6	13.3	15.0	10.3	1.7	9.7	0.9	2.0
女性	717	31.0	16.6	13.7	19.8	42.1	16.9	14.8	14.5	0.8	10.6	2.1	3.5

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	市役所	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	警察	子ども家庭相談センター	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
10歳代	11	9.1	9.1	9.1	0.0	54.5	27.3	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1	9.1
20歳代	91	24.2	8.8	12.1	2.2	51.6	15.4	19.8	24.2	0.0	15.4	0.0	0.0
30歳代	163	27.6	20.9	19.0	4.9	44.8	20.2	20.2	17.2	1.8	10.4	2.5	3.1
40歳代	208	34.6	17.3	13.5	3.8	48.6	17.3	21.2	12.5	0.5	8.7	1.4	2.9
50歳代	229	29.7	11.4	13.5	13.5	47.2	17.0	20.5	14.8	0.9	10.9	1.7	2.6
60歳代	282	35.5	16.7	6.4	24.8	44.7	14.2	14.2	11.7	1.1	10.6	1.1	2.5
70歳以上	401	34.7	15.2	7.5	39.4	44.1	12.0	6.2	8.0	2.0	8.2	1.5	4.5

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	市役所	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	警察	子ども家庭相談センター	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
平田地区	48	20.8	10.4	6.3	29.2	39.6	10.4	18.8	14.6	0.0	10.4	2.1	4.2
市辺地区	43	30.2	14.0	4.7	16.3	46.5	23.3	16.3	11.6	4.7	4.7	0.0	4.7
玉緒地区	50	30.0	16.0	14.0	24.0	44.0	14.0	12.0	8.0	0.0	14.0	2.0	2.0
御園地区	72	29.2	12.5	11.1	16.7	54.2	13.9	18.1	15.3	0.0	6.9	1.4	2.8
建部地区	45	35.6	13.3	8.9	8.9	42.2	15.6	8.9	20.0	2.2	13.3	2.2	4.4
中野地区	74	36.5	27.0	18.9	12.2	59.5	14.9	12.2	14.9	1.4	5.4	1.4	0.0
八日市地区	113	28.3	8.8	10.6	12.4	48.7	17.7	19.5	16.8	1.8	12.4	0.9	4.4
南部地区	47	29.8	12.8	4.3	4.3	48.9	17.0	14.9	12.8	0.0	12.8	0.0	2.1
永源寺地区	75	40.0	26.7	10.7	36.0	40.0	22.7	12.0	12.0	1.3	8.0	1.3	4.0
五個荘地区	147	32.7	15.0	10.9	22.4	51.0	16.3	21.8	9.5	2.0	8.8	0.7	3.4
愛東地区	61	32.8	14.8	13.1	16.4	41.0	24.6	16.4	14.8	0.0	3.3	6.6	1.6
湖東地区	129	37.2	17.8	12.4	28.7	41.1	17.1	12.4	11.6	0.0	10.1	2.3	1.6
能登川地区	297	29.0	11.1	8.4	22.6	43.8	11.4	13.1	11.1	1.0	13.8	0.3	3.4
蒲生地区	175	34.9	19.4	13.7	17.1	45.1	12.6	14.3	13.1	2.3	8.6	2.9	3.4
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(6) 都市整備について

問 36 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

総合評価は、主要幹線道路、河川、公園、地域の生活道路、雨水排水の順

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比べると、いずれも満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足（前述）とする人が多い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備となっています。一方、不満（前述）とする人が多い項目は②地域の生活道路の整備、①主要幹線道路の整備、④雨水排水の整備となっています。
- ・ 満足と不満の両方から見た総合的な評価（加重平均）の高い順は、①主要幹線道路の整備、③河川の整備、⑤公園の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、総合評価では、③河川の整備では評価が上がっていますが、ほかの項目では評価が下がっており、特に②地域の生活道路、④雨水排水の整備ではプラス評価からマイナス評価へと転じています。

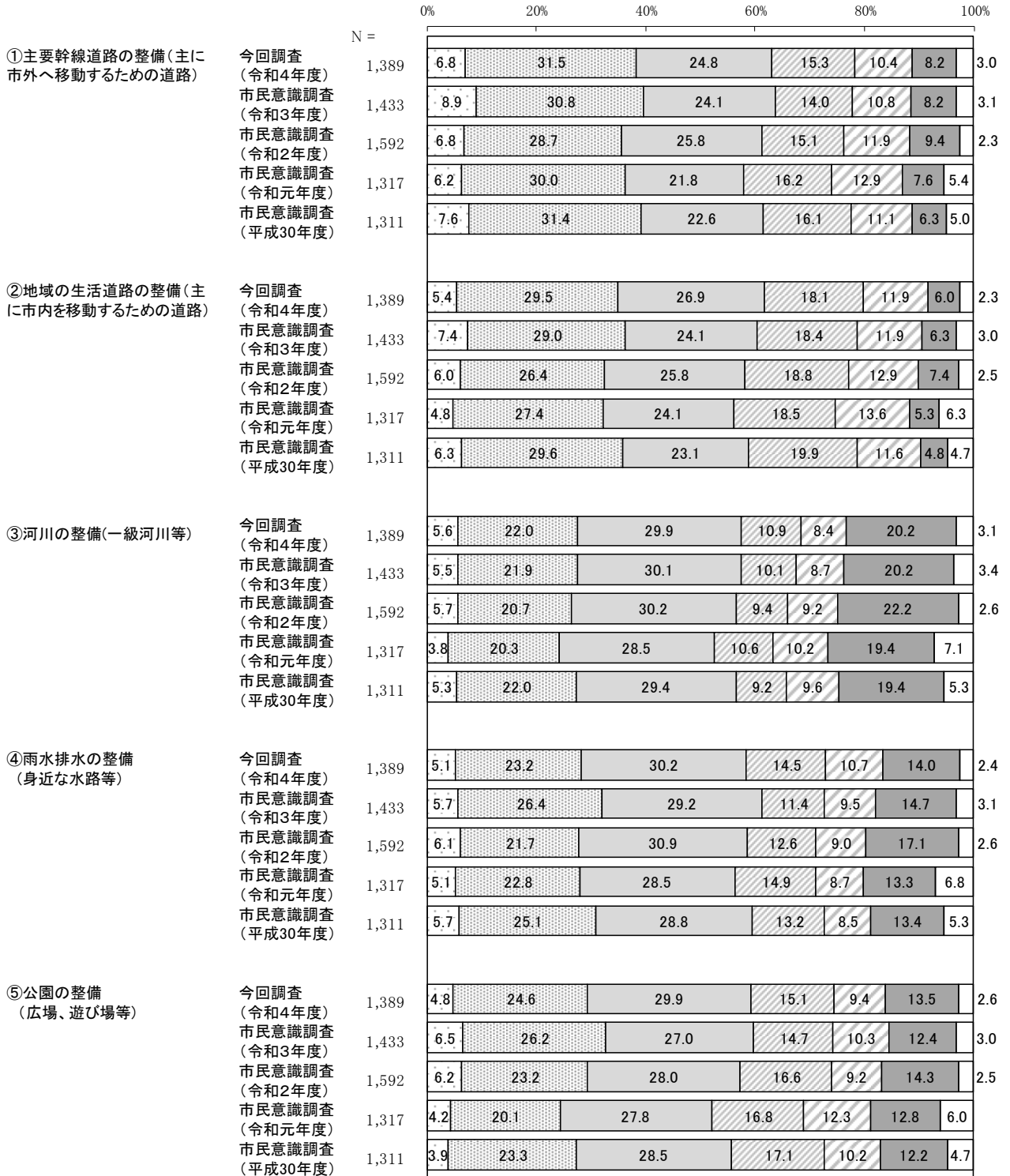
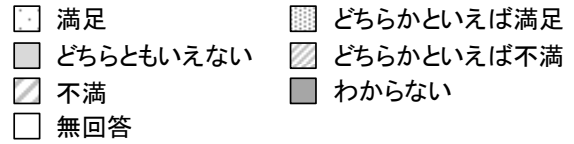
	満足*	不満*	加重平均*
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	38.3% (-1.4)	25.7% (+0.9)	0.090 (-0.040)
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	34.9% (-1.5)	30.0% (-0.3)	-0.015 (-0.032)
③河川の整備(一級河川等)	27.6% (+0.2)	19.3% (+0.5)	0.066 (+0.011)
④雨水排水の整備(身近な水路等)	28.3% (-3.8)	25.2% (+4.3)	-0.024 (-0.097)
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	29.4% (-3.3)	24.5% (-0.5)	0.001 (-0.038)

* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

* 不満:「どちらかといえば不満」と「不満」の合計

* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加算し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。

※()内の数値は令和3年度調査との差を示している。



①主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度（加重平均による総合評価、以下同様）が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、20歳代で満足度が高く、50歳以上で満足度が低くなっています（50歳代はマイナス評価）。
- ・ 居住地区別では、能登川地区、建部地区、愛東地区などで満足度が高く、平田地区、市辺地区、玉緒地区、南部地区などで満足度が低くマイナス評価となっています。

②地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、30歳代まで満足度が高く、40～60歳代で満足度が低くマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、八日市地区、愛東地区、能登川地区で満足度が高く、平田地区、永源寺地区、市辺地区、中野地区、蒲生地区、南部地区などで満足度が低くマイナス評価となっています。

③河川の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までで満足度が高く（30歳代が最も高い。）、60歳以上で満足度が低くマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区、八日市地区、市辺地区、能登川地区、建部地区などで満足度が高く、永源寺地区、平田地区などで満足度が低くマイナス評価となっています。

④雨水排水の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男女ともにマイナス評価）。
- ・ 年代別では、10～30歳代で満足度が高く、50歳以上で満足度が低くマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、愛東地区などで満足度が高く、平田地区、永源寺地区、中野地区、五個荘地区、蒲生地区などで満足度が低くマイナス評価となっています。

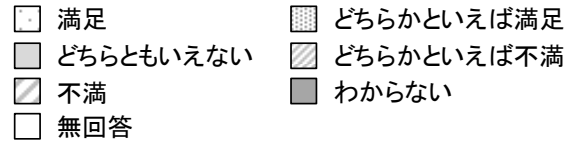
⑤公園の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、10歳代で満足度が高く、20歳代、50～60歳代で満足度が低くマイナス評価となっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、能登川地区、市辺地区などで満足度が高く、平田地区、蒲生地区、永源寺地区、愛東地区、玉緒地区などで満足度が低くマイナス評価となっています。

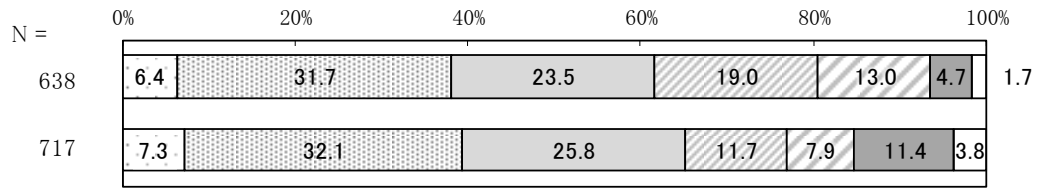
■性別・年代別・居住地区別の比較(加重平均)

	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体	0.090	-0.015	0.056	-0.024	0.001
男性	-0.005	-0.094	-0.003	-0.031	-0.009
女性	0.190	0.059	0.123	-0.008	0.018
10歳代	0.182	0.273	0.273	0.364	0.455
20歳代	0.253	0.110	0.231	0.198	-0.121
30歳代	0.172	0.141	0.276	0.178	0.080
40歳代	0.125	-0.048	0.212	0.005	0.067
50歳代	-0.004	-0.188	0.105	-0.057	-0.022
60歳代	0.067	-0.092	-0.138	-0.213	-0.149
70歳以上	0.067	0.060	-0.052	-0.030	0.067
平田地区	-0.354	-0.375	-0.146	-0.250	-0.271
市辺地区	-0.279	-0.163	0.163	0.163	0.140
玉緒地区	-0.140	-0.080	0.020	0.020	-0.100
御園地区	0.056	0.042	0.042	0.056	-0.014
建部地区	0.244	0.133	0.111	0.000	-0.067
中野地区	-0.014	-0.135	0.068	-0.162	-0.068
八日市地区	0.115	0.115	0.168	-0.009	0.062
南部地区	-0.128	-0.106	0.213	0.043	-0.064
永源寺地区	-0.067	-0.253	-0.173	-0.173	-0.133
五個荘地区	0.116	0.000	0.020	-0.129	-0.068
愛東地区	0.230	0.115	-0.049	0.148	-0.131
湖東地区	0.140	0.023	0.023	-0.054	0.233
能登川地区	0.300	0.108	0.138	0.077	0.141
蒲生地区	0.023	-0.120	-0.006	-0.109	-0.211

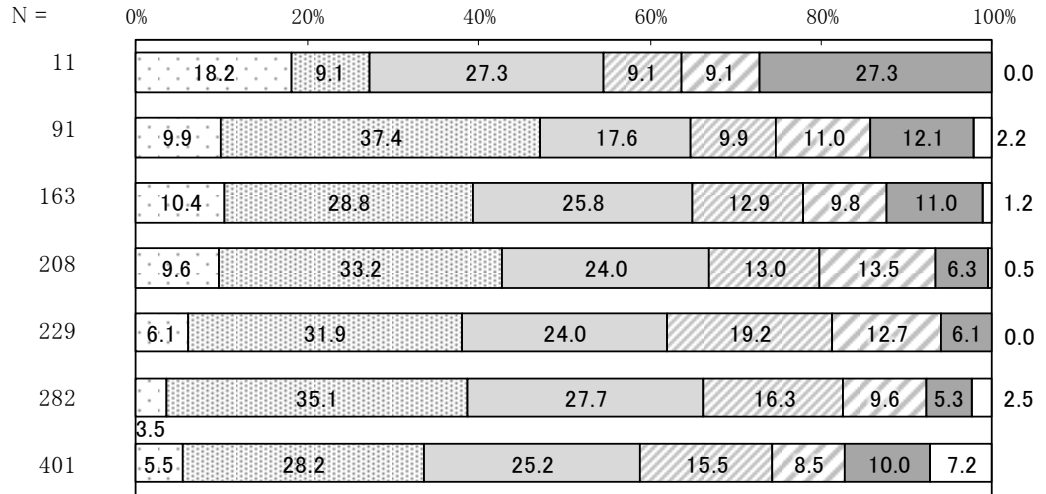
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)



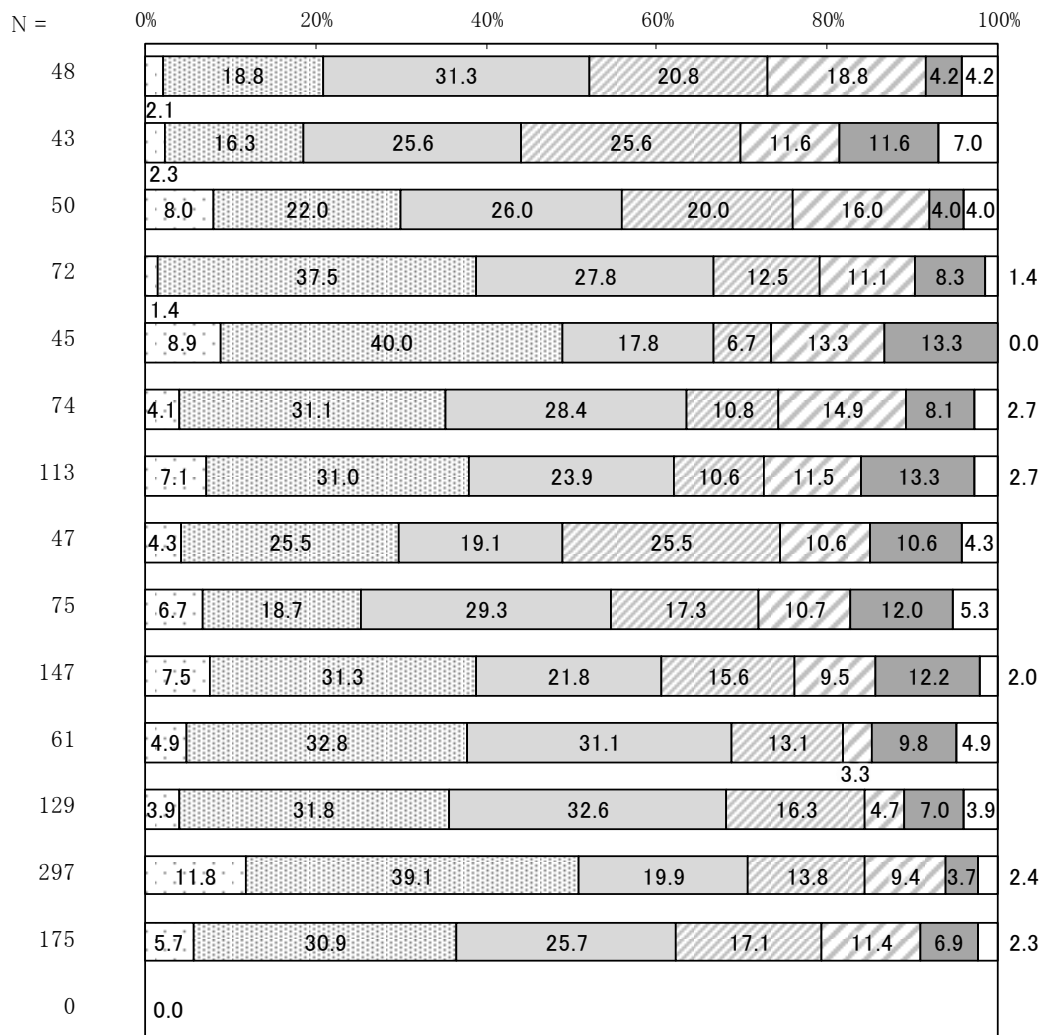
【性別】



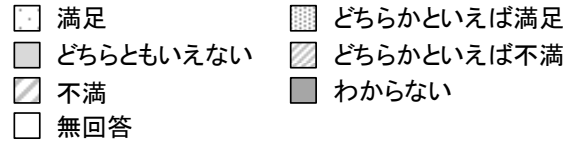
【年代別】



【居住地区別】



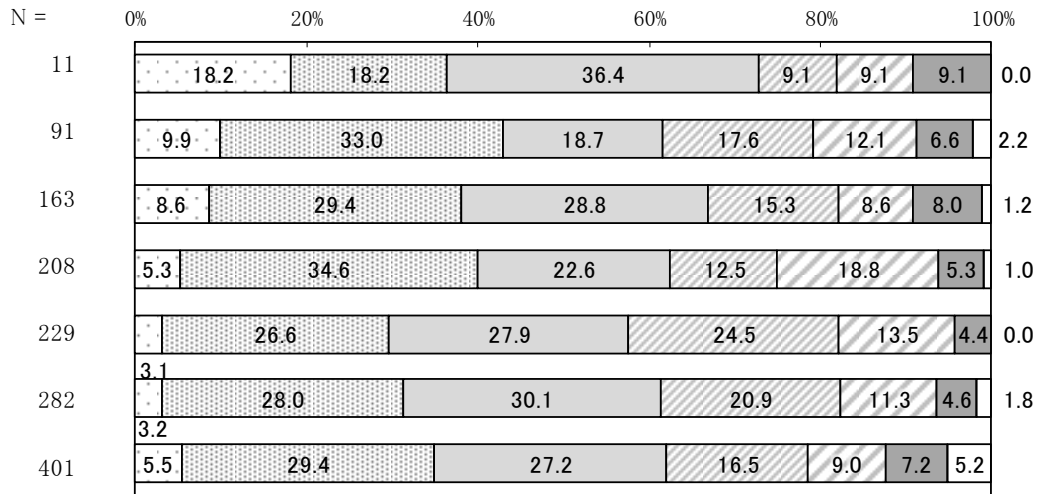
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)



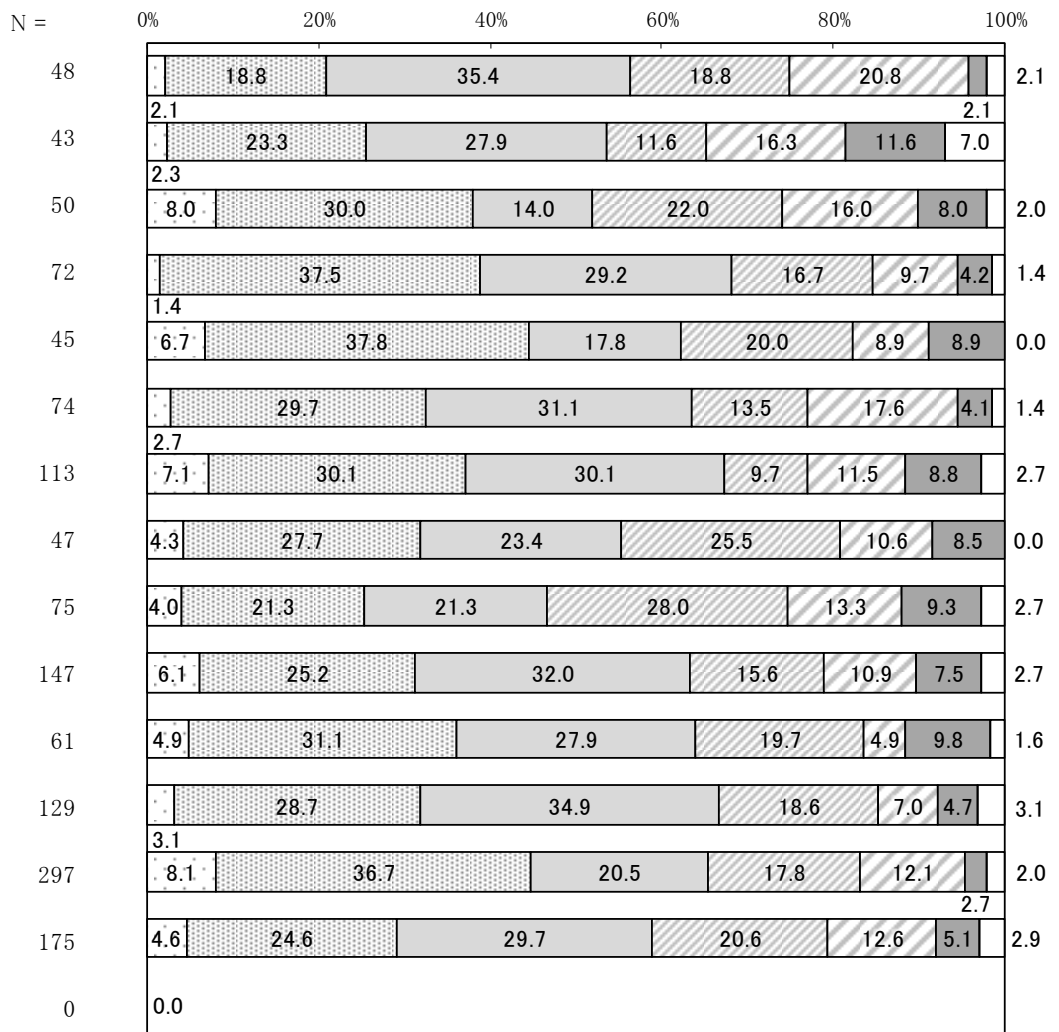
【性別】



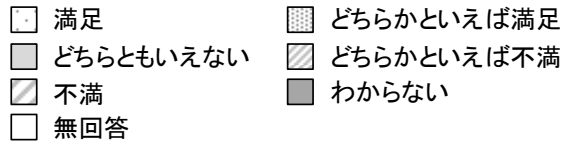
【年代別】



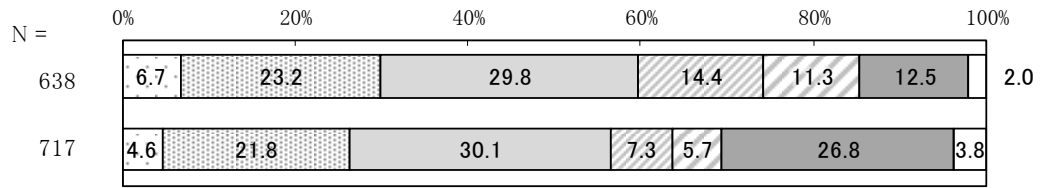
【居住地区別】



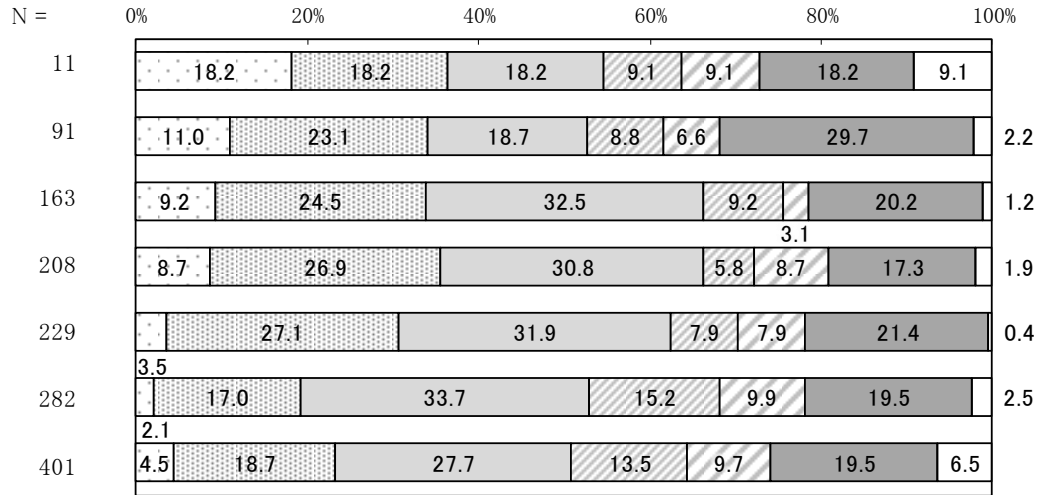
③河川の整備(一級河川等)



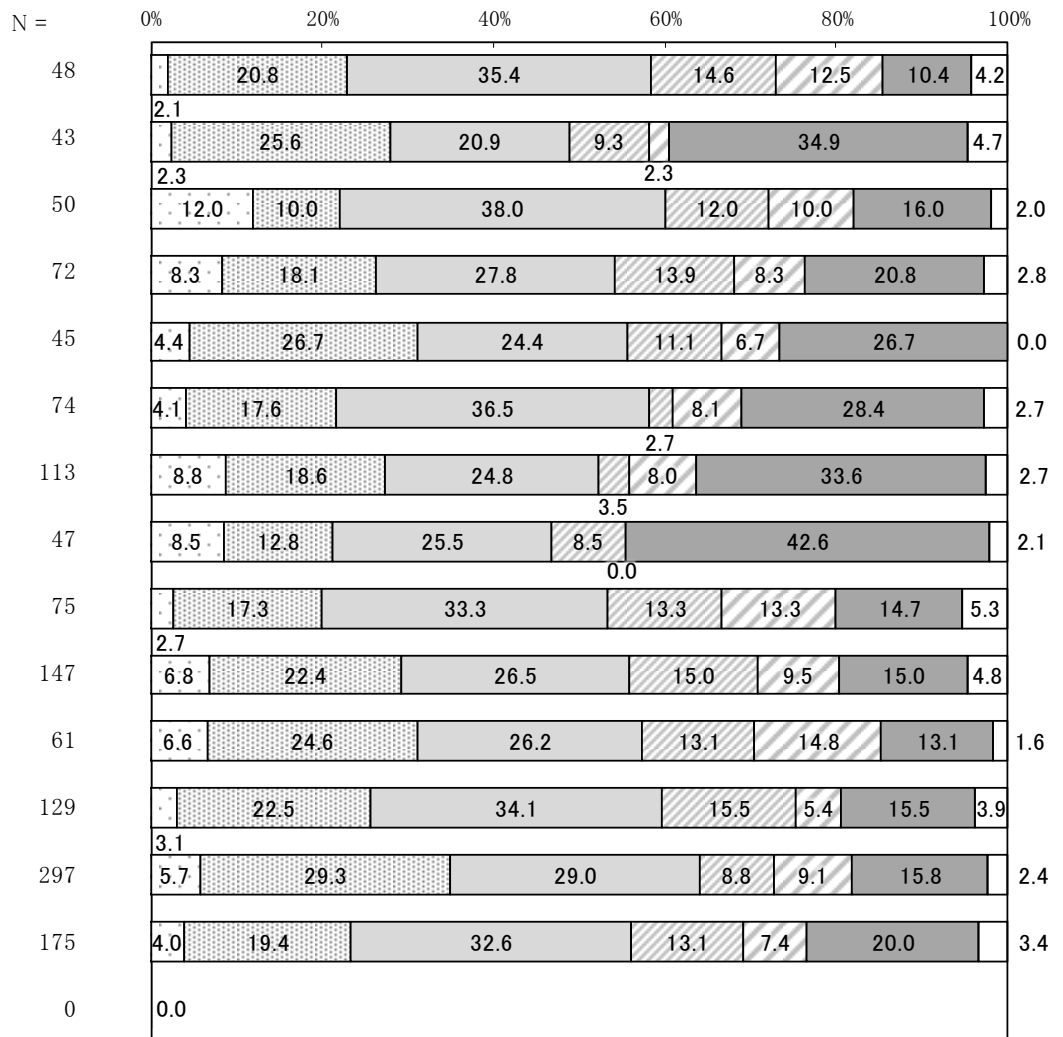
【性別】



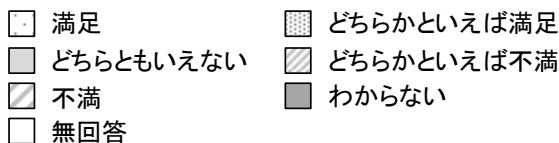
【年代別】



【居住地区別】



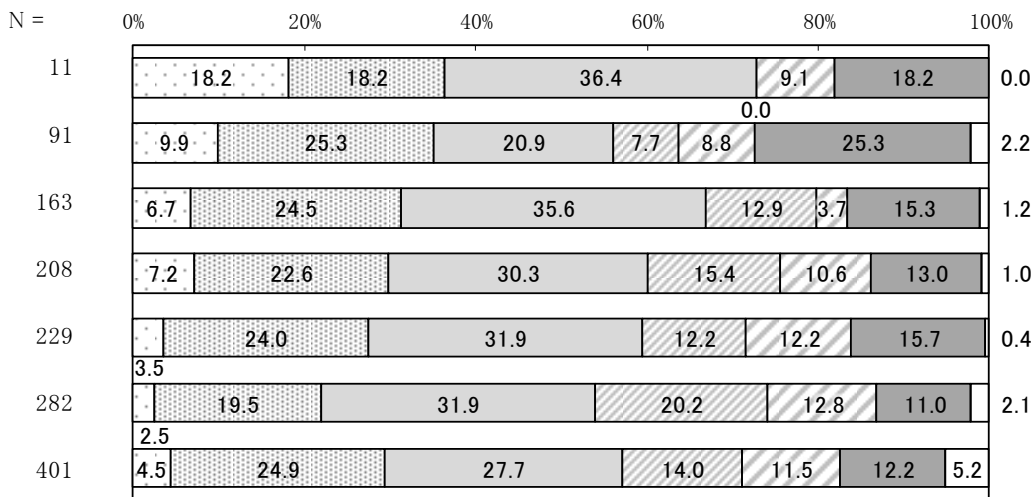
④雨水排水の整備(身近な水路等)



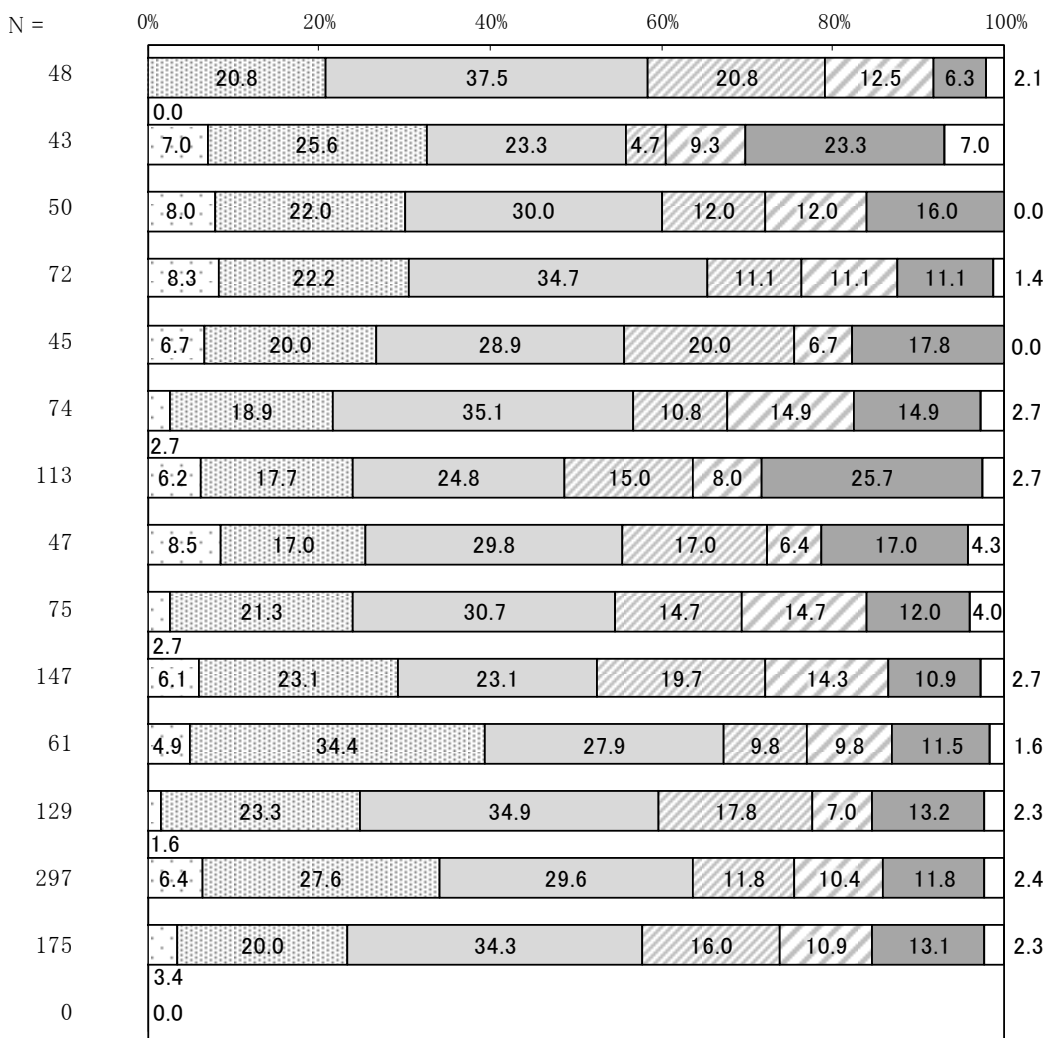
【性別】



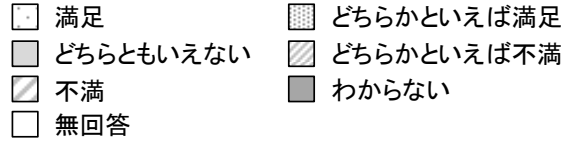
【年代別】



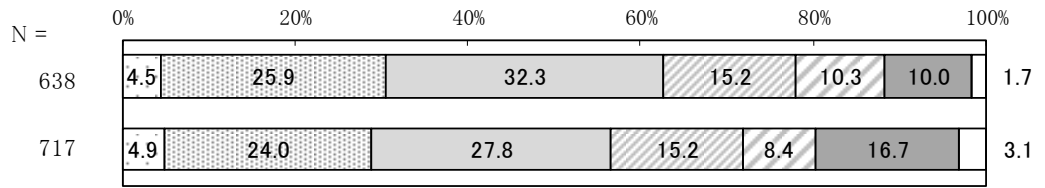
【居住地区別】



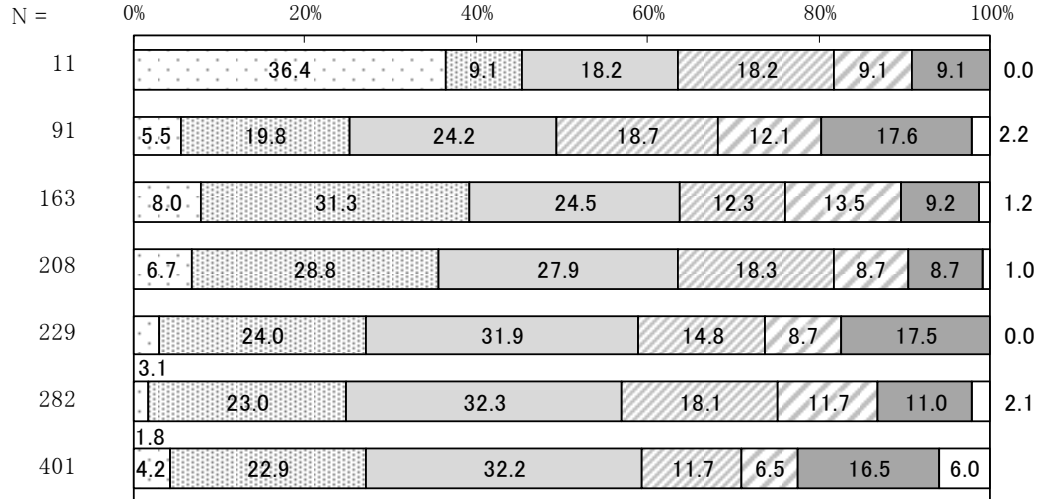
⑤公園の整備(広場、遊び場等)



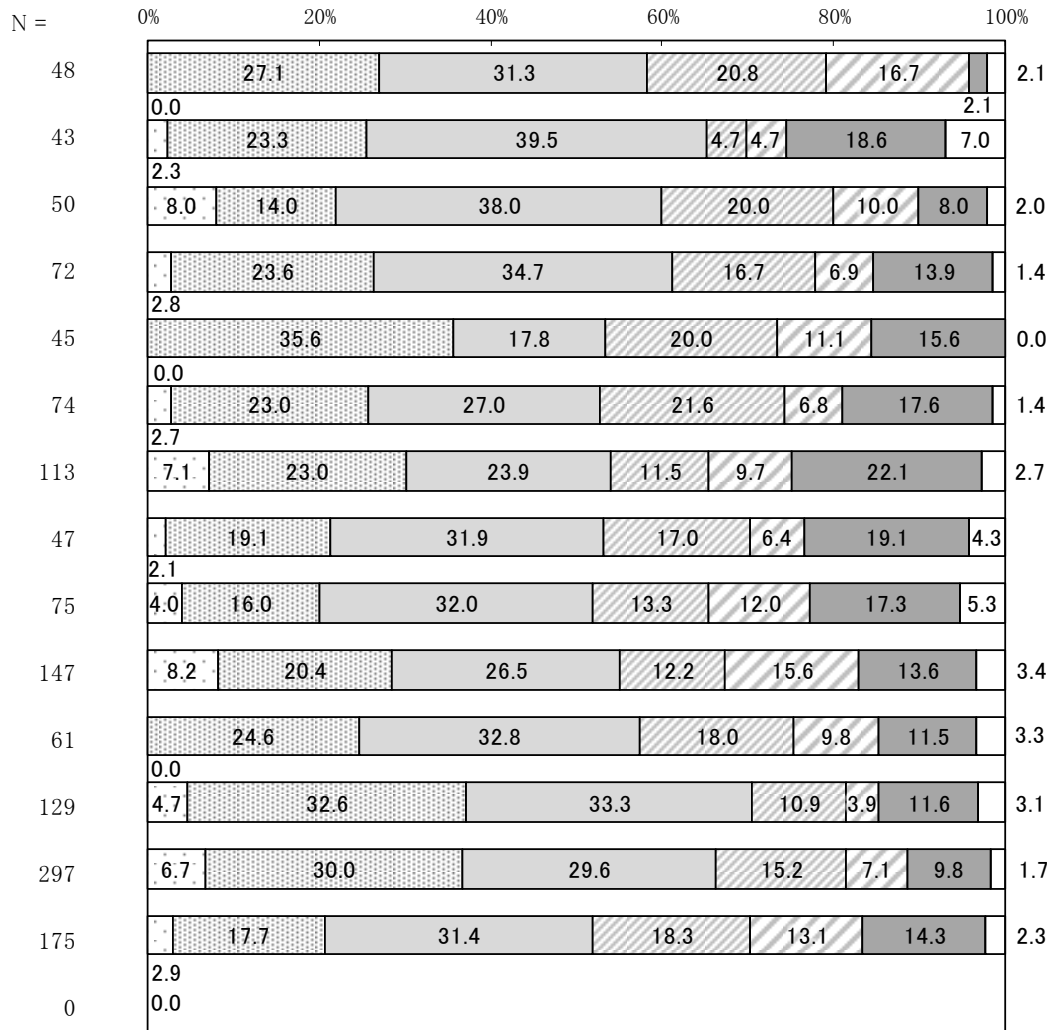
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(7) 購買状況等について

問 37 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入、衣料品は4割が市外で購入

- 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、主に「東近江市内」で購入している人が①食品は8割(81.7%)、②日用雑貨品は7割(71.6%)となっています。一方、③衣料品については、4割(41.8%)が市外(カタログ通販やネットショッピング、その他を除く)で購入しており、その内訳としては「近江八幡市」が15.5%、「彦根市」が5.8%、「県外」が4.1%などとなっています。
- 過去の調査と比較すると、変動はあるものの過去5年間、①食品の購入先は「市内」がおおむね8割となっています。②日用雑貨品や③衣料品の購入先として、「ネットショッピング」の割合が増加傾向にあります。

単位: %

		全体	市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	その他 県内市町	県外	カタログ通販	ネット ショッピング	その他	無回答
①食品	今回調査 (令和4年度)	1,389	81.7	4.0	2.5	2.4	4.8	0.2	0.4	0.4	0.9	2.6
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	81.5	4.2	2.4	2.5	5.2	0.0	0.3	0.4	1.1	2.4
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	82.7	3.2	2.1	2.2	5.4	0.3	0.4	0.2	0.8	2.8
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	81.5	3.2	2.7	2.2	3.6	0.2	0.5	0.4	1.4	4.3
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	79.8	3.2	2.4	2.6	4.1	0.3	0.5	0.5	0.9	5.6
②日用雑貨品	今回調査 (令和4年度)	1,389	71.6	7.3	2.9	2.8	6.0	0.8	0.6	4.2	0.6	3.1
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	73.6	6.3	3.3	2.7	6.6	0.3	0.2	3.7	0.8	2.6
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	74.3	5.5	2.9	2.4	6.5	0.6	0.5	2.9	0.6	3.8
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	73.3	6.2	2.9	1.7	6.1	0.4	0.4	3.0	1.1	5.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	70.9	5.9	4.0	2.9	5.3	1.1	0.4	2.2	0.8	6.5
③衣料品	今回調査 (令和4年度)	1,389	37.1	15.5	5.8	1.9	14.5	4.1	2.9	11.7	1.5	5.0
	市民意識調査 (令和3年度)	1,433	38.0	16.6	5.2	2.8	14.8	4.4	2.7	9.4	1.4	4.7
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	35.5	19.0	5.3	1.5	15.9	5.7	2.6	8.5	1.1	4.9
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	36.6	14.2	6.2	1.7	16.7	6.9	2.6	6.1	1.9	7.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	39.8	14.6	4.9	2.1	14.1	6.0	2.7	4.9	1.1	9.7

①食品

- 性別、年代別、居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。平田地区では同率で「近江八幡市」も多くなっています。
- 年代別では、市内で購入している人の割合が、30歳代、50歳以上で8割以上となっています。
- 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、御園地区、愛東地区、玉緒地区、中野地区、南部地区、八日市地区で9割以上となっています。そのほか、蒲生地区で「甲賀市」が、平田地区、湖東地区、蒲生地区で「その他県内市町」が、ほかの地区より多くあげられています。

②日用雑貨品

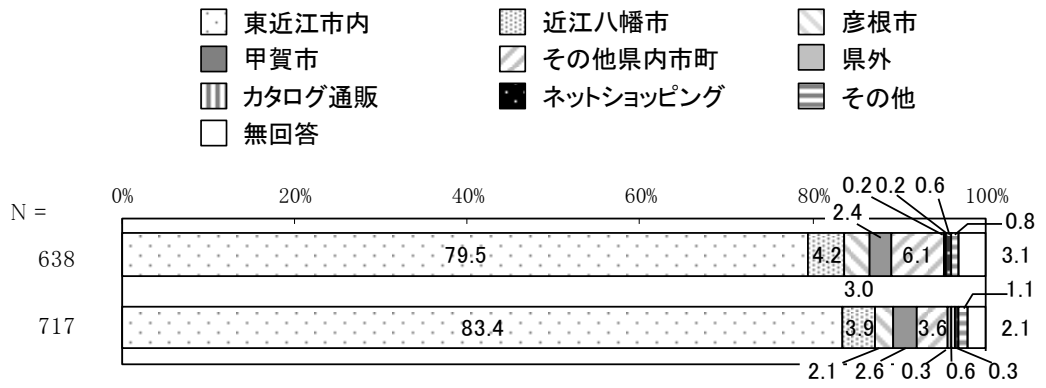
- ・ 性別、年代別、平田地区を除く居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。平田地区では「近江八幡市」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、市内で購入している人の割合が、60歳以上は7割以上となっています。そのほか、10～40歳代で「近江八幡市」がほかの年代より多くあげられています。「ネットショッピング」は年齢が若いほど多くなる傾向があります。
- ・ 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、中野地区、愛東地区、建部地区、玉緒地区で9割近くとなっています。そのほか、蒲生地区で「甲賀市」が、平田地区、能登川地区で「近江八幡市」が、蒲生地区、湖東地区で「その他県内市町」が、ほかの地区より多くあげられています。

③衣料品

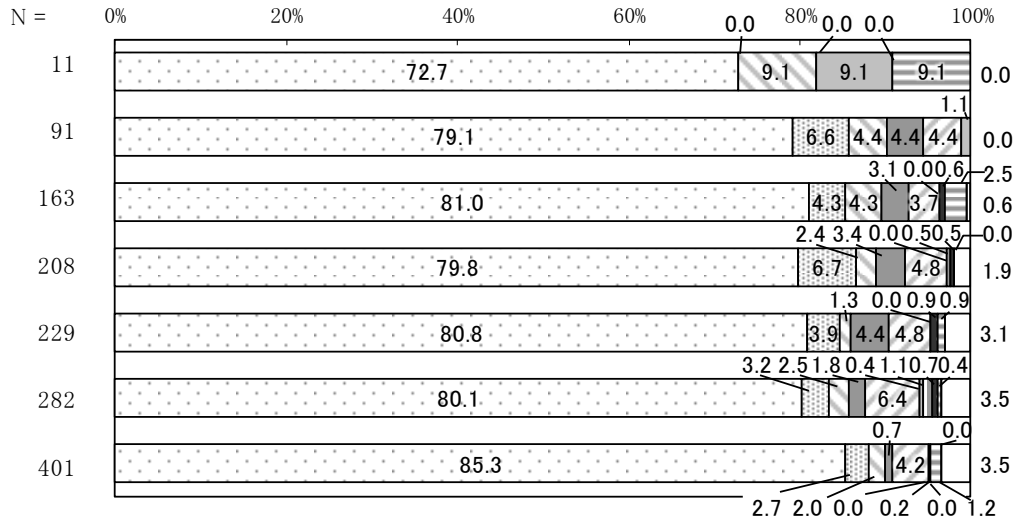
- ・ 年代別では、20歳代までで「近江八幡市」が、50歳以上で「市内」が最も多くなっています。20歳以上で年齢が上がるほど市内の割合が高くなる傾向があり、70歳以上は6割近くとなっています。また、20～40歳代で「ネットショッピング」の割合が高く、特に30歳代では3割となっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、能登川地区で「近江八幡市」が、そのほかの地区で「市内」が最も多くなっています。そのほか、市辺地区、建部地区でも「近江八幡市」が、能登川地区で「彦根市」が、蒲生地区で「甲賀市」が、平田地区、蒲生地区、玉緒地区で「その他県内市町」がほかの地区より多くあげられています。

①食品

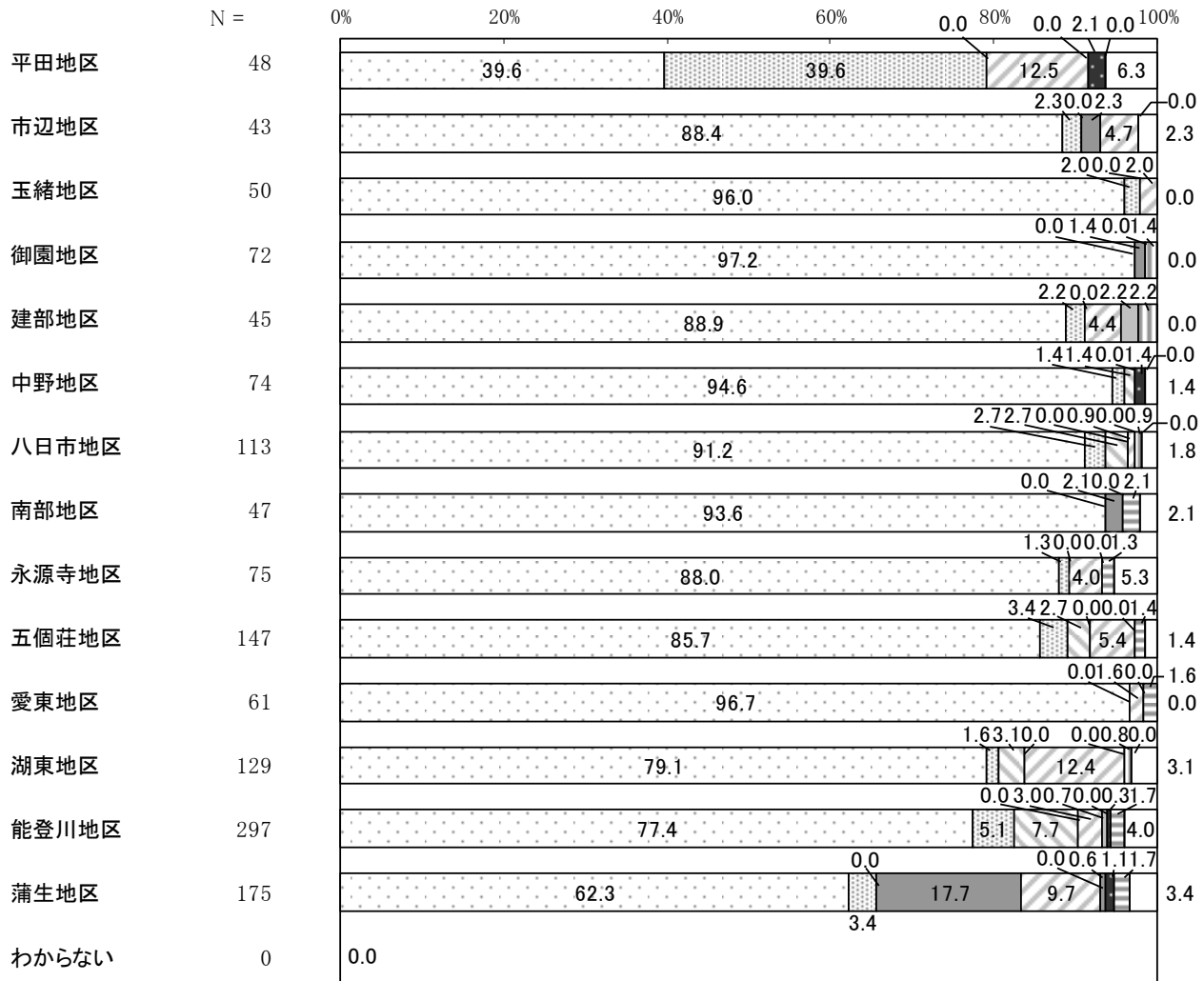
【性別】



【年代別】

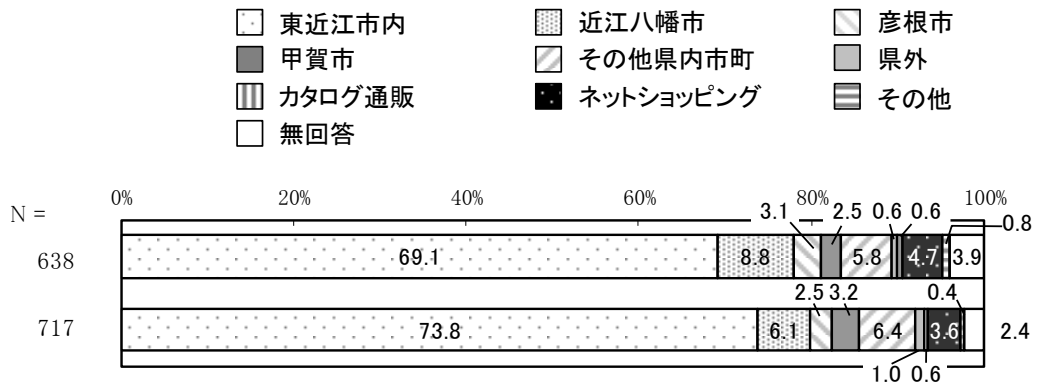


【居住地区別】

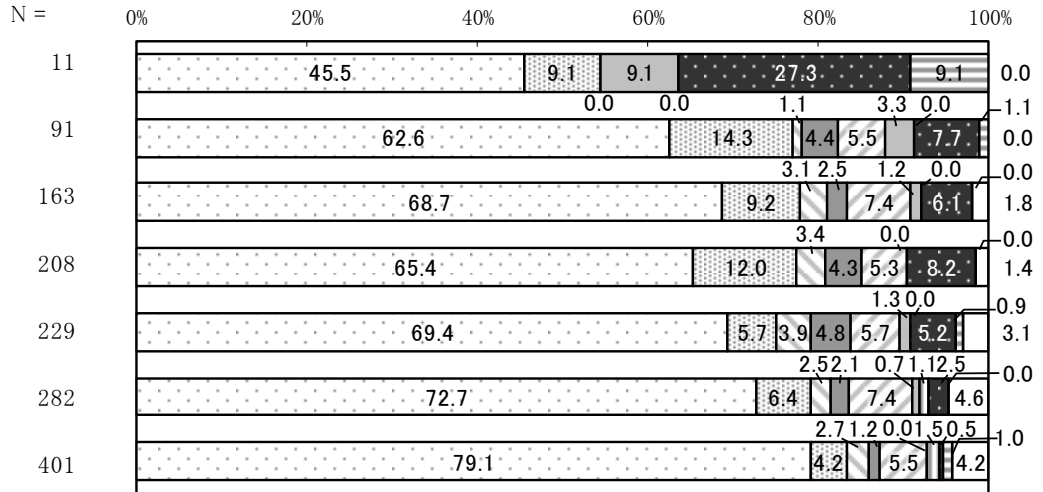


②日用雑貨品

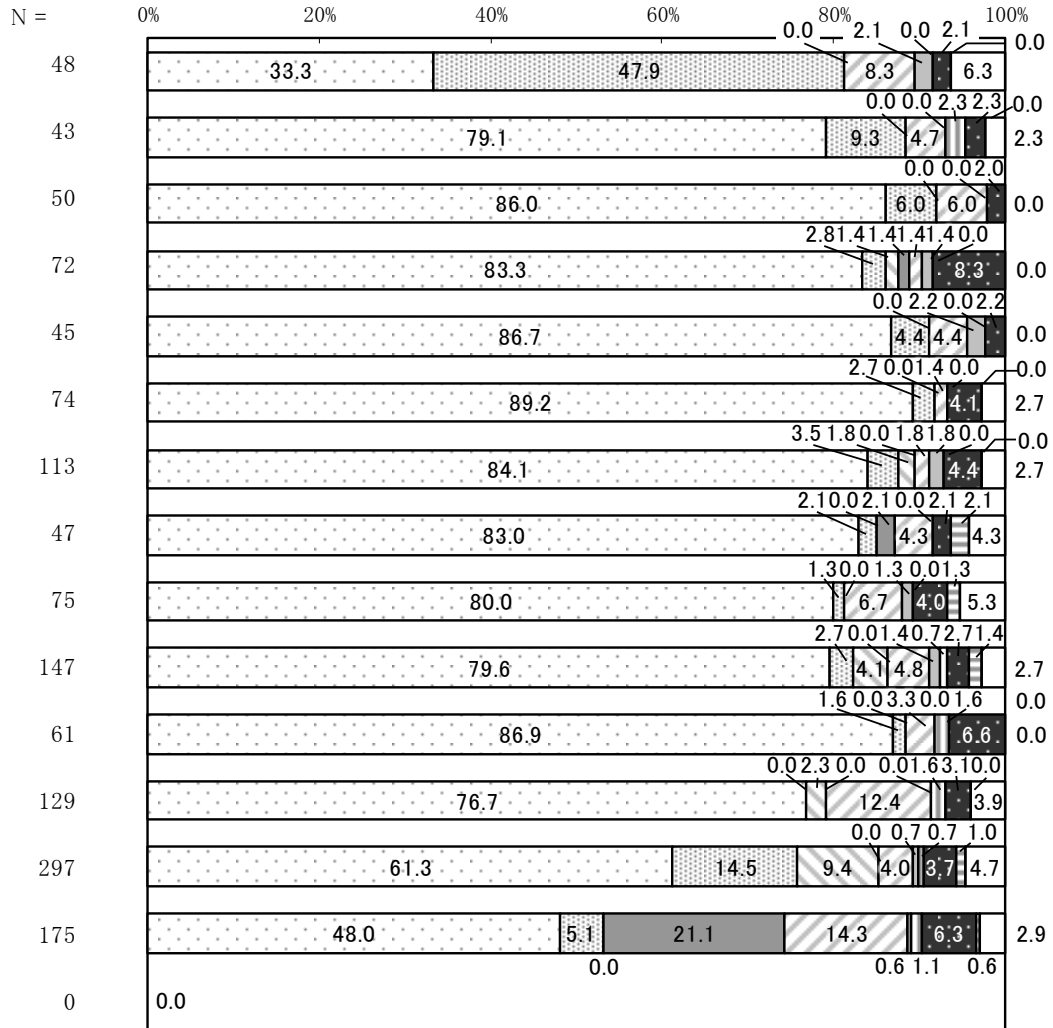
【性別】



【年代別】

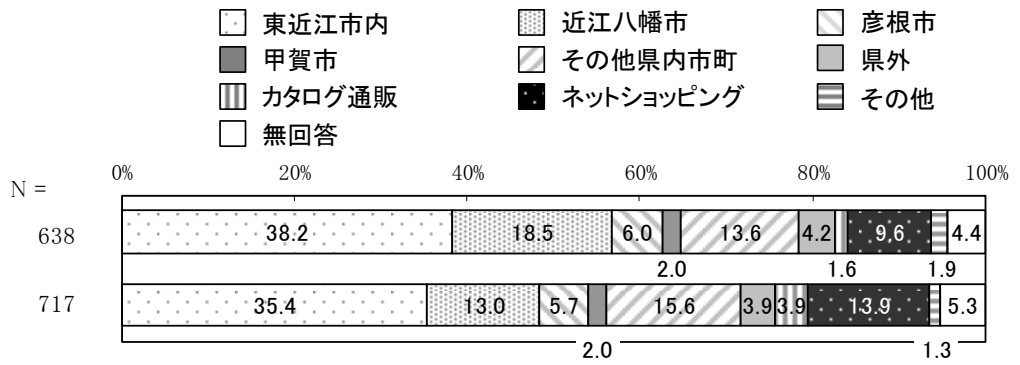


【居住地区別】

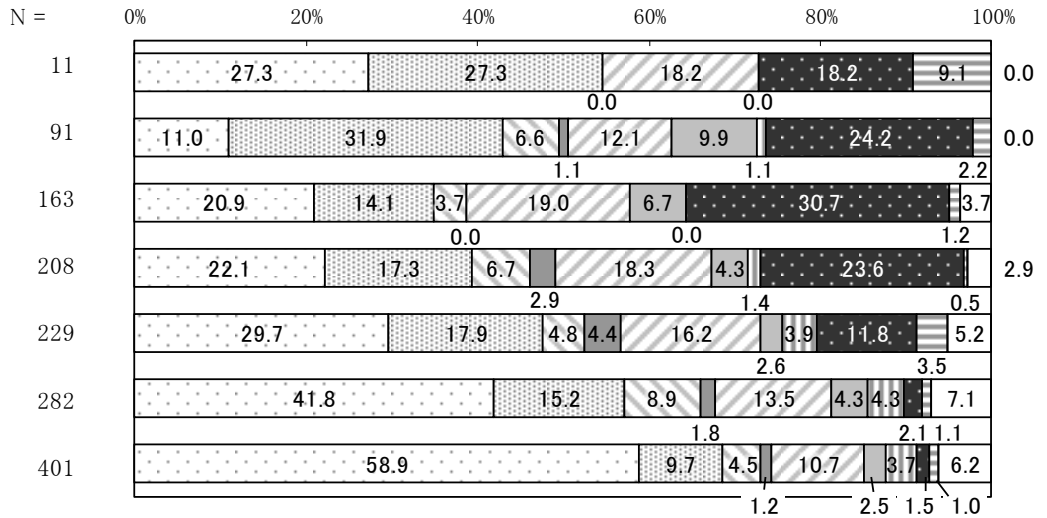


③衣料品

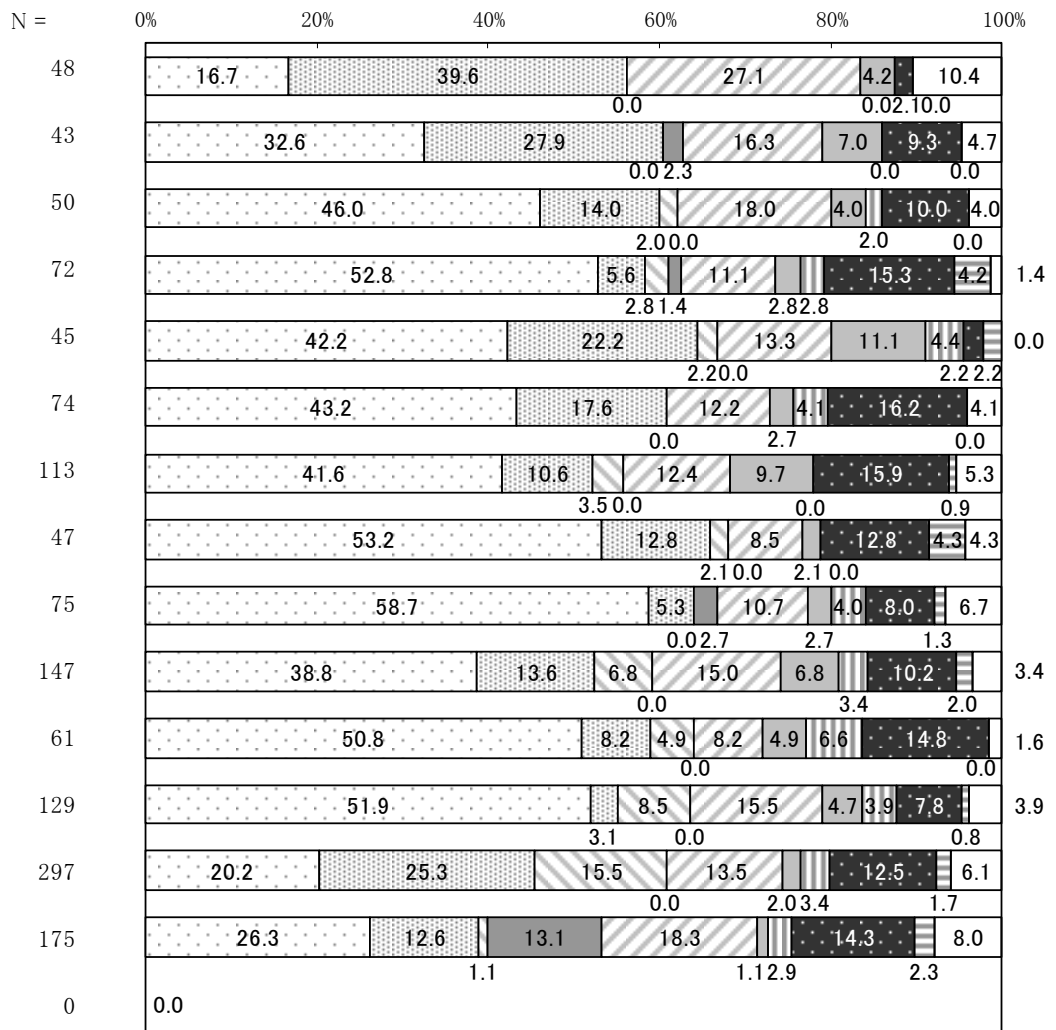
【性別】



【年代別】



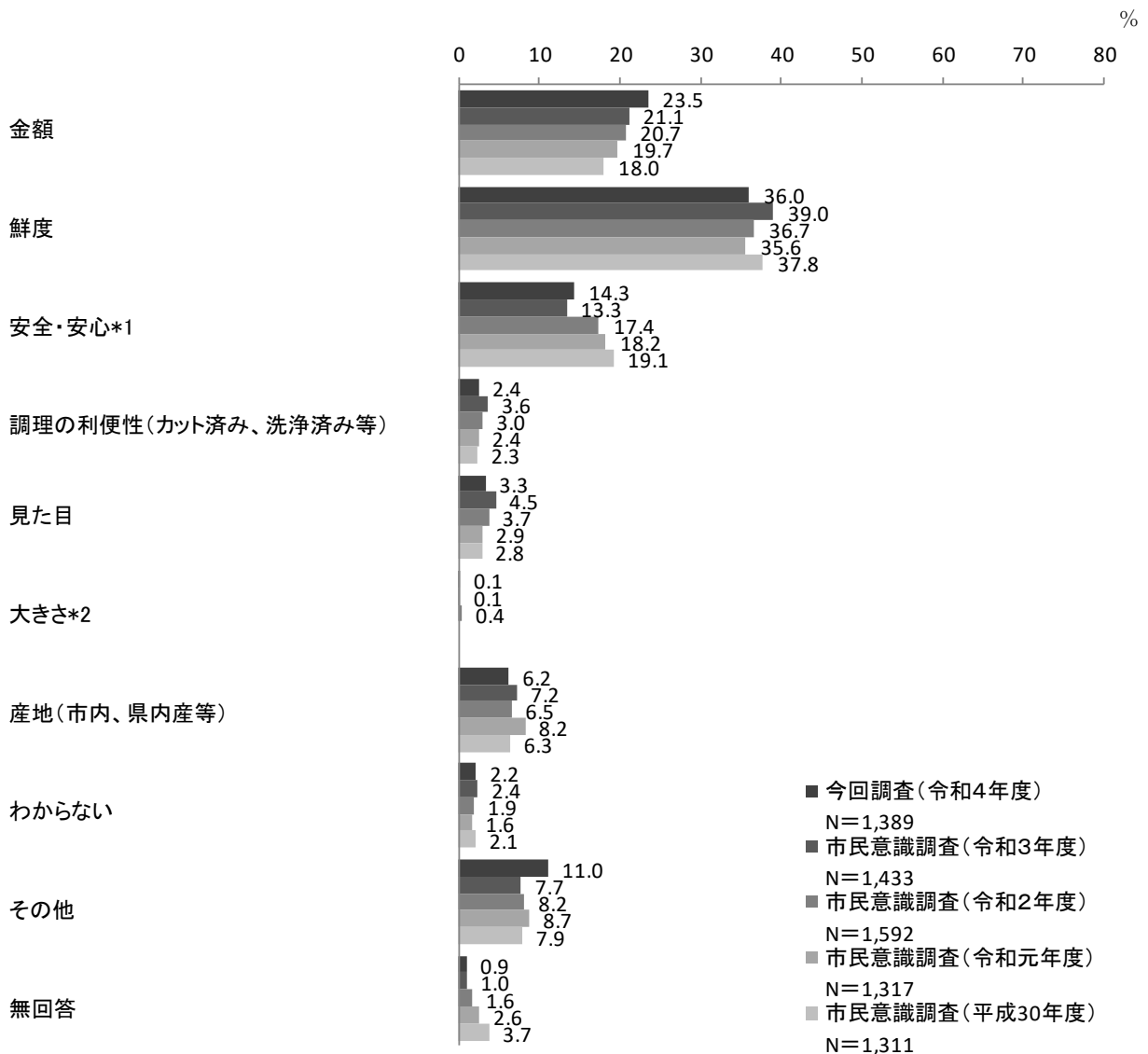
【居住地区別】



問 38 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか（自作している方も不足する野菜を購入する場合）。《○1つ》

野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「金額」、「安全・安心」

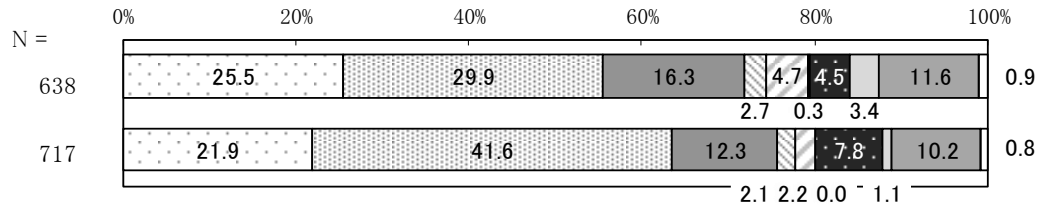
- ・ 野菜等を購入する際の基準としては、「鮮度」が36.0%と最も多く、次いで「金額」が23.5%、「安全・安心」が14.3%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることがわかります。
- ・ 性別では、男女ともに「鮮度」が最も多くあげられており、男性より女性で多くなっています。
- ・ 年代別では、10～30歳代は「金額」が、40歳以上は「鮮度」が最も多くあげられています。また、年齢が上がるにつれ「安全・安心」が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で「鮮度」が最も多くなっています。建部地区、能登川地区、八日市地区、御園地区、湖東地区で「金額」が、愛東地区、玉緒地区で「安全・安心」が、玉緒地区で「産地（市内、県内産等）」が、ほかの地区より多くあげられています。



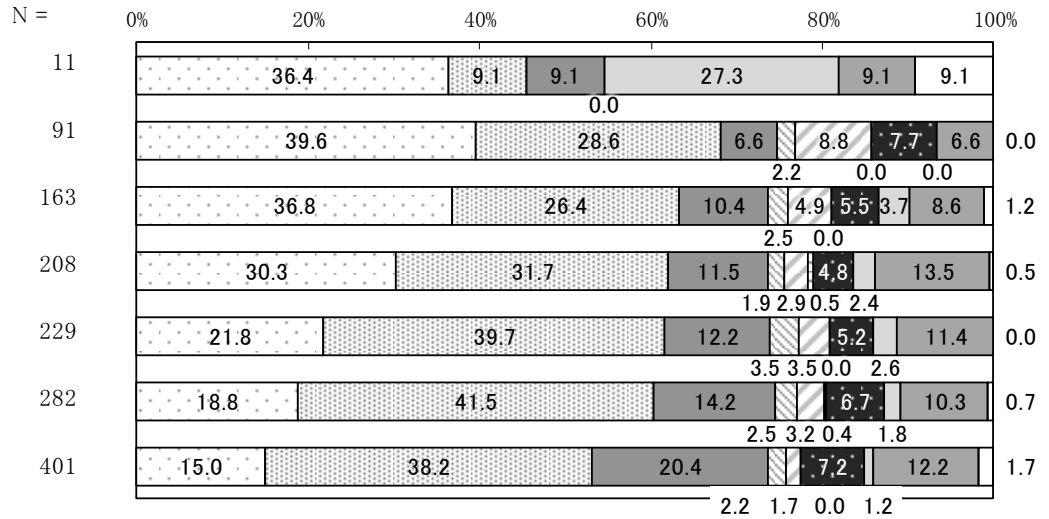
*1 令和2年度まで「安全と安心」
*2 令和2年度から「大きさ」を追加



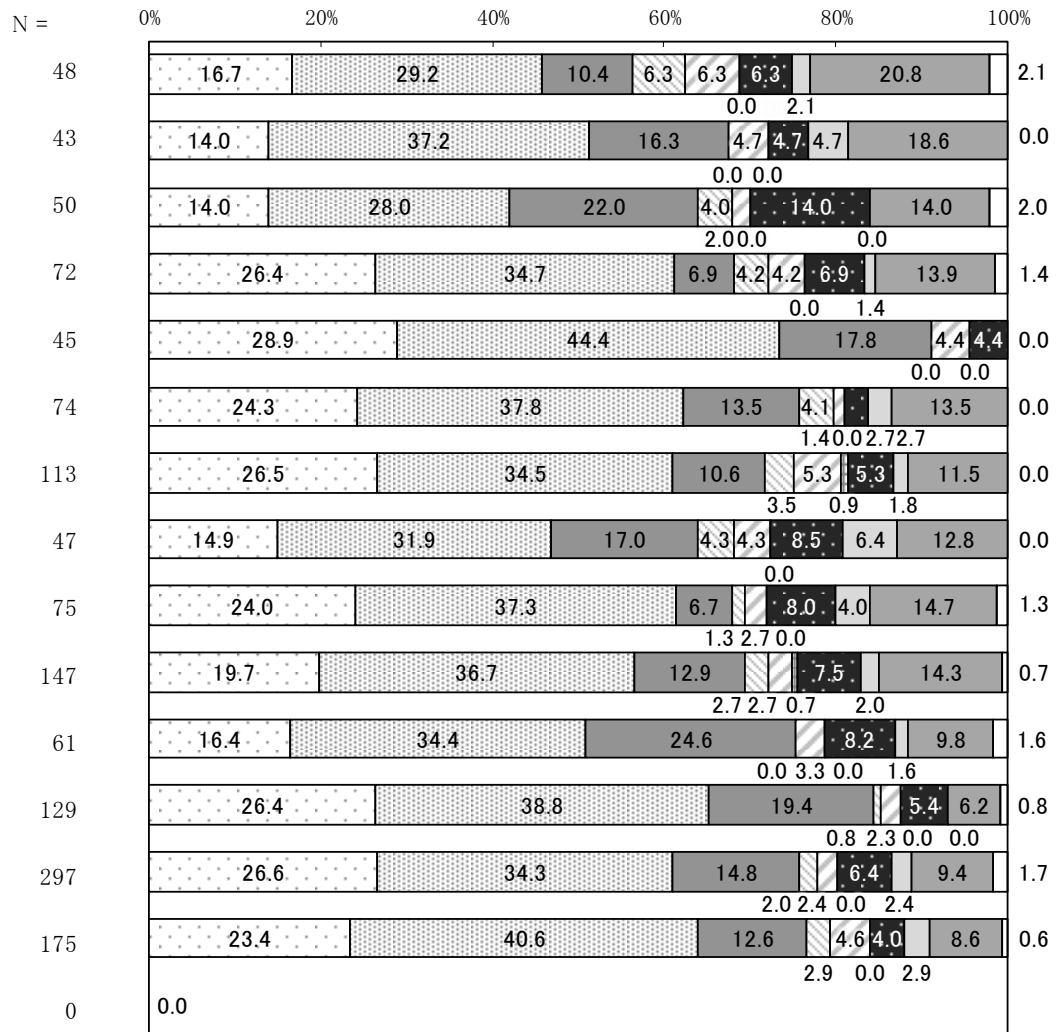
【性別】



【年代別】



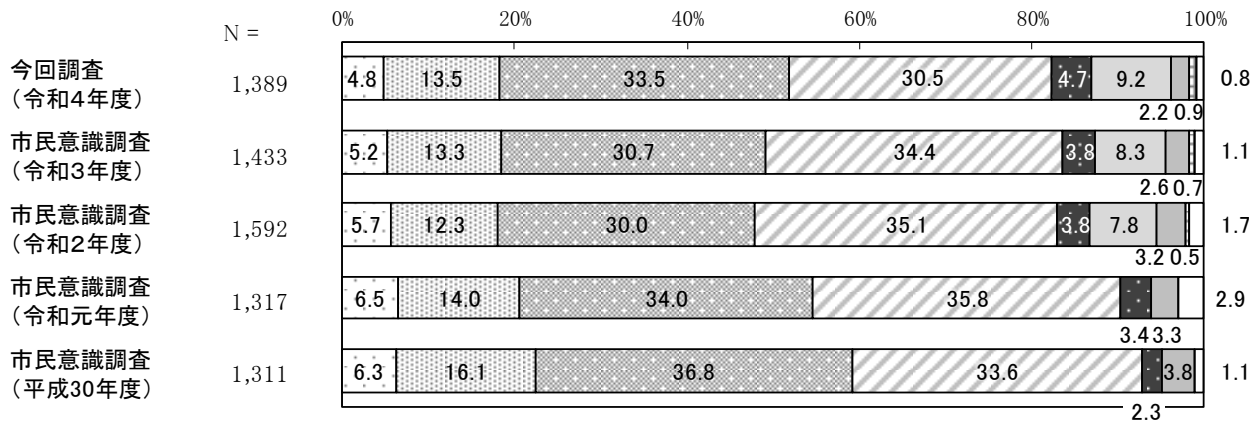
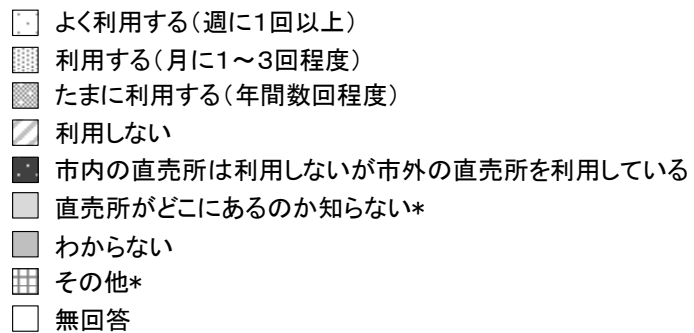
【居住地区別】



問 39 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所を含む。）を利用しますか。
《○1つ》

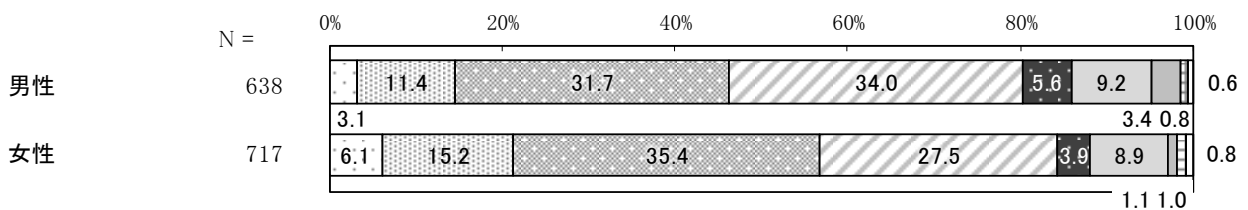
半数以上が市内の直売所を利用、年間数回程度の利用が最も多い

- ・ 市内の農産物直売所の利用状況については、「たまに利用する（年間数回程度）」が33.5%と最も多く、次いで「利用しない」が30.5%、「利用する（月に1～3回程度）」が13.5%、「よく利用する（週に1回以上）」が4.8%と続きます。利用している人の合計は51.8%と半数以上で、市外も含めると農産物直売所の利用率は56.5%になります。
- ・ 一方、「直売所がどこにあるのか知らない」と回答した人は9.2%と1割近く見られます。
- ・ 性別では女性で、年代別では60歳以上で利用している人が多く見られます。一方、20歳代は、「利用しない」人が利用している人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、利用する人が愛東地区、湖東地区で7割、南部地区で6割となっています。一方、平田地区では「利用しない」人が利用している人よりも多く見られます。



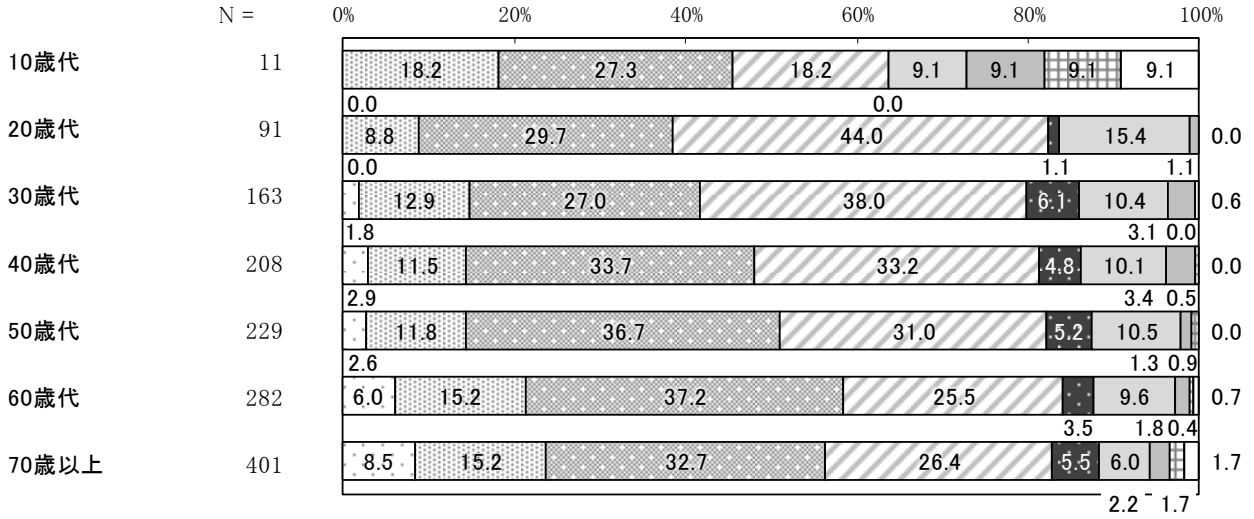
* 令和2年度から「直売所がどこにあるのか知らない」と「その他」を追加

【性別】

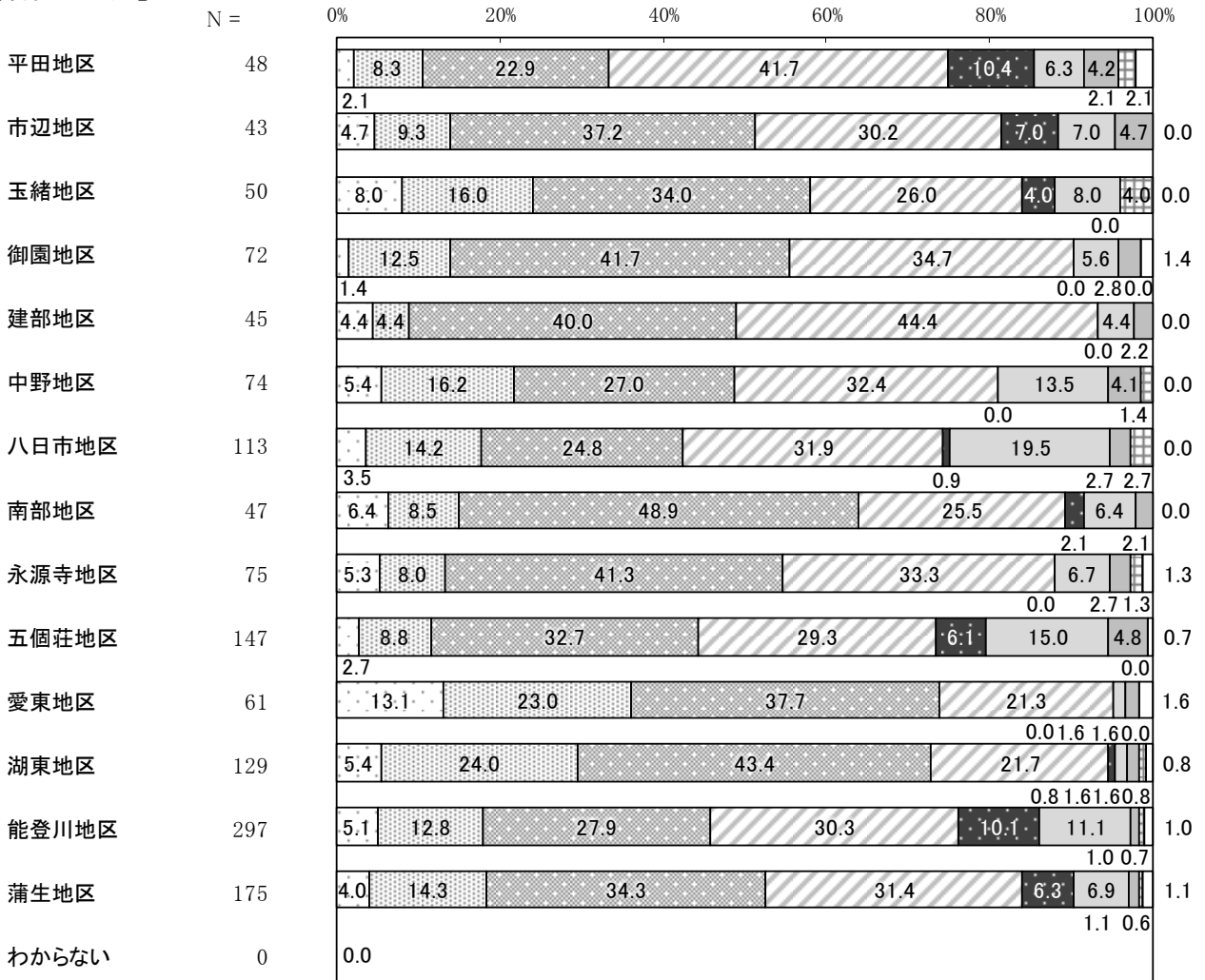


- よく利用する(週に1回以上)
- 利用する(月に1~3回程度)
- たまに利用する(年間数回程度)
- 利用しない
- 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している
- 直売所がどこにあるのか知らない
- わからない
- その他
- 無回答

【年代別】



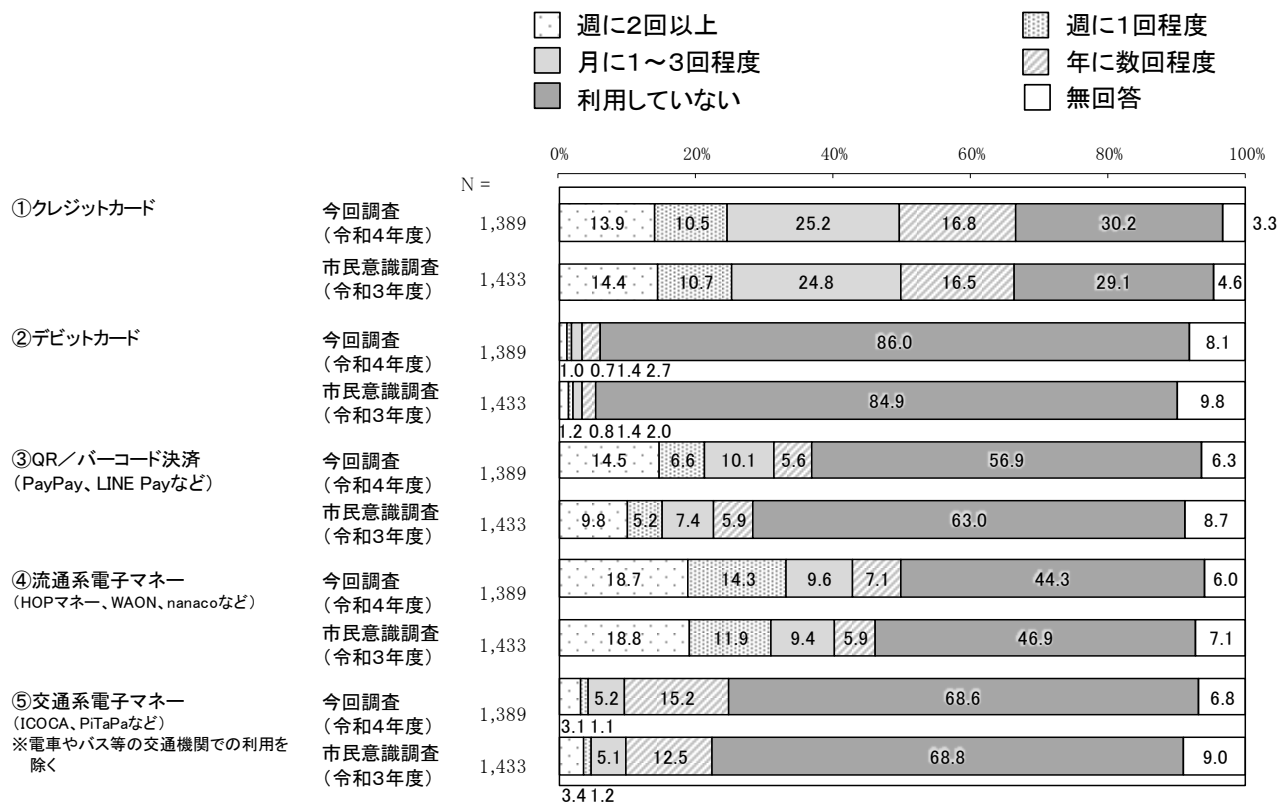
【居住地区別】



問 40 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①～⑥それぞれの項目に○1つ》

流通系電子マネーは3割、クレジットカード、QR/バーコード決済は2割が週1回以上利用

- ・ キャッシュレス決済を週1回以上利用する人の割合は、「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 33.0%で最も高く、次いで「①クレジットカード」が 24.4%、「③QR/バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）」が 21.1%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 4.2%、「②デビットカード」が 1.7%となっています。
- ・ 「月に1～3回程度」や「年に数回程度」の利用も含めた利用している人の割合は、「①クレジットカード」が 66.4%で最も高く、次いで「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 49.7%、「③QR/バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）」が 36.8%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 24.6%、「②デビットカード」が 5.8%となっています。



単位: %

	週1回以上利用	利用している	利用していない
①クレジットカード	24.4	66.4	30.2
②デビットカード	1.7	5.8	86.0
③QR/バーコード決済 (PayPay、LINE Pay など)	21.1	36.8	56.9
④流通系電子マネー (HOP マネー、WAON、nanaco など)	33.0	49.7	44.3
⑤交通系電子マネー (ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	4.2	24.6	68.6

「⑥その他」の内訳（現金などキャッシュレス決済以外のものや設問内に示されたものを除くと 19 件）

週2回以上	iD 決済、ETC、Edy、商品券
週に1回程度	iD 決済
月に1～3回程度	d 払い、アマゾンギフト
年に数回程度	商品券、プリペイドカード、図書カード、キャリア決済 など

① クレジットカード

- ・ 性別では女性より男性で、年代別では20～60歳代（特に30歳代で9割近く）で利用している人の割合が高くなっています。週2回以上利用している人は、20～40歳代で2割以上となっています。一方、10歳代では9割が利用していません。
- ・ 居住地区別では、平田地区、中野地区、建部地区で利用している人の割合が高くなっています。

② デビットカード

- ・ 年代別では、20歳代で1割が利用しているものの、そのほかの年代では1割未満にとどまっています。月1回以上利用している人は、全ての年代で1割未満となっています。

③ QR／バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）

- ・ 年代別では、利用している人の割合は、20～40歳代で半数以上と高く、10歳代、60歳以上で低くなっています。週に2回以上利用している人は、20～50歳代で2割以上（特に30歳代で3割）となっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、御園地区、市辺地区、八日市地区で利用している人の割合が4割を超え、週2回以上利用している人は建部地区でほかの地区より多く見られます。

④ 流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）

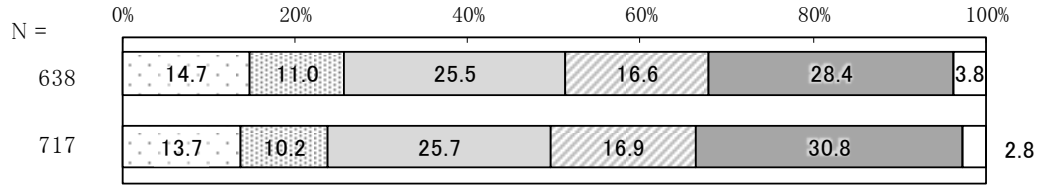
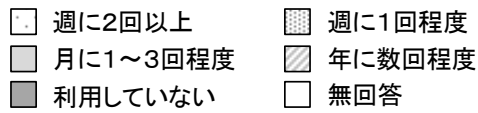
- ・ 性別では、利用している人の割合が男性より女性で高くなっています。
- ・ 年代別では、40～50歳代で利用している人が6割、週2回以上利用している人も3割近くと高くなっています。
- ・ 居住地区別では、利用している人の割合が御園地区、湖東地区、建部地区で高く、週2回以上利用している人は湖東地区、能登川地区、建部地区、御園地区、平田地区でほかの地区より多く見られます。

⑤ 交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）

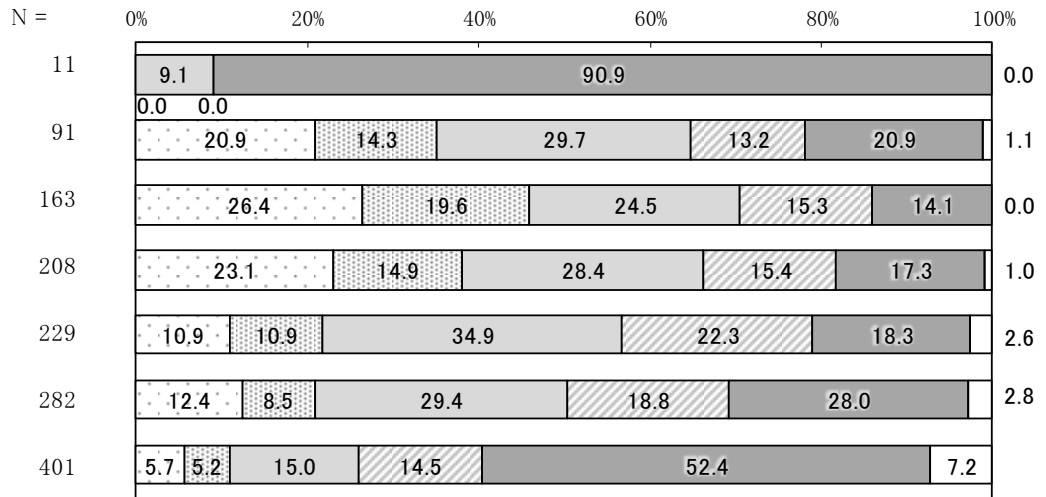
- ・ 年代別では、利用している人の割合が10～20歳代で半数前後となっています。週2回以上利用している人は、ほかの年代が1割未満の中、10～20歳代で1割前後となっています。

①クレジットカード

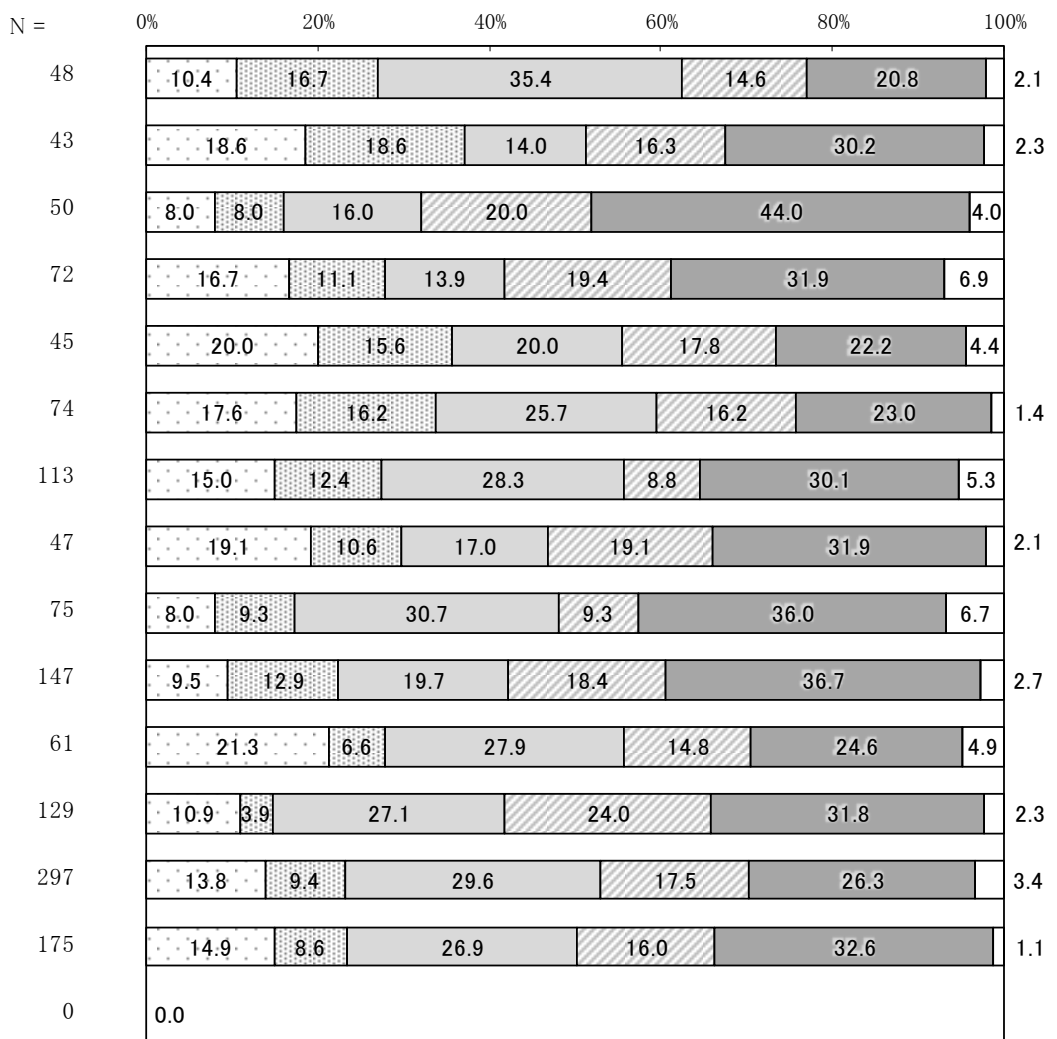
【性別】



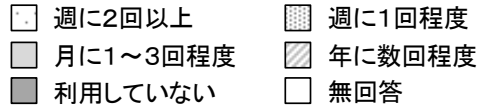
【年代別】



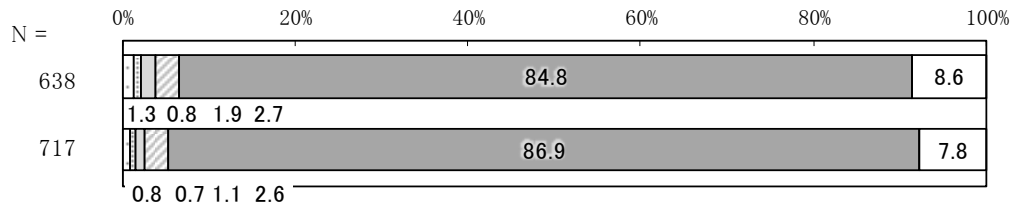
【居住地区別】



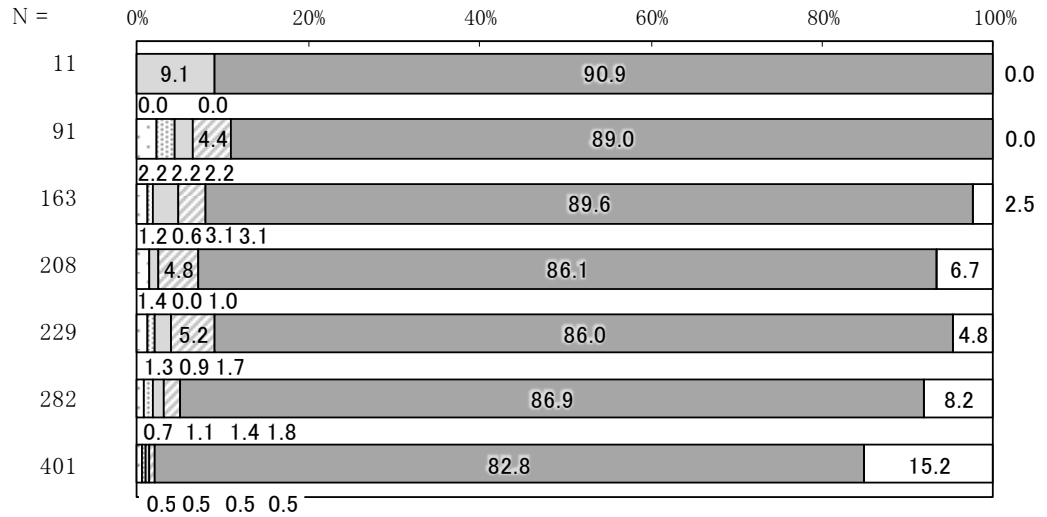
②デビットカード



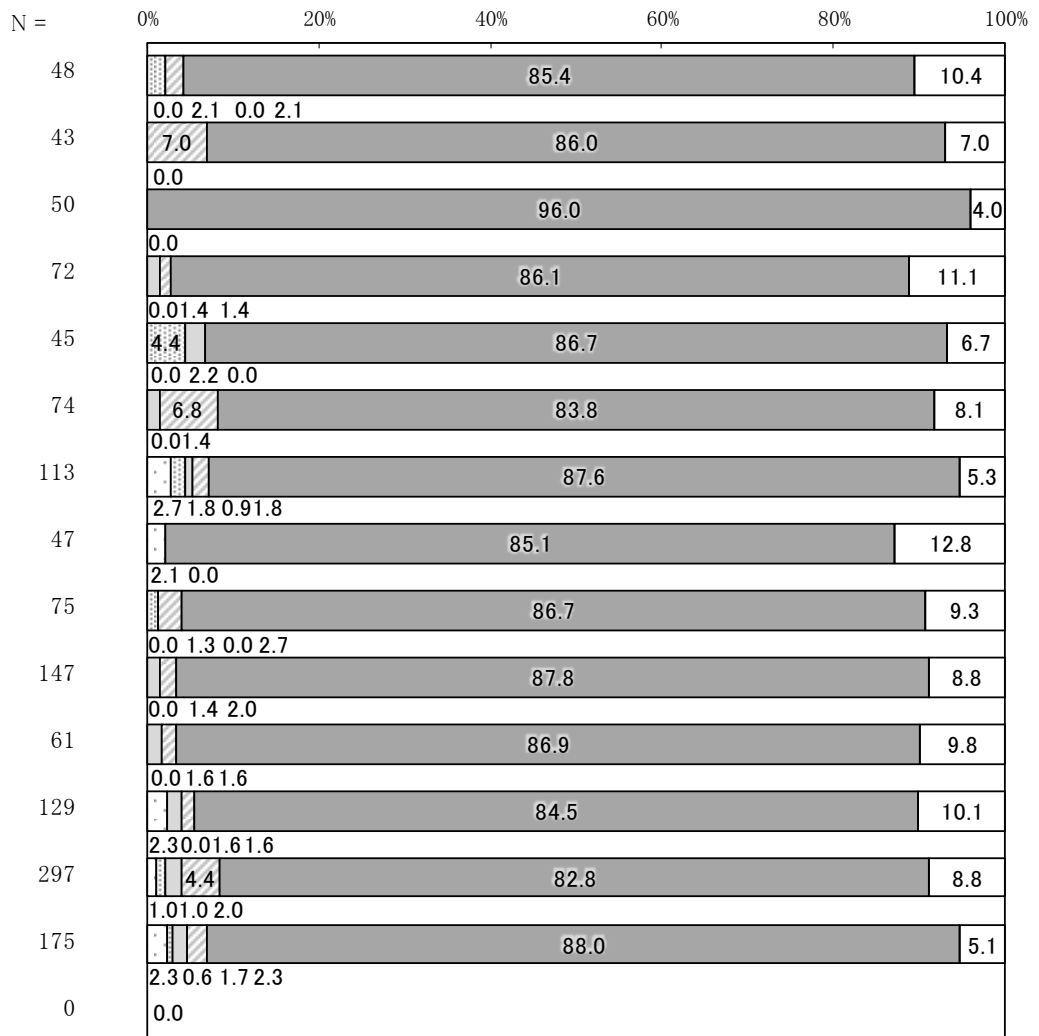
【性別】



【年代別】

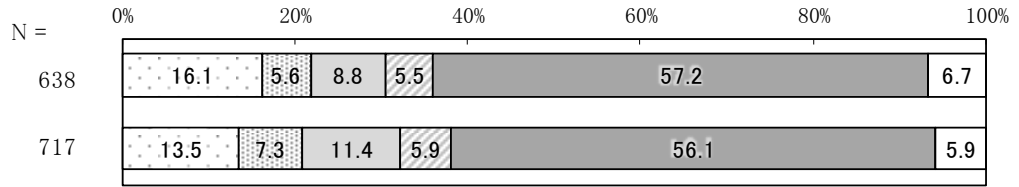
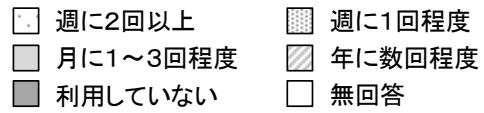


【居住地区別】

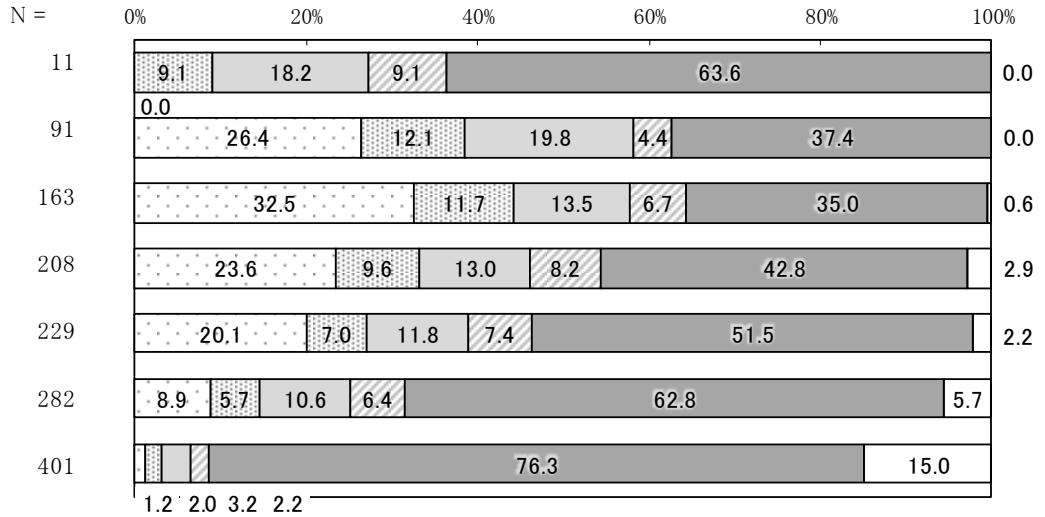


③QR／バーコード決済 (PayPay、LINE Pay など)

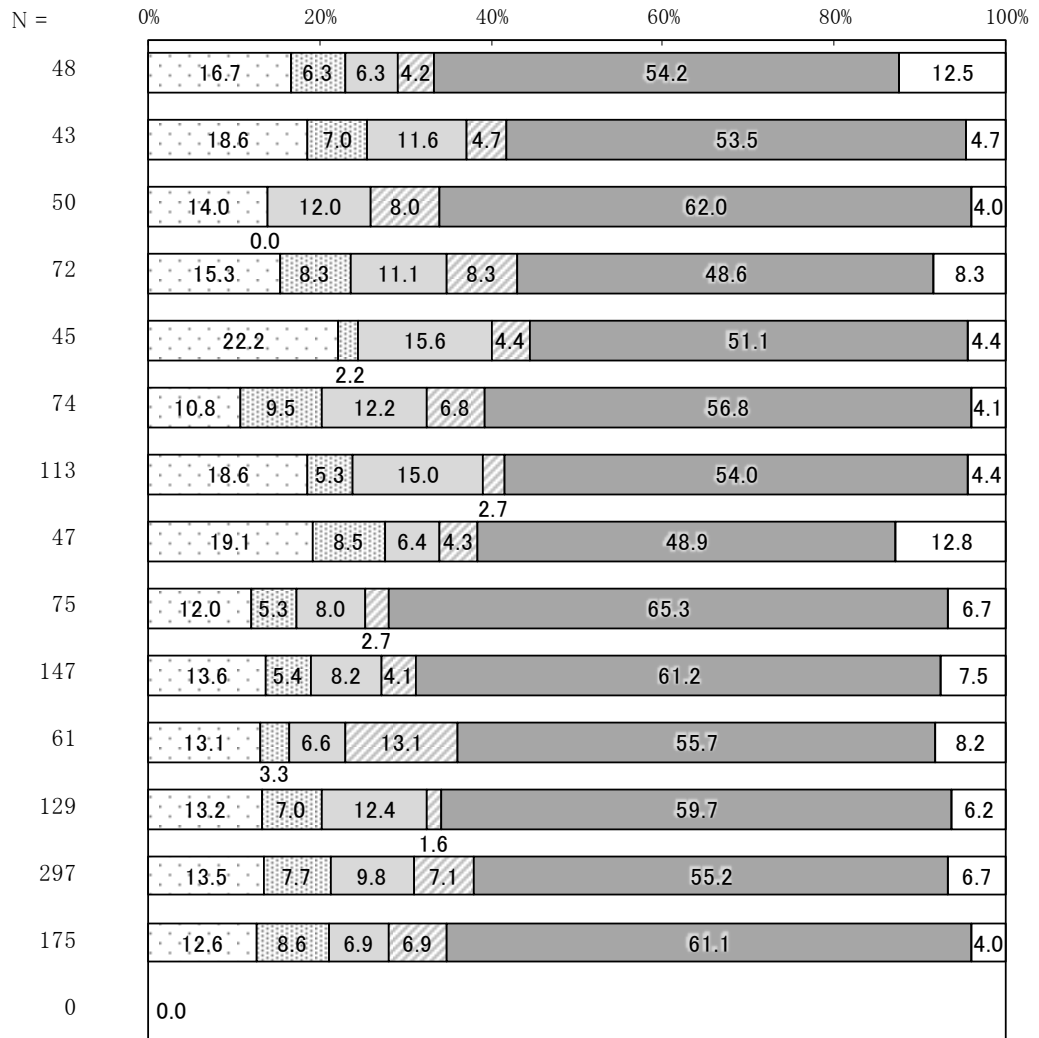
【性別】



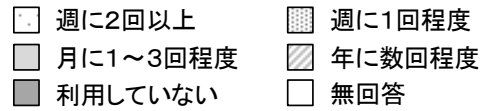
【年代別】



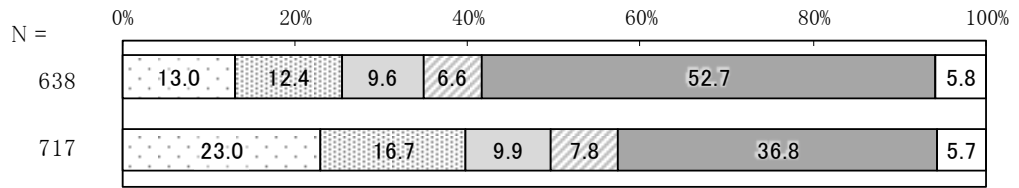
【居住地区別】



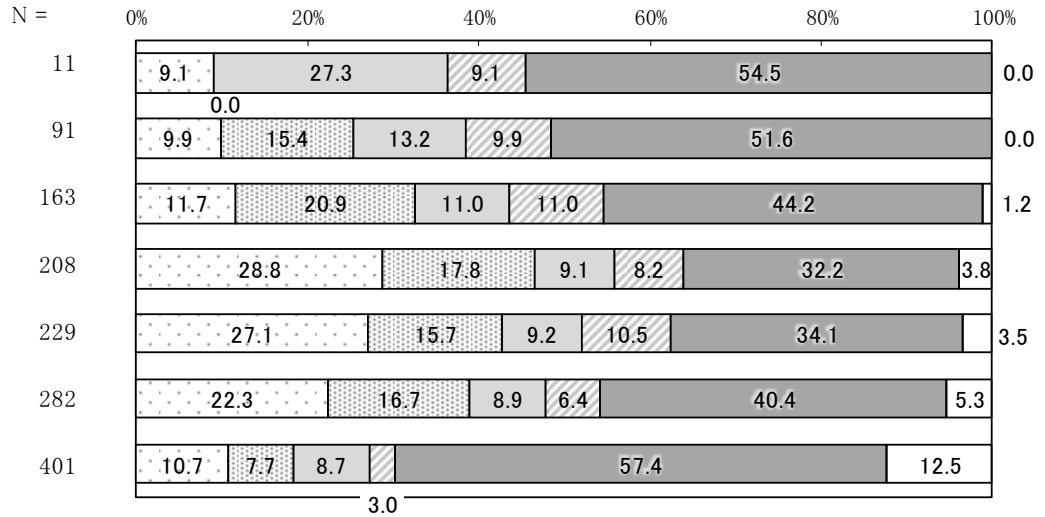
④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）



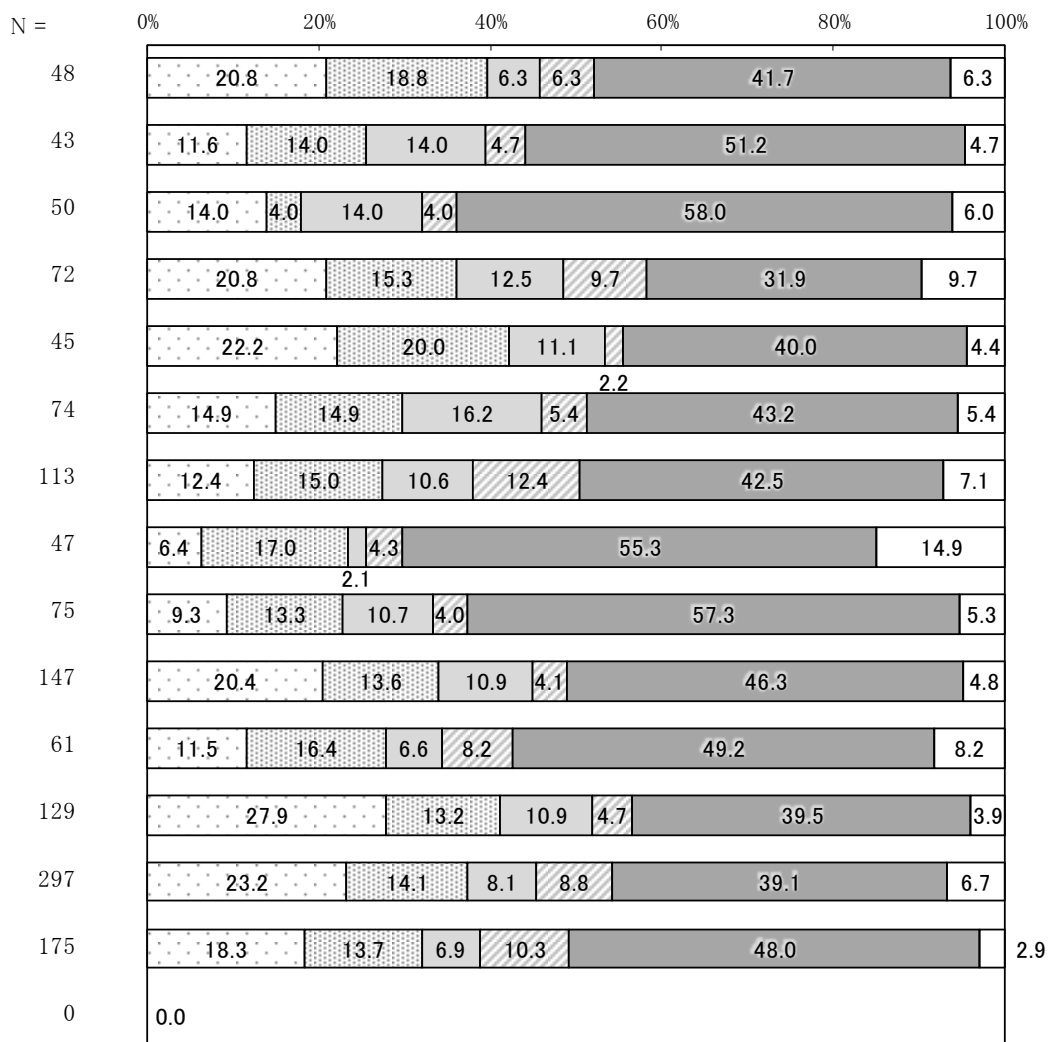
【性別】



【年代別】

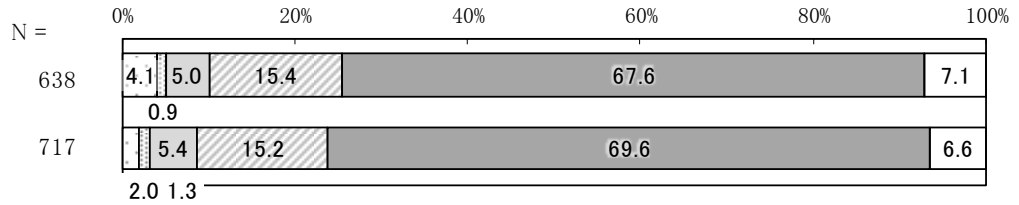
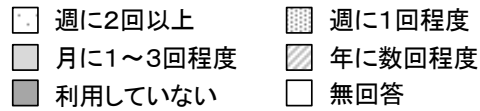


【居住地区別】

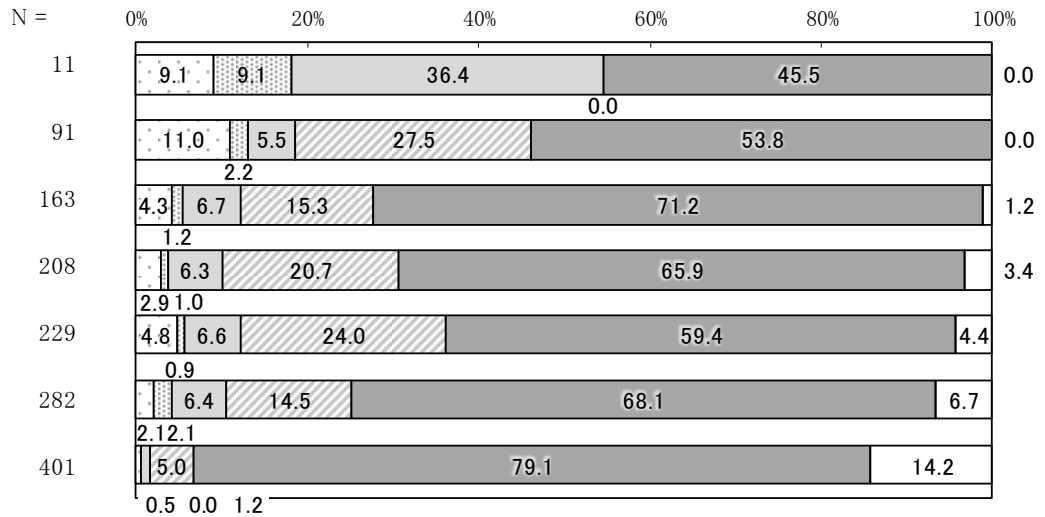


⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）

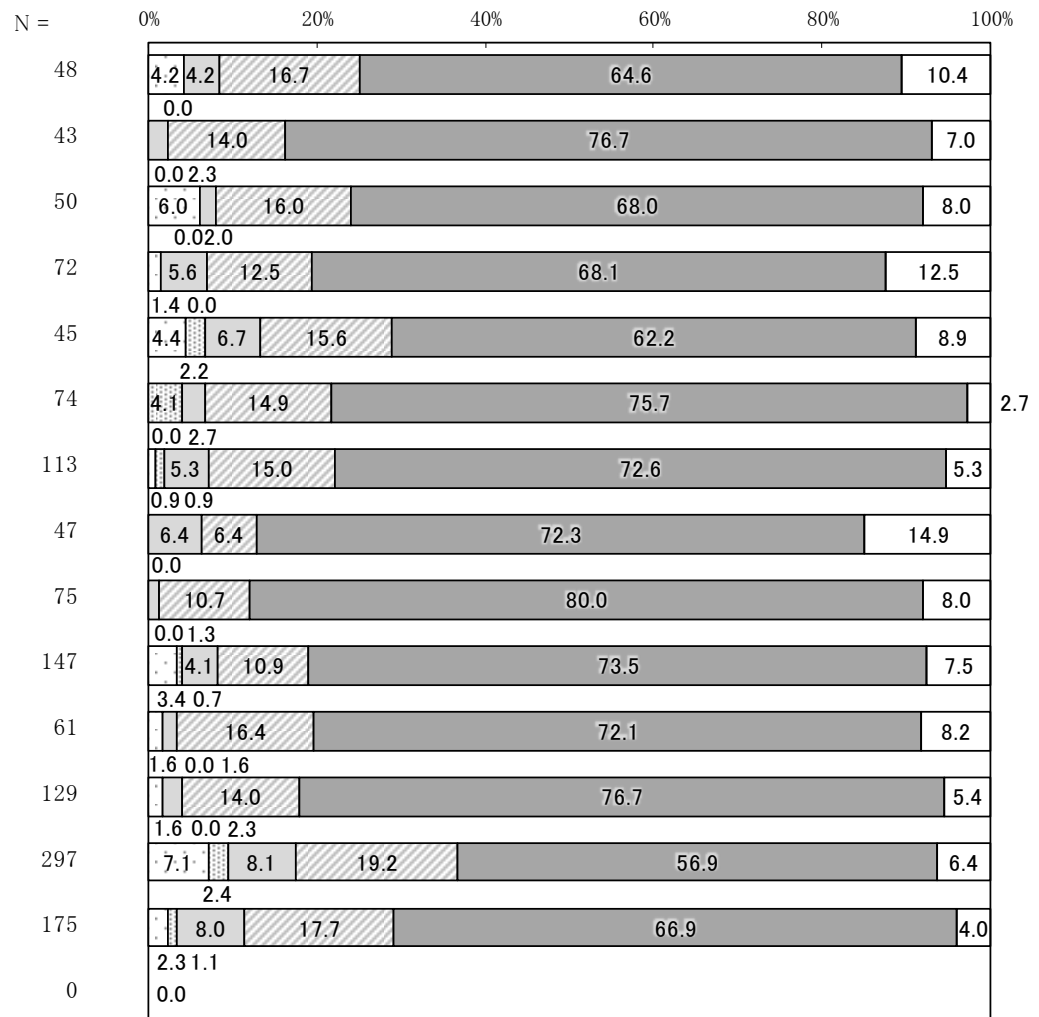
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

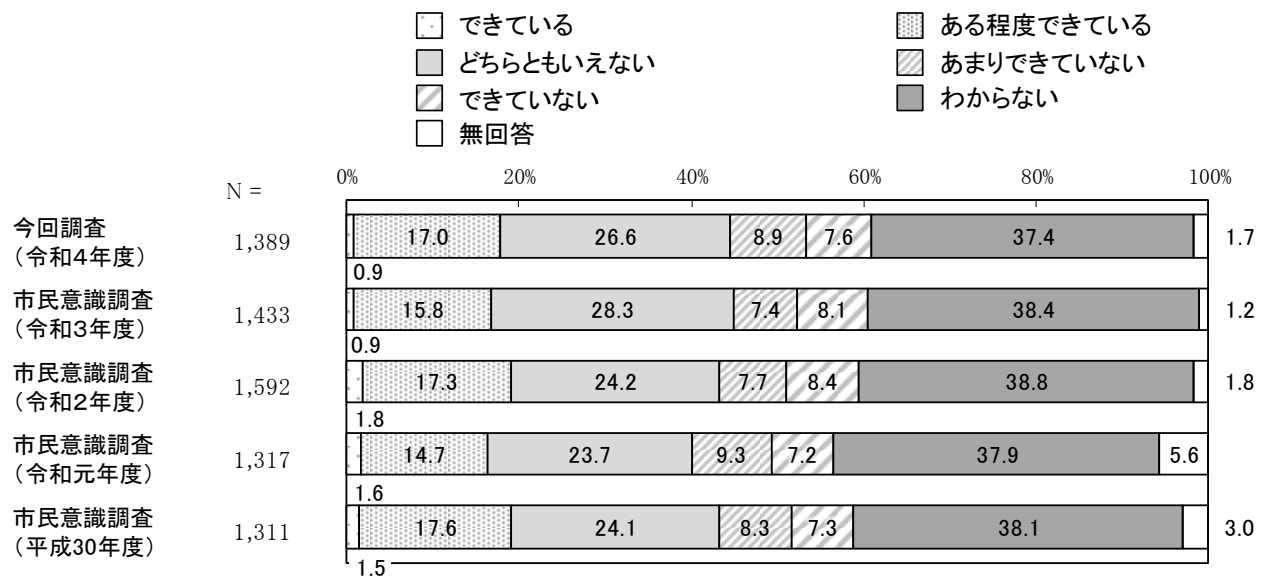


(8) 協働のまちづくりについて

問 41 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

できていると思う人は2割近く

- ・ 協働のまちづくりができていると思うかについては、できている（「できている」と「ある程度できている」の合計）と思う人の割合は17.9%で、できていない（「あまりできていない」と「できていない」の合計）と思う人の割合（16.5%）よりやや高くなっています。また、「わからない」が37.4%、「どちらともいえない」が26.6%となっています。
- ・ 性別では、女性より男性で、できていない（前述）と思う人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、できている（前述）と思う人が10歳代では半数近く、20～40歳代、70歳以上は2割前後となっています。また、50～60歳代で、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、中野地区、愛東地区でできている（前述）と思う人が2割となっています。また、市辺地区、玉緒地区、永源寺地区、能登川地区では、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。



単位：%

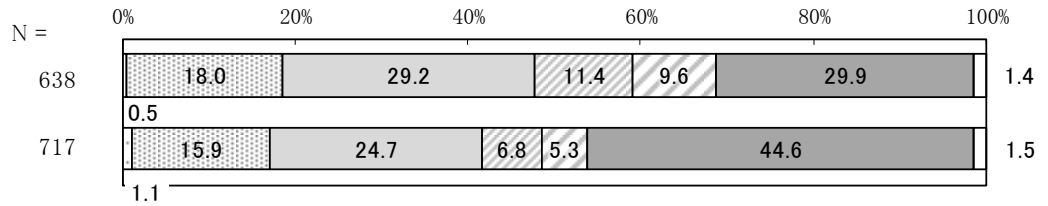
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和4年度)	17.9	16.5	1.4
②市民意識調査(令和3年度)	16.7	15.5	1.2
③市民意識調査(令和2年度)	19.1	16.1	3.0
④市民意識調査(令和元年度)	16.3	16.5	-0.2
⑤市民意識調査(平成30年度)	19.1	15.6	3.5
①－⑤	-1.2	0.9	-2.1

* できている:「できている」と「ある程度できている」の合計

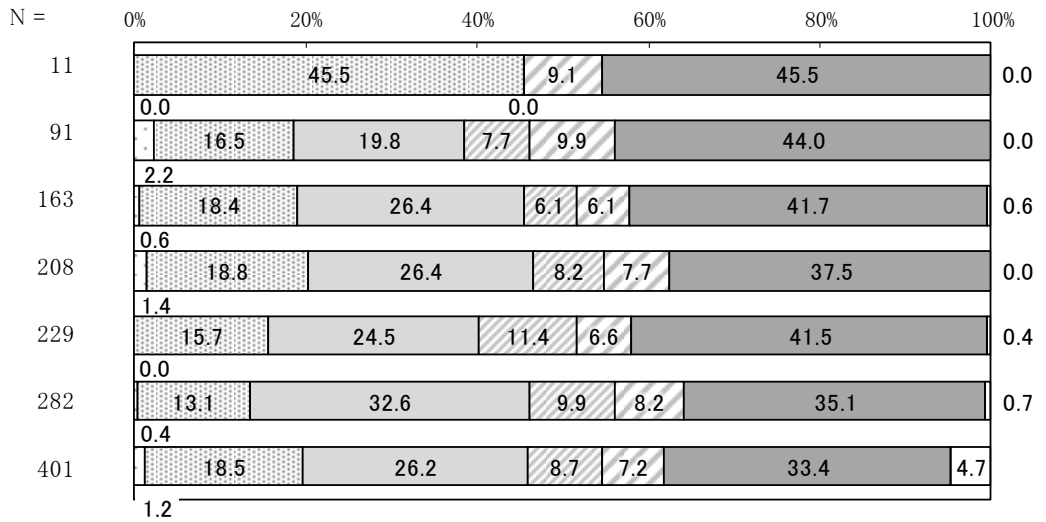
* できていない:「あまりできていない」と「できていない」の合計



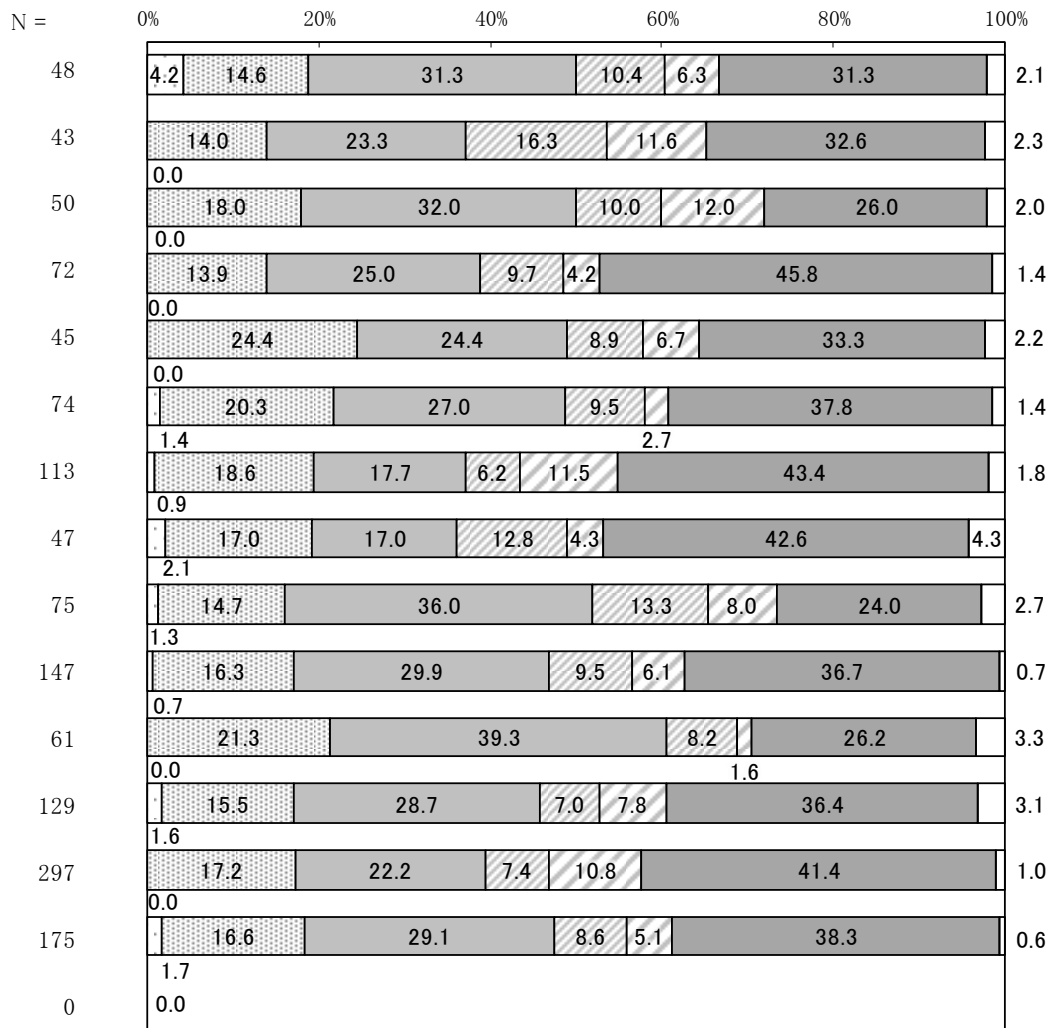
【性別】



【年代別】



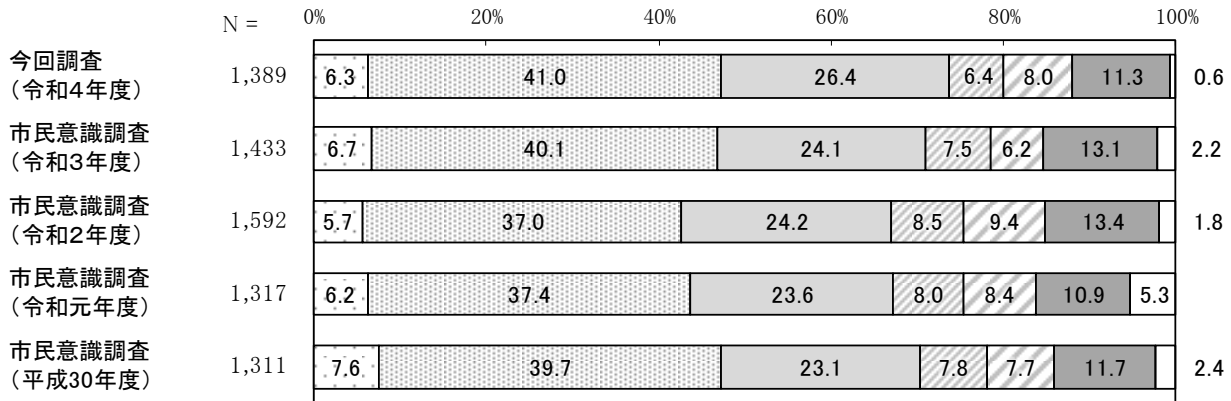
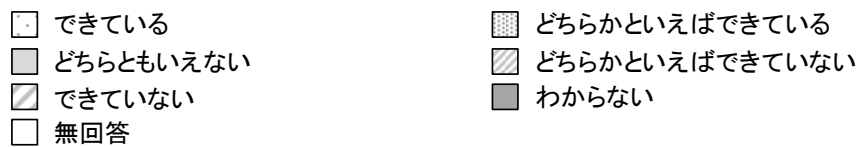
【居住地区別】



問 42 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

半数近くが住民同士の助け合いはできている

- 地域での住民同士の助け合いができていると思うかについては、「どちらかといえばできている」が41.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が26.4%、「わからない」が11.3%と続きます。できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と思う人の割合が47.3%で、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と思う人の割合（14.4%）より高くなっています。
- 年代別では10歳代、60歳以上で、居住地区別では湖東地区、永源寺地区、愛東地区、平田地区で、住民同士の助け合いができている（前述）と思う人が多く見られます。一方、居住地区別では南部地区、玉緒地区、御園地区で、できていない（前述）と思う人が多く見られます。

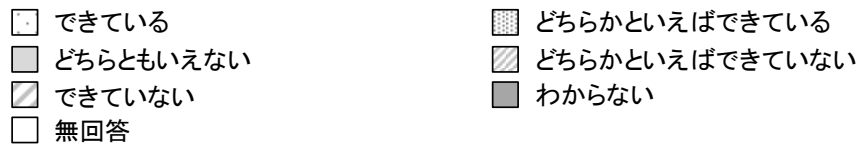


単位：%

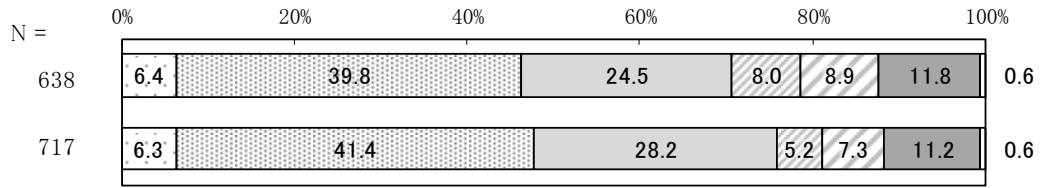
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和4年度)	47.3	14.4	32.9
②市民意識調査(令和3年度)	46.8	13.7	33.1
③市民意識調査(令和2年度)	42.7	17.9	24.8
④市民意識調査(令和元年度)	43.6	16.4	27.2
⑤市民意識調査(平成30年度)	47.3	15.5	31.8
①-⑤	0.0	-1.1	1.1

*できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

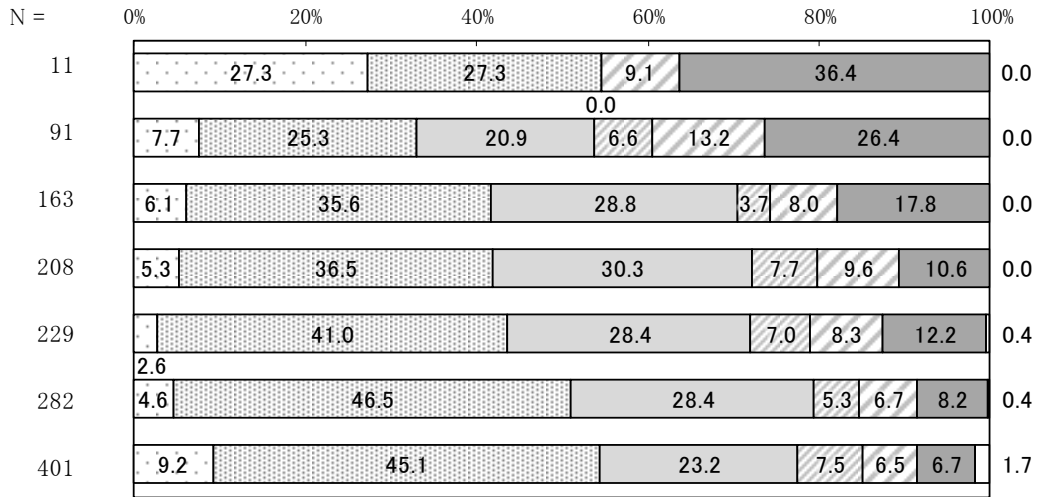
*できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



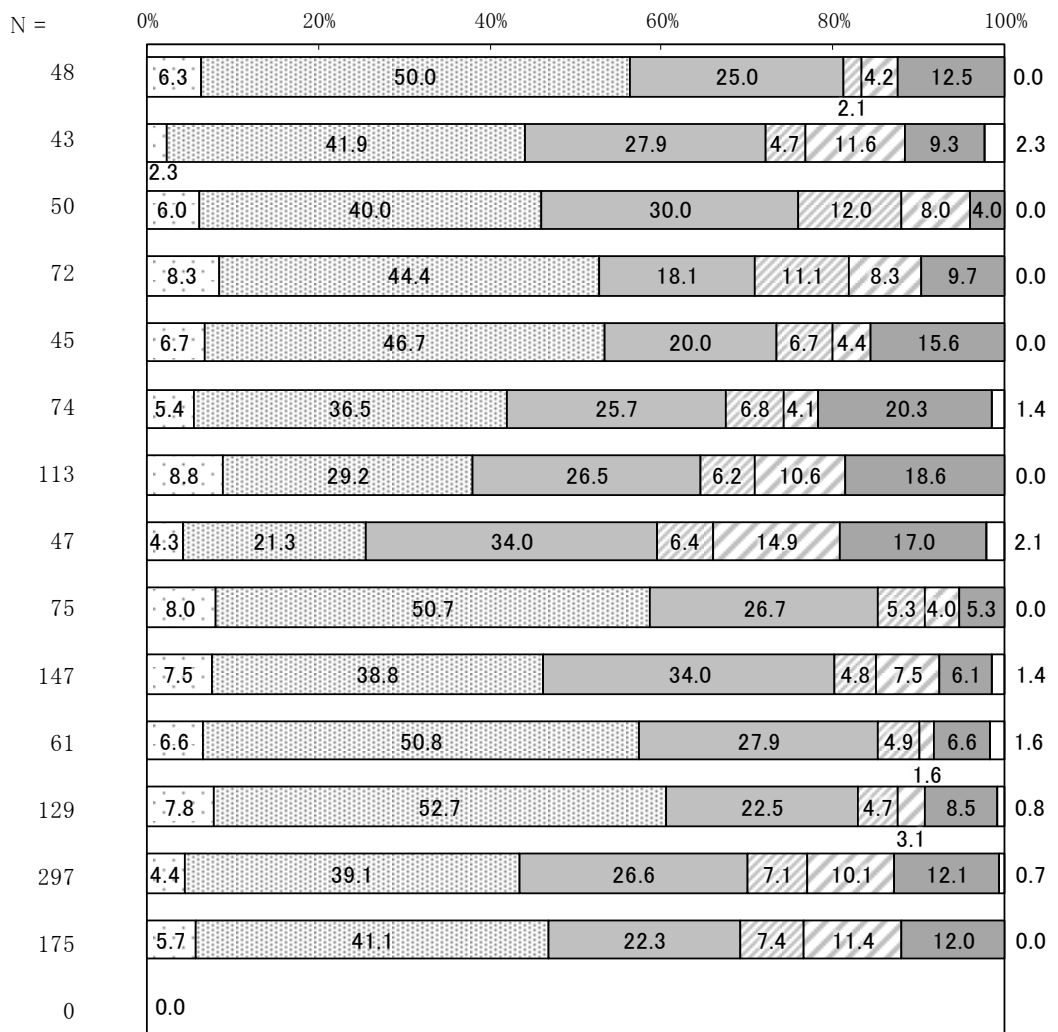
【性別】



【年代別】



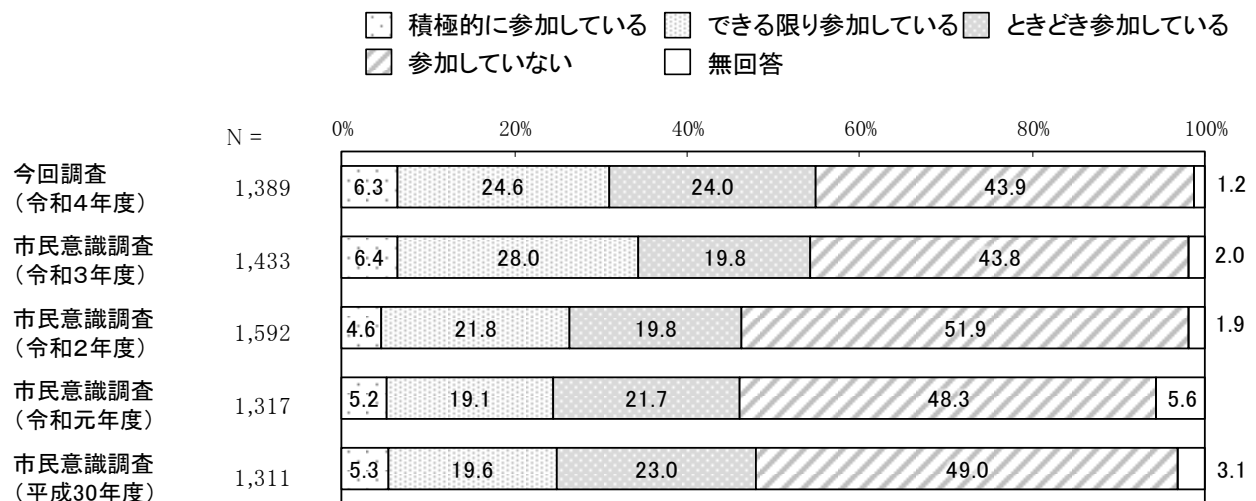
【居住地区別】



問 43 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

半数以上が活動に参加している

- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が54.9%と半数以上で、その内訳は、「できる限り参加している」が24.6%、「ときどき参加している」が24.0%、「積極的に参加している」が6.3%となっています。一方、「参加していない」は43.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、地域活動又はNPOやボランティア等の活動に参加している人の割合は令和2年度までは減少傾向にあり、昨年度と今年度は増加しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10歳代と70歳以上を除いて年齢が上がるほど、参加している人が多く見られます。
- ・ 居住地区別では、建部地区、玉緒地区、愛東地区、平田地区、市辺地区、湖東地区で参加している人が6割以上いる一方、八日市地区では参加していない人が7割近く見られます。



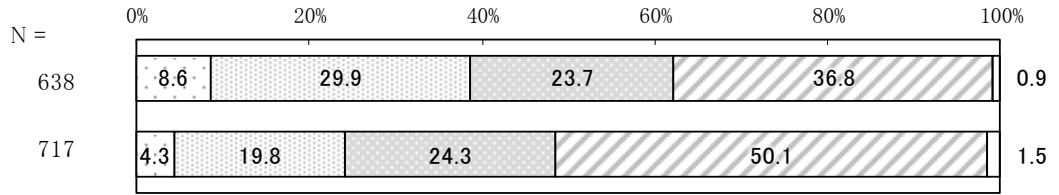
単位：%

	参加している*	参加していない	差
①今回調査(令和4年度)	54.9	43.9	11.0
②市民意識調査(令和3年度)	54.2	43.8	10.4
③市民意識調査(令和2年度)	46.2	51.9	-5.7
④市民意識調査(令和元年度)	46.0	48.3	-2.3
⑤市民意識調査(平成30年度)	47.9	49.0	-1.1
①-⑤	7.0	-5.1	12.1

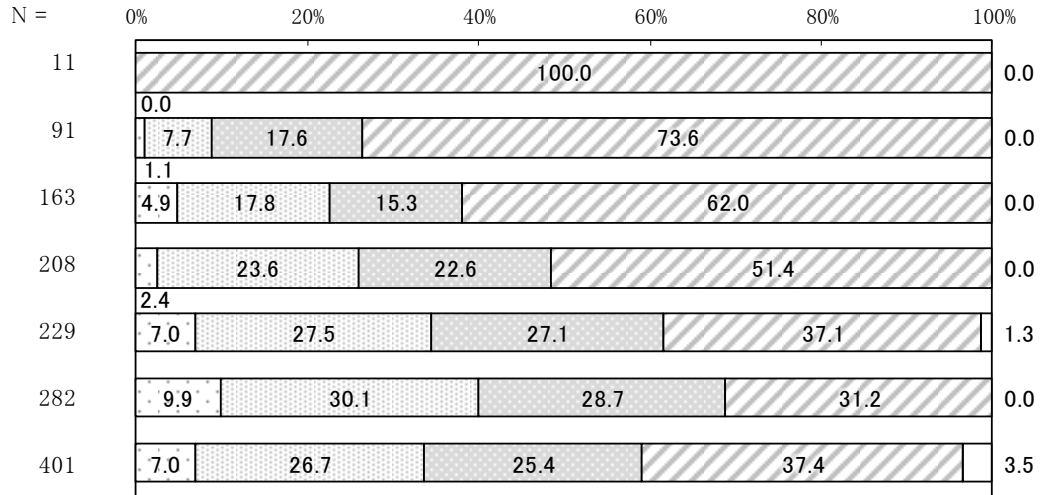
*参加している:「積極的に参加している」と「できる限り参加している」と「ときどき参加している」の合計

積極的に参加している
 できる限り参加している
 ときどき参加している
 参加していない
 無回答

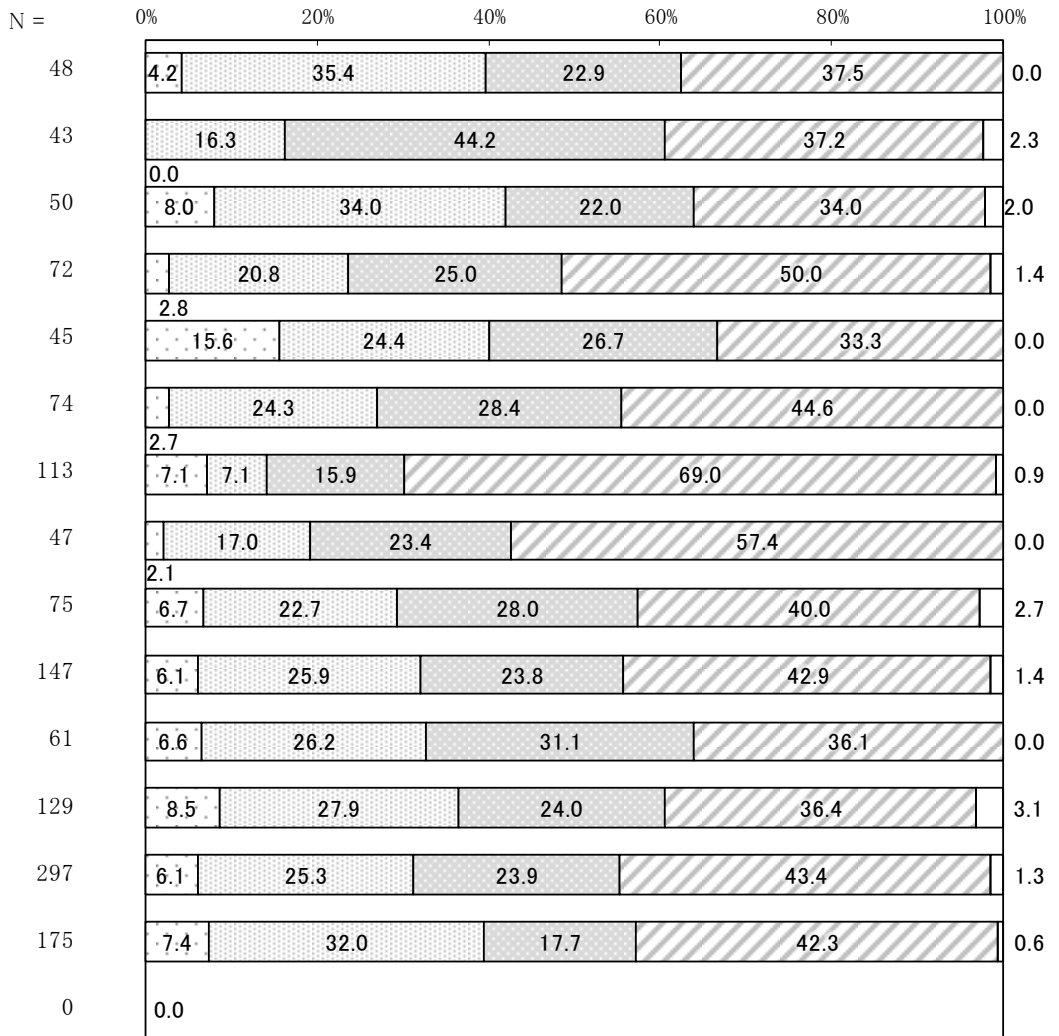
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

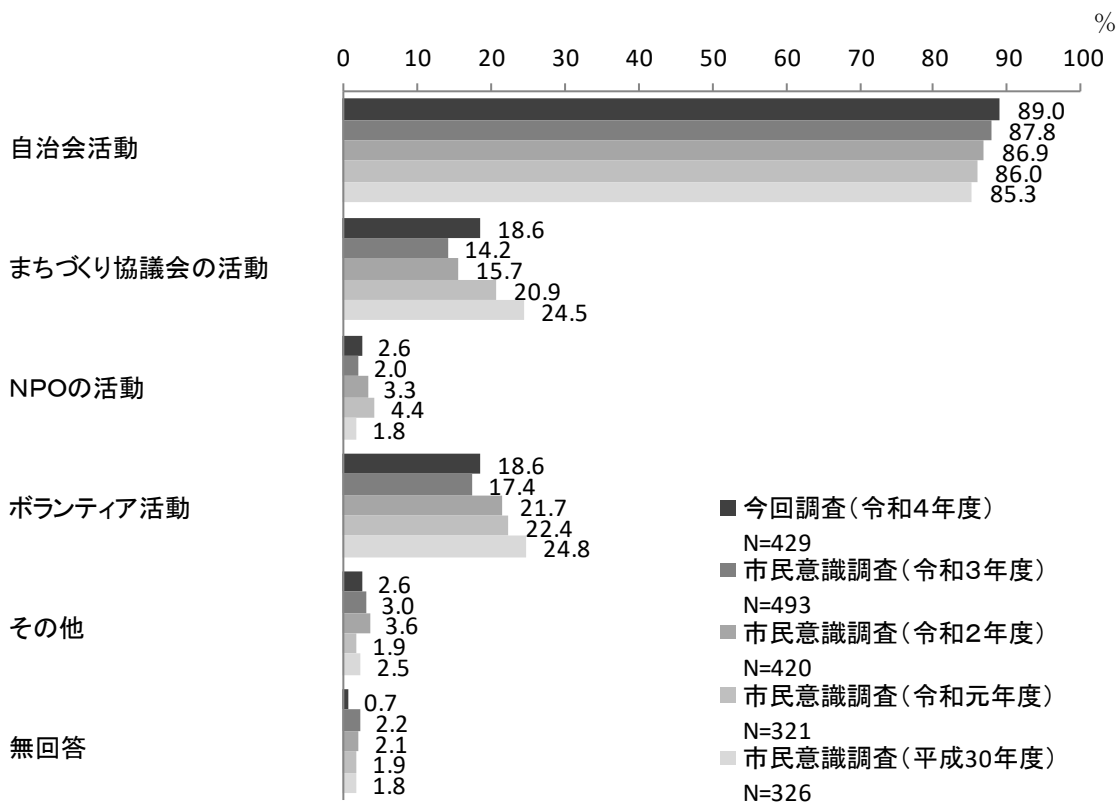


問 43-1 問 43 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方に
おたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

9割近くが「自治会活動」に参加、まちづくり協議会の活動、ボランティア活動への参加も2割近く

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が89.0%と最も多く、次いで「まちづくり協議会の活動」、「ボランティア活動」がともに18.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「自治会活動」の割合が年々増加しています。また、「まちづくり協議会の活動」「ボランティア活動」の割合が年々減少していましたが、今年度は増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「自治会活動」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、20歳代と60歳以上で「ボランティア活動」が、60歳以上で「まちづくり協議会の活動」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、建部地区で「まちづくり協議会の活動」が、八日市地区、永源寺地区、御園地区で「ボランティア活動」がほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
男性	246	89.0	19.9	2.0	18.7	2.4	10.6
女性	173	90.2	16.2	3.5	17.3	2.9	9.2

【年代別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
10歳代	0	-	-	-	-	-	-
20歳代	8	87.5	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0
30歳代	37	81.1	16.2	0.0	8.1	2.7	2.7
40歳代	54	90.7	16.7	3.7	7.4	5.6	0.0
50歳代	79	93.7	13.9	1.3	13.9	2.5	0.0
60歳代	113	93.8	23.9	4.4	19.5	1.8	0.0
70歳以上	135	84.4	19.3	1.5	27.4	2.2	0.7

【居住地区別】

単位：％

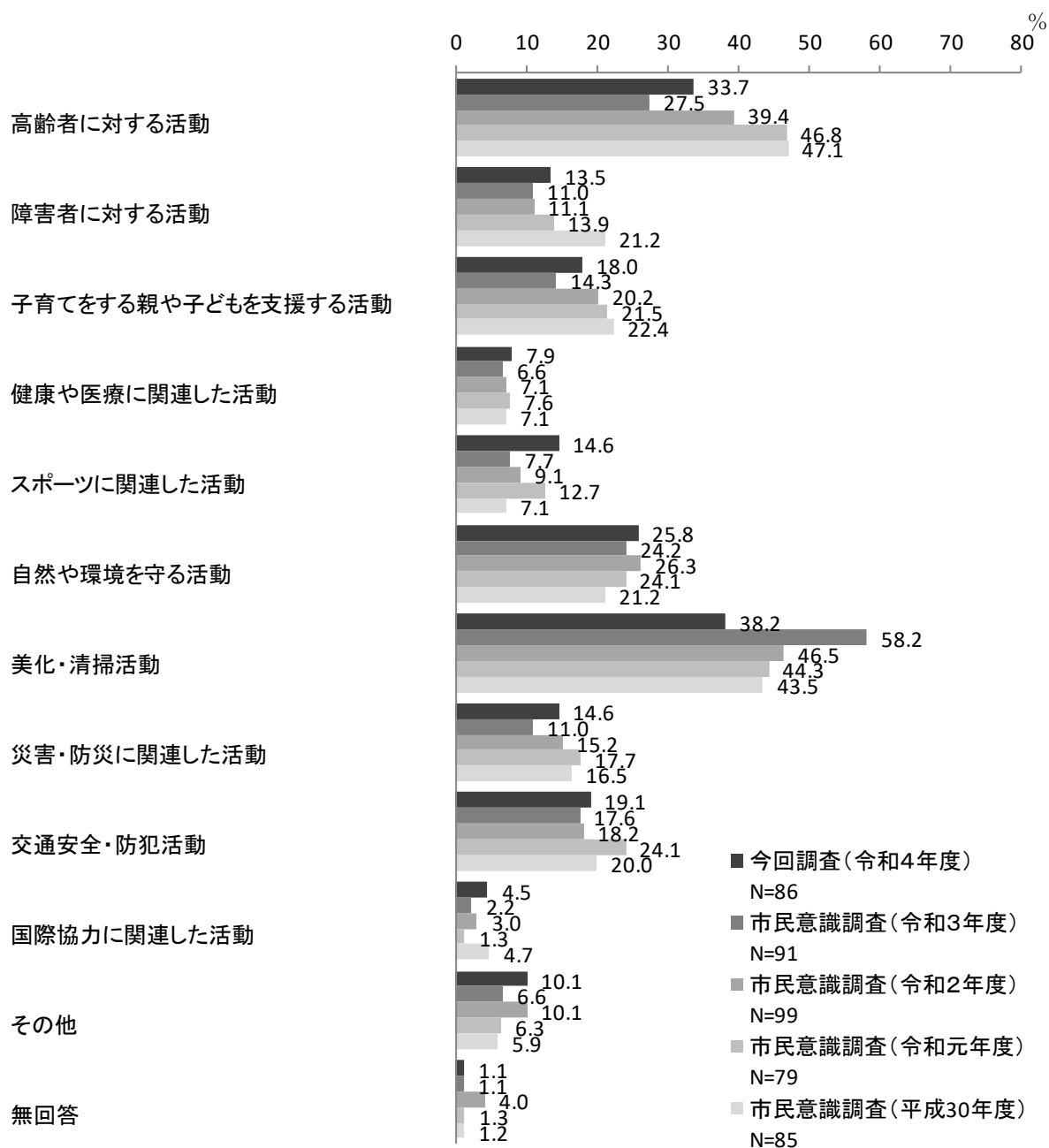
区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	19	84.2	15.8	5.3	10.5	0.0	0.0
市辺地区	7	100.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
玉緒地区	21	76.2	42.9	4.8	14.3	0.0	4.8
御園地区	17	94.1	11.8	0.0	35.3	0.0	0.0
建部地区	18	83.3	38.9	11.1	5.6	5.6	0.0
中野地区	20	80.0	30.0	0.0	15.0	0.0	0.0
八日市地区	16	81.3	31.3	6.3	43.8	0.0	0.0
南部地区	9	88.9	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0
永源寺地区	22	90.9	22.7	4.5	36.4	9.1	0.0
五個荘地区	47	95.7	17.0	0.0	8.5	2.1	0.0
愛東地区	20	95.0	10.0	5.0	15.0	5.0	0.0
湖東地区	47	95.7	12.8	0.0	10.6	4.3	2.1
能登川地区	93	89.2	7.5	2.2	21.5	2.2	1.1
蒲生地区	69	88.4	24.6	2.9	17.4	2.9	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-

問 43-2 問 43-1 で「3. NPOの活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

「美化・清掃活動」が4割近く、「高齢者に対する活動」も3割

- ・ どのような活動に参加したかについては、「美化・清掃活動」が38.2%と最も多く、次いで「高齢者に対する活動」が33.7%と3割の人があげています。そのほか、「自然や環境を守る活動」が25.8%と2割以上の人があげています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「高齢者に対する活動」や「子育てをする親や子どもを支援する活動」などの割合は減少傾向にありましたが、今年度はやや増加しています。一方、「美化・清掃活動」の割合が昨年度大きく増加していましたが、今年度は大きく減少しています。
- ・ 性別では、男女ともに「美化・清掃活動」が最も多くなっています。また、男性は女性より「交通安全・防犯活動」、「スポーツに関連した活動」などが、女性は男性より「高齢者に対する活動」や「子育てをする親や子どもを支援する活動」などが多くあげられています。



【性別】

単位:%

	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
男性	51	23.5	11.8	13.7	3.9	19.6	25.5	31.4	19.6	25.5	3.9	15.7	2.0
女性	34	47.1	14.7	20.6	11.8	5.9	26.5	52.9	8.8	5.9	2.9	2.9	0.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
40歳代	6	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
50歳代	12	33.3	16.7	25.0	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0
60歳代	26	42.3	19.2	19.2	11.5	11.5	30.8	34.6	15.4	19.2	3.8	0.0	3.8
70歳以上	38	36.8	10.5	13.2	10.5	10.5	23.7	47.4	13.2	23.7	2.6	15.8	0.0

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
平田地区	3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
市辺地区	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉緒地区	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
御園地区	6	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
建部地区	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野地区	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
八日市地区	8	62.5	12.5	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
南部地区	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
永源寺地区	9	44.4	0.0	22.2	0.0	0.0	33.3	55.6	33.3	22.2	0.0	11.1	0.0
五箇荘地区	4	75.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0
愛東地区	3	66.7	33.3	33.3	66.7	0.0	100.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
湖東地区	5	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
能登川地区	22	18.2	18.2	18.2	4.5	22.7	31.8	36.4	9.1	4.5	4.5	13.6	0.0
蒲生地区	14	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	28.6	42.9	28.6	14.3	7.1	14.3	7.1
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

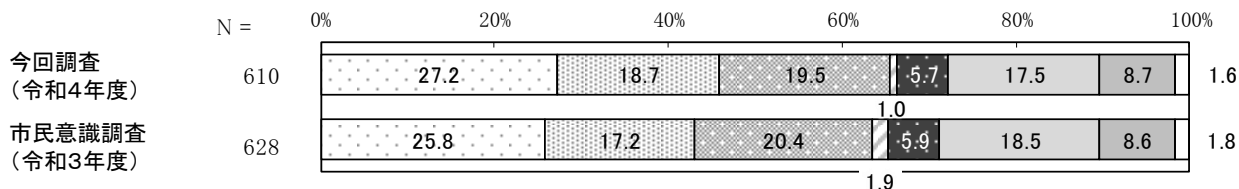
問 43-3 問 43 で「4. 参加していない」とお答えの方におたずねします。

参加していない理由をお聞かせください。《○1つ》

時間がない、内容がわからない、関心がないなど

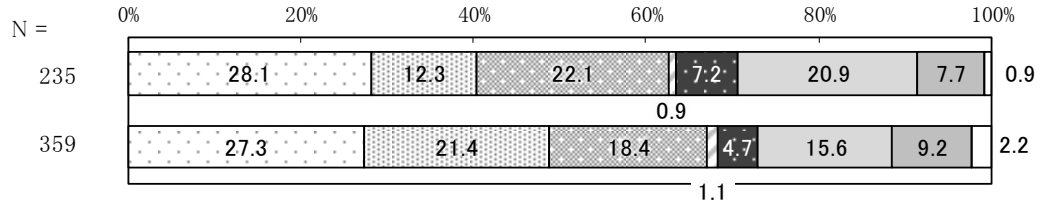
- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動に「参加していない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」が27.2%で最も多く、次いで「活動の情報が少なく、活動内容がわからないから」が19.5%、「年齢・身体・健康上の理由から」が18.7%、「関心がないから」が17.5%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」が最も多くあげられています。女性は、「年齢・身体・健康上の理由から」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、10～20歳代は「関心がないから」、30～50歳代は「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」、70歳以上は「年齢・身体・健康上の理由から」が最も多くなっています。

- 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから
- 年齢・身体・健康上の理由から
- 活動の情報が少なく、活動内容がわからないから
- 既存の仕組み等に不満があるから
- 面倒だから
- 関心がないから
- その他
- 無回答

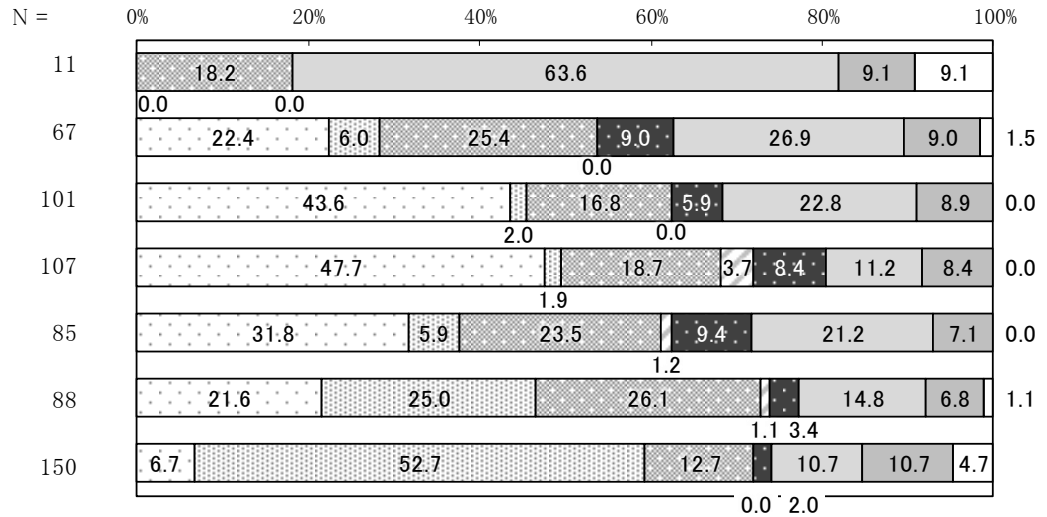


- 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから
- 面倒だから
- ▨ 年齢・身体・健康上の理由から
- 関心がないから
- ▨ 活動の情報が少なく、活動内容がわからないから
- その他
- ▨ 既存の仕組み等に不満があるから
- 無回答

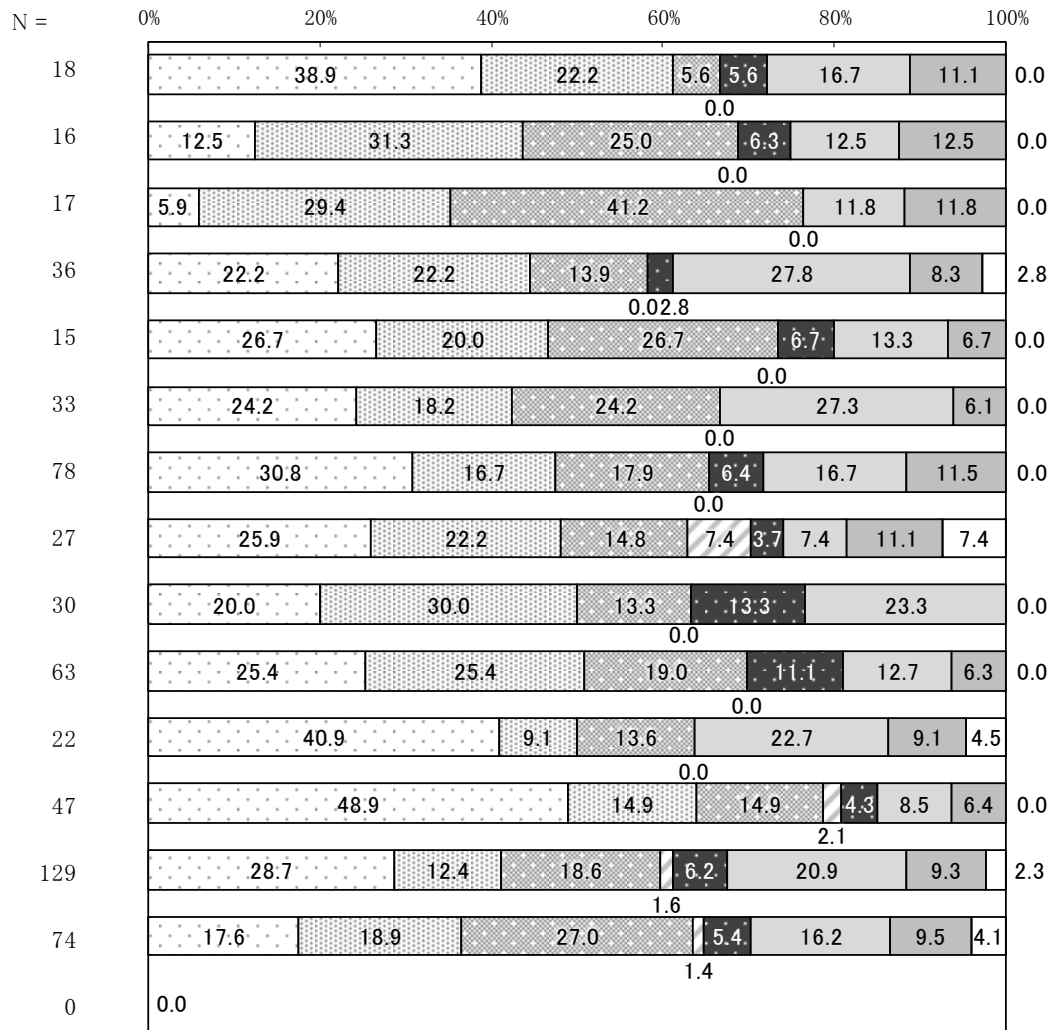
【性別】



【年代別】



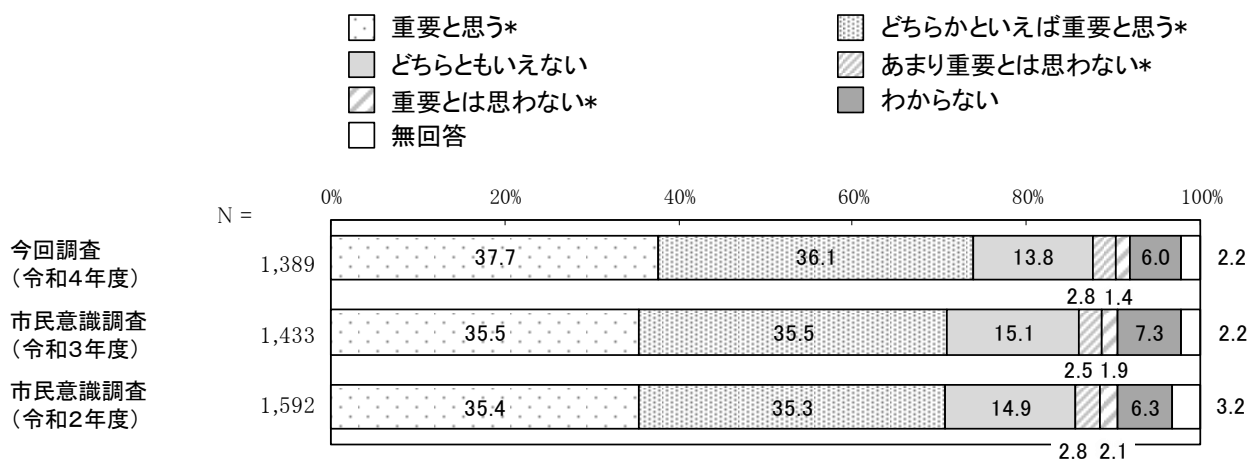
【居住地区別】



問 44 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

7割が重要だと思っている

- ・ 国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、「重要と思う」が37.7%、「どちらかといえば重要と思う」が36.1%で、これらを合わせると73.8%となり、7割の人が重要だと思っています。
- ・ 年代別では、年齢が若いほど「重要と思う」と回答した人の割合が高くなる傾向があり、10～20歳代で半数以上となっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、蒲生地区で重要と思う（「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計）の割合が8割以上となっています。



* 令和2年度は、「重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」、「あまり重要だとは思わない」、「重要だとは思わない」

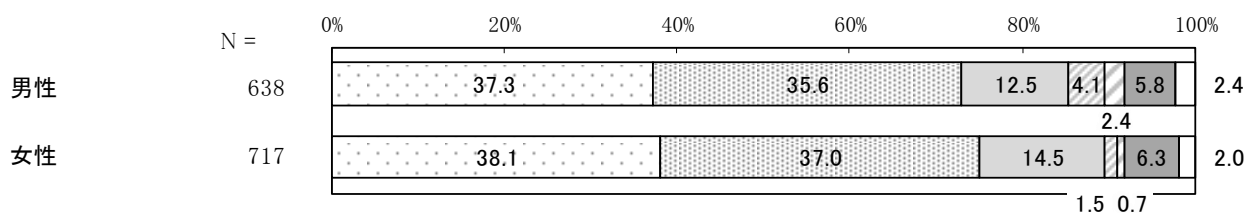
単位：%

	重要と 思う*	重要とは思 わない*	差
①今回調査(令和4年度)	73.8	4.2	69.6
②市民意識調査(令和3年度)	71.0	4.4	66.6
③市民意識調査(令和2年度)	70.7	4.9	65.8
①-③	3.1	-0.7	3.8

* 重要と思う:「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計

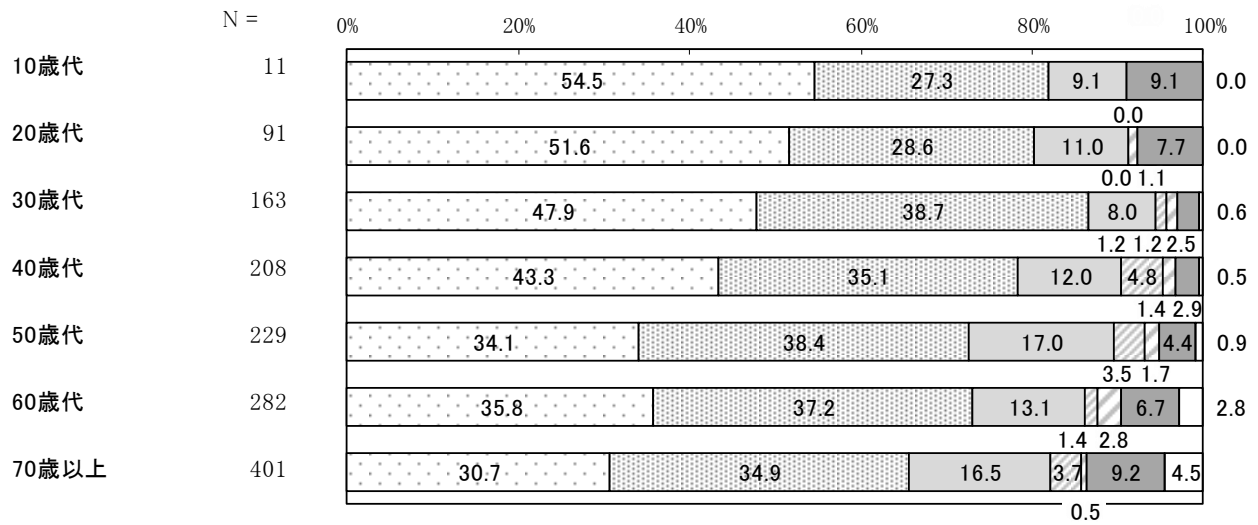
* 重要とは思わない:「あまり重要とは思わない」と「重要とは思わない」の合計

【性別】

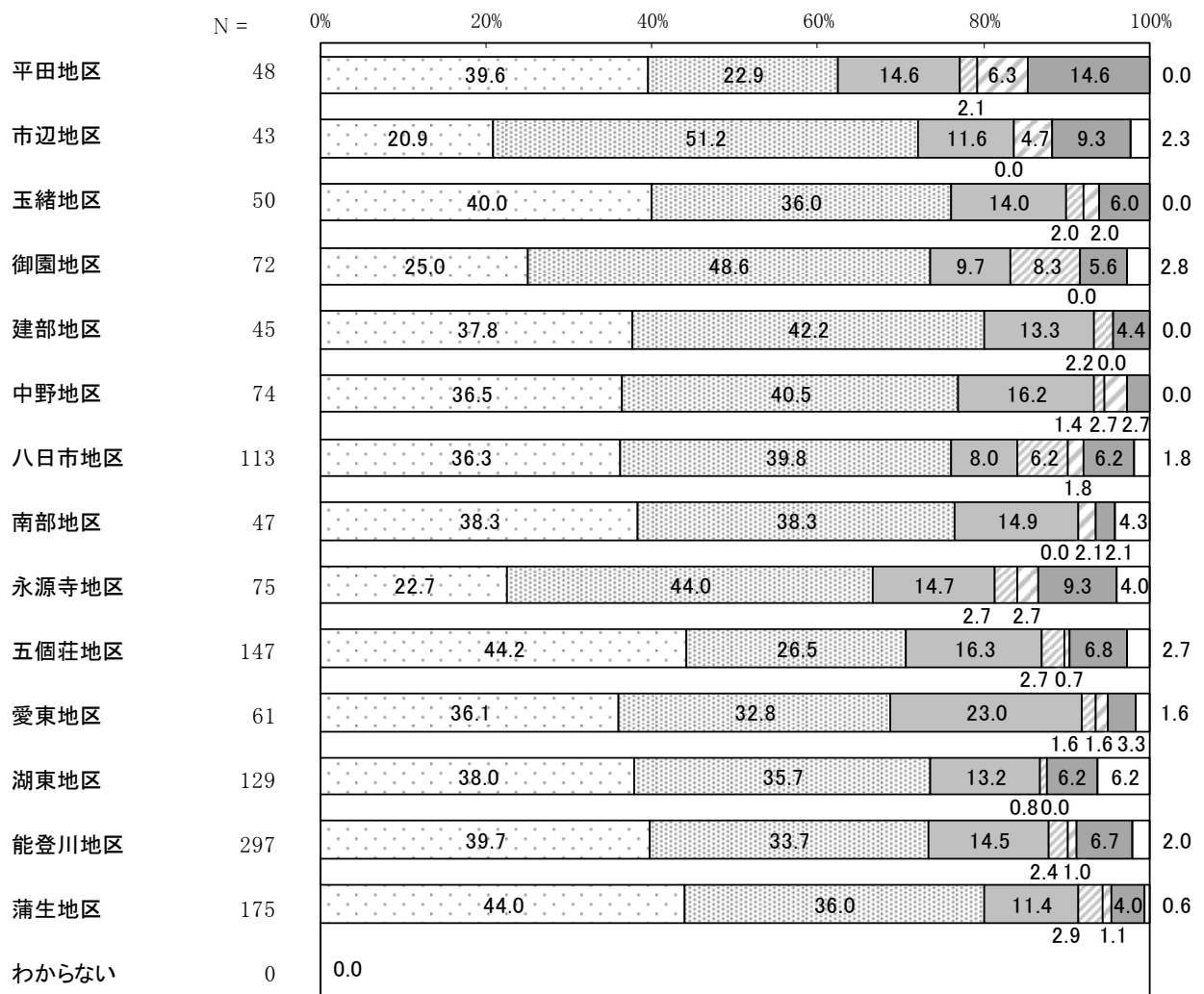


【年代別】

- 重要と思う
- どちらともいえない
- ▨ 重要とは思わない
- 無回答
- ▩ どちらかといえば重要と思う
- ▧ あまり重要とは思わない
- わからない



【居住地区別】

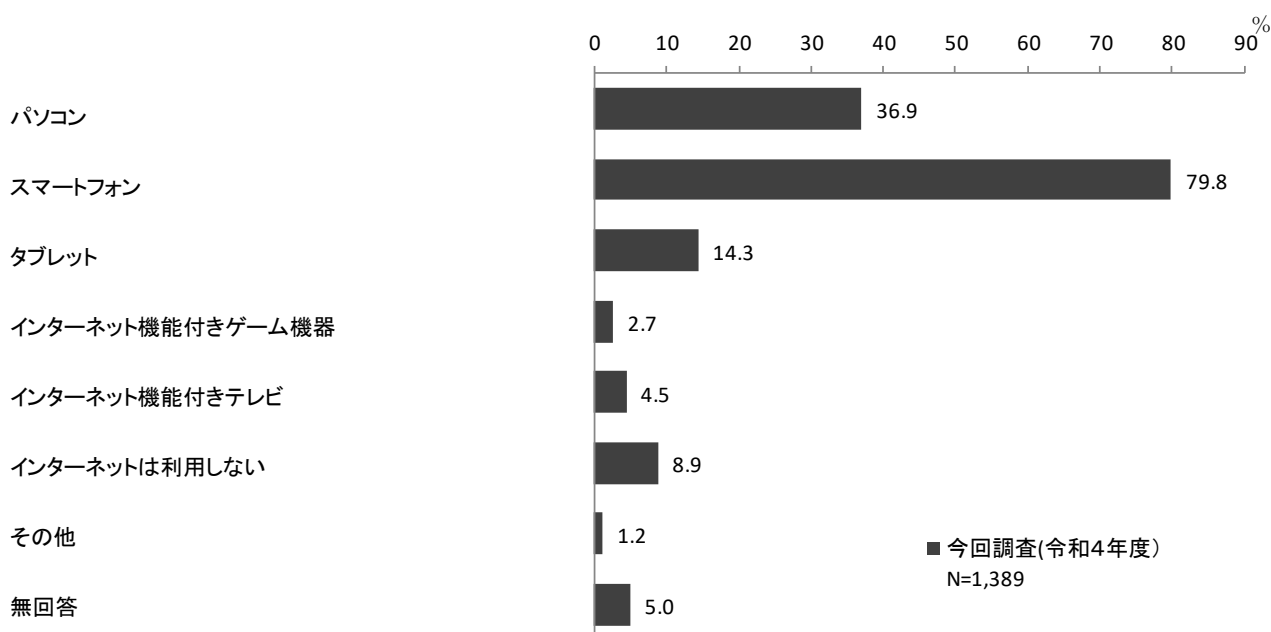


(9) 広報等の情報について

問 45 あなたが日常生活でインターネットを利用するときに使う頻度の多い端末はどれですか。《あてはまるものすべてに○》

8割近くが「スマートフォン」でインターネットを利用

- ・ インターネットを利用するときの端末については、「スマートフォン」が79.8%と最も多く、次いで「パソコン」が36.9%、「タブレット」が14.3%と続きます。また、「インターネットは利用しない」と回答した人は8.9%となっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「スマートフォン」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、20～50歳代で「スマートフォン」の割合が9割を超えており、特に20歳代では100%となっています。10歳代では「タブレット」と「インターネット機能付きゲーム機器」の割合が、40～60歳代では「パソコン」の割合がそのほかの世代より高くなっています。また、70歳以上では「インターネットは利用しない」と回答した人が3割近く見られます。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	パソコン	スマートフォン	タブレット	インターネット機能付ゲーム機器	インターネット機能付テレビ	インターネットは利用しない	その他	無回答
男性	638	46.7	79.5	17.7	3.1	5.2	7.5	0.8	48.6
女性	717	28.6	80.9	11.3	2.4	4.0	9.3	1.4	66.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	パソコン	スマートフォン	タブレット	インターネット機能付ゲーム機器	インターネット機能付テレビ	インターネットは利用しない	その他	無回答
10歳代	11	27.3	81.8	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0
20歳代	91	36.3	100.0	18.7	11.0	11.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	163	33.7	97.5	17.2	6.7	6.1	0.6	0.0	0.0
40歳代	208	42.3	97.6	19.2	4.8	6.3	0.5	0.0	0.0
50歳代	229	41.9	92.6	14.4	0.4	4.4	1.7	0.4	0.9
60歳代	282	43.3	85.5	13.5	0.7	3.9	5.0	0.4	4.3
70歳以上	401	28.7	47.6	9.2	0.0	1.7	25.7	3.7	13.7

【居住地区別】

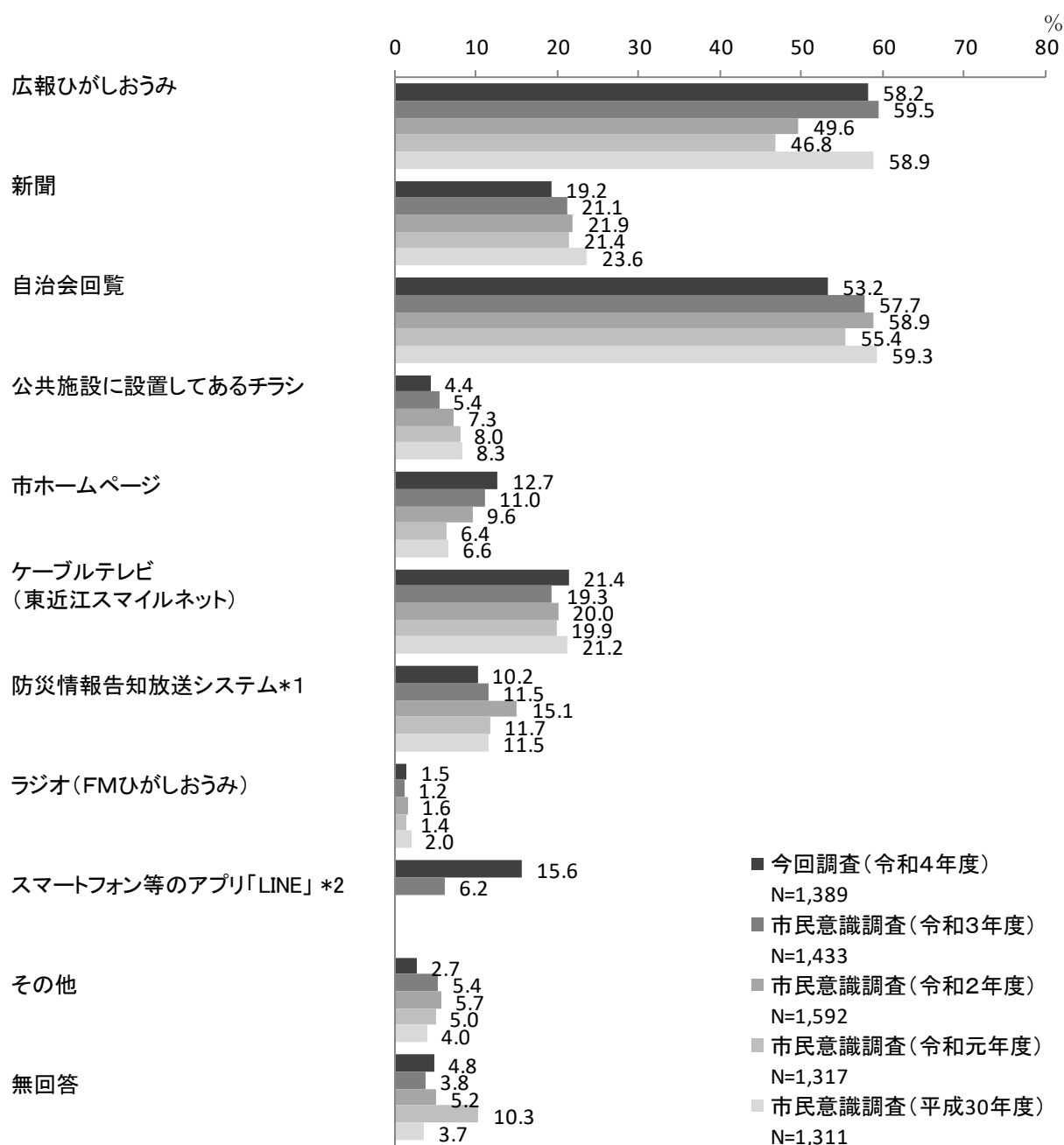
単位:%

区分	有効回答数(件)	パソコン	スマートフォン	タブレット	インターネット機能付ゲーム機器	インターネット機能付テレビ	インターネットは利用しない	その他	無回答
平田地区	48	43.8	87.5	16.7	4.2	2.1	10.4	0.0	0.0
市辺地区	43	34.9	81.4	4.7	4.7	9.3	11.6	0.0	4.7
玉緒地区	50	28.0	78.0	14.0	4.0	2.0	10.0	4.0	6.0
御園地区	72	34.7	79.2	13.9	4.2	2.8	4.2	0.0	8.3
建部地区	45	37.8	84.4	20.0	0.0	0.0	2.2	2.2	6.7
中野地区	74	36.5	83.8	20.3	2.7	9.5	8.1	1.4	0.0
八日市地区	113	32.7	81.4	15.9	5.3	5.3	9.7	0.9	7.1
南部地区	47	40.4	78.7	17.0	2.1	6.4	10.6	0.0	4.3
永源寺地区	75	37.3	69.3	12.0	1.3	6.7	12.0	2.7	8.0
五個荘地区	147	36.7	78.2	12.2	2.0	2.7	8.2	1.4	5.4
愛東地区	61	34.4	78.7	13.1	1.6	3.3	13.1	0.0	3.3
湖東地区	129	43.4	78.3	11.6	0.0	3.1	7.8	0.8	7.0
能登川地区	297	37.4	80.8	13.8	3.0	3.4	7.7	2.0	5.1
蒲生地区	175	36.0	79.4	16.6	2.9	7.4	11.4	0.6	3.4
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-

問 46 あなたは、市の情報（お知らせ）を主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

半数以上が「広報ひがしおうみ」や「自治会回覧」で市の情報を取得

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「広報ひがしおうみ」が 58.2%と最も多く、次いで「自治会回覧」が 53.2%、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が 21.4%、「新聞」が 19.2%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、過去 5 年間で、「市ホームページ」の割合が増加しています。「広報ひがしおうみ」の割合は令和 2 年度以降増加していましたが、今年度はやや減少、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」の割合は減少傾向にありましたが、今年度はやや増加しています。
- ・ 性別では、男性、女性ともに「広報ひがしおうみ」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、全ての年代で「広報ひがしおうみ」が最も多くあげられているほか、「市ホームページ」が 30 歳代で、「スマートフォン等のアプリ「LINE」」が 40 歳代で、「自治会回覧」が 50 歳以上で、「新聞」が 10 歳代と 70 歳以上で、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が 60 歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区では「広報ひがしおうみ」と「自治会回覧」が同じ割合で最も多くあげられています。五個荘地区、建部地区、南部地区は「自治会回覧」が、そのほかの地区では「広報ひがしおうみ」が最も多くあげられています。そのほかに、平田地区で「新聞」が、湖東地区、永源寺地区で「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が、ほかの地区より多くあげられています。



*1 令和2年度まで「音声告知端末」

*2 令和3年度から「スマートフォン等のアプリ「LINE」」を追加

【性別】 *この設問の表については、選択数の分だけ次に多くあげられている回答も薄く網掛けしています。

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォンのアプリ(LINE等)	その他	無回答
男性	638	55.0	20.8	52.2	3.0	13.5	20.4	9.6	1.6	12.9	4.1	5.5	
女性	717	60.5	17.3	53.8	5.7	12.1	22.6	10.6	1.5	18.4	1.5	4.0	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォンのアプリ(LINE等)	その他	無回答
10歳代	11	36.4	27.3	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1
20歳代	91	31.9	12.1	25.3	5.5	16.5	14.3	7.7	3.3	22.0	8.8	3.3	
30歳代	163	41.1	8.6	35.6	8.6	27.0	12.3	4.9	1.2	21.5	6.1	3.1	
40歳代	208	51.9	13.0	43.8	5.3	17.3	16.3	7.7	0.5	26.9	2.9	2.4	
50歳代	229	54.6	17.5	53.3	4.8	12.7	19.2	8.3	0.9	19.2	0.9	3.9	
60歳代	282	69.5	22.3	66.3	1.4	9.6	23.0	16.0	1.1	10.6	0.4	6.0	
70歳以上	401	69.3	27.2	63.6	4.0	6.0	30.2	11.2	2.5	7.2	2.2	6.5	

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォンのアプリ(LINE等)	その他	無回答
平田地区	48	54.2	31.3	47.9	0.0	14.6	27.1	10.4	0.0	22.9	2.1	0.0	
市辺地区	43	58.1	23.3	51.2	4.7	11.6	18.6	4.7	0.0	18.6	4.7	9.3	
玉緒地区	50	58.0	22.0	56.0	2.0	6.0	26.0	6.0	2.0	14.0	2.0	2.0	
御園地区	72	54.2	18.1	45.8	6.9	13.9	26.4	8.3	0.0	18.1	2.8	5.6	
建部地区	45	53.3	24.4	55.6	8.9	22.2	8.9	2.2	6.7	13.3	4.4	2.2	
中野地区	74	54.1	28.4	52.7	8.1	10.8	12.2	2.7	0.0	25.7	0.0	4.1	
八日市地区	113	42.5	10.6	38.1	5.3	15.0	4.4	12.4	3.5	18.6	10.6	6.2	
南部地区	47	48.9	19.1	53.2	6.4	27.7	12.8	12.8	2.1	8.5	4.3	6.4	
永源寺地区	75	57.3	24.0	57.3	1.3	16.0	40.0	6.7	0.0	10.7	0.0	6.7	
五個荘地区	147	59.9	15.0	64.6	1.4	10.2	25.2	10.2	2.7	15.0	2.0	6.1	
愛東地区	61	55.7	24.6	41.0	4.9	13.1	34.4	23.0	0.0	14.8	0.0	3.3	
湖東地区	129	64.3	11.6	55.0	0.8	8.5	43.4	11.6	1.6	10.9	1.6	7.8	
能登川地区	297	62.3	18.5	57.6	4.0	10.8	16.2	11.1	1.3	15.2	2.0	4.4	
蒲生地区	175	65.1	21.7	49.7	7.4	13.1	16.0	10.9	1.1	16.6	2.9	2.9	
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 47 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

7割以上が広報紙を読んでおり、3割は「毎月読んでいる」

- 「広報ひがしおうみ」については、「たまに読んでいる」が39.7%と最も多く、「毎月読んでいる」の34.4%と合わせると74.1%となり、7割以上の人を読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が15.7%、「知らない」が8.3%となっています。
- 過去の調査と比較すると、今年度は広報紙を読んでいる人（「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合は増加しましたが、「毎月読んでいる」人の割合がやや減少しています。読んでいない又は知らない人の割合は、増加傾向にありましたが今年度は減少しています。
- 広報紙を「毎月読んでいる」人の割合は、性別では男性より女性が高く、年代別では年齢が上がるほど高くなる傾向があります。一方、20歳代までは「読んでいない」又は「知らない」人が読んでいる人（前述）より多く見られます。
- 居住地区別では、湖東地区、永源寺地区、平田地区で広報紙を読んでいる人（前述）が8割以上見られる一方、八日市地区で「読んでいない」又は「知らない」人が多く見られます。

毎月読んでいる たまに読んでいる 読んでいない
 知らない 無回答



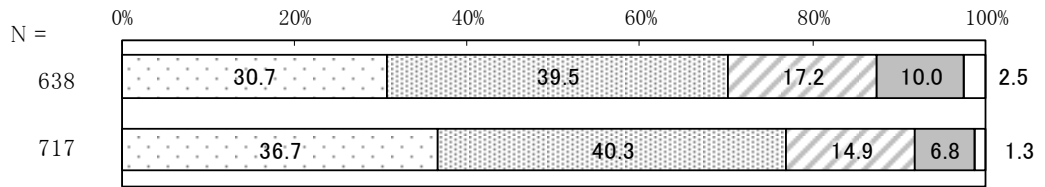
単位：%

	読んでいる*	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和4年度)	74.1	24.0	50.1
②市民意識調査(令和3年度)	69.4	28.3	41.1
③市民意識調査(令和2年度)	71.1	27.4	43.7
④市民意識調査(令和元年度)	71.0	23.6	47.4
⑤市民意識調査(平成30年度)	75.4	21.5	53.9
①-⑤	-1.3	2.5	-3.8

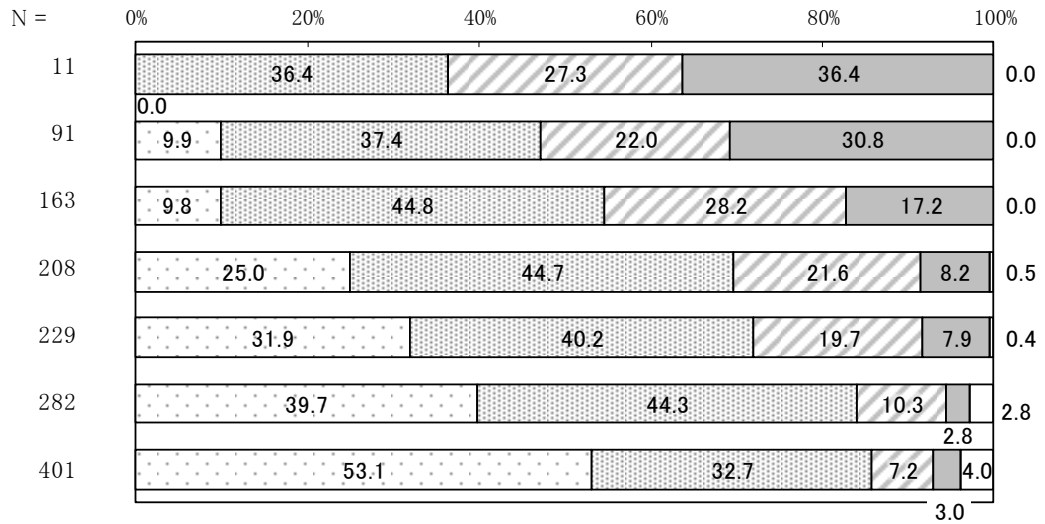
* 読んでいる:「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

毎月読んでいる たまに読んでいる 読んでいない
 知らない 無回答

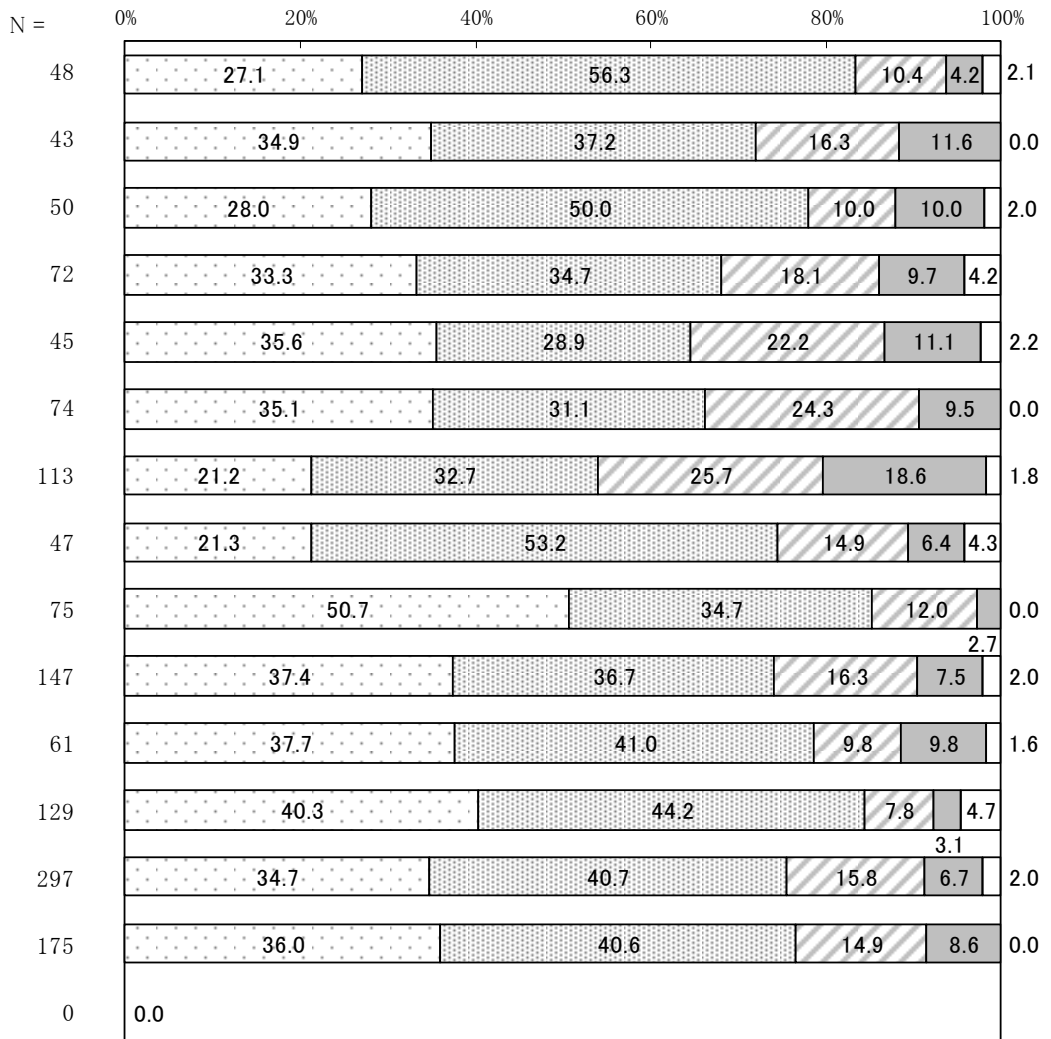
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

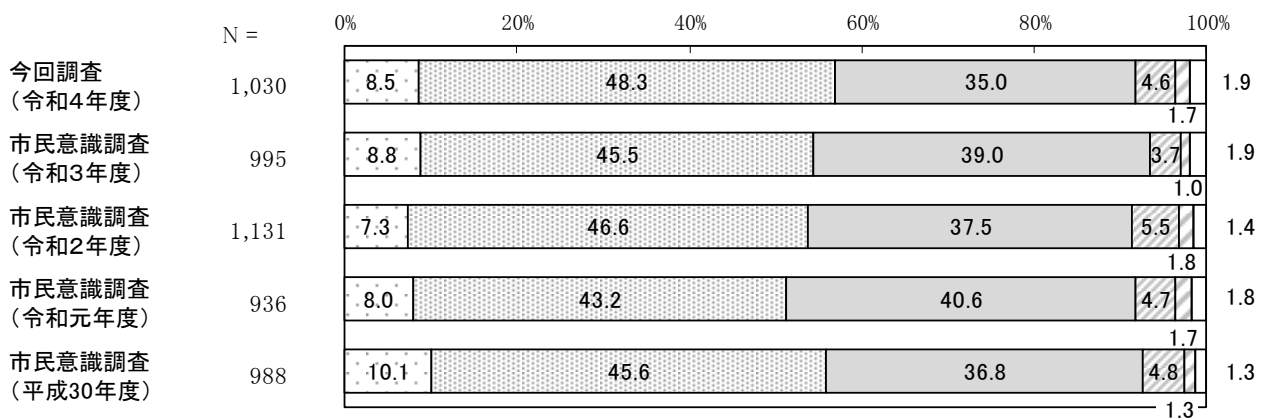


問 47-1 問 47 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。

あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

6割近くが満足、4割近くが「どちらともいえない」

- 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「どちらかといえば満足している」が48.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が35.0%と続きます。満足している（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）が56.8%に対し、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は6.3%となっています。
- 性別では男性より女性で、年代別では40歳代と60歳以上で、居住地区別では中野地区、建部地区、御園地区、五個荘地区、市辺地区で、満足している人（前述）の割合が高くなっています。



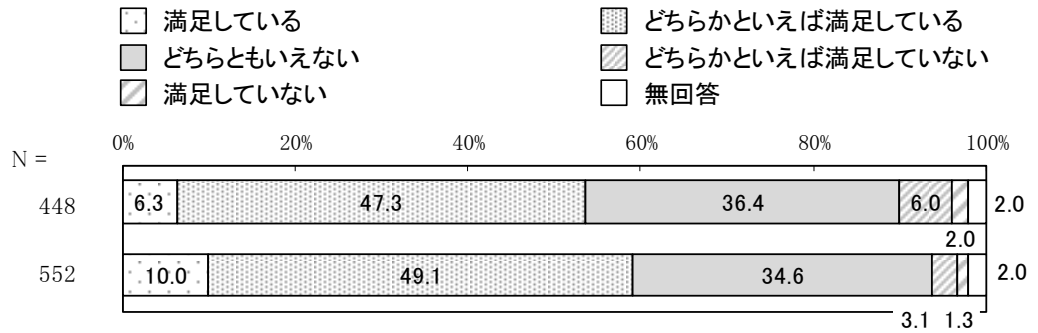
単位：%

	満足*	不満*	差
①今回調査(令和4年度)	56.8	6.3	50.5
②市民意識調査(令和3年度)	54.3	4.7	49.6
③市民意識調査(令和2年度)	53.9	7.3	46.6
④市民意識調査(令和元年度)	51.2	6.4	44.8
⑤市民意識調査(平成30年度)	55.7	6.1	49.6
①-⑤	1.1	0.2	0.9

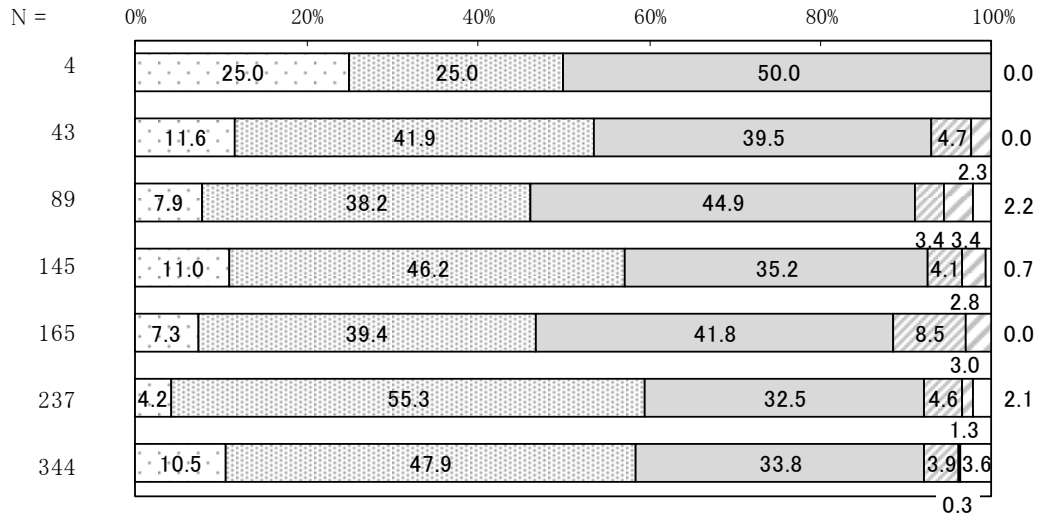
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

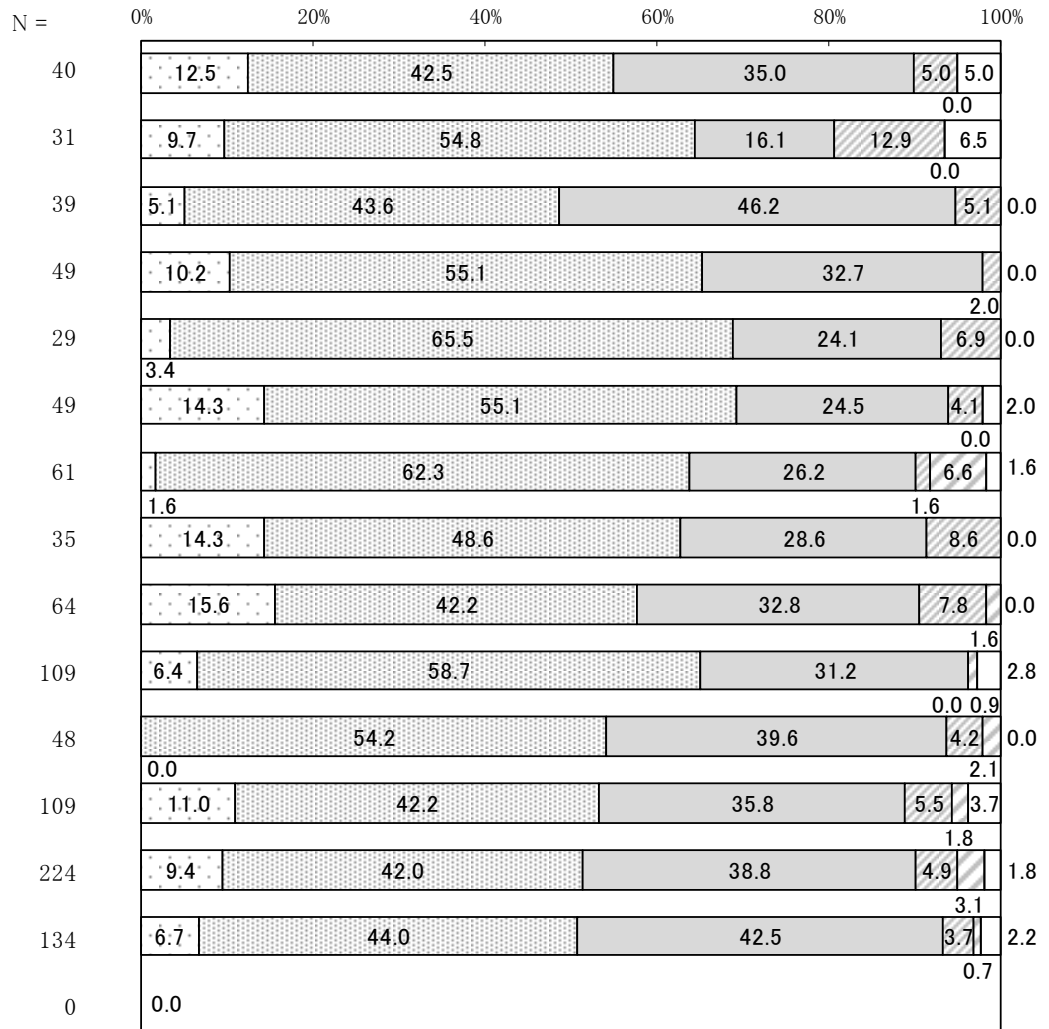
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



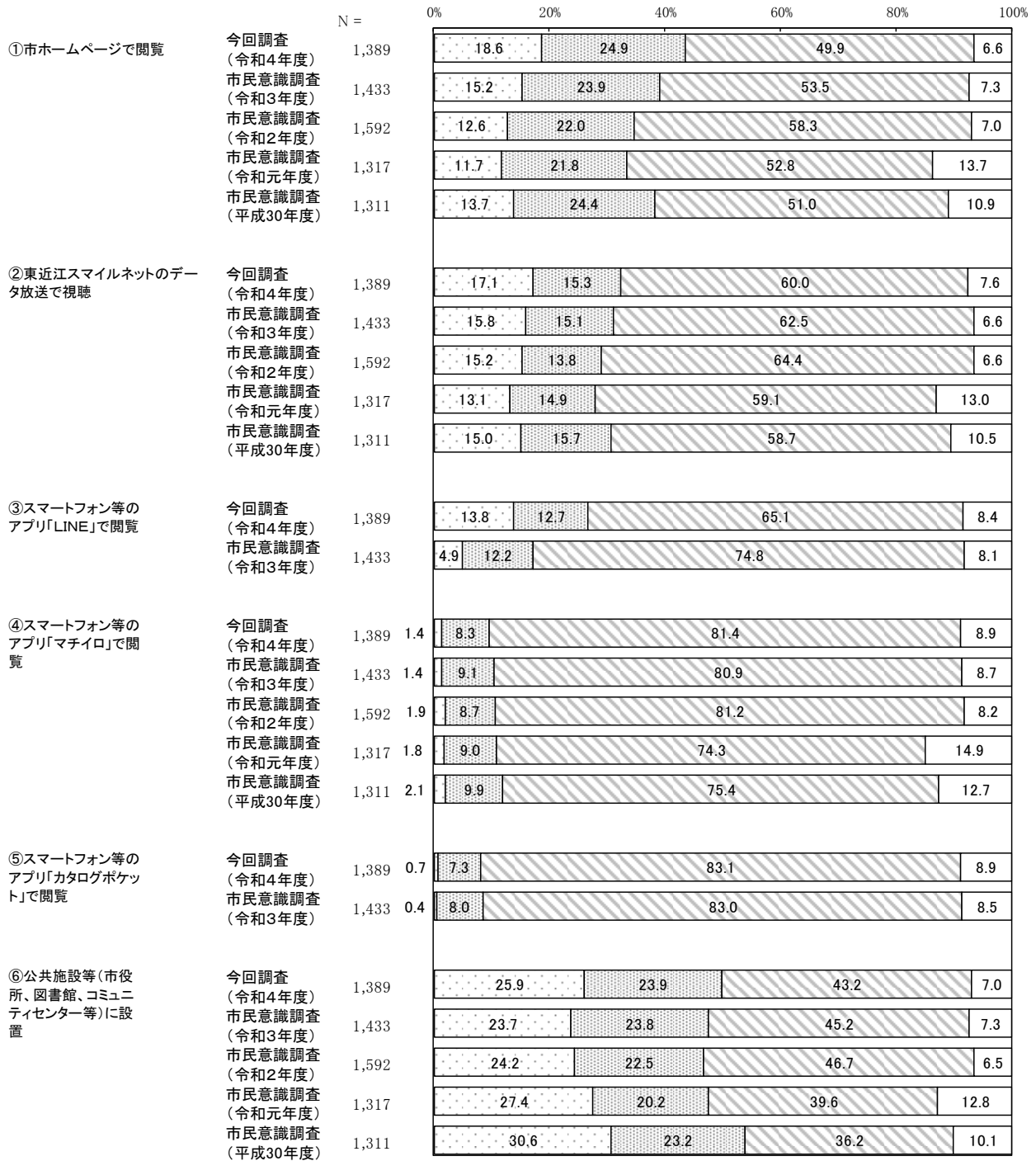
問 48 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほかに次の方法で配信等を行っています。

あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設等に設置」が最も高い

- ・ 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「⑥公共施設等に設置」が49.8%と最も高く、次いで「①市ホームページで閲覧」が43.5%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が32.4%、「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が26.5%、「④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧」が9.7%、「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」が8.0%となっています。実際に「見たことがある」人が多かったのは、「⑥公共施設等に設置」が25.9%、「①市ホームページで閲覧」が18.6%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が17.1%、「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が13.8%、「④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧」が1.4%、「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」が0.7%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和元年度以降「①市ホームページで閲覧」と「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」の認知度が向上し、実際に「見たことがある」人の割合も増加傾向にあります。また、「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」について、実際に「見たことがある」人の割合が1割近く高くなっています。

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答



*「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」と「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」は、令和3年度調査から追加

単位：％

		認知度*	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(令和4年度)	43.5	49.9	-6.4
	市民意識調査(令和3年度)	39.1	53.5	-14.4
	市民意識調査(令和2年度)	34.6	58.3	-23.7
	市民意識調査(令和元年度)	33.5	52.8	-19.3
	市民意識調査(平成30年度)	38.1	51.0	-12.9
	差	5.4	-1.1	6.5
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	今回調査(令和4年度)	32.4	60.0	-27.6
	市民意識調査(令和3年度)	30.9	62.5	-31.6
	市民意識調査(令和2年度)	29.0	64.4	-35.4
	市民意識調査(令和元年度)	28.0	59.1	-31.1
	市民意識調査(平成30年度)	30.7	58.7	-28.0
	差	1.7	1.3	0.4
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	今回調査(令和4年度)	26.5	65.1	-38.6
	市民意識調査(令和3年度)	17.1	74.8	-57.7
	差	9.4	-9.7	19.1
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	今回調査(令和4年度)	9.7	81.4	-71.7
	市民意識調査(令和3年度)	10.5	80.9	-70.4
	市民意識調査(令和2年度)	10.6	81.2	-70.6
	市民意識調査(令和元年度)	10.8	74.3	-63.5
	市民意識調査(平成30年度)	12.0	75.4	-63.4
	差	-2.3	6.0	-8.3
⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	今回調査(令和4年度)	8.0	83.1	-75.1
	市民意識調査(令和3年度)	8.4	83.0	-74.6
	差	-0.4	0.1	-0.5
⑥公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	今回調査(令和4年度)	49.8	43.2	6.6
	市民意識調査(令和3年度)	47.5	45.2	2.3
	市民意識調査(令和2年度)	46.7	46.7	0.0
	市民意識調査(令和元年度)	47.6	39.6	8.0
	市民意識調査(平成30年度)	53.8	36.2	17.6
	差	-4.0	7.0	-11.0

* 認知度:「見たことがある」「知っているが見たことはない」の合計

① 市ホームページで閲覧

- ・ 年代別では、70歳以上を除き、年齢が上がるほど認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、愛東地区、南部地区で知っている人が知らない人より多くなっています。また、八日市地区で知らない人がほかの地区より多くなっています。認知度は、御園地区、蒲生地区、南部地区、五個荘地区の順に高くなっています。

② 東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

- ・ 年代別では、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向があり、全ての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、愛東地区で知っている人が知らない人より多くなっています。認知度は、湖東地区、愛東地区、平田地区、永源寺地区の順に高くなっています。

③ スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

- ・ 年代別では、40～60歳代でほかの年代より認知度が高くなっていますが、全ての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で知らない人が知っている人より多く、特に建部地区で知らない人が多くなっています。認知度は、蒲生地区、平田地区、御園地区の順に高くなっています。

④ スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 年代別では、全ての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度は、市辺地区、湖東地区、蒲生地区の順に高くなっています。

⑤ スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

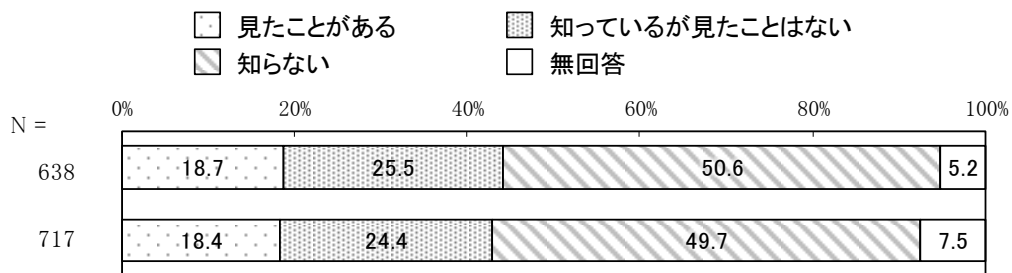
- ・ 年代別では、全ての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、全ての地区で知らない人が知っている人より多くなっています。認知度は、湖東地区、蒲生地区、南部地区の順に高くなっています。

⑥ 公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンター等）に設置

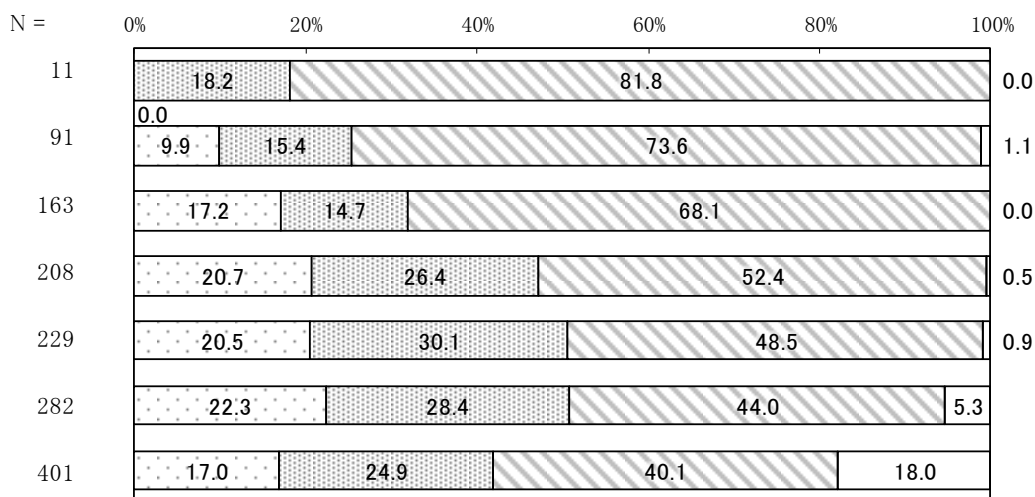
- ・ 性別では、男性より女性の認知度が高くなっています。
- ・ 年代別では、40～60歳代で認知度が6割近くと高くなっています。また、30歳代までは知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、能登川地区、南部地区、湖東地区、市辺地区、建部地区で認知度が半数以上と高くなっています。また、八日市地区では知らない人が知っている人より多くなっています。認知度は、能登川地区、南部地区、湖東地区の順に高くなっています。

①市ホームページで閲覧

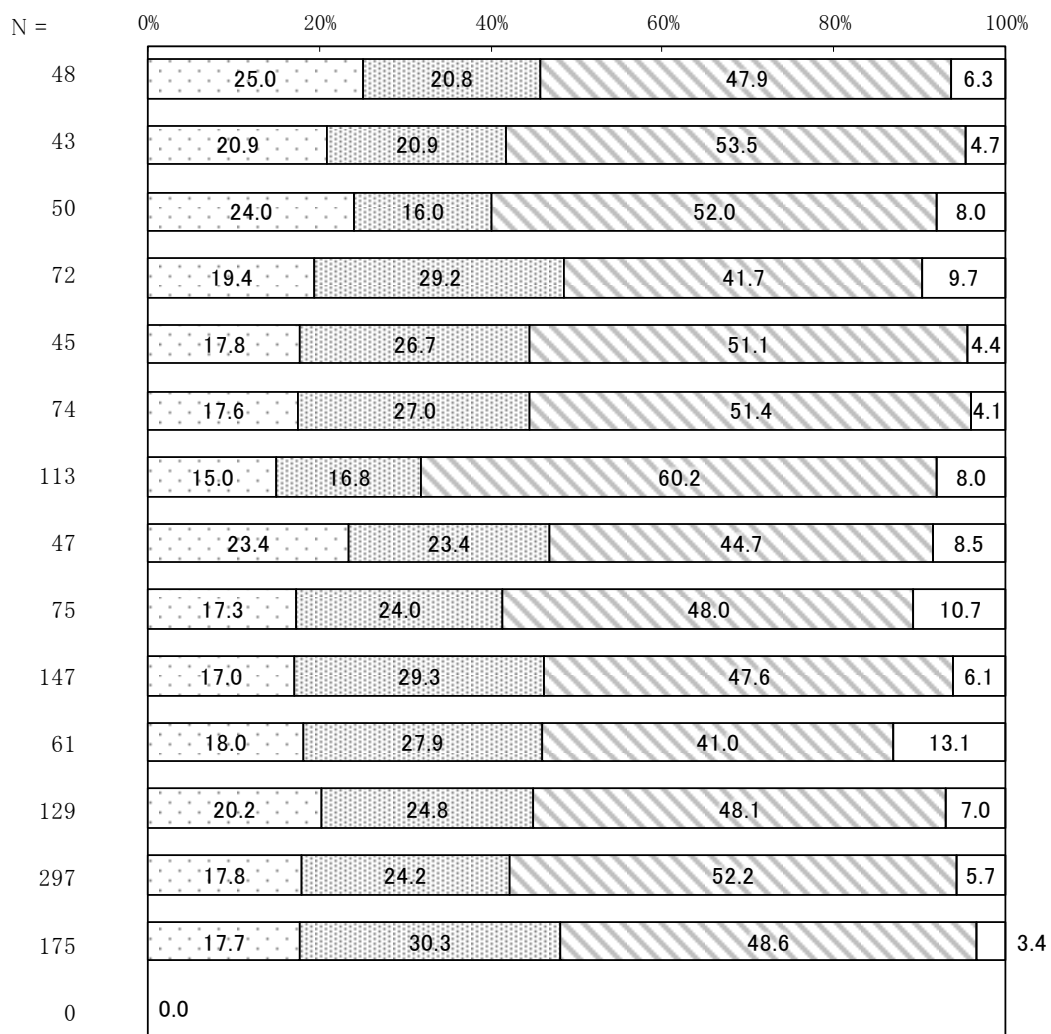
【性別】



【年代別】



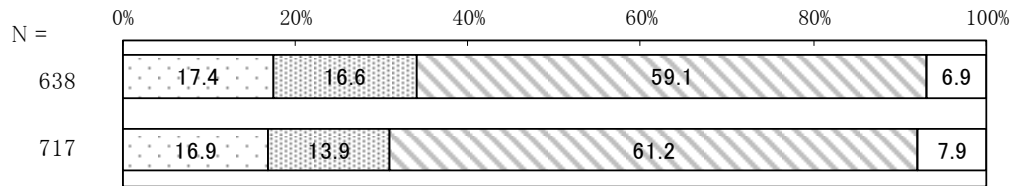
【居住地区別】



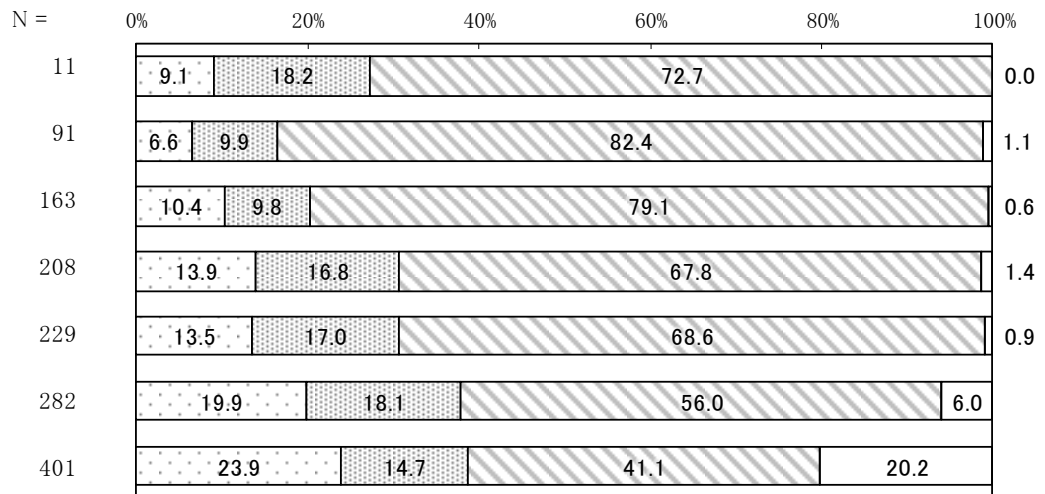
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

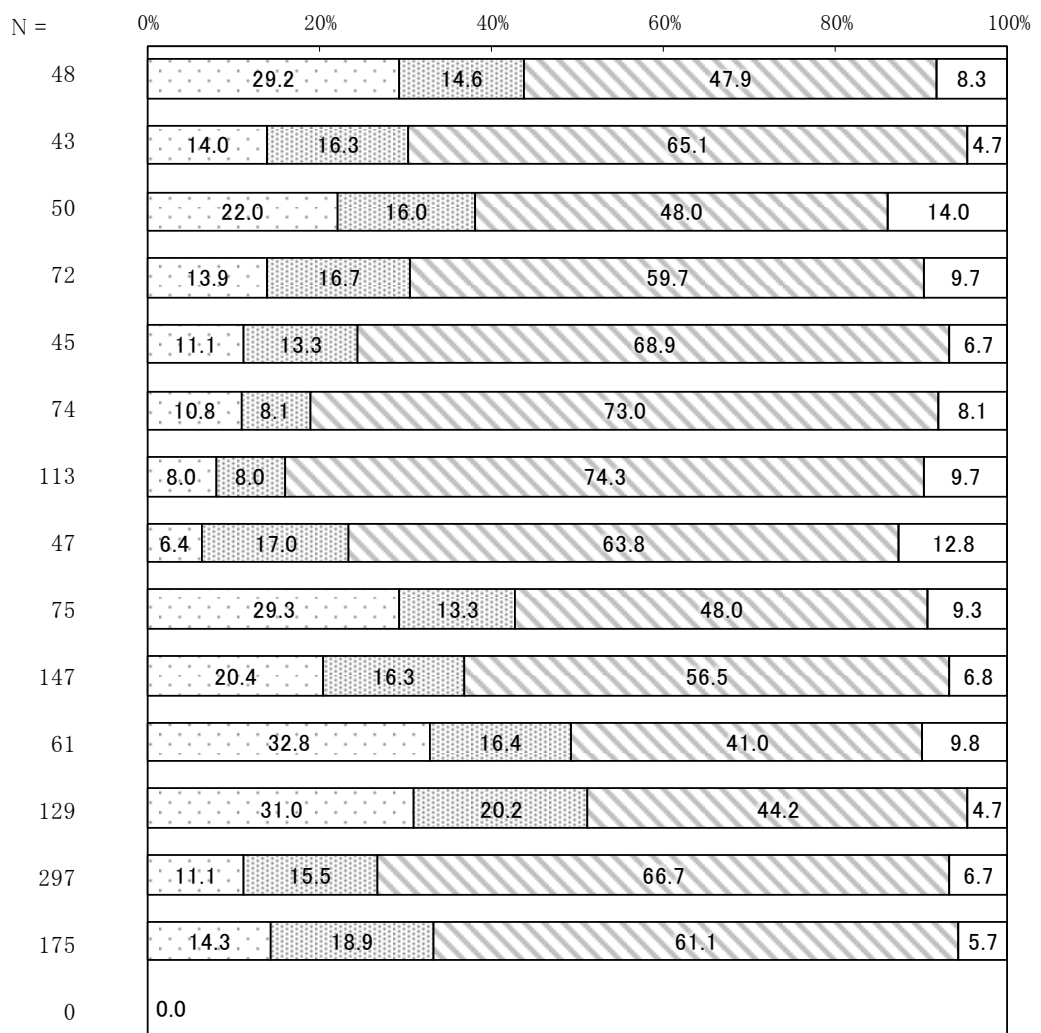
【性別】



【年代別】



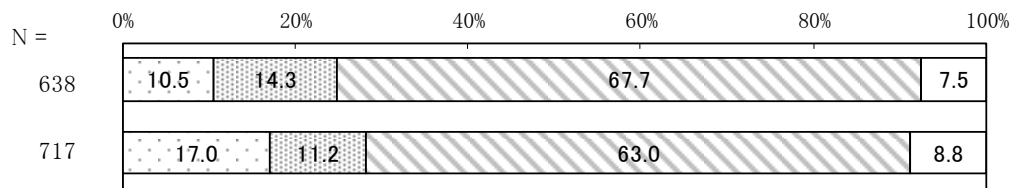
【居住地区別】



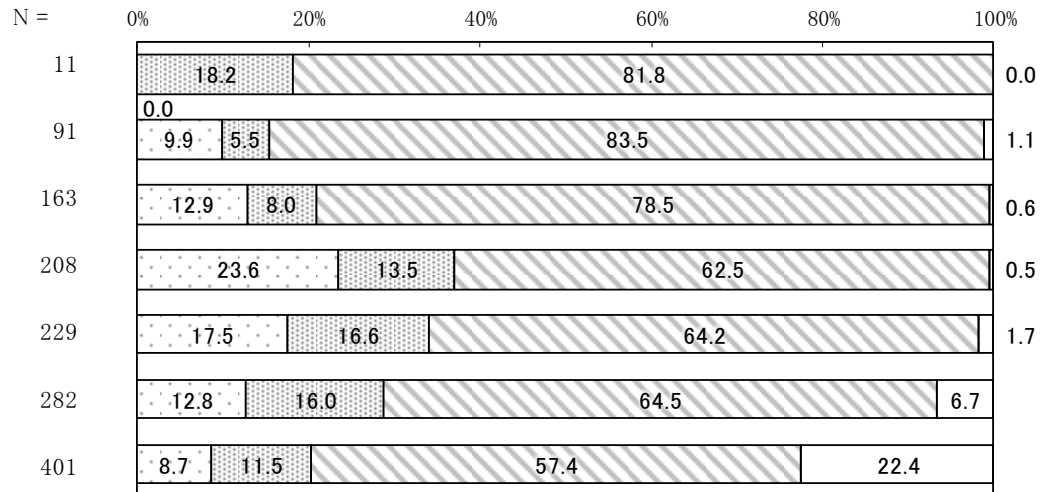
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

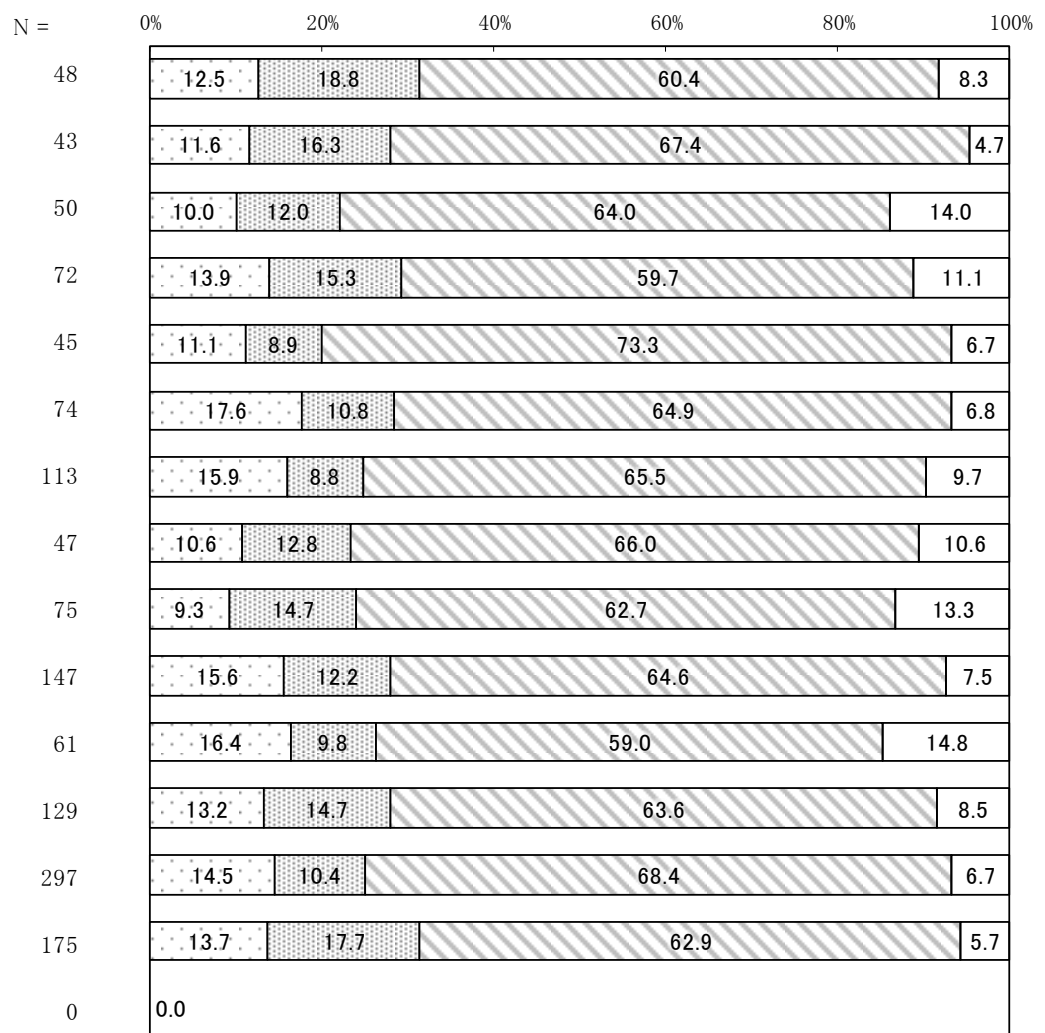
【性別】



【年代別】



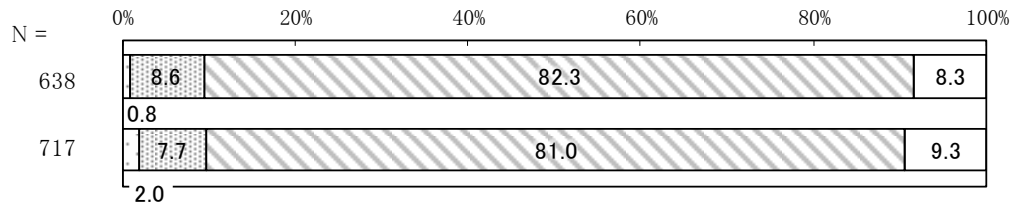
【居住地区別】



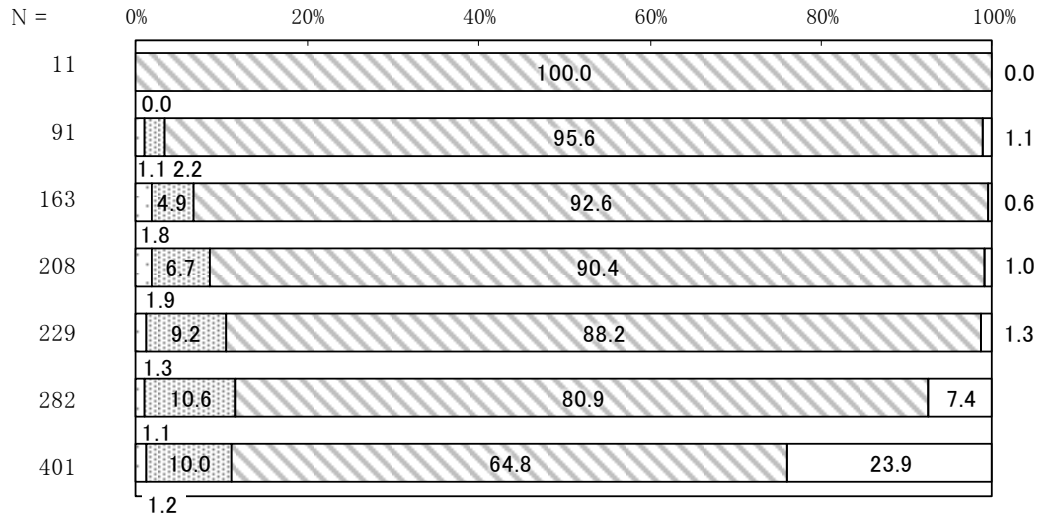
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

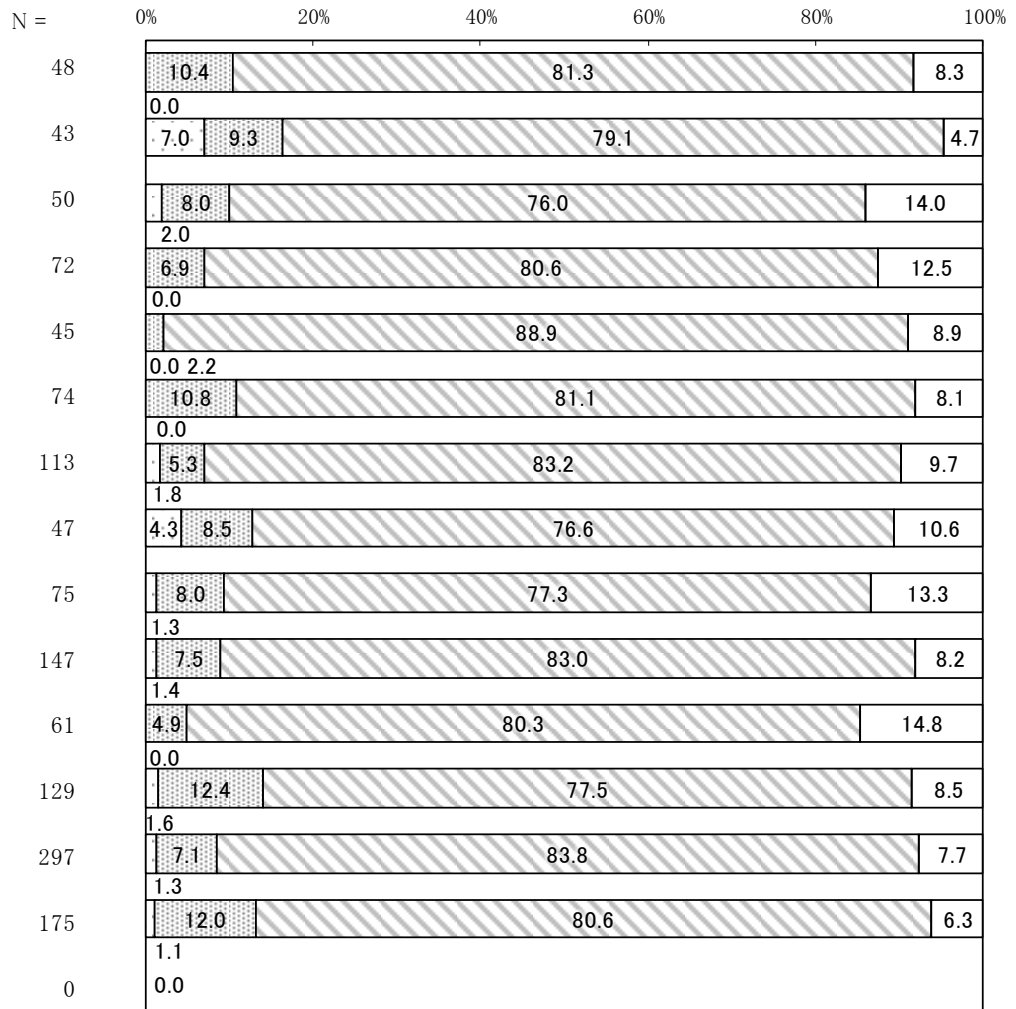
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

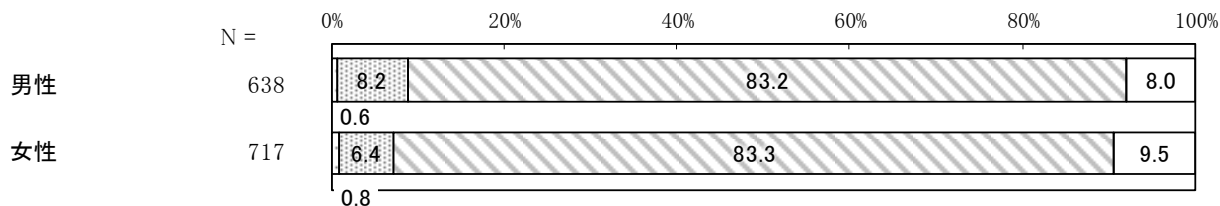


⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

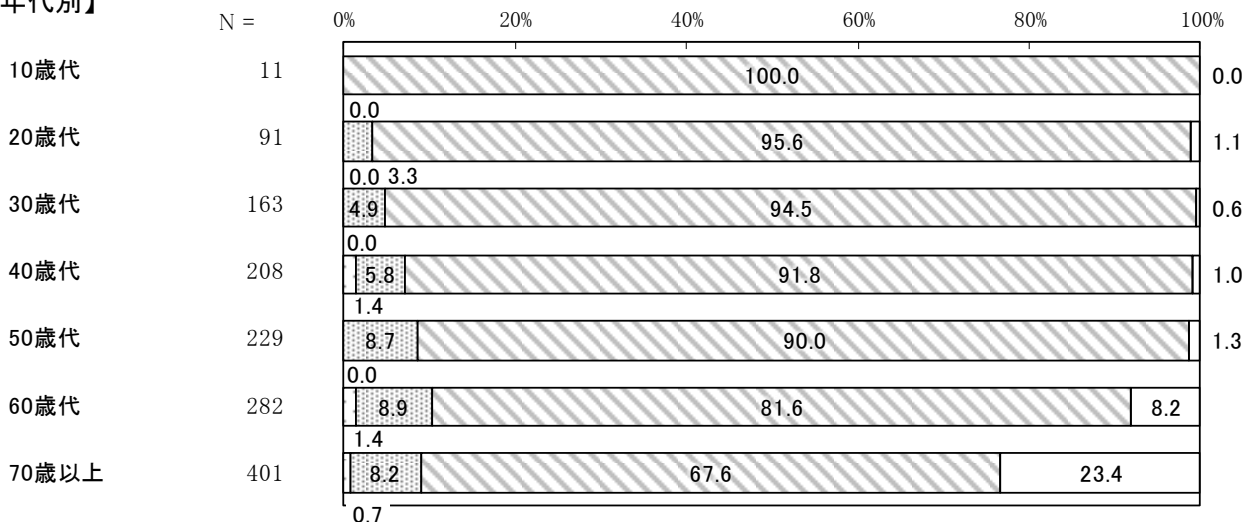
■ 見たことがある
■ 知らない

■ 知っているが見たことはない
□ 無回答

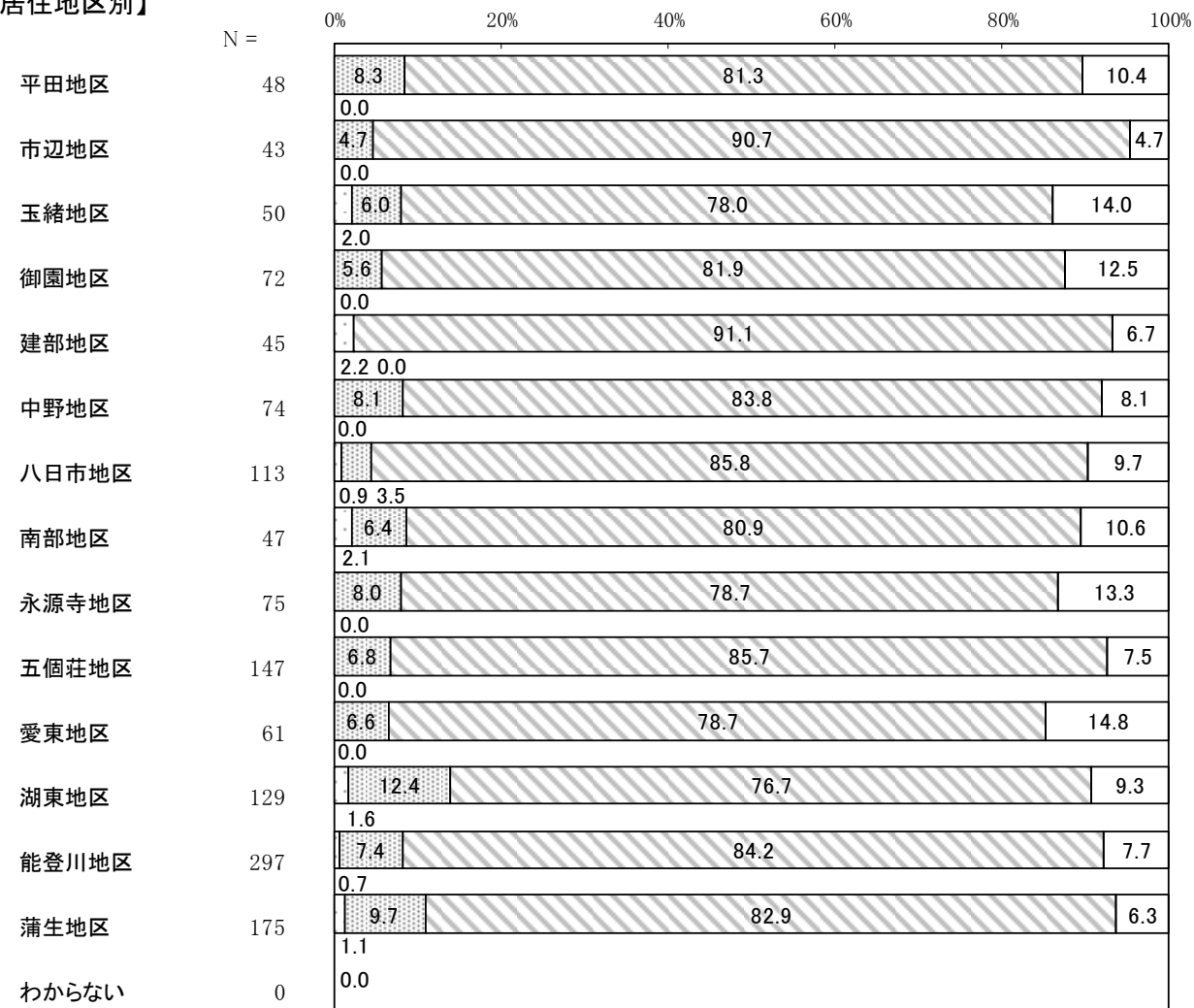
【性別】



【年代別】



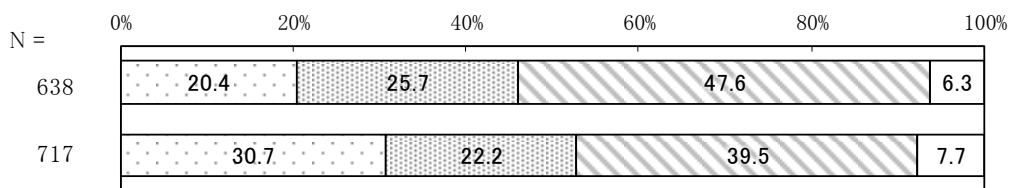
【居住地区別】



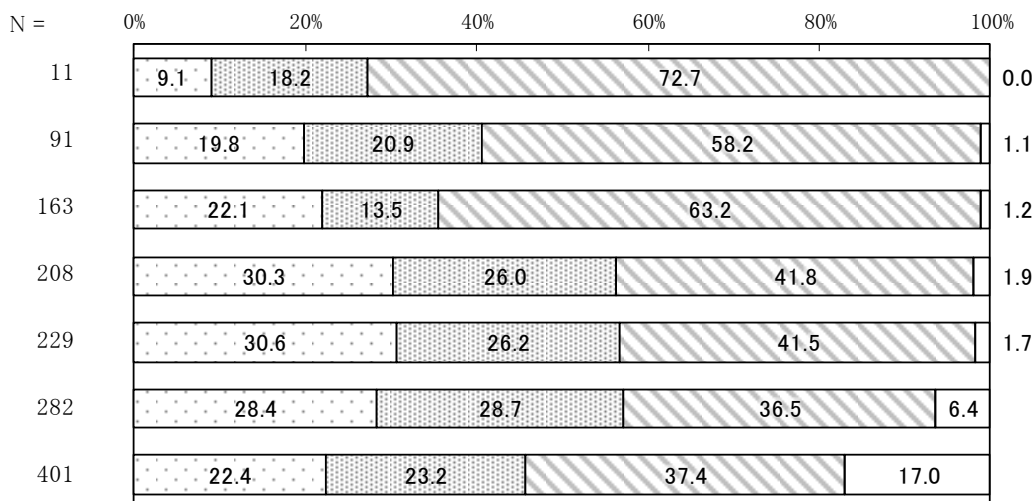
⑥ 公共施設等に設置

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

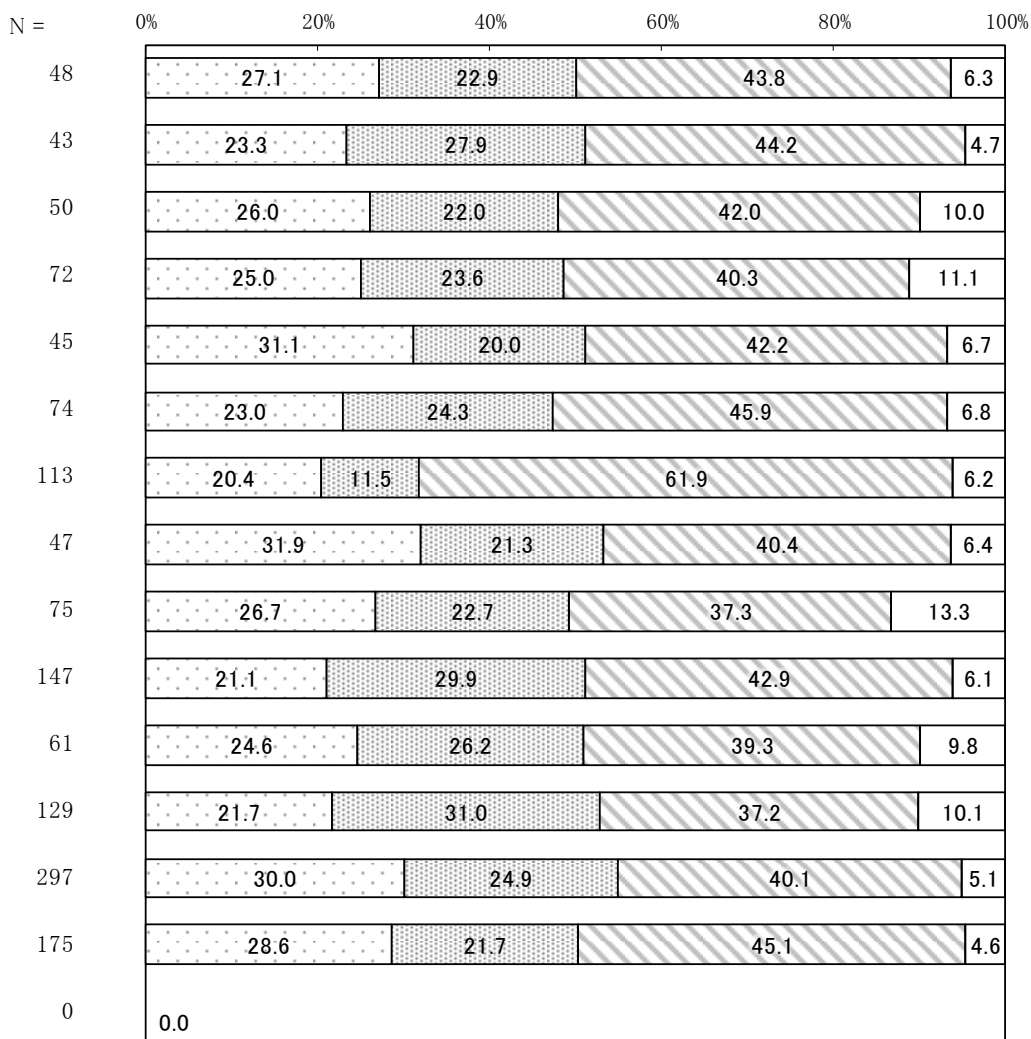
【性別】



【年代別】



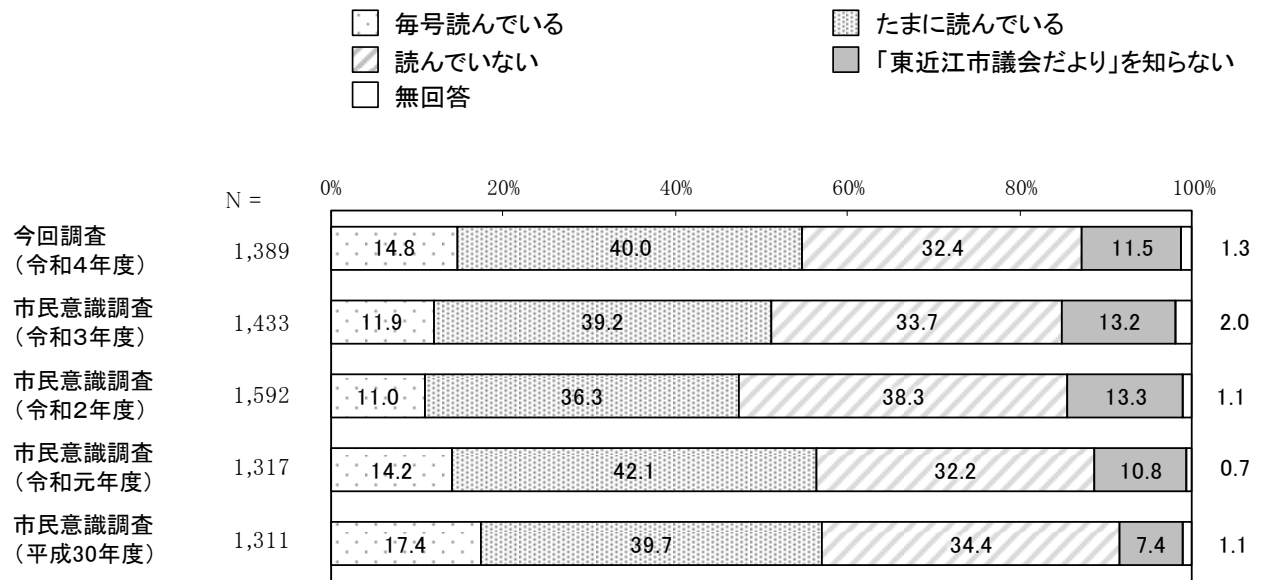
【居住地区別】



問 49 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

半数が「東近江市議会だより」を読んでいる

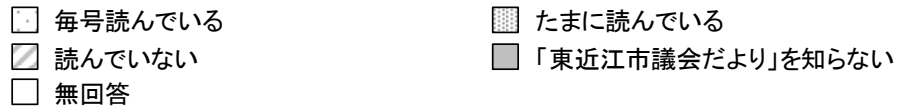
- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」が14.8%、「たまに読んでいる」が40.0%で、これらを合わせると54.8%となり、半数の人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が32.4%、「知らない」が11.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和3年度以降、「東近江市議会だより」を読んでいる人（「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が増加傾向にあります。
- ・ 性別では、男性より女性で「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多く見られます。
- ・ 年代別では、30歳以上で年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多く見られます。また、40歳代までは、読んでいない又は知らない人が、読んでいる人（前述）より多くなっています。



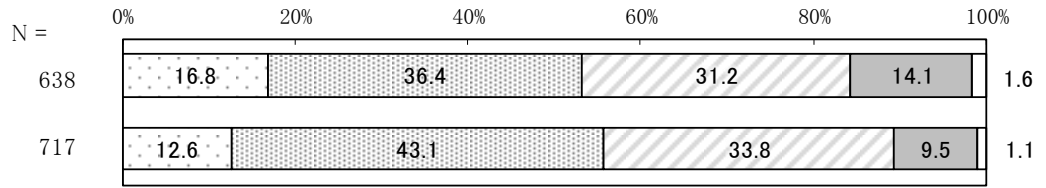
単位：%

	読んでいる*	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和4年度)	54.8	43.9	10.9
②市民意識調査(令和3年度)	51.1	46.9	4.2
③市民意識調査(令和2年度)	47.3	51.6	-4.3
④市民意識調査(令和元年度)	56.3	43.0	13.3
⑤市民意識調査(平成30年度)	57.1	41.8	15.3
①-⑤	-2.3	2.1	-4.4

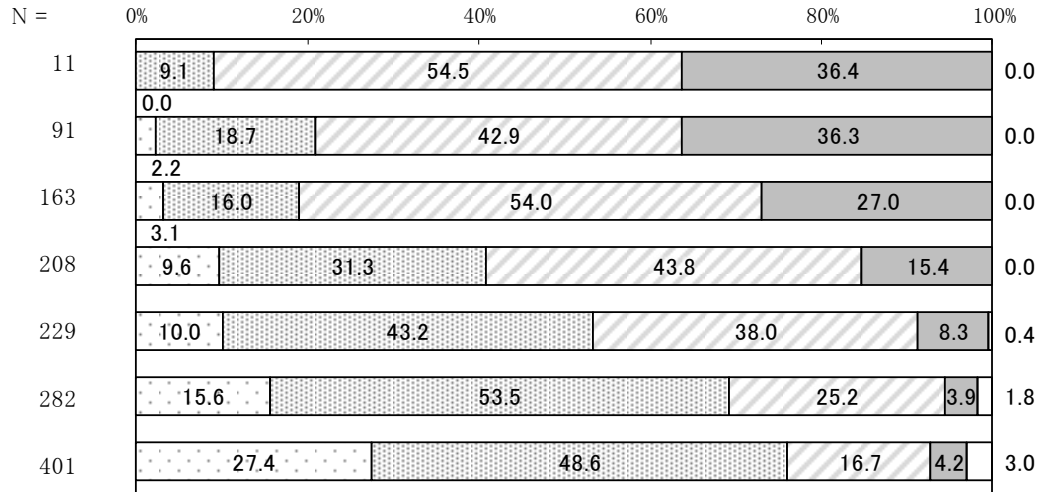
* 読んでいる:「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計



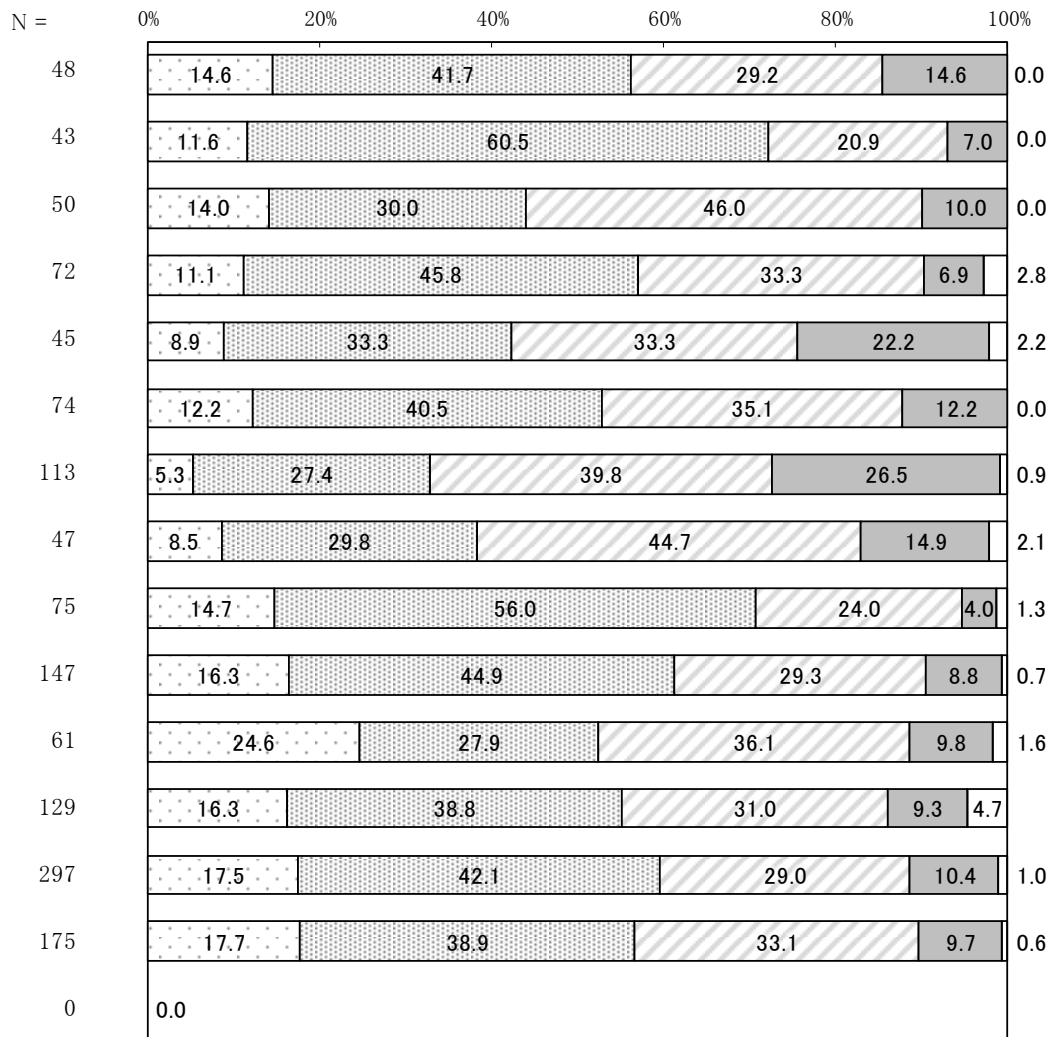
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

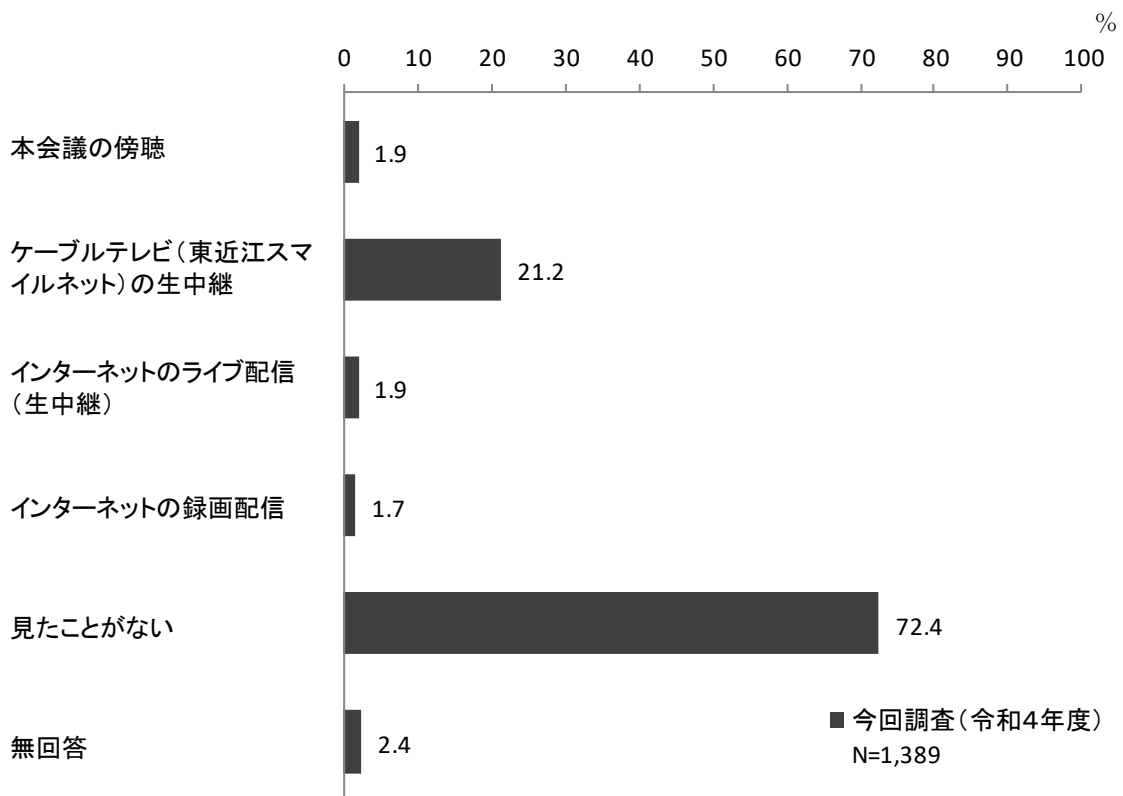


問 50 あなたは、「市議会本会議」の様子を次のいずれかの方法で見たことがありますか。《あてはまるものすべてに○》

「市議会本会議」の様子を見たことがある人は3割近く

- ・ 「市議会本会議」の様子を見たことがあるかについては、見たことがある人の割合*は25.1%、「見たことがない」が72.4%、無回答が2.4%となっています。視聴方法については、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」が21.2%と最も多く、次いで「本会議の傍聴」、「インターネットのライブ配信（生中継）」が1.9%、「インターネットの録画配信」が1.7%となっています。
- ・ 性別では、女性より男性で「本会議の傍聴」、「インターネットのライブ配信（生中継）」、「インターネットの録画配信」の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代で「見たことがない」の割合が最も高く、年齢が上がるほど低くなる傾向があります。「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」と回答した人は20歳以上で年齢が上がるほど割合が高く、特に70歳以上では3割となっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、愛東地区で「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）の生中継」が最も多く、そのほかの地区で「見たことがない」が最も多くなっています。

*「見たことがない」と「無回答」を除いた349件に係る有効回答数（1,389件）に対する割合



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミケールネット(東近)	ケーブイネット(ライ)	ブ配信(生中継)	インターネットの録画	配信	見たことがない	無回答
男性	638	2.5	21.0	3.3	2.2	71.3	2.5			
女性	717	1.5	21.6	0.8	1.3	73.1	2.4			

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミケールネット(東近)	ケーブイネット(ライ)	ブ配信(生中継)	インターネットの録画	配信	見たことがない	無回答
10歳代	11	0.0	9.1	9.1	0.0	81.8	0.0			
20歳代	91	1.1	6.6	1.1	0.0	91.2	0.0			
30歳代	163	1.2	8.0	2.5	1.2	87.1	0.6			
40歳代	208	1.4	15.4	1.0	1.4	81.3	0.5			
50歳代	229	0.0	18.3	2.6	1.3	78.2	0.9			
60歳代	282	2.1	23.0	3.2	2.1	69.9	2.5			
70歳以上	401	3.7	33.7	1.0	2.2	55.9	5.7			

【居住地区別】

単位:%

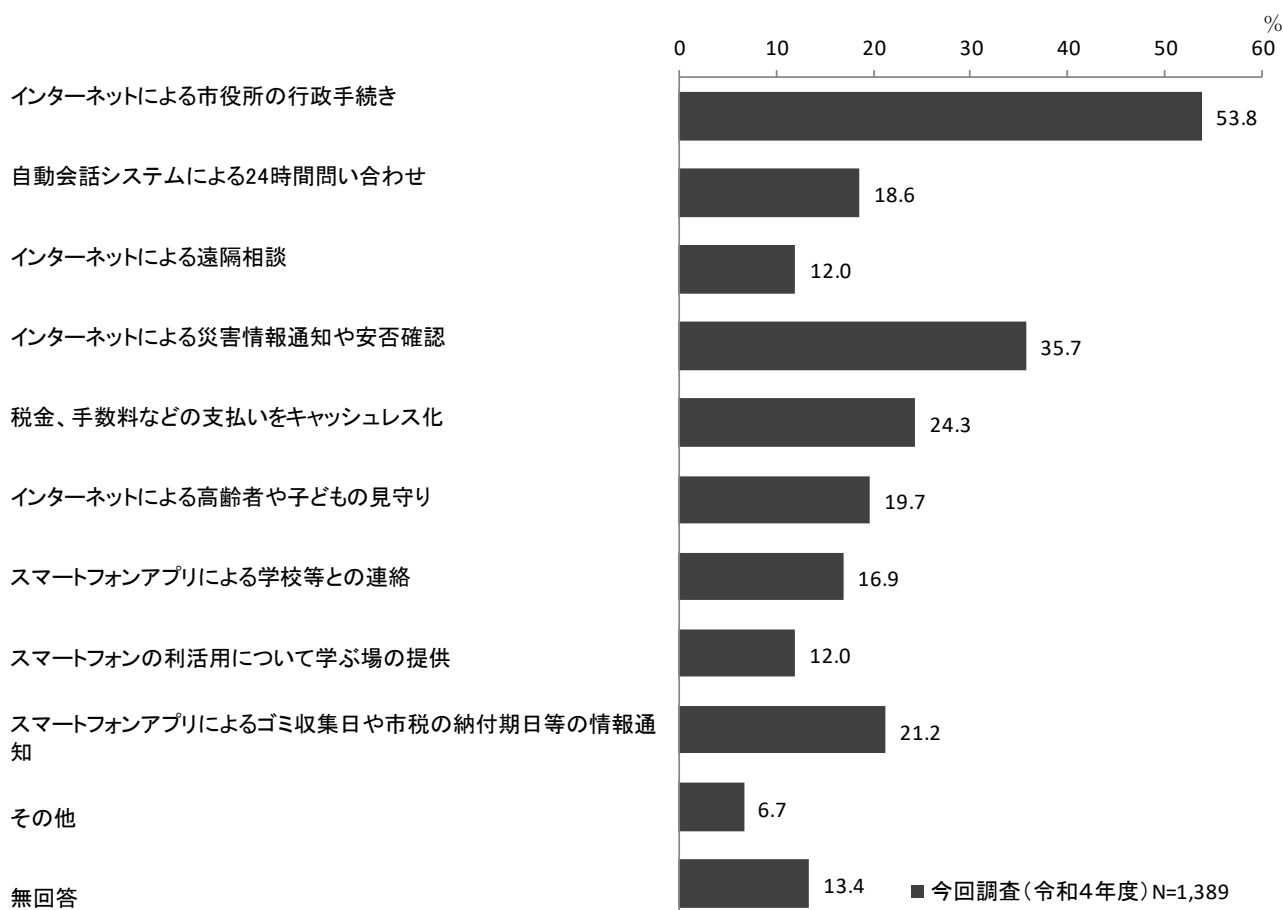
区分	有効回答数(件)	本会議の傍聴	生中継	江スミケールネット(東近)	ケーブイネット(ライ)	ブ配信(生中継)	インターネットの録画	配信	見たことがない	無回答
平田地区	48	2.1	22.9	0.0	4.2	68.8	2.1			
市辺地区	43	0.0	27.9	2.3	0.0	65.1	4.7			
玉緒地区	50	0.0	30.0	2.0	0.0	68.0	2.0			
御園地区	72	2.8	19.4	1.4	1.4	75.0	2.8			
建部地区	45	2.2	15.6	2.2	0.0	77.8	2.2			
中野地区	74	1.4	10.8	5.4	2.7	78.4	2.7			
八日市地区	113	2.7	8.0	1.8	0.0	85.0	2.7			
南部地区	47	0.0	8.5	4.3	4.3	83.0	2.1			
永源寺地区	75	1.3	53.3	1.3	0.0	42.7	1.3			
五個荘地区	147	2.0	19.7	0.7	1.4	75.5	1.4			
愛東地区	61	4.9	50.8	1.6	1.6	47.5	1.6			
湖東地区	129	1.6	33.3	0.0	2.3	55.8	7.8			
能登川地区	297	1.7	15.8	2.0	1.7	79.5	1.7			
蒲生地区	175	2.9	13.7	3.4	2.9	78.3	1.1			
わからない	0	-	-	-	-	-	-			

(10) 市役所のサービスに関して

問 51 行政手続き・サービスがデジタル化されることで、どのようにサービスが良くなることを期待しますか。《あてはまるものすべてに○》

半数が「市役所の行政手続き」、4割近くが「災害情報通知や安否確認」のデジタル化を期待

- 行政手続き・サービスがデジタル化されることによるサービス向上への期待については、「インターネットによる市役所の行政手続き」が53.8%と最も多く、次いで「インターネットによる災害情報通知や安否確認」が35.7%、「税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化」が24.3%、「スマートフォンアプリによるゴミ収集日や市税の納付期日等の情報通知」が21.2%と続きます。
- 性別では、男性、女性ともに「インターネットによる市役所の行政手続き」が最も多くなっています。女性は男性よりも「スマートフォンアプリによる学校等との連絡」が、男性は女性よりも「税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化」の割合が高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、そのほかの世代では「インターネットによる市役所の行政手続き」が最も多くなっています。10歳代で「自動会話システムによる24時間問合せ」と「インターネットによる遠隔相談」が、20歳代で「インターネットによる災害情報通知や安否確認」が、30歳代で「税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化」が、40歳代で「スマートフォンアプリによる学校等との連絡」の割合が、そのほかの世代よりも高くなっています。
- 居住地区別では、全ての地区で「インターネットによる市役所の行政手続き」が最も多くあげられており、特に御園地区、平田地区では6割となっています。そのほかに、市辺地区で「インターネットによる高齢者や子どもの見守り」の割合がほかの地区より高くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	インターネットによる市役所の行政手続き	自動会話システムによる24時間問い合わせ	遠隔相談	インターネットによる災害情報通知や安否確認	インターネットによる税金、手数料などの支払いをキャッシュレス	高齢者や子どもの見守り	スマートフォンによる学校などの連絡	スマートフォンアプリによる学ぶ場の利活用	スマートフォンによる納付期日等の情報	スマートフォンによるゴミ収集日や市	その他	無回答
男性	638	58.9	18.0	14.1	34.5	27.3	17.4	13.8	11.9	23.4	7.2	29.2	
女性	717	50.1	18.5	10.5	37.0	21.8	21.5	19.8	11.9	19.7	5.9	35.1	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	インターネットによる市役所の行政手続き	自動会話システムによる24時間問い合わせ	遠隔相談	インターネットによる災害情報通知や安否確認	インターネットによる税金、手数料などの支払いをキャッシュレス	高齢者や子どもの見守り	スマートフォンによる学校などの連絡	スマートフォンアプリによる学ぶ場の利活用	スマートフォンによる納付期日等の情報	スマートフォンによるゴミ収集日や市	その他	無回答
10歳代	11	45.5	27.3	27.3	27.3	27.3	9.1	18.2	9.1	18.2	9.1	0.0	
20歳代	91	68.1	19.8	18.7	46.2	41.8	16.5	23.1	13.2	31.9	3.3	3.3	
30歳代	163	77.3	21.5	17.8	36.8	46.6	25.8	35.0	8.6	39.9	0.6	1.8	
40歳代	208	70.7	20.2	17.3	41.8	34.1	26.0	38.5	12.0	24.5	2.9	3.4	
50歳代	229	66.8	20.1	12.7	37.6	30.6	17.9	15.3	11.4	24.9	5.2	6.1	
60歳代	282	52.1	22.3	10.6	40.4	16.0	22.0	8.2	14.5	18.1	6.0	9.9	
70歳以上	401	25.9	12.5	5.7	25.7	8.5	14.0	4.2	11.7	9.5	13.2	32.4	

【居住地区別】

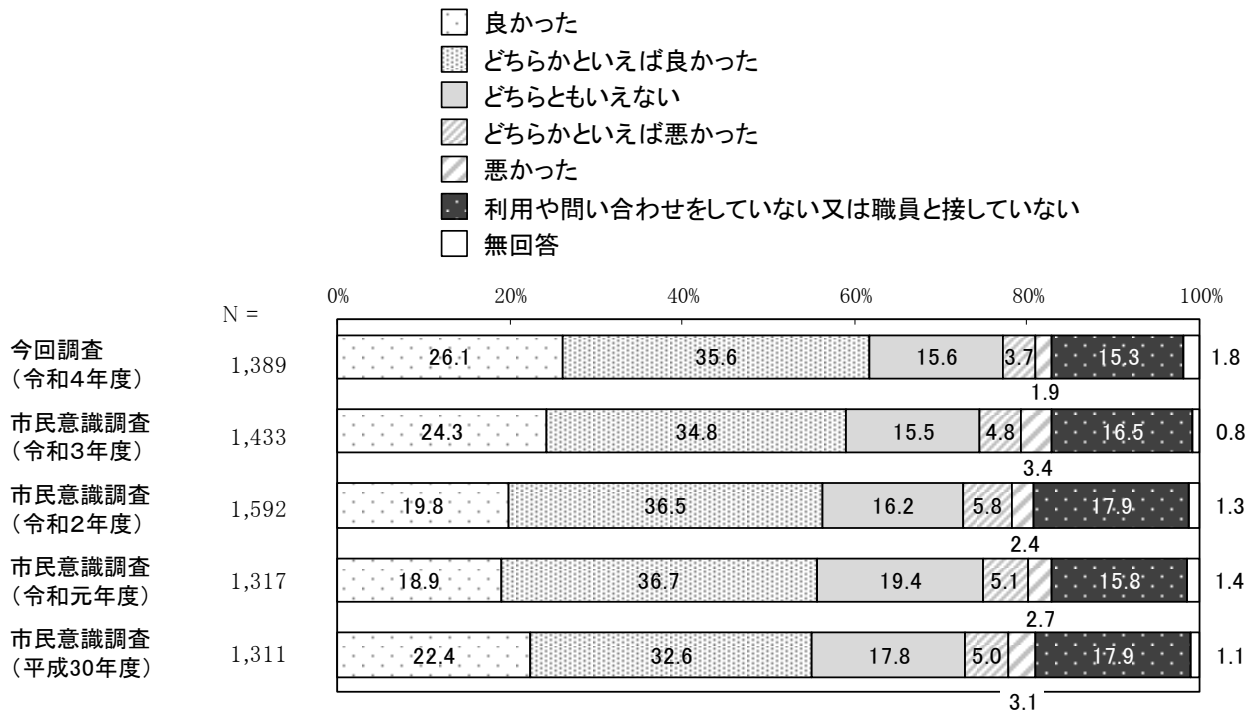
単位:%

区分	有効回答数(件)	インターネットによる市役所の行政手続き	自動会話システムによる24時間問い合わせ	遠隔相談	インターネットによる災害情報通知や安否確認	インターネットによる税金、手数料などの支払いをキャッシュレス	高齢者や子どもの見守り	スマートフォンによる学校などの連絡	スマートフォンアプリによる学ぶ場の利活用	スマートフォンによる納付期日等の情報	スマートフォンによるゴミ収集日や市	その他	無回答
平田地区	48	60.4	20.8	12.5	45.8	25.0	27.1	18.8	8.3	10.4	6.3	14.6	
市辺地区	43	53.5	14.0	9.3	37.2	27.9	37.2	14.0	16.3	14.0	4.7	16.3	
玉緒地区	50	44.0	16.0	8.0	26.0	18.0	12.0	8.0	16.0	22.0	4.0	18.0	
御園地区	72	63.9	16.7	15.3	36.1	20.8	20.8	13.9	12.5	23.6	6.9	11.1	
建部地区	45	55.6	24.4	15.6	37.8	26.7	22.2	22.2	11.1	28.9	4.4	13.3	
中野地区	74	50.0	23.0	10.8	28.4	27.0	21.6	18.9	18.9	13.5	2.7	13.5	
八日市地区	113	58.4	21.2	18.6	36.3	35.4	18.6	19.5	13.3	27.4	3.5	12.4	
南部地区	47	53.2	21.3	17.0	31.9	23.4	14.9	14.9	2.1	21.3	4.3	27.7	
永源寺地区	75	49.3	21.3	10.7	37.3	18.7	22.7	13.3	9.3	14.7	4.0	13.3	
五個荘地区	147	44.9	14.3	4.8	33.3	21.1	17.0	15.0	14.3	21.1	8.2	18.4	
愛東地区	61	52.5	16.4	18.0	36.1	23.0	16.4	18.0	4.9	26.2	6.6	21.3	
湖東地区	129	52.7	18.6	8.5	30.2	21.7	22.5	18.6	10.9	23.3	5.4	14.7	
能登川地区	297	56.6	17.8	13.1	38.4	24.9	16.5	17.2	11.4	21.9	9.1	12.1	
蒲生地区	175	56.0	17.7	10.9	38.3	23.4	21.1	18.9	12.6	21.1	9.7	4.0	
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

問 52 この1年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

6割が市役所職員の対応は良かった

- ・ 市役所職員の対応の印象については、「良かった」が26.1%、「どちらかといえば良かった」が35.6%で、これらを合わせると61.7%となり、6割が良かったと回答しています。一方、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は5.6%と、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、良かった（「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計）の割合が増加しています。
- ・ 年代別では、20歳以上で「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。また、30歳以上で年齢が上がるほど良かった（前述）の割合が高くなっており、60歳以上で6割を超えています。
- ・ 居住地区別では、良かった（前述）の割合が建部地区で8割、南部地区で7割となっています。



単位：%

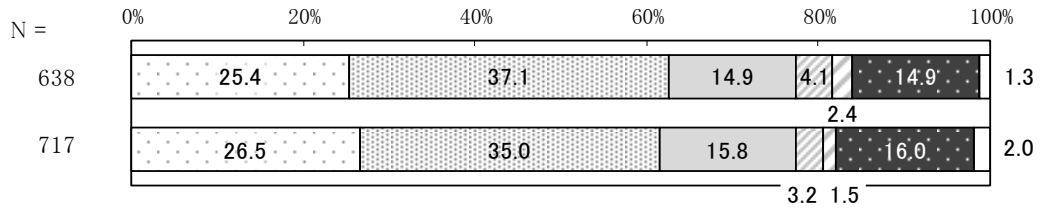
	良かった*	悪かった*	差
①今回調査(令和4年度)	61.7	5.6	56.1
②市民意識調査(令和3年度)	59.1	8.2	50.9
③市民意識調査(令和2年度)	56.3	8.2	48.1
④市民意識調査(令和元年度)	55.6	7.8	47.8
⑤市民意識調査(平成30年度)	55.0	8.1	46.9
①-⑤	6.7	-2.5	9.2

* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

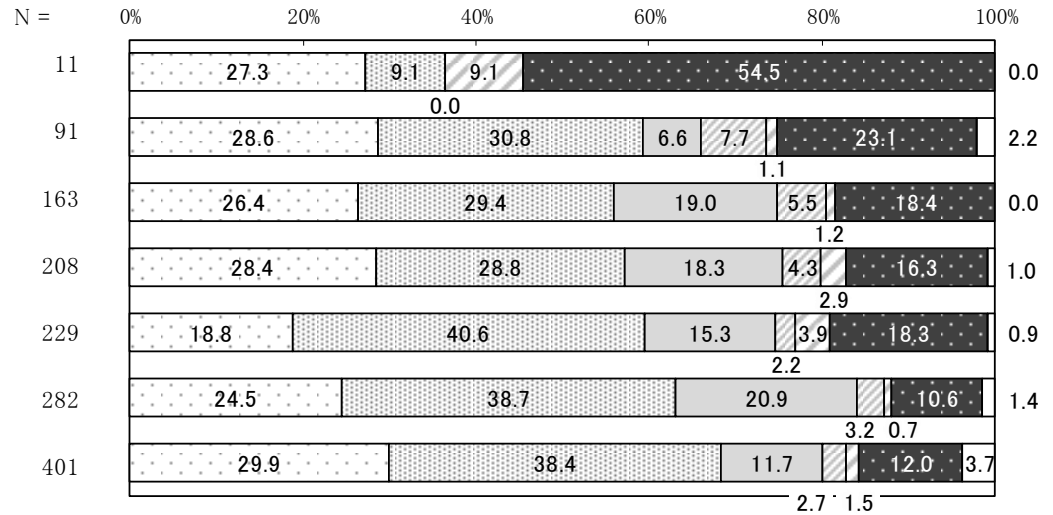
* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

良かった
 どちらかといえば良かった
 どちらともいえない
 どちらかといえば悪かった
 悪かった
 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない
 無回答

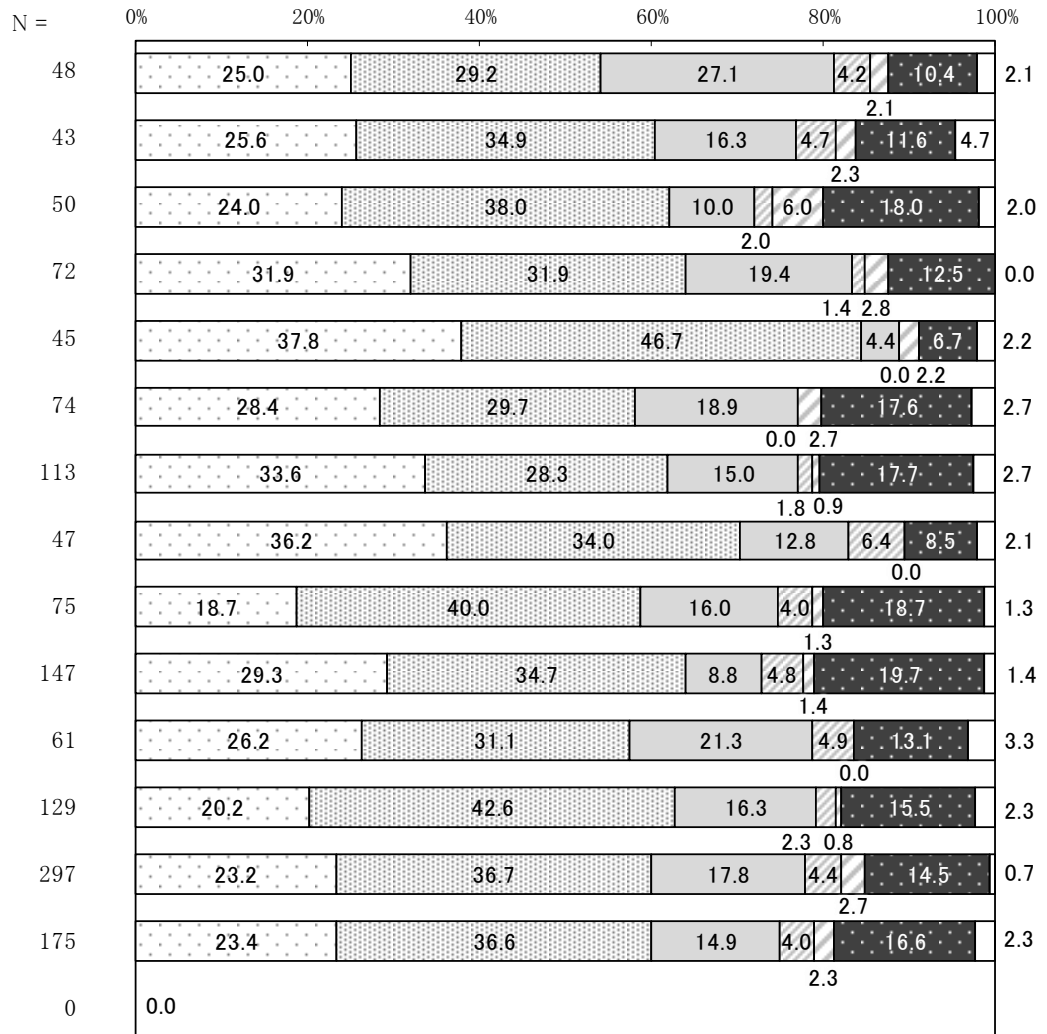
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 53 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたら御記入ください。

- ・ 有効回収数 1,389 件のうち、自由記述への記入件数は 435 件 (31.3%) でした。これらの意見をおおむね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 435 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	12 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東近江はお年寄りはお年寄りらしく、若者は若者らしく生きられて、皆のびのびと生きていると思います。若者の遊ぶ所が少ないかなという感じもしますが、自然が多くのおんびりとしていて、京都や大阪から帰ってくると帰ってきたとホッとします。いつまでも疲れて帰って来た時にホッとできる場所であってほしいです。（八日市地区 40 代女性） ・ 地域の人を楽しめる程度のお祭りはあるが、大きな規模の祭りが無いように感じる。東近江市をより大きな町にするためには、市外さらには、県外の人に注目してもらうための「目玉」となるものが必要だと感じている。特に若者に向けた取組を増やし、若い人に「楽しい町だ！」と感じてもらわなければならない。ジャズフェスの規模を大きくしたり、以前あったももクロライブや大風まつりなど魅力を再発信してはどうだろうか。（蒲生地区 20 代男性） ・ 東近江市になってから大きすぎて知らない事が多くて、何か親しみを感じません。もっと東近江市を知る事ができる催しがあるといいと思います。この時期ちょっと難しいとは思いますが。（能登川地区 70 代女性）
健康や福祉について	28 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者や介護が必要な人・介護をする人など人の手を借りないと生活が困難な人たちにとって、より便利で生活がしやすい環境を整えていただきたい。（中野地区 50 代女性） ・ 都市部では、ウォーキングやジョギングなど気軽に健康増進に取り組める環境がある。これから高齢化社会も進む中、夜も明るいウォーキングコース、ジョギングに最適な公園など無料で気軽に始められる環境があればいいと思う。（能登川地区 40 代女性） ・ 少子高齢化に伴うひとり暮らし支援や生活支援について力を入れてほしい。（玉緒地区 60 代男性）
環境や暮らしについて	101 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許返納者が増えていく世の中では、利用者の多少にかかわらず全ての地区が利用出来る、定期バスやちょこっとバスの運行が必要と考えます。（五個荘地区 70 歳以上女性） ・ 近江鉄道は地域にとって必要な公共鉄道である。これからも大切にして、残して行ってほしい。（玉緒地区 60 代男性） ・ 自然が多く住みやすいので、これからも自然を大切に、保全活動もしつつ共存していければと思います。（永源寺地区 50 代女性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
子育てや教育について	43 件	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を作る子どもたちへの教育に力を注いでいただきたいです。（南部地区 50 代女性） ・子育て世帯です。おむつ宅配便はとても助かりました。配達員さんと少しですがお話できることが、子育て中にはとても嬉しかったです。他市の友人と話をしたところ、保育料が少し高めに感じました。保育料の見直しをしていただけると嬉しいです。（能登川地区 30 代女性） ・安全な通学路の確保は、ごく身近な問題として改善が必須です。子ども達が安全に元気に暮らせることは、まちづくりの原点ではないでしょうか。（五個荘地区 60 代男性）
都市整備について	93 件	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江市はまだまだ車社会なので道路整備、拡張など広くしてほしい。歩道、自動車道路など。（愛東地区 50 代男性） ・道路にカーブミラーが無くて怖い場所や、あっても曇っていたりして見づらい場所があるので、設置、交換してほしい。（南部地区 20 代女性） ・子どもが遊べる公園を増やしてほしい。（八日市地区 30 代男性）
商業やにぎわいの創出について	61 件	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地になる場所や市外の人を訪れたいと思うような場所が必要だと思う。また、市民としては衣料品や雑貨等を満足に買える大型のショッピングモールなどが欲しい。（御園地区 20 代女性） ・野菜など農産物が豊富なこのまちなので、販売所をもっと身近にし、人を集めてみてはと思う。最近のマーガレットステーションは混雑している。もっと地域密着型があっても良いと思う。（湖東地区 30 代男性） ・八日市駅前の再開発ではターゲットとする層を前提にして、核となるイベントやテナントの誘致、開発を行い、少しずつ「にぎわい」を広げて多様性のある駅前開発になればと思います。（蒲生地区 60 代女性） ・空家を無くして、新たなお店に入っただいて、どの年代の人が来ても楽しめる店舗をたくさん作ってください。（建部地区 30 代男性）
協働のまちづくりについて	22 件	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人会などの集まりで各自の悩み事や相談事を行政とも情報を共有してもらえそうなシステムを作してほしい。（御園地区 70 歳以上男性） ・私の自治会では退会者が増え、自治会運営が難しくなってきました。デジタル化とともに人間関係も薄らいできてしまい、人と人との心のつながりの難しさを抱えています。まちづくりの基礎の支援をお願いしたいです。（市辺地区 50 代女性） ・昔の様に人々のつながりがあれば良い町になるんじゃないかと思います。（五個荘地区 40 代女性）
広報等の情報について	21 件	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報ひがしおうみ」は新聞折り込みの限定配布でなく全家庭に配布すべきではないか。（例えば町内会経由等）（能登川地区 70 代男性） ・東近江市のまちづくりや取組について知らないことが多かったの、市民に伝えていく方が良いと感じた。人目につきやすい所に取組などを掲示すると、多くの人に知ってもらえると思う。（玉緒地区 20 代男性） ・インターネット情報はとても便利だと思う一方、60 代高齢者となり、スマホの使い方が難しくなり、良い情報

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		があっても見ることさえできなくなっている。これからの生活に不安を感じる今日この頃です。高齢者にもわかりやすい情報を無くさないでほしいです。（広報ひがしおうみ、放送システム等）（蒲生地区 60 代女性）
市役所のサービスについて	42 件	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁にしか提出できない書類が時々あり、能登川からわざわざ八日市に出向かないといけない。提出のみの書類なら、本庁～支所便に乗せてもらう、電子化する等、便利にしてほしい。（能登川地区 50 代女性） ・行政や社会がデジタル化されると、扱えない者は不便でわからなさで困ることから、重圧感を持ちます。（五箇荘地区 70 歳以上女性）
まちづくり全般について	91 件	<ul style="list-style-type: none"> ・「東近江イズム」など様々な取組が活性化されていて以前よりもワクワクを感じます。就職を考える年齢なので、ワクワクするまで働き、住みたいです。東近江市に期待しています！！（蒲生地区 20 代女性） ・全国的に田舎への移住者が増加傾向だが、東近江市はあまり積極的でない。移住者への支援、子育てへの支援、医療費の支援など先進地域の施策を参考に、移住者を増やし、地域振興を促す（特に永源寺東部地区）などは、どうでしょうか。（永源寺地区 30 代男性） ・旧 6 町と旧八日市市 8 地区それぞれとの行政の格差。17 年経過後も旧 6 町は、依然同じような行政運営である。（御園地区 60 代男性） ・コロナ禍のため、人と人との交流が薄れてきてます。この様な情勢の中、今まで良いとされていた世代間の交流とかもますます希薄となってます。これまでの常識を超えての”まちづくり”が必要かとは思いますが、良い案が出てこない私の状況です。（平田地区 70 代不明）
アンケートについて	16 件	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査がどのように活用され、良くなっているのか情報発信してほしいです。（蒲生地区 50 代女性） ・ペーパーレス、省労力の点からも、希望者はアンケートをオンラインで回答できるなどしてもらえると嬉しいです。（能登川地区 20 代男性）
その他	42 件	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス・ワクチン接種について（6 件） ・その他（22 件） ・特になし（14 件）

3 総括

1. 回答者属性

- ・男女比はおおむね5：5で、やや女性が多くなっています。
- ・60歳以上が半数近くを占めています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が蒲生地区、五個荘地区となっています。旧八日市市8地区を合計すると4割近くとなっています。

2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割が住みごこちが良く、6割が「住み続けたい」と回答しています。また7割近くが東近江市に対して愛着があると回答しています。東近江市への愛着は、年齢が上がるほど高くなる傾向があります。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割が自慢できるとする一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は2割近くで、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向があります。
- ・友人・知人に東近江市を紹介するところは、7割近くが「山や川、湖などの自然が楽しめる」と回答しています。
- ・近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）への来訪頻度は、3割近くが週1回以上で、30～40歳代で高くなっています。また、中心市街地活性化に向けては、駐車場の整備、空店舗の解消などが必要と考えられています。比較的若い世代では、駅前空間をオープンカフェなどに活用することやイベントの定期開催、おしゃれな雑貨店など店舗の増加等での活性化を望む声も多くあります。

3. 健康や福祉について

- ・6割が市内の医療機関にかかりつけ医がいると回答していますが、20～30歳代は4割前後がかかりつけ医がいないと回答しています。
- ・病院や救急時の医療体制は半数が満足している一方、3割近くが満足していません。
- ・健康づくりの取組は半数近くが取り組んでおり、60歳以上でその数が多くなっています。また、その内容としては、運動、食事、睡眠、規則正しい生活、定期健診の受診、趣味などが多くあげられており、運動以外は性別・年代によって異なります。
- ・朝食を毎日食べている人は9割近くで、朝食を食べないときの理由の多くは、以前から食べる習慣がない、食べる時間がないなどです。
- ・運動習慣については、半数近くの人が週1回以上の運動をしている一方、「ほとんどしていない」人も4割見られます。
- ・7割近くが不安、悩み、ストレスを感じており（女性、30～50歳代で高い。）、4割の人が「仕事のこと」を原因としてあげています。また、女性や60歳以上で「自分の健康」が1位にあげられるなど、それぞれのライフステージに応じて多様化しています。
- ・不安、悩み、ストレスは、7割が解消できていると回答しています。ただし、30～50歳代は3割以上が解消できていません。
- ・東近江市民の障害者に対する理解は、「わからない」が4割近くと最も多く、理解を深めるために今後特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮などが多くあ

げられています。

4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境保全の取組への満足度は、3割近くが満足、「どちらともいえない」又は「わからない」が6割ですが、6割が日々の営みの中で自然との関わりを感じています。
- ・環境にやさしい取組は9割が実践しています。
- ・男女の地位の平等については、「職場の中で」について4割、「地域社会の中で」について半数近く、「社会全体の中で」について6割近くの人が、男性が優遇されていると考えています。
- ・市役所内に消費生活センターがあること及び市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等が受けられることの認知度はともに半数以下となっています。いずれも年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向があり、若い世代の認知度が低くなっています。
- ・公共交通に満足している人は2割近くで、半数近くが満足していません。
- ・近江鉄道は9割近くが重要と感じているものの、9割が利用していないと回答しています。また、半数が改善を望んでいます。
- ・災害への備えについては、7割近くが何らかの備えをしており、60歳以上で地域の防災訓練への参加が多くあげられています。

5. 子育てや教育関連の取組について

- ・半数近くが子育てをするのに良い環境と感じています。また、3割が通学路の安全確保ができていると回答していますが、30歳代は通学路の安全が確保できていないと考える人のほうが多くなっています。
- ・人権が尊重されるまちになっていると思う人は3割近くで、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加した人は3割となっています。
- ・児童虐待が疑われるときの通報先は、「警察」、「市役所」、「民生委員児童委員」が多くあげられています。

6. 都市整備について

- ・都市基盤整備に対する満足度の総合評価(加重平均)は、主要幹線道路、河川、公園、地域の生活道路、雨水排水の順となっています。
- ・過去の調査と比べ、河川の整備以外の項目で評価が下がっており、地域の生活道路の整備と雨水排水の整備がプラス評価からマイナス評価へと変わりました。

7. 購買状況等について

- ・食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入していますが、衣料品は4割が市外で購入しています。年代や居住地区によって購入場所が異なっています。
- ・野菜を購入する際の基準は、「鮮度」、「金額」、「安全・安心」が多くあげられています。
- ・農産物直売所は、半数以上が市内の直売所を利用しており、年間数回程度の利用が最も多くなっています(女性、60歳以上、愛東地区や湖東地区で利用者が多い。)
- ・キャッシュレス決済の利用状況について、週1回以上の利用が多いのはHOPマネーなどの流通系電

子マネー（33.0%、40～60歳代中心）、クレジットカード（24.4%、20～40歳代中心）、PayPayなどのQR／バーコード決済（21.1%、20～40歳代中心）となっています。

8. 協働のまちづくりについて

- ・協働のまちづくりができていると思う人は2割近くとなっています。
- ・半数近くが、住民同士の助け合いはできていると回答しています。10歳代と60歳以上は半数以上ができているとしています。
- ・地域活動又はNPOやボランティア等の活動には、半数以上が参加していると回答しており、年齢が上がるほど活動参加率も上がる傾向があります。その内容としては、9割近くが自治会活動で、2割近くがまちづくり協議会の活動やボランティア活動をあげています。一方、活動に参加していない理由としては、時間に余裕がない、活動内容がわからない、年齢・身体・健康上の理由が多くあげられています。
- ・国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、7割が重要としており、年齢が若いほど強く認識している傾向があります。

9. 広報等の情報について

- ・日常生活でインターネットを利用する際、8割近くが「スマートフォン」、4割近くが「パソコン」を利用しています。一方、70歳以上ではインターネットを利用しない人も3割近くいます。
- ・市の情報の取得方法は、半数以上が「広報ひがしおうみ」や「自治会回覧」をあげています。
- ・「広報ひがしおうみ」は7割以上が読んでおり、3割は毎月読んでいます。年齢が上がるほど、読んでいる人の割合や読む頻度も上がる傾向があります。また、6割近くがその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設等に設置」が最もよく知られており、「スマートフォン等のアプリでの閲覧」はほとんど知られていません。実際に見たことがある人は、公共施設等に設置が3割近く、市ホームページ、東近江スマイルネットのデータ放送が2割近くで、スマートフォンアプリLINEが1割、そのほかは1割未満となっています。
- ・「東近江市議会だより」は半数が読んでおり、30歳以上で年齢が上がるほど、読んでいる人の割合や読む頻度も上がる傾向があります。
- ・「市議会本会議」の様子を見たことがある人は3割近くで、7割が「見たことがない」と回答しています。視聴方法は、ケーブルテレビの生中継を視聴する人が2割となっています。

10. 市役所のサービスに関して

- ・行政のサービスのデジタル化について、半数が「市役所の行政手続き」、4割近くが「災害情報通知や安否確認」のサービス向上を期待しています。
- ・市役所職員の対応については、6割が良かったと回答しています。

4 調査票

令和4年度 東近江市 市民意識調査

◆アンケート調査への御協力をお願い◆

皆さまには、日頃から東近江市政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、東近江市では、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定しました「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めております。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見をお聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆さまから約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施しております。

皆さまにおかれましては御多用のことと存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、お答えいただきました内容につきましては、統計的に処理し、東近江市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱います。

令和4年8月

東近江市長 小椋 正清

アンケートの記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒宛名の本人が記入してください。本人による回答(記入)が難しい場合は、家族の方が本人の意思を反映して、記入してください。
- ・回答は、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和4年9月5日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

アンケートに関する問い合わせ

東近江市企画部企画課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610

FAX:0748-24-1457

Eメール:kikaku@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、令和4年8月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。



令和4年度 東近江市 市民意識調査 調査票

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名)	

2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市にずっと住み続けたいと思いますか。《○1つ》

1. 住み続けたい	2. 市外に転出したい	3. わからない
-----------	-------------	----------

問6 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問7 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問8 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。

あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 9 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 山や川、湖などの自然が楽しめるところ | 2. 町なみ景観が楽しめるところ |
| 3. 歴史・文化にふれられるところ | 4. 食事や買い物が楽しめるところ |
| 5. 観光農園や農業体験ができるところ | 6. スポーツ施設や子どもが遊べる公園 |
| 7. その他() | |

問 10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺(市役所周辺を含む。)にどの程度訪れましたか。《○1つ》

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2~3回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に数回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 訪れていない |

問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 空店舗に新しい店が入る | 2. おしゃれな雑貨店が増える |
| 3. 駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する | 4. 魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする |
| 5. マルシェなどのイベントを定期的に開催する | 6. イベントホールやテナントが入るビルをつくる |
| 7. 自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる | 8. 観光客が地元の名産品を買えるようにする |
| 9. 延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする | 10. その他() |

3 健康や福祉についておたずねします。

問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|---------------|--------|
| 1. 市内の医療機関にいる | 2. 市外の医療機関にいる | 3. いない |
|---------------|---------------|--------|

問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらかといえば満足していない |
| 4. 満足していない | 5. わからない | |

問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 取り組みたいと思っている | →問 14-1 へ |
| 3. 取り組むつもりはない | →問 14-2 へ | |

問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。
具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 運動をする | 2. 趣味(運動以外)の時間をつくる |
| 3. 休養を十分にとる | 4. 食事の量や質に注意する |
| 5. 睡眠を十分にとる | 6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける |
| 7. 規則正しい生活をする | 8. たばこを控える又はやめる |
| 9. アルコールを控える又はやめる | 10. その他() |

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. どのように取り組んだらよいのかわからない | 2. 自分の健康づくりに興味、関心がない |
| 3. 取り組んでも効果が期待できない | 4. その他() |

問 15 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1. 毎日食べる | 2. 週4～5日食べる | →問 15-1 へ |
| 3. 週2～3日食べる | 4. ほとんど食べない | |

問 15-1 問 15 で「2. 週4～5日食べる」「3. 週2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。
食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 食欲がないから | 2. 太りたくないから |
| 3. 食べる時間がないから | 4. 以前から食べる習慣がないから |
| 5. 朝食を用意するのが面倒だから | 6. その他() |

問 16 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか(運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。)。《○1つ》

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1～2回 |
| 3. 月1～2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問 17 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1. 大いにある | 2. 多少ある | →問 17-1 へ |
| 3. あまりない | 4. まったくない | |

問 17-1 問 17 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。
あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 1. 経済的なこと | 2. 仕事のこと | 3. 人間関係 |
| 4. 家族関係 | 5. 子育てに関すること | 6. 親の介護に関すること |
| 7. 自分の健康 | 8. 家族の健康 | 9. その他() |

問 18 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. うまくできている | 2. ある程度できている |
| 3. あまりできていない | 4. まったくできていない |

問 19 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んできたとは思わない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問 20 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める | 2. 障害者に関するイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る |
| 5. グループホームを地域の中につくる | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める |
| 11. わからない | 12. その他() |

4 環境や暮らしについておたずねします。

問 21 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない | 6. わからない |

問 22 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然との関わりを感じていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない | 6. わからない |

問 23 あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 常に取り組んでいる | 2. ときどき取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 4. 取り組もうと思わない | 5. わからない | |

問 24 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	男性が優遇されている	男性が優遇されている どちらかといえば	平等である	女性が優遇されている どちらかといえば	女性が優遇されている	わからない
① 職場の中で	1	2	3	4	5	6
② 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
③ 社会全体の中で	1	2	3	4	5	6

問 25 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 26 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 27 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

1. 満足している	2. どちらかといえば満足している
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば満足していない
5. 満足していない	6. わからない

問 28 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、様々な検討をしているところです。

あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》

1. 重要であると感じる	2. 重要でないと感じる
3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる	4. その他()

問 29 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

1. ほぼ毎日	2. 週1～2日	3. 月1～2日	→問 29-1 へ
4. ほとんど利用しない	5. 利用したことはない		

問 29-1 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

1. 通勤・通学	2. 仕事	3. 買物	4. 通院
5. 遊び・趣味	6. 観光	7. その他()	

問 30 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 水や食料等を3日以上備蓄 | 2. 非常持ち出し袋の準備 |
| 3. 家具の転倒防止 | 4. 地域の防災訓練に参加 |
| 5. 一時集合場所や避難所を家族で確認 | 6. 安否連絡方法を家族で確認 |
| 7. 特に何もしていない | 8. その他() |

5 子育てや教育についておたずねします。

問 31 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 32 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 33 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 34 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 職場の講演や研修に参加した | 2. 市の講座や講演に参加した |
| 3. 地区の講座や講演に参加した | 4. 自治会の町別懇談会に参加した |
| 5. 参加していない | 6. その他() |

問 35 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 市役所 | 2. 園・学校 |
| 3. 保健センター | 4. 民生委員児童委員 |
| 5. 警察 | 6. 子ども家庭相談センター |
| 7. 虐待ホットライン | 8. 児童相談所全国共通ダイヤル189 |
| 9. その他() | 10. 通報先を知らない |
| 11. 通報しない | |

6 都市整備についておたずねします。

問 36 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満	わからない
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

7 購買状況等についておたずねします。

問 37 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	東近江市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	県内市町 その他	県外	通販	カタログ	ショッピング ネット	その他
①食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
②日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
③衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

問 38 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《○1つ》

1. 金額	2. 鮮度	3. 安全・安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 大きさ
7. 産地(市内、県内産等)	8. わからない	9. その他()

問 39 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所を含む。)を利用しますか。《○1つ》

1. よく利用する(週に1回以上)	2. 利用する(月に1～3回程度)
3. たまに利用する(年間数回程度)	4. 利用しない
5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している	6. 直売所がどこにあるのか知らない
7. わからない	8. その他()

問 40 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①～⑥それぞれの項目に○1つ》

	週に2回以上	週に1回程度	月に1～3回程度	年に数回程度	利用していない
①クレジットカード	1	2	3	4	5
②デビットカード	1	2	3	4	5
③QR/バーコード決済(PayPay、LINE Pay など)	1	2	3	4	5
④流通系電子マネー(HOP マネー、WAON、nanaco など)	1	2	3	4	5
⑤交通系電子マネー(ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	1	2	3	4	5
⑥その他()	1	2	3	4	5

8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 41 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. できている | 2. ある程度できている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 42 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 43 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 積極的に参加している | 2. できる限り参加している | →問 43-1 へ |
| 3. ときどき参加している | 4. 参加していない | →問 43-3 へ |

問 43-1 問 43 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方におたずねします。この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 自治会活動 | 2. まちづくり協議会の活動 |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 |
| 5. その他() | |
- 問 43-2 へ

問 43-2 問 43-1 で「3. NPOの活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 高齢者に対する活動 | 2. 障害者に対する活動 |
| 3. 子育てをする親や子どもを支援する活動 | 4. 健康や医療に関連した活動 |
| 5. スポーツに関連した活動 | 6. 自然や環境を守る活動 |
| 7. 美化・清掃活動 | 8. 災害・防災に関連した活動 |
| 9. 交通安全・防犯活動 | 10. 国際協力に関連した活動 |
| 11. その他() | |

問 43-3 問 43 で「4. 参加していない」とお答えの方におたずねします。
参加していない理由をお聞かせください。《○1つ》

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1. 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく
時間に余裕がないから | 2. 年齢・身体・健康上の理由から |
| 3. 活動の情報が少なく、活動内容がわから
ないから | 4. 既存の仕組み等に不満があるから |
| 5. 面倒だから | 6. 関心がないから |
| 7. その他() | |

問 44 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------------|------------------|--------------|
| 1. 重要と思う | 2. どちらかといえば重要と思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり重要とは思わない | 5. 重要とは思わない | 6. わからない |

9 広報等の情報についておたずねします。

問 45 あなたが日常生活でインターネットを利用するときに使う頻度の多い端末はどれですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. パソコン | 2. スマートフォン |
| 3. タブレット | 4. インターネット機能付きゲーム機器 |
| 5. インターネット機能付きテレビ | 6. インターネットは利用しない |
| 7. その他() | |

問 46 あなたは、市の情報(お知らせ)を主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 広報ひがしおうみ | 2. 新聞 |
| 3. 自治会回覧 | 4. 公共施設に設置してあるチラシ |
| 5. 市ホームページ | 6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット) |
| 7. 防災情報告知放送システム | 8. ラジオ(FMひがしおうみ) |
| 9. スマートフォン等のアプリ「LINE」 | 10. その他() |

問 47 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

1. 毎月読んでいる	2. たまに読んでいる	→問 47-1 へ
3. 読んでいない	4. 知らない	

問 47-1 問 47 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

1. 満足している	2. どちらかといえば満足している
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば満足していない
5. 満足していない	

問 48 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほかに次の方法で配信等を行っています。
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《①～⑥それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	見たことはない 知っているが	知らない
①市ホームページで閲覧	1	2	3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	1	2	3
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	1	2	3
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	1	2	3
⑥公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	1	2	3

問 49 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

1. 毎号読んでいる	2. たまに読んでいる
3. 読んでいない	4. 「東近江市議会だより」を知らない

問 50 あなたは、「市議会本会議」の様子を次のいずれかの方法で見たことがありますか。《あてはまるものすべてに○》

1. 本会議の傍聴	2. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)の生中継
3. インターネットのライブ配信(生中継)	4. インターネットの録画配信
5. 見たことがない	

10 市役所のサービスに関しておたずねします。

問 51 行政手続き・サービスがデジタル化されることで、どのようにサービスが良くなることを期待しますか。
《あてはまるものすべてに○》

1. インターネットによる市役所の行政手続き	2. 自動会話システムによる 24 時間問い合わせ
3. インターネットによる遠隔相談	4. インターネットによる災害情報通知や安否確認
5. 税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化	6. インターネットによる高齢者や子どもの見守り
7. スマートフォンアプリによる学校等との連絡	8. スマートフォンの利活用について学ぶ場の提供
9. スマートフォンアプリによるゴミ収集日や市	10. その他()
税の納付期日等の情報通知	

問 52 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

1. 良かった	2. どちらかといえば良かった
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば悪かった
5. 悪かった	6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない

11 まちづくりに対する意見等についておたずねします。

問 53 東近江市のまちづくりについて、意見や提案等がありましたら御記入ください。

調査に御協力いただき、ありがとうございました。
調査票を返信用封筒に入れ、9月5日(月)までにポストに御投函ください。

令和4年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 令和5年1月

発行 東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610